

新潟市文化財センター年報

第1号

—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—

2014

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第1号

—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—



県指定考古資料 的場遺跡出土品（県指定史跡 的場遺跡）

2014

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査等により出土した考古資料（以下「考古資料」という。）の収集及び保存並びに公開その他の活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る700か所以上の遺跡が知られています。平成17（2005）年の14市町村の広域合併後の各種開発事業等の増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどり、新たに発見される遺跡も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

当センターは各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月にオープンしました。

センターには、民俗資料収蔵庫も併設されており、併せて市指定文化財の旧武田家住宅を移築復元しています。



文化財センター エントランス

例 言

- ・本書は、Ⅰ・Ⅱの各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査と、Ⅲ～Ⅴの文化財センターと史跡古津八幡山遺跡歴史の広場の業務年報、Ⅵ付編の資料紹介等について収録したものである。
- ・年報は本来毎年刊行すべきものであるが、平成23年度版が未刊行のため、本書では平成23年度・平成24年度の2か年分について収録した。平成25年度版以降は毎年刊行の予定である。
- ・本書は文化財センター・歴史文化課職員が中心になり、分担執筆した。執筆者の氏名は各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一をはかるために内容が変わらない範囲で編集者が若干の字句の修正を行った。
- ・Ⅱ2、Ⅲ3・4の試掘確認調査・本発掘調査・工事立会は主要なもののみを掲載した。
- ・付編には、齋藤秀平氏旧蔵の考古資料2点と日本海から引き揚げられた考古資料11点を紹介している。和納館跡出土の木簡は再調査により明らかになったものである。
- ・付編掲載遺物の実測・トレース等は文化財センターで行った。
- ・本書の編集は渡邊朋和・八藤後智人・金田拓也・相澤裕子が行った。

目 次

| | |
|--------------------------------|----|
| Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について | 1 |
| Ⅱ 開発事前審査 | 4 |
| 1 事前審査内容 | 4 |
| 2 平成23年度・24年度の前審査に係る試掘確認調査の概要 | 7 |
| Ⅲ 文化財センターの事業 | 25 |
| 1 発掘調査の概要 | 25 |
| 2 本発掘調査・工事立会 | 27 |
| 3 平成23年度の本発掘調査・工事立会 | 28 |
| 4 平成24年度の本発掘調査・工事立会 | 35 |
| 5 整理作業の概要 | 46 |
| 6 資料の収蔵・保管 | 47 |
| 7 教育普及活動 | 51 |
| 8 保存処理 | 61 |
| 9 決算額 | 64 |
| Ⅳ 文化財センターの概要 | 65 |
| 1 開館に至る経緯 | 65 |
| 2 組織と職員 | 67 |
| 3 施設 | 68 |
| Ⅴ 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場 | 72 |
| 1 史跡古津八幡山遺跡保存整備活用事業の概要 | 72 |
| 2 教育普及活動 | 75 |
| 3 古津八幡山古墳確認調査の概要 | 77 |
| Ⅵ 付編 資料紹介等 | 79 |
| 1 齋藤秀平氏旧蔵の縄文土器・土師器 | 79 |
| 2 新潟市西蒲区角田山沖発見の縄文土器 | 81 |
| 3 新潟市西蒲区弥彦山沖発見の珠洲焼 | 82 |
| 4 新潟市西蒲区角田山沖発見と伝えられる珠洲焼 | 84 |
| 5 佐渡近海発見の珠洲焼 | 86 |
| 6 新潟市西蒲区和納館跡出土木簡 | 89 |
| 7 古津八幡山遺跡における古代米及び畑作物の栽培実験について | 90 |
| 引用・参考文献 | 92 |

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

概 要 新潟市では「文化財に関する事項」は市長部局の歴史文化課が補助執行することとされ、新潟市埋蔵文化財センター（北区太郎代）において埋蔵文化財の調査研究が行われてきた。

平成17年の広域合併に伴う市域の拡大や埋蔵文化財保護業務の増加により、平成18年度には歴史文化課の組織改正で埋蔵文化財係が設置され、企画文化財係・歴史資料係を併せた3係体制となった。開発事前審査・試掘確認調査・史跡整備等を歴史文化課で行い、本発掘調査を埋蔵文化財センターで行うという事務分掌が概ね定まった。

Ⅳで記載されているように、平成23年7月に教育機関として新潟市文化財センターが開館した。現在、埋蔵文化財保護行政は、歴史文化課埋蔵文化財係と文化財センターで所管している。

事務分掌としては、開発事前審査・試掘確認調査・工事立会・古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課埋蔵文化財係、本発掘調査・保存処理・収蔵保管・展示活用、史跡古津八幡山遺跡の史跡整備と活用・管理等を文化財センターが行っている。本庁にある開発部局との連絡調整や開発事業者との協議など開発事前審査から試掘確認調査までは一連のもので切り離せないことから歴史文化課が所管することとした。

開発事前審査では、開発行為・農振除外・農地転用・建築確認・不動産鑑定・リサイクル法等の民間開発や公共工事に対する事前協議を行い『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日）に基づいて試掘確認調査の要否を判断している。また、平成19年4月1日の政令指定都市移行に伴う権限移譲により、『文化財保護法』第93条及び第96条に基づく事務を新潟市教育委員会が行うことになり、これらの取り扱いの基準として『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』（平成19年4月1日）を定め、それにより、文化財保護法に伴う指示を行っている。

平成10年度から22年度までの試掘確認調査件数・本調査件数・開発届出件数は表1の通りである。

本発掘調査 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。

平成17年度～24年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業にかかる事業費は表2の通りである。遺跡別の事業費は本発掘調査と整理作業を一部含んだ額である。

1㎡当たり発掘調査単価（決算額／調査面積）は、平

成17年度：13,726円、平成18年度：15,172円、平成19年度：20,871円、平成20年度：18,496円、平成21年度：37,570円、平成22年度：28,512円、平成23年度：41,671円、平成24年度：27,565円である。平成23年度は小規模な調査が多く1㎡当たりの単価が高くなっている。

新潟市の遺跡の場合は低湿地に立地する遺跡が多く、暗渠等による24時間強制排水、矢板による土留め等の仮設費用が必要な遺跡の場合は発掘調査経費が高くなる傾向がある。

近世新潟町跡の取り扱い 新潟市中心部に計画された国道7号線バイパス建設工事に伴い、平成17年度に新潟県教育庁文化行政課と近世新潟町跡の取り扱い協議を行った。平成10年の文化庁通知（平成10年9月29日付文化庁次長通知 庁保記第75号「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について（通知）」）で埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲として「近世に属する遺跡については、地域において必要なものを対象とすることができる。」とされているので、近世新潟町跡を埋蔵文化財としてどのように取り扱うかの協議を行った。結果、明暦元（1655）年の新潟町移転当初に町割りされた範囲を保護対象とし、開発に伴う試掘調査によって遺跡が遺存することが明らかになった範囲を順次周知化し、最終的に全面周知化することを合意した。全面周知化について、できるだけ速やかに行うこととしたが、未だに全面周知化には至っていない。現状では町割り範囲内の11地点が周知化されている。本発掘調査は平成18年に国道7号線バイパス工事に伴い新潟県教育委員会が実施した1件である。

Ⅱ 2(6)、Ⅲ 4(9)で詳述しているように、試掘確認調査や工事立会を行い、一定の成果を上げている。市街化されているにもかかわらず、予想以上に遺存状況が良く、遺物が層位毎に年代順に出土することが明らかとなっている。染付芙蓉手皿等の高級品が出土しており、考古学的にも江戸時代の港町新潟の繁栄振りを証明することが可能となってきた。地点によっても異なるが、地下2mよりも深い場所に17世紀の町があったことが考古学的に証明された意義は大きい。

江戸時代から港町として発展してきた新潟市にとって、市街地の地下に残る近世新潟町跡は、市民の郷土愛を育み、郷土を慈しむ心を育てる重要な鍵を握っていると考えられる。近世新潟町跡は、新潟市のアイデンティ

表1 新潟地域の埋蔵文化財試掘確認調査・本発掘調査・開発届出件数の推移（平成10年度～22年度）

| 平成17年度 時点 | 平成10年度 1998年 | | 平成11年度 1999年 | | 平成12年度 2000年 | | 平成13年度 2001年 | | 平成14年度 2002年 | | 平成15年度 2003年 | | 平成16年度 2004年 | | 平成17年度 2005年 | | 平成18年度 2006年 | | 平成19年度 2007年 | | 平成20年度 2008年 | | 平成21年度 2009年 | | 平成22年度 2010年 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|-----------------|---------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|-----------------|---------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|-----------------|---------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|-----------------|---------|-----------------|-----------------|---------|----------|-----|----|----|-----|-----|----|-----|-----|---|-----|-----|---|-----|---|
| 遺跡 数 | 専門 職員 数 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | 試掘・ 確認 調査 | 本調 査 | 開発 届出 | | | | | | | | | | | | | | |
| 新潟市 | 125 | 4 | 4 | 1 | 5 | 8 | 1 | 16 | 10 | 1 | 18 | 10 | 0 | 10 | 3 | 2 | 25 | 8 | 0 | 27 | 25 | 0 | 31 | 136 | 8 | 152 | 131 | 13 | 142 | 88 | 12 | 130 | 124 | 10 | 182 | 100 | 5 | 152 | 108 | 5 | 152 | |
| 旧黒塚町 | - | - | - | 1 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 旧新津市 | 98 | 2 | 13 | 1 | 6 | 13 | 5 | 14 | 18 | 2 | 41 | 15 | 4 | 26 | 17 | 2 | 41 | 16 | 5 | 49 | 35 | 3 | 93 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 旧白根市 | 19 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 8 | 0 | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 旧豊栄市 | 99 | 2 | 8 | 0 | 2 | 5 | 2 | 2 | 4 | 2 | 3 | 2 | 2 | 3 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 4 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧小須町 | 22 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧横越町 | 30 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧亀田町 | 40 | 1 | 1 | 0 | 4 | 1 | 0 | 3 | 6 | 0 | 10 | 5 | 0 | 5 | 2 | 0 | 2 | 4 | 0 | 29 | 8 | 0 | 23 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| 旧岩室村 | 68 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧巻町 | 142 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧西川町 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧味方村 | 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧湯東村 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧月湯村 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 旧中之口村 | 32 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 合計 | 723 | 14 | 29 | 6 | 20 | 31 | 9 | 37 | 41 | 5 | 75 | 34 | 6 | 49 | 25 | 6 | 71 | 37 | 5 | 107 | 85 | 4 | 157 | 136 | 8 | 152 | 131 | 13 | 142 | 88 | 12 | 130 | 124 | 10 | 182 | 100 | 5 | 152 | 108 | 5 | 152 | |

数値は新潟県文化財年報に拠る

ティを確立する上で最も重要な遺跡の一つであり、文化財センターにおいても、近世新潟町跡の展示を積極的に行っている。近世新潟町跡の出土品を展示することで遠い過去を身近なものとし、現代を繋ぐことが可能になると考える。

埋蔵文化財・史跡 新潟市内には埋蔵文化財包蔵地が718か所あるが、試掘調査による新発見遺跡があり、年々増加傾向にある。国史跡は菖蒲塚古墳・旧新潟税関・古津八幡山遺跡の3か所、県史跡は的場遺跡・緒立遺跡の2か所がある。

国史跡のうち、旧新潟税関には重要文化財の旧新潟税関庁舎があり、周辺は新潟市歴史博物館敷地として船着場等が整備されている。古津八幡山遺跡はVで詳述されているように古墳復元整備工事が進行中である。平成24年に暫定供用開始され来館者でにぎわっている。

一方、菖蒲塚古墳は金仙寺の墓地として新たな墓石が林立しており、史跡管理として課題がある。昭和5（1930）年指定と古いこともあり、指定範囲が不明確であったが、調査の結果、陪塚とされる隼人塚古墳が指定範囲に含まれないこと、指定範囲内で新たな墓地造成が

行われていることが判明した。平成17年度の広域合併以前より指定範囲の追加と解除をするように文化庁から指導されている。指定範囲の変更に併せ、新たな墓石が造られないように保存管理計画を策定し、土地所有者だけではなく、墓石の所有者に改めて同意をもらう必要があるが、事業として着手できていない。早急に保存管理計画を策定し、史跡範囲変更を行い、適切な史跡管理をする必要がある。（渡邊朋和）



新潟市指定考古資料 馬場屋敷遺跡出土品

II 開発事前審査

1 事前審査内容

(1) 開発事前審査

概要 新潟市では土木工事など土地の掘削・改変を伴う事業について、公共・民間を問わず原則として全て事前協議の対象とし、埋蔵文化財の保護上必要な措置を講ずることとしている。具体的な進め方は以下の通りである。

公共事業 国・県機関の実施する事業は、新潟県教育庁文化行政課が一括して照会し、取りまとめた回答をもとに本市が各機関と協議して取扱いを決定している。市の実施する事業については、年度ごとに庁内に一斉照会を行い、その回答をもとに協議している。

民間事業 事業として最も件数の多い建築事業については、建築主が建築確認申請を提出する際、本市独自の施策として「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その中の項目として「埋蔵文化財の有無」を調べ、確認番号を取得する必要があることから、全ての案件について歴史文化課の窓口で照会があり、その時点で把握できる仕組みとなっている（公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。

開発行為については、『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む庁内関係各課に意見照会があり（各区の開発審査協議会設置要領に規定されている）、全ての案件について把握し、取扱いについて協議を行っている。

また、本市では土木工事が農地で計画された場合に、事前に農地法に係る転用申請・届出が提出されることから、市内に6つ（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）ある農業委員会事務局と協議し、埋蔵文化財の事前審査が必要なものについて申請代理人と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発等については、許認可事務を担当する庁内各課等と緊密に連携し、事前把握を行っている。

そのほか、不動産鑑定評価や土地売買検討時の事前調査に伴う照会も一定量ある。しかし、試掘確認調査を実施し、その調査成果により計画変更協議を行うには協議日数が不足している場合が少なくないため、今後は各事業者がより早い段階で自発的に事前照会を行うよう促す

ための措置が必要と考えられる。

平成17年度～24年度の推移について 新潟市は平成17年度までに近隣市町村との合併を行い、現在の姿となった。市域の拡大により取り扱うべき事案件数も格段に増加している。合併以降、平成24年度までの事前審査件数の推移は表1の通りである。

平成17年度から20年度まで件数が大幅に上昇しているが、これは合併建設計画による公共事案件数の増加だけではなく、上述したように各課等との連携による事業把握が徐々に進んできたことが大きな原因と考えられる。

平成20年度からは審査件数が大幅に減少し、23年度までその傾向が続くが、これはいわゆる「リーマン・ショック」に起因する景気の落ち込みに連動した現象であると推測される。

平成23年度からは再び件数が上昇しており、後述するように試掘確認調査で対応する事案も急増していることから、今後はより迅速かつ効率的に協議調整を進めることのできる体制づくりが急務といえる。

平成23年度 平成23年度の民間事業にかかる事前審査については表2にまとめた。

審査総数5,620件のうち、照会時点で遺跡に該当していたものは331件（6%）であり、建築確認にかかるものが103件と最も多い。

また、照会時点で開発行為またはそれに類する規模を有するなどの理由で試掘調査実施に向けての協議を行ったものが286件（5%）であった。

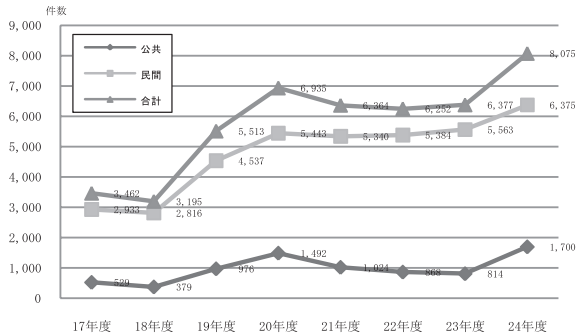
区別の審査総数では西区が1,259件（22%）、中央区が1,039件（18%）、東区が958件（17%）と特に多い。西区と東区については、平成22年度の都市計画見直しにより、農地が市街化調整区域から市街化区域に変更され、大規模な宅地開発が行われたことによる増加が大きいと思われる。ただし、『文化財保護法』第93条による届出が必要とされたものは、総数106件のうち、秋葉区が46件（43%）、江南区が23件（22%）、東区が10件（9%）と事前審査の全体数とは異なる構成である。地域による遺跡密度の違いを反映したものであろう。

公共事業については、表1に示した通りであるが、政令市移行前（平成18年度以前）に比べ国・県事業が減り、市事業が増加しているのが特徴である。権限移譲により従前は国・県事業であったものが市事業となった（一部の国道建設事業など）によるものであり、同一組織内で

表1 埋蔵文化財事前審査件数の推移（平成17年度～24年度）

| 事業 | 内 訳 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 備 考 |
|-----|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 公共 | 国・県事業 | 130 | 127 | 102 | 75 | 62 | 61 | 55 | 48 | |
| | 市事業 | 285 | 125 | 794 | 1,328 | 883 | 670 | 625 | 1,529 | |
| | その他 (窓口照会など) | 114 | 127 | 80 | 89 | 79 | 137 | 134 | 123 | 計画通知作成用の照会など |
| 小 計 | | 529 | 379 | 976 | 1,492 | 1,024 | 868 | 814 | 1,700 | |
| 民間 | 窓口(FAX含む)照会件数 | 1,058 | 1,058 | 796 | 954 | 930 | 708 | 1,007 | 1,295 | 不動産鑑定に伴う事前調査など |
| | 都計法32条 | 76 | 62 | 57 | 67 | 76 | 73 | 69 | 65 | 開発行為の事前協議 |
| | 農地転用 | 907 | 875 | 727 | 678 | 572 | 625 | 538 | 473 | |
| | 建築確認申請 | 851 | 804 | 2,936 | 3,730 | 3,747 | 3,966 | 3,940 | 4,533 | 事前調査報告書作成用の照会 |
| | 事業者からの文書照会 | 41 | 17 | 21 | 14 | 15 | 12 | 9 | 9 | |
| 小 計 | | 2,933 | 2,816 | 4,537 | 5,443 | 5,340 | 5,384 | 5,563 | 6,375 | |
| 合 計 | | 3,462 | 3,195 | 5,513 | 6,935 | 6,364 | 6,252 | 6,377 | 8,075 | |

埋蔵文化財事前審査件数の推移（平成17年度～24年度）



協議が可能であるため、より迅速かつ密度の濃い調整が可能となっていることが特徴である。

平成24年度 平成24年度の民間事業に係る事前審査については表3に示した。23年度とほぼ同傾向であるが、件数は6,375件（前年度比13%増）と大幅に増加している。内訳をみると、開発行為は同水準（69件から65件）、農地転用は減少（595件から473件）だが、建築確認関係と窓口照会件数が増加していることがわかる（建築確認は15%、窓口照会は29%増）。これは、平成26年4月に予定されている消費税の増税による住宅建築の駆け込み需要などが大きく影響しているものと思われる、26年度以降の推移が注目される。

公共事業については、合併建設計画にかかる事業が平成26年度で終了することによる一時的な増加がみられる（前年度比109%増）。

(2) 試掘確認調査

概要 事前審査・協議により、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した箇所には試掘調査、すでに遺跡として周知化されているがその詳細な内容が不明な場合には確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出し、国の補助（文化庁 補助割合50%）を受けている。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施しているが、まれに調査の実施を拒否される場合があり（年間1～2件程度）、対応に苦慮している。

表2 平成23年度民間事業に係る埋蔵文化財事前審査内訳

| 区 名 | 審査種別 | | | | | 審査・照会 件数 | 93条 届出 |
|-----------|------|------|-------|-------|------|-------------|-----------|
| | 開発行為 | 農地転用 | 建築確認 | 窓口照会 | 文書照会 | | |
| 北 区 | 5 | 13 | 410 | 27 | 3 | 458 | 8 |
| 東 区 | 13 | 94 | 670 | 180 | 1 | 958 | 10 |
| 中 央 | 12 | 53 | 759 | 213 | 2 | 1,039 | 9 |
| 江南区 | 10 | 80 | 336 | 98 | 1 | 525 | 23 |
| 秋葉区 | 6 | 51 | 452 | 118 | 0 | 627 | 46 |
| 南 区 | 4 | 26 | 227 | 66 | 0 | 323 | 1 |
| 西 区 | 13 | 213 | 815 | 218 | 0 | 1,259 | 7 |
| 西蒲区 | 6 | 65 | 271 | 87 | 2 | 431 | 2 |
| 全市合計 | 69 | 595 | 3,940 | 1,007 | 9 | 5,620 | 106 |
| 遺跡内 | 3 | 18 | 103 | 206 | 1 | 331 | - |
| 試掘協議をしたもの | 7 | 10 | - | 267 | 2 | 286 | - |

表3 平成24年度民間事業に係る埋蔵文化財事前審査内訳

| 区 名 | 審査種別 | | | | | 審査・照会 件数 | 93条 届出 |
|-----------|------|------|-------|-------|------|-------------|-----------|
| | 開発行為 | 農地転用 | 建築確認 | 窓口照会 | 文書照会 | | |
| 北 区 | 8 | 26 | 427 | 119 | 3 | 583 | 5 |
| 東 区 | 10 | 132 | 698 | 193 | 0 | 1,033 | 2 |
| 中 央 | 9 | 50 | 945 | 410 | 0 | 1,414 | 6 |
| 江南区 | 7 | 87 | 377 | 134 | 0 | 605 | 23 |
| 秋葉区 | 3 | 58 | 498 | 89 | 0 | 648 | 39 |
| 南 区 | 8 | 55 | 325 | 25 | 0 | 413 | 12 |
| 西 区 | 12 | 8 | 944 | 244 | 2 | 1,210 | 6 |
| 西蒲区 | 8 | 57 | 319 | 81 | 4 | 469 | 10 |
| 全市合計 | 65 | 473 | 4,533 | 1,295 | 9 | 6,375 | 103 |
| 遺跡内 | 4 | 12 | 107 | 166 | 0 | 289 | - |
| 試掘協議をしたもの | 20 | 29 | - | 387 | 0 | 436 | - |

※建築確認のみの案件（個人住宅など）については周知遺跡の範囲にかかるもののみ協議の対象としているため、原則として試掘調査は生じない

平成23年度 表4に示す通り、27件の試掘調査、28件の確認調査の計55件を実施した。ただし、件数は例年に比べて少ないが、前述した都市計画の線引き見直しにより大規模開発が増加したため、1件当たりの試掘坑数等はほぼ例年並みであった。原因別では民間事業によるものが41件と、公共事業による14件の約3倍を数える。区別では、秋葉区が13件（25%）と最も多くなっている。

なお、試掘確認調査の結果、遺物ないし遺構が確認された事例は5件（調査全体の0.9%）であった。調査対象範囲の中の限られた試掘坑の面積では、偶然にいずれも発見されなかったということも考えられる。特に検出率が高いのが西蒲区（試掘5件中2件、確認4件中1件）であった。試掘調査は周知の遺跡近隣地を対象としていたので、遺跡範囲変更の手続きをとった。

平成24年度 表5の通り、57件の試掘調査、52件の確認調査の計109件を実施した。件数で見ると、前年度の約2倍と急激な増加である。前述の通り、消費税増税の影響が大きいものと推測される。

その他の傾向はほぼ平成23年度と同様であるが、遺物ないし遺構が検出された調査の件数が19件と、全体件数増加割合を大きく超える前年度比約4倍に達している。これは、特に中央区の事例の多くが近世の遺跡である「近世新潟町跡」及びその周辺を対象としており、遺構・遺物の密度がきわめて高く、調査をすればほぼ確実に検出されることによるものであると考えられる。

表4 平成23年度 試掘確認調査・工事立会件数

| 試掘確認調査・工事立会件数 | | | | 事業者別試掘確認調査件数 | | | |
|---------------|------|----|--------|--------------|-------------------|-------|----|
| 区名 | 件数 | 件数 | 遺跡検出件数 | 割合(%) | 区名 | 公・民 | 件数 |
| 北 区 | 試掘調査 | 2 | 0 | 0% | 北 区 | 民間 | 4 |
| | 確認調査 | 2 | 0 | 0% | | 公共 | 0 |
| | 工事立会 | 10 | - | - | 東 区 | 民間 | 9 |
| 試掘調査 | 6 | 0 | 0% | 公共 | | 1 | |
| 東 区 | 確認調査 | 4 | 0 | 0% | 中央区 | 民間 | 4 |
| | 工事立会 | 2 | - | - | | 公共 | 0 |
| 中央区 | 試掘調査 | 3 | 0 | 0% | 江南区 | 民間 | 7 |
| | 確認調査 | 1 | 0 | 0% | | 公共 | 2 |
| | 工事立会 | 2 | - | - | 秋葉区 | 民間 | 12 |
| 試掘調査 | 4 | 0 | 0% | 公共 | | 1 | |
| 江南区 | 確認調査 | 5 | 0 | 0% | 南 区 | 民間 | 1 |
| | 工事立会 | 10 | - | - | | 公共 | 1 |
| 秋葉区 | 試掘調査 | 4 | 1 | 25.0% | 西 区 | 民間 | 3 |
| | 確認調査 | 9 | 1 | 11.1% | | 公共 | 1 |
| | 工事立会 | 20 | - | - | 西蒲区 | 民間 | 1 |
| 試掘調査 | 2 | 0 | 0% | 公共 | | 8 | |
| 南 区 | 確認調査 | 0 | 0 | 0% | 合 計 | 民間 | 41 |
| | 工事立会 | 1 | - | - | | 公共 | 14 |
| 西 区 | 試掘調査 | 1 | 0 | 0% | 合計 | 総計 | 55 |
| | 確認調査 | 3 | 0 | 0% | 平成23年度経費 (単位: 千円) | | |
| | 工事立会 | 4 | - | - | 調査内容 | 経 費 | |
| 西蒲区 | 試掘調査 | 5 | 2 | 40.0% | 試掘調査 | 5,276 | |
| | 確認調査 | 4 | 1 | 25.0% | 確認調査 | 9,399 | |
| | 工事立会 | 6 | - | - | 管内踏査 | 781 | |
| 合 計 | 試掘調査 | 27 | 3 | 11.1% | | | |
| | 確認調査 | 28 | 2 | 7.1% | | | |
| | 工事立会 | 55 | - | - | | | |

表5 平成24年度 試掘確認調査・工事立会件数

| 試掘確認調査・工事立会件数 | | | | 事業者別試掘確認調査件数 | | | |
|---------------|------|----|--------|--------------|-------------------|-------|-----|
| 区名 | 件数 | 件数 | 遺跡検出件数 | 割合(%) | 区名 | 公・民 | 件数 |
| 北 区 | 試掘調査 | 6 | 2 | 33.3% | 北 区 | 民間 | 9 |
| | 確認調査 | 3 | 1 | 33.3% | | 公共 | 0 |
| | 工事立会 | 3 | - | - | 東 区 | 民間 | 4 |
| 試掘調査 | 4 | 0 | 0% | 公共 | | 1 | |
| 東 区 | 確認調査 | 1 | 0 | 0% | 中央区 | 民間 | 7 |
| | 工事立会 | 1 | - | - | | 公共 | 4 |
| 中央区 | 試掘調査 | 9 | 4 | 44.4% | 江南区 | 民間 | 13 |
| | 確認調査 | 2 | 2 | 100% | | 公共 | 8 |
| | 工事立会 | 9 | - | - | 秋葉区 | 民間 | 23 |
| 試掘調査 | 9 | 1 | 11.1% | 公共 | | 1 | |
| 江南区 | 確認調査 | 12 | 2 | 16.7% | 南 区 | 民間 | 7 |
| | 工事立会 | 11 | - | - | | 公共 | 2 |
| 秋葉区 | 試掘調査 | 5 | 1 | 20.0% | 西 区 | 民間 | 3 |
| | 確認調査 | 19 | 5 | 26.3% | | 公共 | 1 |
| | 工事立会 | 19 | - | - | 西蒲区 | 民間 | 16 |
| 試掘調査 | 7 | 0 | 0% | 公共 | | 10 | |
| 南 区 | 確認調査 | 2 | 0 | 0% | 合 計 | 民間 | 82 |
| | 工事立会 | 1 | - | - | | 公共 | 27 |
| 西 区 | 試掘調査 | 3 | 0 | 0% | 合計 | 総計 | 109 |
| | 確認調査 | 1 | 0 | 0% | 平成24年度経費 (単位: 千円) | | |
| | 工事立会 | 2 | - | - | 調査内容 | 経 費 | |
| 西蒲区 | 試掘調査 | 14 | 1 | 7.1% | 試掘調査 | 7,964 | |
| | 確認調査 | 12 | 0 | 0% | 確認調査 | 6,678 | |
| | 工事立会 | 3 | - | - | 管内踏査 | 521 | |
| 合 計 | 試掘調査 | 57 | 9 | 15.8% | | | |
| | 確認調査 | 52 | 10 | 19.2% | | | |
| | 工事立会 | 49 | - | - | | | |



試掘確認調査風景 (中央区烏屋野大島 平成23年度)

(3) 工事立会

概 要 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事等に対し、原則として事前の試掘確認調査で遺跡の内容を十分把握したうえで、新潟県基準（平成11年9月10日付新潟県教育庁通知 教文第578号「発掘調査の要否等の判断基準」）に従って実施している。具体的には、下記の通りである。

予定されている土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊され、本来であれば記録保存を目的とした本発掘調査を実施すべきであるが、掘削範囲がきわめて狭小（新潟県基準によれば原則として掘削幅1m以下）の場合、設計上は保護層も含めて掘削が遺物包含層等に及ばない見込みであるが、現地での施工が設計通りであるか立会によって確認する必要が認められる場合などである。

工事立会にあたっては、『文化財保護法』第93条の届出・同94条の通知に対する取扱指示文を返送する際、工事日程が決定次第連絡して立会を求めるようにしており、事業者の計画した工程に従って本市の埋蔵文化財担当専門職員が現地に赴いている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、施工者に理解を求めたうえでその場で最大限の記録化を行い、出土遺物や記録類は、試掘確認調査のものに準じた取扱いとしている。個人住宅基礎工事など小規模なものは短期間で終了するが、大規模開発や圃場整備など長期間にわたるものでは限られた人数の職員での対応に困難をきたすことがあり、その解決は今後の課題である。

平成23年度 表4の通り、55件の工事立会を行った。試掘確認調査同様、区別で見ると秋葉区（20件）や江南区（10件）での件数が多い。

内容としては、個人住宅建設に係るもの11件（20%）、公共下水道に係るもの11件（20%）が多く、圃場整備事業の用排水路新設・拡幅や暗渠排水設置工事に係るもの5件（9%）がそれに続く。

平成24年度 表5の通り49件の工事立会を行った。秋葉区（19件）・江南区（11件）の事例が多いのは前年度同様だが、中央区が9件とそれに続き、前年度の2件から大幅増となっている。国道7号線改良に付随する水道・ガスなどの工事に伴う立会增加が原因である（Ⅲ4(9)参照）。

事前審査に係る試掘確認調査の概要は次節の通りである。
(廣野耕造)

2 平成23年度・24年度の事前審査に係る試掘確認調査の概要

(1) 和納館跡隣接地 (2011137)

所在地 新潟市西蒲区和納909番地ほか
 調査の原因 新潟市立(仮称)和納保育園移転事業
 (公共事業)

調査期間 平成23年11月10日
 調査面積 59.4㎡ (調査対象面積3,160㎡)
 調査担当 廣野耕造
 処置 工事立会

調査に至る経緯 新潟市立(仮称)和納保育園の建設に伴い、建設予定地内の埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。周堀などの遺構が検出される可能性を想定して、トレンチは東西方向に長く設定した。調査はバックホウで掘削し、1 Tは幅1.5m、長さ22.2m、2 Tは幅1.5m、長さ17.4mである。調査面積は調査対象面積に対して1.9%である。

位置と環境 調査地はJR岩室駅の南東約100m、西川の右岸からは東へ約350mの沖積地上に立地し、現在の標高は約5.2mを測る。現況は水田で、一部は盛土がされ畑として利用されている。調査地の北約100mの旧自然堤防上には周知の埋蔵文化財包蔵地である和納館跡が存在し、平成7年度には宅地造成に伴い2,600㎡が本発掘調査されている。この本発掘調査により、外堀が最大幅約1.8m、深さが最も深いところで約0.93m、内堀が最大幅5.4m、深さは最深約1.7mの二重に堀を巡らせた方形館であることが判明し、13世紀後半～16世紀後半の遺物が出土している〔川上1997〕。

検出遺構 遺構は検出されなかった。基本層序は1 T・2 T両試掘坑とも共通の層番号を付けた。確認可能な範囲内ではⅧ層が基盤層と考えられる。

出土遺物 遺物は2 T柱状図で記した攪乱部分から珠洲焼の壺の体部破片が1点出土した。焼成は還元に至らず酸化状態である。時期は外面の平行タタキメが密であることから吉岡編年Ⅳ期〔吉岡1994〕であろう。

調査の結果、埋蔵文化財包蔵地とは認められず、保育園建設には支障はないと判断した。(相澤裕子)

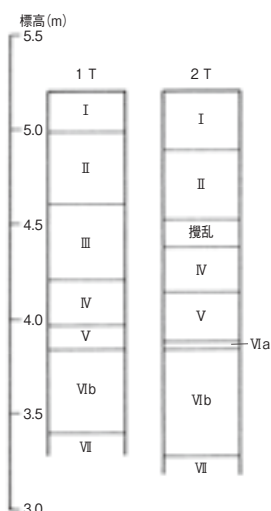


図3 土層柱状図 (1/40)

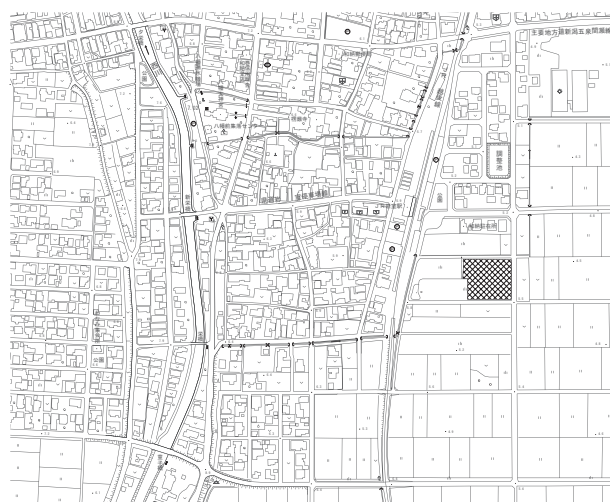


図1 調査位置図 (1/10,000)

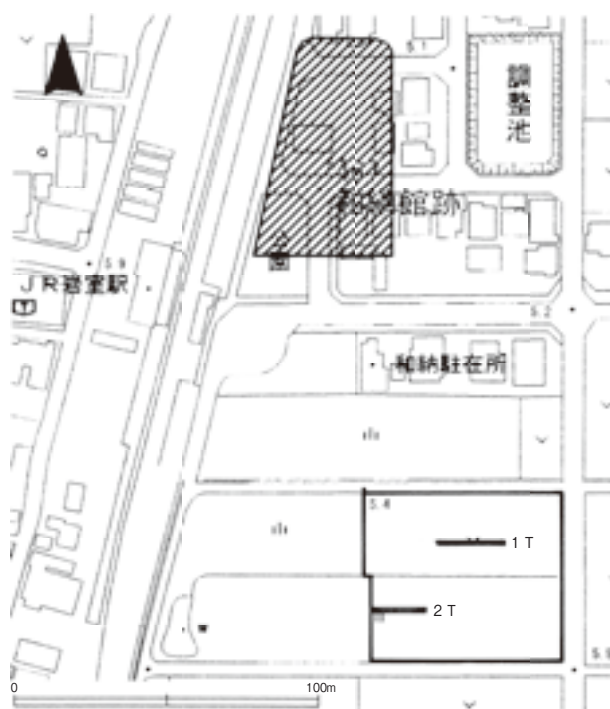


図2 確認調査トレンチ位置図 (1/2,500)

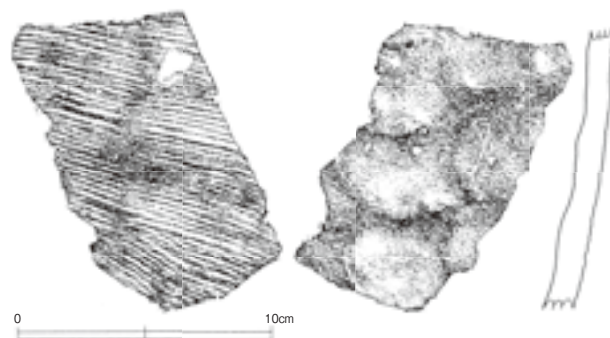


図4 遺物実測図 (1/3)

- I層 表土・耕作土
- II層 明灰橙色シルト
- III層 灰色粘土
- IV層 明灰白色粘土 (粒子粗い)
- V層 明灰白色粘土 (粒子細かい)
- VIa層 灰色粘土 (植物遺体を多く含む)
- VIb層 灰色粘土 (黒色粒子をわずかに含む)
- VII層 暗灰色粘土とシルトの互層 (シルトは粒子粗い)
- VIII層 灰色砂

(2) 諏訪畑遺跡 第4次調査 (2011149)

所在地 新潟市秋葉区大関242-3ほか
 調査の原因 介護老人福祉施設建設 (民間事業)
 調査期間 平成23年11月24日～12月14日
 調査面積 380.9㎡ (調査対象面積13,373.96㎡)
 調査担当 立木宏明
 処置 協議中

調査に至る経緯 諏訪畑遺跡は平成18年1月に介護老人福祉施設建設に先立ち行った試掘調査 (第1次調査) で新たに発見された遺跡である。平成18年5月に追加確認調査 (第2次調査) を行った。平成19年2～3月に本発掘調査 (第3次調査) が行われ、古代 (平安時代) の遺構・遺物が検出された。報告書は『諏訪畑遺跡 第3次調査』として刊行されている。

今回の調査は、その隣接地に計画された施設建設に伴う確認調査 (第4次調査) である。平成23年11月16日付で事業者より調査が依頼され、50か所のトレンチを設定し確認調査を行った。なお、すでに19までトレンチ設定しているため、今回は20からトレンチ番号を付した。

位置と環境 諏訪畑遺跡は、能代川右岸の標高9.5～10.3mの自然堤防に立地する。現況は工場跡地であるが、昭和40年代に畑及び田であった所は盛土 (0.2～0.5m) や表層改良で整地されおり旧地形は目視できない。

検出遺構と出土遺物 古代 (平安時代) と中世 (鎌倉・室町時代) の遺構を確認した。基本層序は図3に示したが、古代の包含層であるⅦa～c層と中世の包含層であるⅢ・Ⅳ層とは1m前後の間層を挟んでいる。Ⅲ層上面までには旧表土を挟んで0.3～1.0m前後の盛土がある。

古代の遺構・遺物は5か所のトレンチで確認し、ピット・溝など5基を確認した。中世の遺構・遺物は17か所のトレンチで確認され、遺構はピット・溝・性格不明遺構・井戸など83基を確認した。

古代の遺物 (図4 1～6・16) は土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器長頸壺、軽石製石製品などが出土した。土師器無台椀などの特徴から9世紀後半の遺物と考えられる。中世の遺物 (図4 7～15) は珠洲焼大甕・片口鉢、越前焼片口鉢、中世土師器皿、砥石などが出土している。珠洲焼など出土遺物の様相から中世遺跡の存続年代は12世紀後半から15世紀代と存続時期の長い遺跡と考えられる。

まとめ 当遺跡の古代は平成18年度の調査区に隣接するトレンチに集中して確認され、遺跡の縁辺部の可能性がある。中世は遺構密度も高いことから拠点集落の性格を帯びた遺跡であると考えられる。出土遺物はコンテ

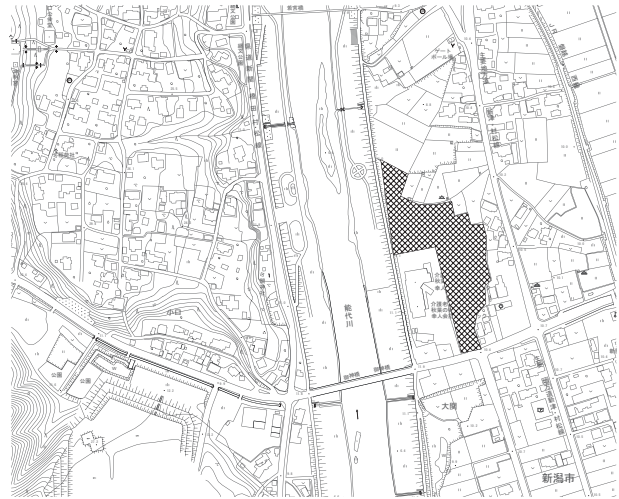


図1 調査位置図 (1/10,000)



調査地近景 (南から)



30T (北壁)

ナケース4箱である。

遺跡の取り扱いについては、当初計画では調査区北側の建物建設予定であった。調査の結果、当該地は遺構・遺物の密度が高く、かつ保護層が確保できないため、本発掘調査が必要であると判断された。協議により、調査区東側の遺構・遺物が検出されていない範囲に建物を建てる設計変更を行い、遺跡の取り扱いとしては工事立会の予定であったが、事業者の都合で平成26年3月現在、事業延期中である。事業再開後に再協議の予定である。

(立木宏明)



図2 確認調査トレンチ位置図 (1/2,000)

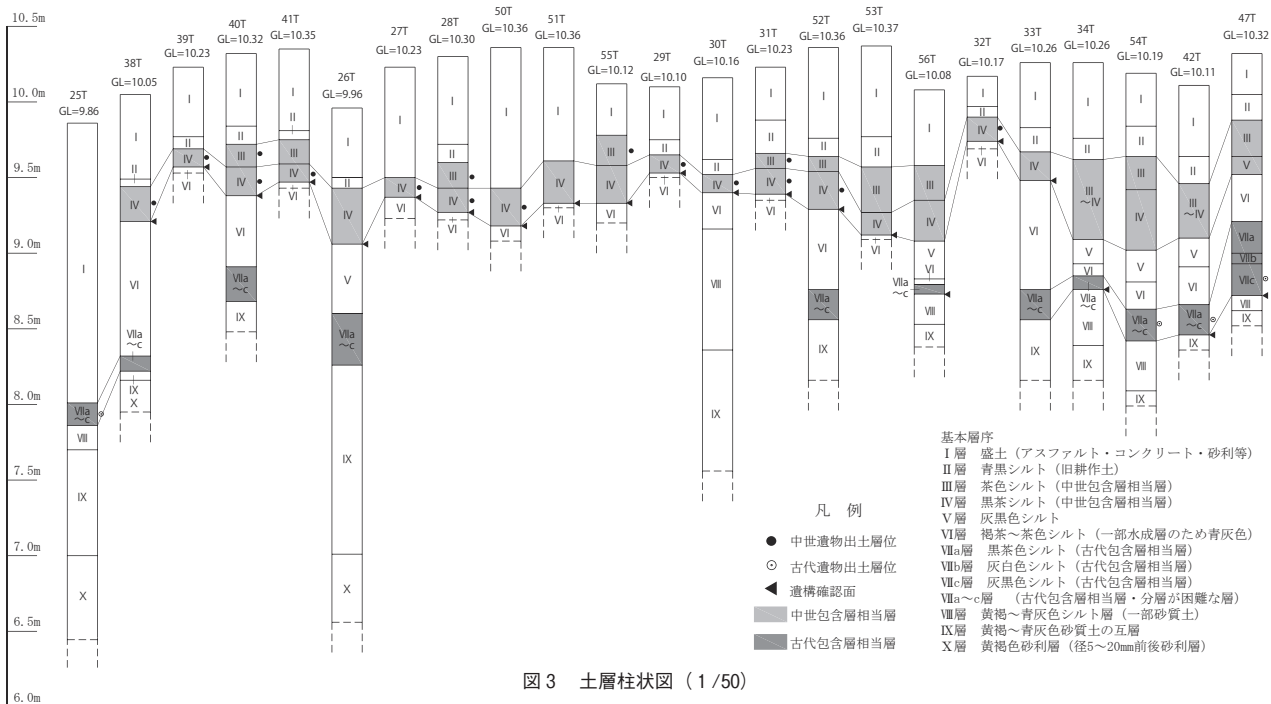


図3 土層柱状図 (1/50)

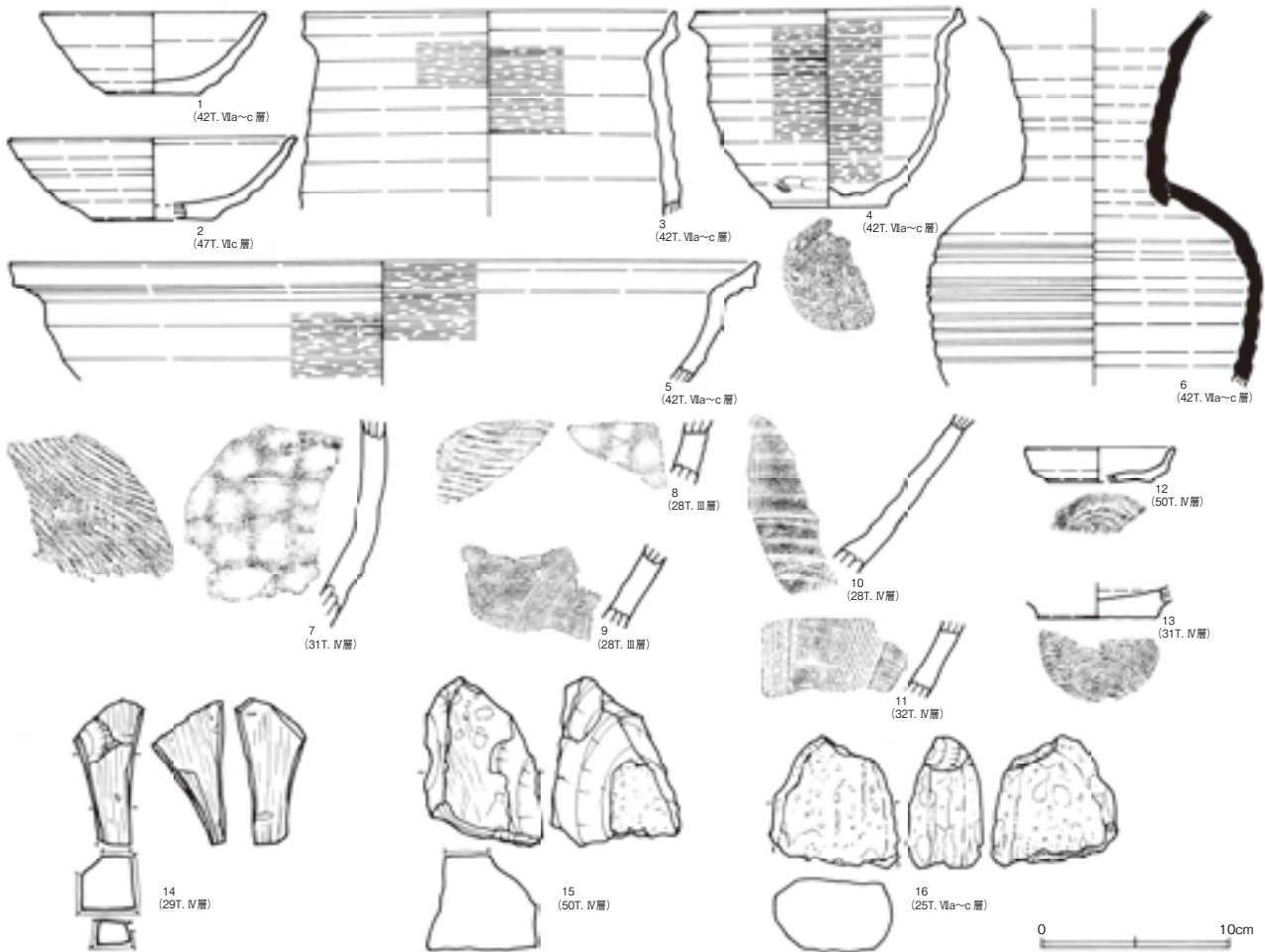


図4 遺物実測図(1/4)

表1 土器観察表

| 報告No. | 出土位置 トレンチ 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 色 調 | | 胎 土 含有物 | 密度 | 焼成 | 調 整 | | | 遺存率 全体 | 備 考 | | |
|-------|-----------------|-----------|-----|---------|-----|------|-------------------|-------------------|---------------------------------|----|----|------------------|--------|------|-----------|-------|-------|--------------------|
| | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外 面 | 内 面 | | | | 外 面 | 内 面 | 口縁部 | | | 底部 | 全体 |
| 1 | 42T Ⅵa~c | 土師器 | 無台椀 | 12.0 | 5.0 | 4.3 | 浅黄 橙 10YR8/3 | 浅黄 橙 10YR8/3 | 石英・長石・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒 | 粗 | 酸化 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 右 | 11/36 | 36/36 | 18/36 | |
| 2 | 47T Ⅵc | 土師器 | 無台椀 | 15.3 | 6.5 | 4.3 | 橙 7.5YR7/6 | 橙 7.5YR7/6 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒 | 粗 | 酸化 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 右 | 7/36 | 21/36 | 14/36 | |
| 3 | 42T Ⅵa~c | 土師器 | 長甕 | 19.8 | — | — | にぶい 橙 7.5YR2/4 | にぶい 橙 7.5YR2/4 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 粗 | 酸化 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 6/36 | —/36 | 2/36 | |
| 4 | 42T Ⅵa~c | 土師器 | 小甕 | 14.0 | 6.3 | 10.5 | にぶい 褐 7.5YR5/4 | にぶい 褐 7.5YR5/4 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 普通 | 酸化 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 右 | 19/36 | 20/36 | 20/36 | 外面スス |
| 5 | 42T Ⅵa~c | 土師器 | 鍋 | 40.0 | — | — | にぶい黄褐 10YR5/4 | にぶい黄褐 10YR5/4 | 石英・長石・雲母・チャート 焼土粒・角閃石粒・海綿骨針 | 普通 | 酸化 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 3/36 | —/36 | —/36 | 外面スス |
| 6 | 42T Ⅵa~c | 須恵器 | 長頸壺 | — | — | — | 灰5Y 6/1 | 灰5Y 6/1 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 精 | 還元 | ロクロナデ 体部沈澱 | ロクロナデ | | —/36 | —/36 | 18/36 | |
| 7 | 31T Ⅳ | 珠洲焼 | 大甕 | — | — | — | 灰5Y 6/1 | 灰5Y 5/1 | 石英・長石・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 精 | 還元 | ナデ・ 平行タタキメ | ナデ・押圧痕 | | —/36 | —/36 | —/36 | 砥石転用具 |
| 8 | 28T Ⅲ | 珠洲焼 | 大甕 | — | — | — | 灰5Y 5/1 | 灰5Y 6/1 | 石英・長石・雲母・焼土粒 角閃石粒・海綿骨針 | 精 | 還元 | ナデ・ 平行タタキメ | ナデ・押圧痕 | | —/36 | —/36 | —/36 | 砥石転用具 |
| 9 | 28T Ⅲ | 珠洲焼 | 片口鉢 | — | — | — | 灰5Y 5/1 | 灰5Y 5/1 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 精 | 還元 | ロクロナデ | ロクロナデ | | —/36 | —/36 | —/36 | 珠洲Ⅱ期(13c代) |
| 10 | 28T Ⅳ | 珠洲焼 | 片口鉢 | — | — | — | 灰5Y 6/1 | 灰5Y 5/1 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 精 | 還元 | ロクロナデ 卸し目 1単位 | 7日 | | —/36 | —/36 | —/36 | 珠洲Ⅰ期(12c後半代)・砥石転用具 |
| 11 | 32T Ⅳ | 越前焼 | 片口鉢 | — | — | — | にぶい黄褐 10YR5/4 | にぶい黄褐 10YR5/4 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 普通 | 還元 | ロクロナデ 卸し目 1単位 | 13日 | | —/36 | —/36 | —/36 | 15c代 |
| 12 | 50T Ⅳ | 中世 土師器 | 皿 | 8.0 | 5.4 | 1.9 | 橙 7.5 Y R7/6 | 橙 7.5 Y R7/6 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 粗 | 酸化 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 5/36 | 15/36 | 12/36 | 13c代 |
| 13 | 31T Ⅳ | 中世 土師器 | 皿 | 6.5 | — | — | にぶい 褐 7.5YR6/3 | にぶい 褐 7.5YR6/3 | 石英・長石・雲母・焼土粒 白色凝灰岩・角閃石粒・海綿骨針 | 精 | 酸化 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切 右 | —/36 | 20/36 | 5/36 | |

表2 石製品観察表

| 報告No. | 出土位置 トレンチ 層位 | 種別 | 石材 | 法 量 (mm, g) | | | 時代 | 備考 |
|-------|-----------------|--------|-----|-------------|------|-------------|----|------|
| | | | | 長さ | 幅 | 厚さ 重量 | | |
| 14 | 29T Ⅳ | 砥石 | 凝灰岩 | 78.5 | 36.5 | 39.0 80.01 | 中世 | |
| 15 | 50T Ⅳ | 砥石 | 花崗岩 | 90.0 | 63.0 | 62.0 379.70 | 中世 | |
| 16 | 25T Ⅵa~c | 軽石製石製品 | 軽石 | 71.5 | 73.0 | 40.0 65.58 | 古代 | 下端欠損 |

表3 遺物集計

| トレンチ No. | 古 代 | | 中 世 | | 石製品等 | 鉄関連遺物 | 土製品 |
|-------------|-----|-----|-------|--------|------|-------|-----|
| | 土師器 | 須恵器 | 土師質土器 | 珠洲 陶磁器 | | | |
| 25 | | | | | 1 | | |
| 27 | | | 16 | 1 | | | |
| 28 | | | 16 | 4 | | | |
| 29 | | | | 2 | 1 | 1 | |
| 30 | | | 3 | | | | |
| 31 | | | 6 | 1 | | | 5 |
| 32 | | | 5 | 2 | 1 | | 2 |
| 38 | | | | | 1 | | |
| 39 | | | | | 1 | | |
| 40 | | | 7 | | | | |
| 41 | | | | | | | 1 |
| 42 | 79 | 5 | | | | | 1 |
| 47 | 16 | | | | | | |
| 50 | | | 42 | | 1 | | 8 |
| 51 | | | | | | | |
| 52 | | | 20 | | | | |
| 54 | 2 | | | | | | |
| 55 | | | | | | 1 | 1 |

(3) 秋葉遺跡 第9・10次調査

(2011131・2012110・2012115)

所在地 新潟市秋葉区秋葉1丁目4682-8

調査の原因 個人住宅建設(民間事業)

調査期間 平成24年4月23日～5月20日(確認)

調査面積 214㎡

調査担当 立木宏明(立会)・渡邊ますみ(確認)

処置 工事立会

調査に至る経緯 平成23年度に個人住宅3棟の建設に関する事前照会があった。1棟は法面を幅1m・全長14mの範囲で切土するもので、遺跡への影響が軽微であることから8月25日に届出文書の提出を受け、同年9月6日～9日に工事立会を行った(2011131)。一方、2棟については平成10年度の確認調査成果(1998114)により協議を行い、擁壁基礎設置部分の幅0.63m・総延長約340mを対象として確認調査を行った(2012110・2012115)。平成24年4月10日までに双方の原因者から調査依頼の提出を受け、現地作業に着手した。調査終了後の再協議により、掘削が調査範囲を超えないことから、工事立会で対応することとした(2012147)。

位置と環境 新津丘陵の北端付近に遺跡は位置する。現在遺跡の周辺は宅地化が進む。そのため遺跡の実態は定かでないが、東西180m・南北300mほどの広がりがある。付近には北に向かって張り出す尾根が3列にわたり形成される。遺跡はこのうち東尾根と中央尾根に挟まれた北西向きの緩斜面をおおよその立地とする。沖積地との直線距離は400m以上を測り、比高は10m～20mほどである。沖積地までの間に急斜地は見られず、往来が容易な好条件を備えた立地と言える。

検出遺構 確認調査地は遺跡の北端付近にあたり、幅1m弱のトレンチを東西1列、南北2列設けた。現地表面での標高は19m台である。堆積土は盛土(I層)・黒褐色土(II層)・暗褐色土(III層)・褐色土(IV層)に大別され、遺物は主としてII層下部からIII層下部までの間に含まれていた。II層・III層の堆積厚は50cm前後である。遺構は土坑17基・ピット37基・性格不明遺構10基からなり、大半がIV層上面で確認された。狭長な調査地のため遺構の全体形が把握できたものは少ないが、東西トレンチと西側トレンチを中心に分布する傾向がある。

出土遺物 縄文土器と石器・被熱礫が出土した。図4に確認調査出土土器(2012110・2012115)、図5に工事立会出土土器(2011131)を示す。出土量は、コンテナケースで確認調査6・工事立会4箱である。口縁部遺存資料に基づく個体数は確認調査71、工事立会130を数える。所属時期が明らかな資料は、確認調査51個体(中期



図1 調査位置図(1/10,000)

前葉33%・中期中葉57%・中期後葉4%・後期前葉6%)、工事立会98個体(中期前葉21%・中期中葉74%・後期前葉3%)である。いずれの資料も胎土内に破碎した石英を概して多量に含むが、磨耗した石英や岩石を伴うI a類・磨耗した岩石を伴うI b類・破碎粒子に限定されるII類に区分できる。各資料の番号末尾にその別を示した。

図4 1～12は遺構内出土資料。SK2では中期前葉(1)・中期中葉(2・3)・中期後葉(4)・後期前葉(5・6)土器が混在する。一方、SK3(7・8)・SK24(11～13)・SK26(9・10)・SK32(14)では、中期前葉土器が出土した。いずれの遺物も多截竹管工具を用いて平行沈線や爪形文を施す北陸的な在り土器が主体を占めているが、このうち蓮華文(10)や口縁器形が「く」の字状の口縁器形(7・11)は終末段階を特徴づける要素である。SK24ではこれに伴い東北南部系の12が出土した。口径44cmと推定される大形深鉢で、4単位の波状口縁をなす。波頂部と中間部に逆三角形の抉りを配し、口縁部に鋸歯状の交互刺突を施す。口縁下の文様帯は単節縄文LRを地文とし、細い隆帯と単沈線によって器面を縦横に区画する。13は底部にスダレ状圧痕を認め、14は木目状捺糸文が施される。

15～26は包含層出土資料。15～26は中期前葉土器。大波状口縁の15や楔状の刻目を加えた17は前葉終末段階の特徴をもつ。16は東北南部系の浅鉢。口端と体部に縄の側面を押圧する。18～23は中期中葉土器。隆帯によって口縁部文様を描く18、隆帯・沈線による渦巻文や交互刺突文を体部に配す20、口縁部に並行沈線を施す21は前半段階の資料で、隆帯・沈線によって渦巻文などを描く19・22・23は後半段階である。中期後葉以降の資料はきわめて乏しく、24・25が中期後葉、26が後期前葉である。26は南三十稲場式で、本次調査地の下限資料となる。

図5の工事立会資料は、27～39が中期前葉、40～64が

中期中葉、65・66が後期前葉。27～38は北陸的な様相を認める在地土器。このうち、大波状口縁の表裏に彫刻文様を施す32、太さの異なる竹管工具を併用する34、爪形文が省略される33・35などは前葉終末を特徴づける手法であり、これ以外の多くも同時期の所産の可能性が高い。39は口縁部に交互刺突文を施す東北南部系土器。中期中葉土器は浅鉢(63・64)・鉢(41)・深鉢からなり、新・旧二つのグループに大別できる。42～47・50・56・61は前半段階で、この中には、42などの在地土器や47などの東北南部的な土器とともに火炎土器(56・57・59・60～62)や王冠型土器(58)が含まれる。61に示すドットは、隆帯を表わす。51～55・57～60・62～64は後半段階の資料。51～54などの東北南部的な在地土器に加え火焰型土器が安定的に存在しており、58・59の袋状突起には強い規格性が見られる。65・66は後期前葉土器。66は三十稲場式の蓋で、後半段階に位置づけられる。65は口端の沈線下に細かな刻みが増えられ、信州系の搬入品とみられる。

図示しなかったが、このほか焼成粘土塊が確認調査で2点、工事立会で3点得られた。先述の胎土分類に基づけば、いずれもI b類に該当するものである。

石器類や被熱礫の出土量は、コンテナケースで確認調査5箱、工事立会3箱である。石器類の出土数は確認調査14点、工事立会12点を数え、両者を合わせた内訳は、旧石器1点・石鏃1点・磨石・敲石類9点・石皿・台石8点・スクレイパー1点・砥石4点・剥片4点・石核1点である。図6に主要資料を示す。1～4・8・9が確認調査(2012110・2012115)、これ以外は工事立会出土資料である(2011131)。

1は唯一の旧石器。SK26の覆土から出土した。珪質頁岩製のスクレイパーで、一方向から連続剥離された端正な形状の剥片を素材とする。両側縁に細かな刃部加工を行い、上下両端は背面からの加撃によって折損する。

1以外は縄文時代の石器である。2は珪質流紋岩製の凹基無茎鏃。3は礫面を左に残す砂岩製の両面加工スクレイパー。4は角柱状をなした珪質頁岩製の石核で、a～dを打面として剥片剥離が行われる。5は片側の平坦面に弱い磨耗痕(網点)と凹状の敲打痕、先端に敲打痕をもつ磨石・敲石類。6は石英の小型円礫を使用した敲石。先端・側面に敲打痕をもち、網かけ部分は自然面である。7は不整形な花崗岩円礫の両端に敲打痕をもつ。下端部が被熱によって赤化し(網点)、不規則に欠損する。8は扁平な円礫の両面に磨耗痕をもつ石皿。網かけ部分に顕著な磨耗を認め、片面の一部に弱い敲打痕を複合する。9・10は砥石。前者は平坦面に複数方向からの研磨痕、後者は扁平礫の片面に同一方向の溝状使用痕が

残る。11は平坦面に弱い磨耗痕をとどめる軽石。12はアスファルトが付着した扁平礫。表裏で付着状況が異なることから、顕著な付着部を砂目、痕跡的な部分を網点で示した。加熱によって溶けたアスファルトが何らかの作業過程で付着した資料と考えられる。

まとめ 本遺跡は、これまで行われた小規模な発掘調査や確認調査などを通じ、主として縄文時代中期に形成された集落跡と認識されてきた。こうした中で、今回の調査で見出された旧石器時代の石器は新たな知見であり、古津八幡山遺跡・草水町2丁目窯跡に続く新津丘陵北部3遺跡目の事例となった。越後平野に面した丘陵地帯では数少ない資料であり、旧石器時代の遺跡分布を考えるうえで重要な位置づけがなされるであろう。

縄文土器は中期前葉終末から中期中葉後半段階までの間に位置づけられるものがほとんどを占め、本遺跡北部での遺跡形成過程のあり方がこれによってある程度理解できる。土器様相をみると、中期前葉では北陸色の強い在地土器に東北南部系の土器が加わり、中期中葉では東北南部的な特徴をもった在地土器とともに新・旧二様相を認める火炎型土器が安定的に存在する。ともに越後平野周辺北部に一般的な土器様相を示すものであり、本遺跡が置かれた新津丘陵の地理的環境を表わしている。

土器の胎土としては、中期の前葉・中葉を通じI a類が20%弱、I b類が30%台、II類が50%前後の割合を占める。前二者の指標となる磨耗粒子のあり方は、眼下に流れる能代川の川砂組成と類似しており、混和剤としてそれらを利用していたことをうかがわせる。被熱痕を認める花崗岩製の敲石は、各資料に含まれる破碎石英の母材となった可能性が高い。焼成粘土塊の存在を含め、本遺跡内での活発な土器製作を物語る資料と考えられる。石器類は絶対数が乏しく、磨製石斧の欠落からも組成として完全な内容ではない。ただし、剥片石器の寡少性や打製石斧の欠落、磨石・敲石類の多出傾向が指摘でき、縄文時代中期の越後北部的な色彩を見ることができるといえる。

本遺跡に備わる上記のような普遍的な側面に加え、アスファルトが付着した円礫の存在は、新津丘陵に備わる地理的特性を表わす遺物として重要である。相伴土器に基づけば中期に属す可能性が高く、現時点では新津丘陵産アスファルトの利用上限を示す資料となる。本遺跡は新津丘陵北端の要所に位置し、眼下に広がる能代川・阿賀野川流域低地を日常的な活動領域としたと見られる。北約2kmの沖積地に立地する大野中遺跡は、本遺跡と形成時期を同じくする点から密接な関係にあったことも考えられ、阿賀野川流域や阿賀北地域との交流活動を視野に入れた検討も今後必要となろう。(前山精明)



図2 秋葉遺跡と周辺の同時期遺跡（円は秋葉遺跡中心半径4km）

- 1 秋葉（旧石器・縄文中期）
- 2 大野中（縄文中期）
- 3 原（縄文中期）
- 4 古津八幡山（旧石器）
- 5 草水町2丁目竈跡（旧石器）
- 6 居平（縄文中期）

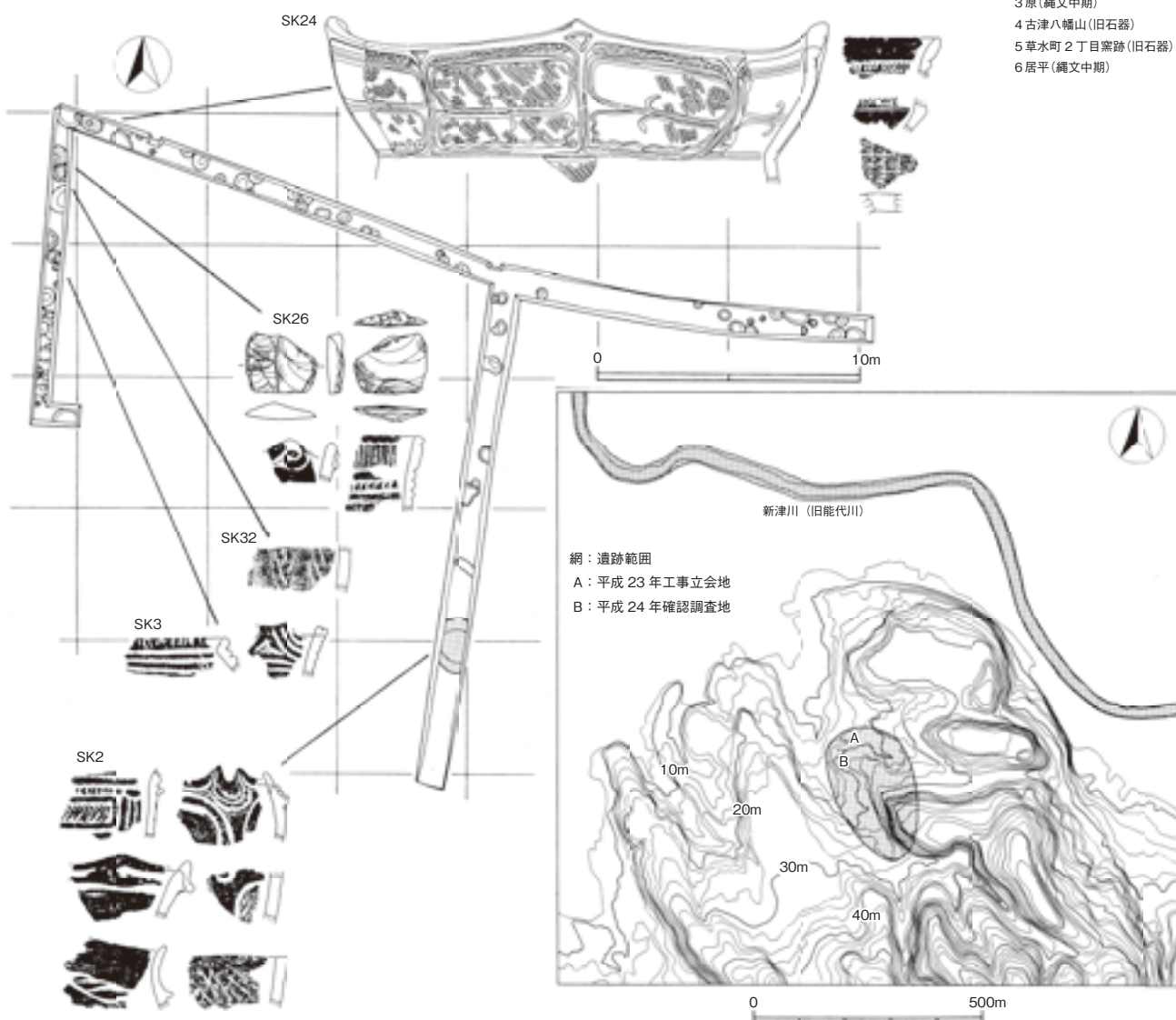


図3 遺跡周辺の地形と遺構の分布

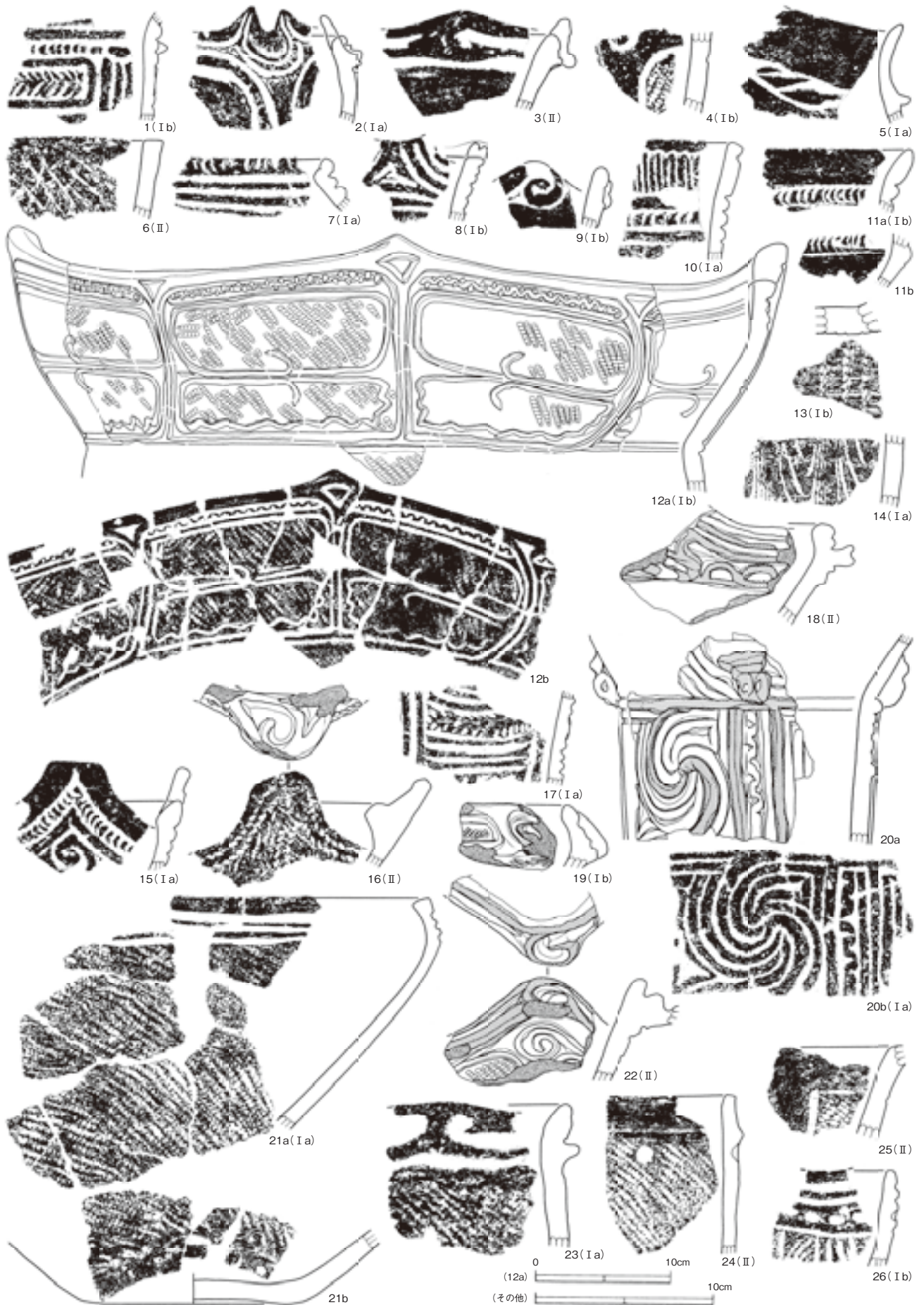


図4 確認調査 (2012110・2012115) 出土縄文土器実測図 (1/4・1/3) (網目：隆帯、砂目：破損部)



図5 工事立会 (2011131) 出土縄文土器実測図 (1/3) (網目: 隆帯、砂目: 破損部)



図6 工事立会(2011131)・確認調査(2012110・2112115)出土石器・アスファルト付着礫実測図(1/3・1/2)

(4) 日水南遺跡 第5次調査 (2012159)

所在地 江南区日水1丁目481、482、485-1

調査の原因 寺院駐車場造成 (民間事業)

調査期間 平成24年7月26日～8月10・17・18・20日、10月2～4・31日、11月1・2日

調査面積 151.06㎡ (調査対象面積2,500㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 現状保存・工事立会

調査に至る経緯 新潟市教育委員会に駐車場造成に伴う事前調査が依頼された (平成24年7月6日付)。そこで、駐車場造成に先立ち、敷地内の埋蔵文化財包蔵地の状況を確認するため確認調査を実施した。

位置と環境 日水南遺跡は、越後平野のほぼ中央の阿賀野川と信濃川の間に挟まれた新潟砂丘の新砂丘I-1 (亀田砂丘前列) の東側斜面に位置する。西から東側に向かって傾斜し、比高差は約5mである。これまでも数回の調査が行われており、今回の調査地より南側で行われた工事立会 (2003201) では縄文土器・弥生土器等が出土している。また、北側で行われた確認調査 (2000143) では古墳時代の土坑が確認されている。一帯には多くの遺跡が同一砂丘上に所在している。

検出遺構 今回の確認調査では、16本のトレンチを設定した。基本層序はI～IV層に分けられ、III層が遺物包含層、IV層が遺構確認面である。遺跡の状況は大きく3つに分けられ、東側平坦面は遺物包含層・遺構確認面ともに良好に残る (遺物包含層面の標高約2.5～4m)。また、西側平坦面は、遺物包含層は削平されているが、遺構確認面が残る (遺構確認面の標高約6～7.5m)。一方、東側斜面は、遺構確認面まで削平を受けている。

遺構は22基確認された。遺構は検出にとどめたため、性格については不明であるが、柱穴や土坑の可能性のあるものが含まれている。

出土遺物 遺物は縄文土器・土師器・須恵器などの土器を中心に確認され、そのうち9点図化した (図5)。

縄文土器を1点図化した (1)。1T-1のIII層から出土した。1は深鉢形の胴部破片である。大小2種類の半截竹管による平行沈線文が施されている。胎土に雲母が多量に含まれるのが特徴である。縄文時代中期前葉の終わり～中葉の初めにかけての可能性が考えられる。

土師器は4点図化した。2は13TのIII層から出土した高杯の脚部破片である。外面にミガキがあり、赤彩が施されている。3は1T-1のIII層から出土した甕の頸部破片である。内外面に赤彩が施されている可能性がある。2・3は共に古墳時代と考えられる。4は1T-2のIII層から出土したロクロを使用した椀である。口縁部



図1 調査位置図 (1/10,000)



確認調査風景 (14T 南から)

から胴部にかけて残る。5は1T-1のIII層から出土した甕と考えられる細片で、外面にタタキメがある。4・5は共に平安時代と考えられる。

須恵器を4点図化した。6は1T-1のIII層から出土した横瓶と考えられる破片である。内面に於て具痕が確認でき、外面はタタキメが磨り消されている。7は11TのSX1の1層から出土した長頸壺の体部破片と考えられる。8・9ともに1T-1のIII層から出土した大甕の破片である。同一または類似の個体である。外面にタタキメがあり、内面に於て具痕がある。産地は6・8・9が新津丘陵産と考えられ、7は不明である。須恵器は、全て平安時代と考えられる。

まとめ 性格不明遺構22基を確認した。トレンチ内から出土した遺物から、縄文時代・古墳時代・平安時代の遺構の可能性がある。また、周囲にそれらの時代の遺構が存在している可能性が考えられる。

遺跡の取り扱いについては、遺物包含層・遺構が残る東側平坦面は掘削工事を行わず保護し、遺構が残っていないと考えられる地点の掘削工事の際には、工事立会を行うこととした。その後、平成25年度に現代の盛土と判断し工事立会を行った地点より、経石などが確認されたため、追加の確認調査を行っている。 (金田拓也)



図2 確認調査トレンチ位置図 (1/750)

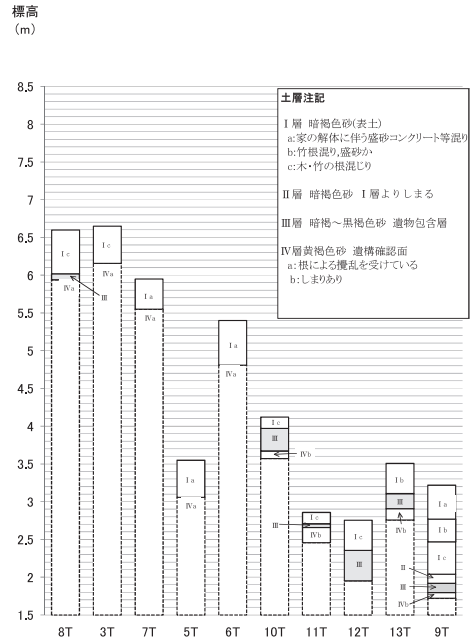


図3 土層柱状図 (1/100)

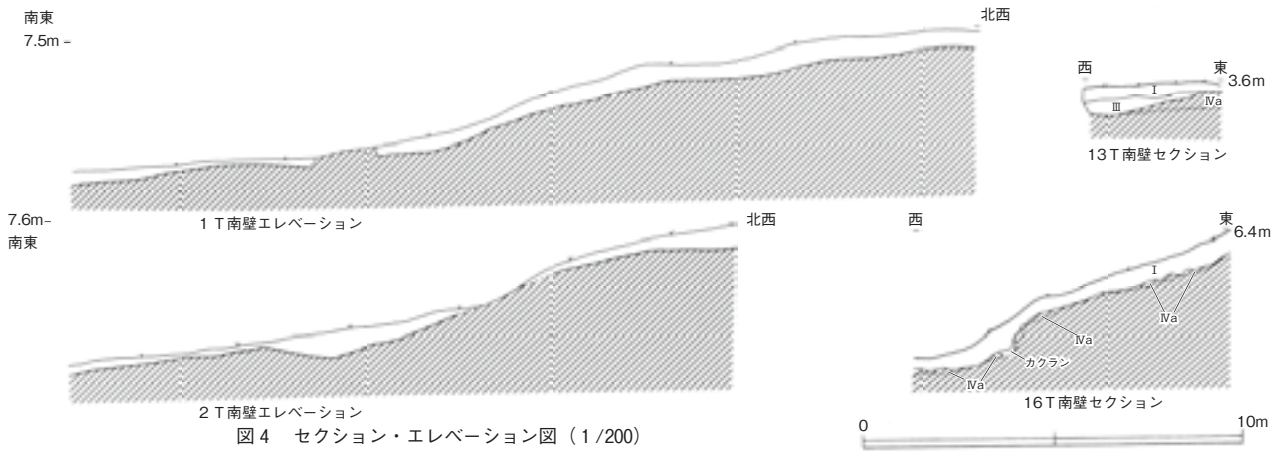


図4 セクション・エレベーション図 (1/200)

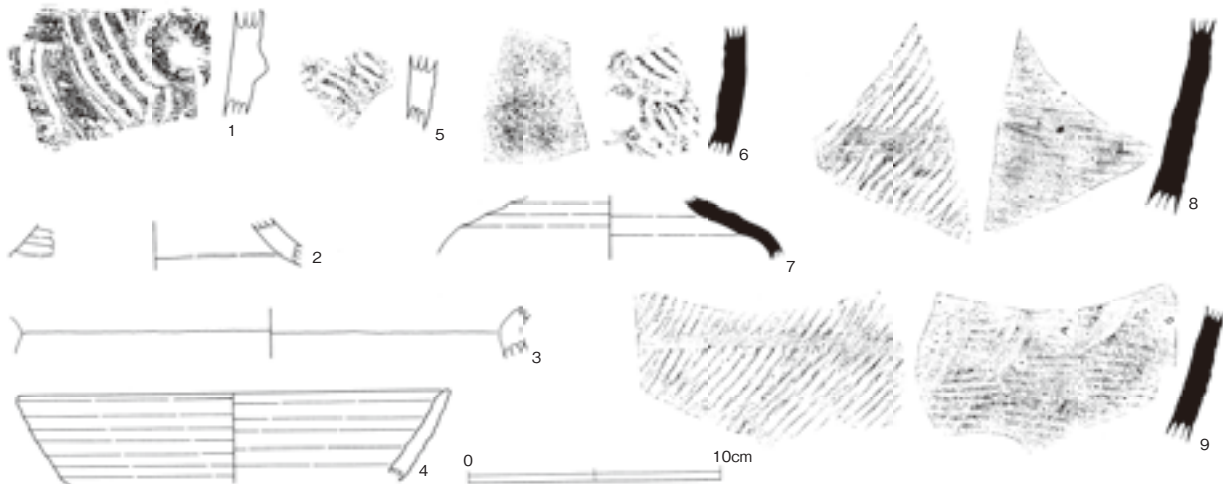


図5 遺物実測図 (1/3)

(5) 三角耕地遺跡 第1次調査 (2012234)

所在地 西蒲区横戸1959番ほか

調査の原因 運動公園造成 (公共事業)

調査期間 平成25年1月29日、2月1・2・7・12日 (5日間)

調査面積 56.25㎡ (調査対象面積13,800㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

調査に至る経緯 平成24年11月14日付で、西蒲区地域課より公園造成事業に伴い、新潟市教育委員会あてに照会があった。それを受けて、歴史文化課は敷地内の埋蔵文化財の有無を調べる試掘調査を行った。

位置と環境 調査地は、新川水系の木山川左岸の沖積地に立地する。周辺に遺跡は少なく、北東約600mの地点に二丁下遺跡 (室町時代) があるが調査の履歴はない。

検出遺構と出土遺物 調査地内の標高は水田面で約-0.1mである。調査地の北側は保育所跡地で、約1mの盛土がされていた。

今回の調査では、15か所のトレンチを設定した。このうち調査地のもっとも東側の10Tの地表下およそ70cmから土師器1点が出土し、11Tからはピットを1基検出した。出土した土師器は非ロクロの甕で、口縁部から体部までが残存している。体部はほぼ垂直に立ち上がり、頸部のくびれはほとんど見られない。外面には縦位のハケメ調整が見られる。器形や調整から8世紀代のものと考えられる。また、内外面に炭化物やススがあまり付着していないことから、甕の可能性もある。

まとめ 本遺跡は試掘により新たに発見された新遺跡である。小字名により三角耕地遺跡とした。今回の調査により、自然堤防周辺には未発見の遺跡があることが再確認された。取り扱いについては、工事掘削深度が遺跡に影響を及ぼさないため、工事立会とした。なお、遺物の時代・器種等については、(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団の春日真実氏にご教示いただいた。(今井さやか)

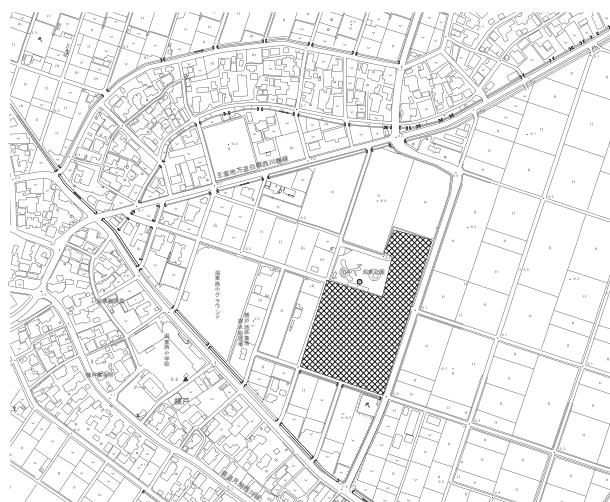


図1 調査位置図 (1/10,000)

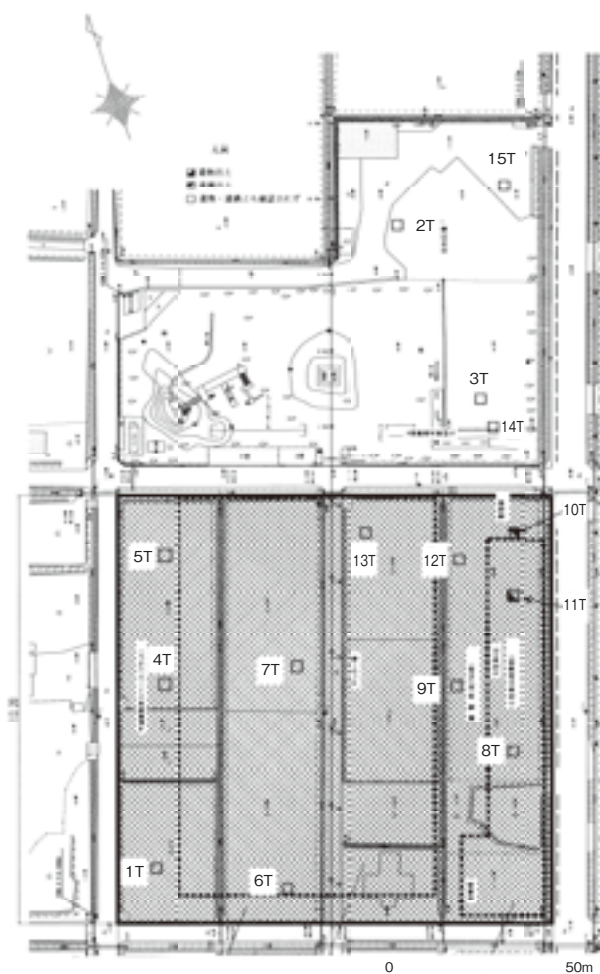


図2 試掘調査トレンチ位置図 (1/2,000)



10T土層断面

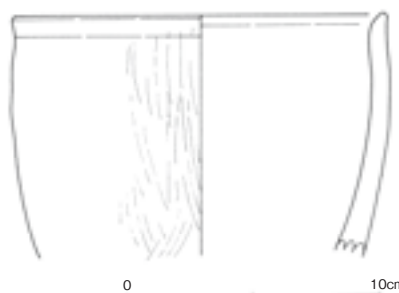


図3 遺物実測図 (1/3)

(6) 近世新潟町跡試掘・確認調査

(a) 近世新潟町跡の概要

新潟町は日本海有数の湊町であった。17世紀半ばに現在の信濃川左岸の河口付近へ移転し、その後拡大しながら現在に至るが、その移転当初の町を「近世新潟町跡」としている。絵図や地子帳等の史料から江戸時代の町割りが現在の区画に残っていると考えられており、北は烏帽子町、東は上大川前通、南は白山公園、西は寺町裏通を端とした南北約2.2km、東西約1.1kmを範囲とする。

(b) 周知化と取扱い

現在、近世新潟町跡の周知化は、試掘調査によって江戸時代の土層が確認された地点について行っている。周知化について検討されたのは平成16年度に遡るが、新潟市は同年7月に新潟県教育委員会によって実施された国道7号線万代橋下流事業に伴う試掘調査の結果を受け、周知化についての検討を重ねた。近世遺跡は「地域において必要なものを対象とすることができる」（「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について（通知）」庁保記第75号 平成10年9月29日 各都道府県教委教育長あて文化庁次長通知）とされており、典型的な港湾都市として高い評価を受けている新潟町は、まさにその重要性が認識されるものであったが、都市化が進む軟弱地盤地帯での遺跡の遺存状況が不明であること、市街地での大小多くの開発に対して保護体制が十分でないこと等から、準周知化ともいえる現在の方式をとることにした。平成17年度に初めて工事範囲を対象とした周知化が行われ、翌年文化財保護法に基づき新潟県教育委員会によって本発掘調査が実施された。しかし、範囲がわかっている一つの遺跡の中に周知する地点と周知しない地点があることが文化財保護のあり方に矛盾を生み出してしまう恐れがあることから、市では数年を目途に全域周知化への移行を目指すこととし、遺跡内の開発については積極的に試掘調査をして周知化を広げていくことになった。現在周知化された地点は11か所である（図1）。

(c) これまでの調査

これまで近世新潟町跡で実施された調査は、本発掘調査1件、試掘確認調査14件、工事立会6件である（表1）。インフラ整備や個人住宅建設のような小規模な工事が多く試掘調査を実施する機会も少ないが、周知化された地点で本発掘調査に及んだものはほとんどない。『発掘調査要否の判断基準』（平成11年9月10日 新潟県教育委員会教育長）により本発掘調査案件とされるものもあったが、軟弱地盤地帯の深くに存在する重層的な近世新潟町跡の調査は技術上の困難が伴い、さらに周辺に環境的影響を及ぼす恐れもあることから工事立会となったものもある。現在も地盤沈下が進行している状況の中

で、調査環境は悪くなる一方である。いつまでも確実な記録が残せないことへの対策を考える必要がある。

(d) 平成24年度の調査

平成24年度に実施された試掘確認調査は、公共事業に伴うものが3件、民間事業に伴うものが1件である。このうち、江戸時代の層が確認されたのは3件であり、遺構・遺物が確認されている。なお、平成23年度は調査を実施していない。

(e) 西堀通9番町1554番地他地点確認調査（2012142） （図3・4・5）

所在地 新潟市中央区古町通9番町、古町通－西堀通間

調査目的 配水管幹線布設工事の工事立会において多量の遺構・遺物がみられた（Ⅲ4(9)）が、層位的な確認ができず時期ごとの様相が全く掴めないことから、遺構・遺物の時期を確認するために調査を実施した。

調査期間 平成24年7月2日～4日

調査面積 15.4㎡（1T：7.2㎡、2T：8.2㎡）

調査担当 渡邊ますみ

調査概要 調査地は幹線道路脇の宅地跡で、調査坑を2か所設定した。技術的・時間的な制約から、近世の層全部を確認することはできなかった。どちらも上部1m前後は近代以降の層で、その下に江戸時代の盛土や整地層がみられるが、双方で異なる様相をみせる。1Tでは建物跡、2Tでは地境溝が検出されており、空間機能によるものと思われる。

1Tの建物跡は、東西方向に走る北側の側柱列と思われるもので、4基の柱基礎が検出された。自然石の上に方形切石・厚い板材を載せたものである。板材の損傷が激しいため柱のあたる部分の確認はできていないが、柱基礎部分の1セットであろう。大きな自然石の下に少量ではあるが小砂利が詰まったものもあった。当初、東壁の土層観察により掘立柱建物の柱穴に据えられた柱の基礎と考えたが、土台の石が突き込まれて地面に食い込んだ礎石建物の可能性もある。いずれも重量物を支えられる基礎であることから土蔵のような建物が想定され、年代は18世紀前半と思われる。

2Tで検出された溝状遺構（SD5）は、明和8（1771）年の絵図にみえる東西に走る境界線に対応する可能性がある。溝の両側に横渡した板を杭で支える構造で、それらの部材にはホゾ穴があったり装飾的な加工がみられたりすることから、再利用品を使用していることが窺える。溝は2回以上の改修が行われ、少なくとも18世紀前半～後半にかけて継続的に使用されていたと思われる。

遺物は、陶磁器・土器と土製・金属製・木製の日用品

が出土している。陶磁器は17世紀後半～18世紀前半のものが一番多く、18世紀後半～19世紀前半の遺物は少ない。近現代の破壊が及んでいるせいであろうか。陶磁器の内容は商業都市の裕福な階層を想像させるものであるが、Ⅲ 4(9)で記す。なお、本地点の調査しきれなかった地下部分については、工事立会時に確認を行っている。

(f) 本町通14番町3050-4 他地点試掘調査 (2012201)
(図2)

所在地 新潟市中央区本町通14番町3050他

調査の原因 店舗建設 (民間事業)

調査期間 平成24年10月26日

調査面積 約6㎡

調査担当 渡邊ますみ

処置 慎重工事

調査概要 調査地は建物が現存する銀行跡地で、駐車場の限定された場所に試掘坑1か所を設定した。アスファルト舗装下約0.5mまでは現代の盛砂、約1.5mまでは近代の堆積土である。他の地点でもみられるように焼土が多量に含まれていた。地表下1.4～2.0m (IV層) であろう江戸時代の層 (18世紀半ば～後半) が確認されたが、小澤邸 (上大川前通12番町) でも地表下2m以上の掘削で18世紀前半 (下限1730年代) の層が確認されることから、新潟町北側のこの辺りは南側より地盤沈下がやや大きいのかもしれない。検出された遺構は、板組のものである。幅30cm前後の板材が横組され、角材で支えたものである。横板は3段を確認したが全体規模は不明である。幕末～近代の層を切っていることから近代以降の遺構であると思われるが、深さ2m以上に及んでおり、大きな構築物である可能性がある。

(g) 西堀通6番町891番2 他地点試掘調査 (2012202)
(図2)

所在地 新潟市中央区西堀通6番町891番地2892番地1

調査の原因 立体駐輪場建設 (公共事業)

調査期間 平成24年11月1日

調査面積 約12㎡ (1T: 3㎡、2T: 9㎡)

調査担当 渡邊ますみ

処置 協議中

調査概要 調査地は、銀行跡地である。対象面積が狭小であるため、事前に入手した「基礎伏図」を参考に調査による掘削を最小限にすることに注意しながら試掘坑を設定した。1Tは図面通り銀行基礎跡やその撤去時の攪乱が確認された。2Tは上部0.5mほどが攪乱を受けているものの、その下には江戸時代の土層が良好な状態で遺存している。遺構は壁面の土層観察で確認されたの

みであるが、土坑やピット等の落ち込みがみられる。また、掘削深度を下げている段階で複数のしまった平らな面がいくつも現れ、断面では細かい縞状のものが認められた。縞の線のほとんどが途中で切れており、整地作業の跡と捉えられる。時期は、出土遺物から18世紀前半と思われる。その直下には遺物が多く含まれる層があり、陶磁器の他、漆器椀や下駄等の木製品が出土している。17世紀後半～18世紀前半 (第1四半期) に捉えられ、ここでは最下層の包含層となる。この下には遺構を伴う暗灰色粘質シルト層が存在し、移転時に近い時期の層と考えられる。近世の新潟町は移転に際して地業を行うが、その地業層の可能性もある。

(h) まとめ

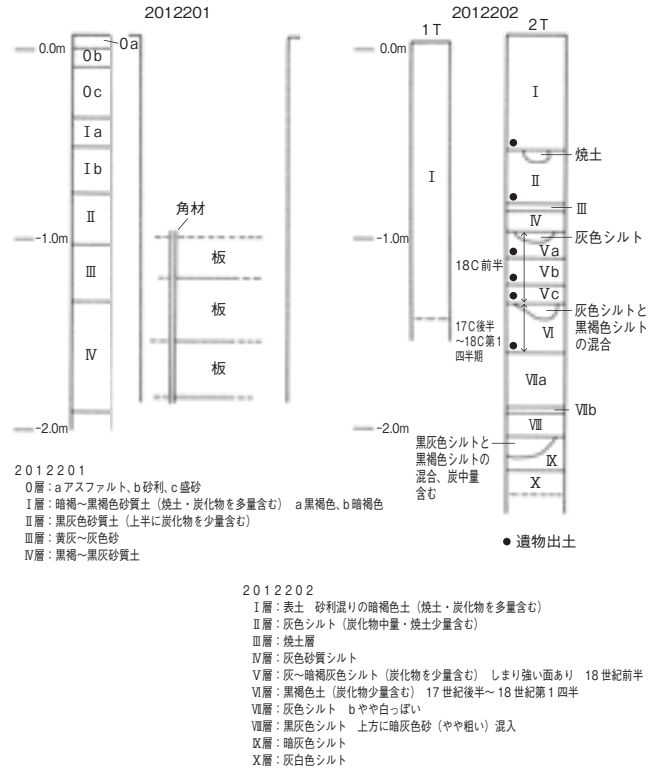
当該年度の調査では、各調査地で時期的な混乱がない層序が確認され、これまでの調査成果と合わせて、遺跡の遺存状況が明らかになってきた。地表下1m前後までは近現代の土層で、18世紀後半以降の土層が攪乱をうけていることが多いが、それ以下は良好な状態で遺存している。場所によって地盤の強度や地下水位、空間機能等が異なるため、層序は一様ではないものの、概ね深さ2m前後で移転当初・直後の遺物包含層が確認される。この最下層の包含層の下に町建てのための地業層が検出される可能性があり、大規模 (広域) に行われたとすれば近世新潟町の始まりを示す鍵層になるであろう。また、建物や溝といった性格が明確な遺構も検出され、史料に窺う様相が具体化された。調査番号2012142の2Tで検出された溝は明和8年の絵図でみられる屋敷境を兼ねた排水溝と思われ、「村山屋嘉右衛門 (通し)」と「紺屋庄右衛門 (通し)」の間を東西に走る境界線に対応する可能性がある。上大川前通にある小澤邸内でも、絵図から推測される位置に同じような構造のものが確認されおり、18世紀前半までは廻れる屋敷境と考えられている。両調査ともその下の調査を行っておらず、これらの区画 (溝) がいつ設定されたか気になるところである。出土遺物についても、良好な遺存状況が表れている。大橋康二氏 (後出) に多くのご教示をいただいた (Ⅲ 4(9)) が、試掘確認調査で出土した遺物は、過去のものを含め、年代が順当な層序であることを示しており、細かい年代比定ができる可能性がある (図6)。その要因としては、地盤沈下等でかさ上げの回数が多いということも考えられ、新潟町での遺物の推移が捉えられるかもしれない。

近世新潟町跡の良好な遺存状況は深いゆえのものと思われるが、重要な遺跡がこれだけ残っているということも貴重である。開発への有効な対応が急がれる。

(渡邊ますみ)



図1 近世新潟町跡調査位置図 (1/25,000)



2012201
 0層: a アスファルト, b 砂利, c 盛砂
 I層: 暗褐色~黒褐色砂質土 (焼土・炭化物を多量含む) a 黒褐色, b 暗褐色
 II層: 黒灰色砂質土 (上半に炭化物を少量含む)
 III層: 黄灰~灰色砂
 IV層: 黒褐色~黒灰砂質土

2012202
 I層: 表土 砂利混りの暗褐色土 (焼土・炭化物を多量含む)
 II層: 灰色シルト (炭化物中量・焼土少量含む)
 III層: 焼土層
 IV層: 灰色砂質シルト
 V層: 灰~暗褐色シルト (炭化物を少量含む) しまり強い面あり 18世紀前半
 VI層: 黒褐色土 (炭化物少量含む) 17世紀後半~18世紀第1四半
 VII層: 灰色シルト b やや白っぽい
 VIII層: 黒灰色シルト 上方に暗灰色砂 (やや粗い) 混入
 IX層: 暗灰色シルト
 X層: 灰白色シルト

表1 近世新潟町跡調査履歴 (調査番号順)

| No. | 調査番号 | 調査地点 | 調査種別 | 着手日 | 終了日 | 実質日数 (日) | 調査面積 (㎡) | 調査担当者 | 調査員 | 検出遺構 | 出土遺物 | 調査主体 | 調査原因 |
|--------|---------|--------------------|--------------|------------|------------|----------|----------|-------|---------------|---|---|------|--------------------|
| 575-1 | 2004146 | 広小路掘地点 | 試掘調査 | 2004/7/16 | 2004/7/23 | 6 | 77.0 | 滝沢規明 | 片岡知志 | 杭・杭列 | 陶磁器類698点、瓦16点、漆器10点、下駄7点、タモ2点、木簡1点 | 県教委 | 一般国道7号万代橋下流橋事業 |
| 575-2 | 2005320 | 一番堀通地点 | 工事立会 | 2006/1/25 | - | 1 | 2,517.0 | 尾崎高宏 | - | なし | 陶磁器2箱 | 県教委 | 県政記念館修復工事 |
| 575-1 | 2006015 | 広小路掘地点 | 本調査 | 2006/6/1 | 2006/10/31 | 150 | 755.0 | 佐藤友子 | 高田賢治 | 柱根3・礎石30・礎板2・杭16・土坑36・溝34・ビット122・性格不明遺構12・焼土1 | 肥前系陶磁器、瀬戸・美濃、須佐唐津、堺、京・信楽、中国製磁器 (青花、色絵、粉彩)、土師器、土人形、泥面子、水注、硯、木、橋状木製品、鏡、銭貨、煙管、小柄 100箱7 | 県教委 | 一般国道7号万代橋下流橋事業 |
| 575-3 | 2006147 | 西堀通6番町 (旧長善寺墓地) 地点 | 試掘調査 | 2006/7/24 | 2006/8/1 | 6 | 251.0 | 相田泰臣 | - | 土坑・骨蔵器埋納遺構 | 近世陶磁器・木製品・石製品・銭貨 20箱 | 市教委 | (仮称)FKDビル新築工事 |
| 575-5 | 2006198 | 上大川前通4番町37-2他地点 | 試掘調査 | 2007/2/20 | - | 1 | 48.0 | 今井さやか | - | なし | 近世陶磁器52点 石製品6点 | 市教委 | (仮称)ペロウ上大川前通4新築工事 |
| 575-4 | 2006216 | 古町通10番町172-1他地点 | 試掘調査 | 2007/1/24 | 2007/1/25 | 2 | 15.0 | 相田泰臣 | - | 土坑、溝、杭 | 近世陶磁器、銭貨、木製品 | 市教委 | (仮称)ペロウ古町10新築工事 |
| 575-6 | 2007244 | 西堀前通5番町751他地点 | 試掘調査 | 2007/11/1 | 2007/11/2 | 2 | 9.0 | 相田泰臣 | - | 溝 | 陶磁器類・貝類 1箱 | 市教委 | 古町通5番町地区優良建築物等整備事業 |
| 575-7 | 2008142 | 上大川前通12番町2733番地他地点 | 確認調査 工事立会 | 2008/11/10 | 2009/3/13 | 125 | 277.0 | 龍田優子 | - | 道具蔵・主屋の建物基礎 | 近世陶磁器1471点、砥石3点、硯1点、銭貨1点 | 市教委 | 旧小澤家住宅整備事業 |
| 575-7 | 2008247 | 上大川前通12番町2733番地他地点 | 試掘調査 | 2008/11/11 | 2008/11/13 | 3 | 6.0 | 渡邊ますみ | 龍田優子 | 屋敷堺の溝 | 近世陶磁器5箱、木製品3箱、石 (石組部材含む) 5箱 | 市教委 | 旧小澤家住宅整備事業 |
| 575-8 | 2008259 | 西堀通1番町766-1番地他地点 | 試掘調査 | 2009/1/20 | - | 1 | 12.0 | 今井さやか | - | なし | 近世陶磁器18点 | 市教委 | 土地売買 |
| 575-9 | 2009241 | 西堀前通9番町1544番地他地点 | 試掘調査 | 2009/8/24 | 2009/8/28 | 4 | 72.0 | 田海義正 | 石川智紀 | 近世以降の溝・井戸・土坑他 | 近世陶磁器12点 | 県教委 | 一般国道7号万代橋下流橋事業 |
| 575-7 | 2009242 | 上大川前通12番町2733番地他地点 | 試掘調査 | 2010/2/10 | 2010/2/20 | 7 | 140.0 | 立木宏明 | - | 新座敷基礎9基 | 近世陶磁器12点 | 県教委 | 旧小澤家住宅整備事業 |
| 575-7 | 2010177 | 上大川前通12番町2733番地他地点 | 工事立会 | 2010/7/1 | 2010/10/6 | 7 | 3.0 | 今井さやか | - | なし | 近世陶磁器8点 | 市教委 | 旧小澤家住宅整備事業 |
| 575-9 | 2012119 | 西堀前通9番町1544番地他地点 | 工事立会 | 2012/5/30 | 2012/3/31 | 330 | 190.0 | 諫山えりか | 廣野耕造 渡邊ますみ | なし | 陶磁器18箱 木製品2箱 | 市教委 | 配水管敷設工事 |
| 575-9 | 2012142 | 東堀通9番町他地点 | 確認調査 | 2012/7/2 | 2012/7/4 | 3 | 15.4 | 渡邊ますみ | - | 屋敷境の溝・建物の基礎 | 近世以降陶磁器 2箱 | 市教委 | 水道工事 |
| 575-6 | 2012191 | 西堀前通5番町751番地他地点 | 工事立会 | 2012/10/11 | 2012/10/19 | 6 | 3,006.1 | 廣野耕造 | - | なし | 近世陶磁器他 3箱 | 県教委 | 古町通5番町地区優良建築物等整備事業 |
| 575-10 | 2012201 | 本町通14番町3040-5番地他地点 | 試掘調査 | 2012/10/26 | - | 1 | 6.0 | 渡邊ますみ | - | 板組 | 近世以降陶磁器 2箱 | 市教委 | 店舗建設 |
| 575-11 | 2012202 | 西堀通6番町891-2番地他地点 | 試掘調査 | 2012/11/1 | - | 1 | 12.0 | 渡邊ますみ | - | 土坑・ビット・整地跡 | 陶磁器・木製品 1箱 | 市教委 | 駐輪場整備工事 |
| 575-9 | 2012254 | 西堀前通9番町1544番地他地点 | 確認調査 工事立会 | 2012/11/19 | 2013/1/23 | 17 | 41.0 | 渡邊裕之 | 朝岡政康 | 土坑・桶状遺構他 | 近世陶磁器・木製品・焼骨他 3箱 | 県教委 | 一般国道7号万代橋下流橋事業 |

※No.は近世新潟町跡の調査地点番号

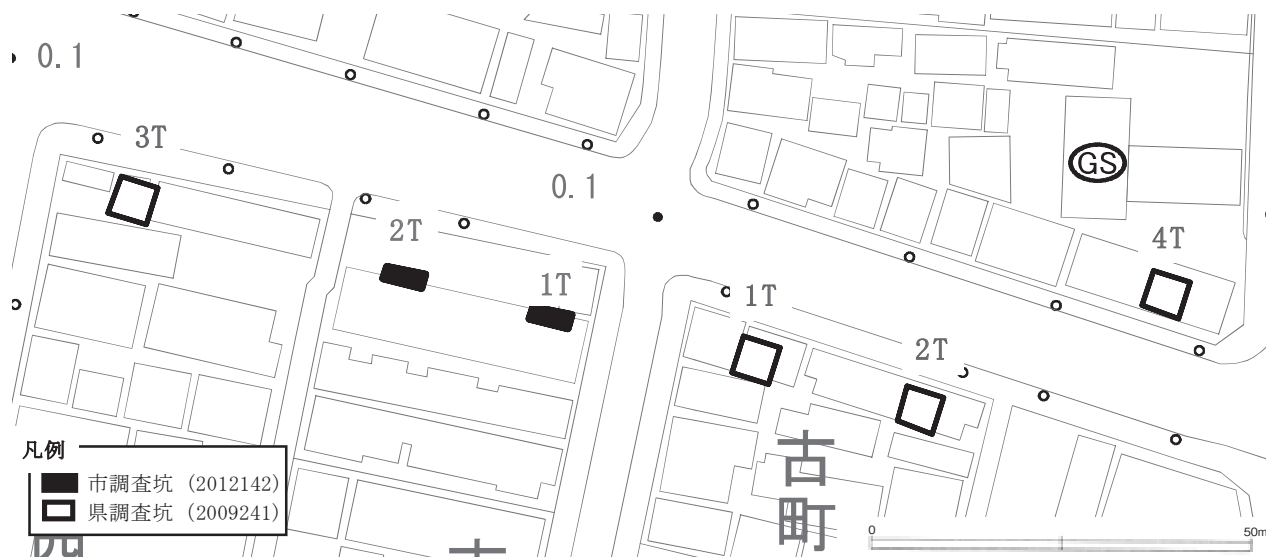


図3 確認調査 (2012142・2009241) 位置図 (1/1,000)

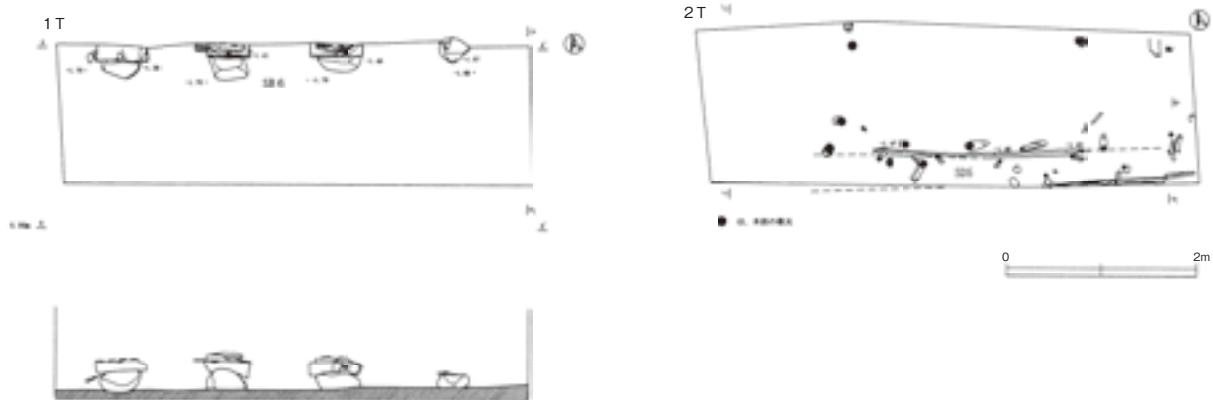


図4 確認調査 (2012142) トレンチ平面図・断面図 (1/80)

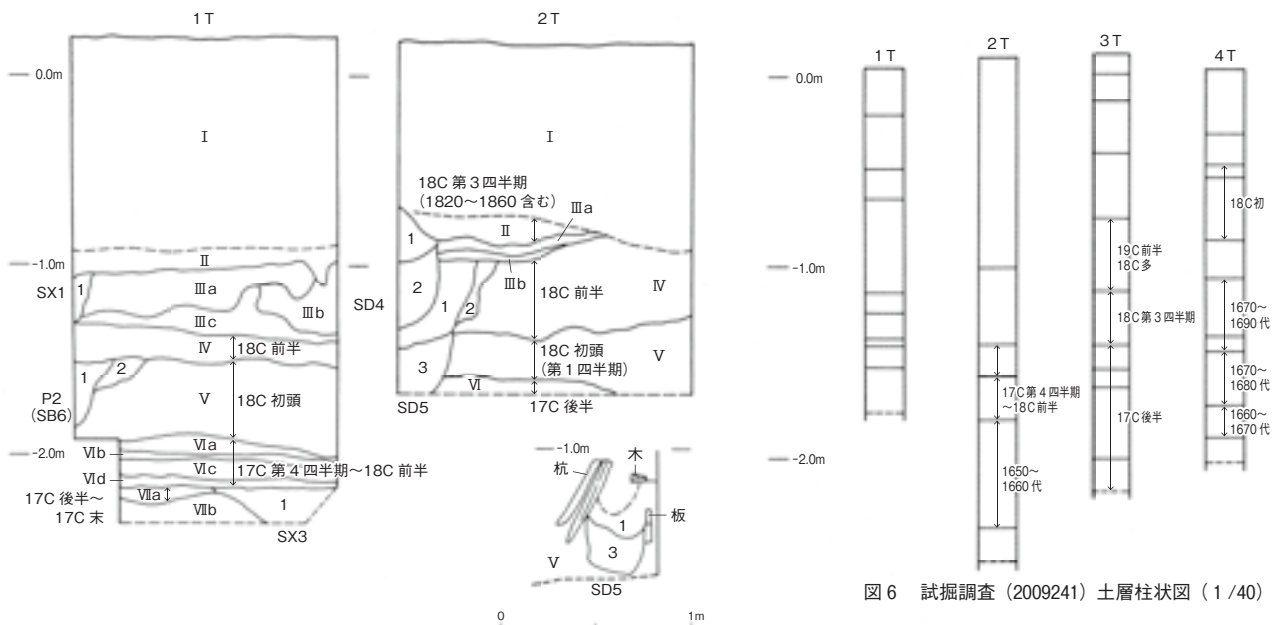


図6 試掘調査 (2009241) 土層柱状図 (1/40)

2012142

1T

- I層: 幕末以降か
- II層: 黒灰色粘質シルト 粘性あり・しまり強い
- III層: 褐灰色粘質土 粘性あり・しまりあり a 灰色系、b 褐色系、c ぐすんでいる
- IV層: 黒灰色粘質シルト 粘性あり・しまり強い
- V層: 黄褐色砂 粘性なし・しまり強い
- VI層: 暗青灰~黒灰色粘土 粘性強い・しまり強い (硬い) a 暗青灰色、b 黒灰色、c 暗青灰色、d 黒灰色混じりの暗青灰色
- VI層: 暗青灰色粘質シルト a 暗青灰色砂混じり、b 黒灰色粘土混じり
- SX1 1層: 暗青灰色粘質シルト 炭化粒少量含む
- P2 (SB6) 1層: 暗青灰色粘質シルト 炭化粒少量含む
- 2層: 黄褐色砂混じりの暗青灰色粘質シルト 炭化粒少量含む
- SX3 1層: 暗青灰色粘質シルト 炭化粒少量含む

2T

- I層: 明治以降か
- II層: 暗青灰色粘質シルト 粘性あり・しまりあり
- III層: 暗青灰色粘質シルト 粘性あり・しまりあり a ややくすんでいる
- IV層: 暗青灰色粘質シルト 粘性あり・しまり強い
- V層: 暗青灰色粘質シルト 粘性あり・しまり強い
- VI層: 黒褐色粘土 粘性あり・しまり強い
- VI層: 黒褐色粘土 粘性あり・しまり強い
- SD4 1層: 黒灰色粘質シルト 炭化粒少量含む
- 2層: やや明るい 黒灰色粘質シルト 炭化粒少量含む
- SD5 1層: 暗青灰色粘質シルト 炭化粒少量含む
- 2層: 暗青灰色粘質シルト混じりの暗青灰色シルト 炭化粒少量含む
- 3層: 黒灰色粘質シルト 炭化粒少量含む

図5 確認調査 (2012142) 土層断面図 (1/40)



確認調査風景 (2012142)



1 T 遺構検出状況 (2012142)



1 T 東壁土層断面 (2012142)



2 T 遺構検出状況 (2012142)



2 T 西壁土層断面 (2012142)



試掘調査地近景 (2012201)



2 T 遺構検出状況 (2012201)



試掘調査地近景 (2012202)



2 T 南壁土層断面 (2012202)

Ⅲ 文化財センターの事業

1 発掘調査の概要

(1) 平成17年度～24年度の本発掘調査について

平成17年度の広域合併で新潟市域が拡大したことに伴い、本発掘調査の件数や面積がそれ以前に比べ飛躍的に増加した(表1・表2)。

本発掘調査件数は4件から10件の間を推移している。平成17年度から19年度にかけては民間事業に伴う本発掘調査が一定量行われていたが、これは宅地開発や大規模店舗建設を原因とするものである。平成18年度の大手スーパー出店に伴う駒首湯遺跡の本発掘調査では、単年度で11,493.6㎡の調査を行っている。その後は、郊外型大規模店舗出店が抑制されたこともあり、民間事業が原因の本発掘調査は減少傾向にある。平成23年度に宅地開発に伴う結七島遺跡発掘調査を行っているが、本発掘調査面積は構内道路部分330㎡である。

公共事業が原因の本発掘調査は道路新設・改良工事のほか、県営圃場整備事業に伴うものが毎年相当規模を占めている。秋葉区の満日地区圃場整備事業及び両新地区圃場整備事業区域では、沖積地に立地する遺跡が浅い位置で検出されている。遺跡深度と工事計画高について細かな事前協議を行っているが、遺物包含層までの十分な保護層が確保できず、本発掘調査必要面積が広がっている。

なお、工事の計画に併せて本発掘調査を実施することが求められるため、現地作業が優先される。その結果、記録保存の成果である発掘調査報告書を作成・刊行するための時間・人員の確保が難しくなり、事業によっては大幅な遅滞をきたしている。土木工事等によって失われた遺跡の記録保存として報告書を早期に刊行し、調査の成果を国民に還元する必要があることから、今後は整理作業・報告書刊行段階までを踏まえた調査計画が必要であろう。民間調査組織を適切に活用する等、効率的な発掘調査・整理作業を進めていく必要があると考えられる。

(2) 平成23年度の本発掘調査

表3に示した通り、5遺跡で本発掘調査を行った。原因者別には民間事業(宅地造成)関連1件、公共事業関連が4件であり、公共事業関連のうち、県営圃場整備関連2地区3件、国道建設関連1件となっている。全て秋葉区内の調査である。総面積は6,511.2㎡と前年度に比べ大幅な減となっているが、これは圃場整備関連の調査が事



発掘調査現地説明会(大沢谷内遺跡 平成24年度)

業者の都合で一時的に縮減されたためである。そのほかでは、平成17年度以来継続している国道403号線建設関連の大沢谷内遺跡発掘調査を引き続き実施した。いずれの調査も、事業費としては現地作業と並行して過年度に実施の本発掘調査の整理作業を行った。また、整理作業単独の事業も3遺跡4件あり、発掘調査報告書を3冊刊行した。

(3) 平成24年度の本発掘調査

表4に示した通り、8遺跡で本発掘調査を行った。原因者別には民間事業関連がなくなり、公共事業関連として県営圃場整備関連3地区5件、国道建設関連1件、市道建設関連1件、公共運動施設建設関連1件となっている。区別では秋葉区が最多の5件、西蒲区2件、江南区1件である。総発掘調査面積は12,357.8㎡と前年度に比べ2倍弱の増となっているが、おおむね例年通りの規模といえる。国道403号線建設工事に伴う大沢谷内遺跡は本線部分の発掘調査がほぼ終了し、翌25年度に付帯の取り付け道路部分の調査が終了すると現地調査はいったん終了となる予定である。平成23年度と同じく、事業費は現地作業と整理作業を含めた金額となっている。整理作業単独の事業も2遺跡2件あり、発掘調査報告書を1冊刊行した。(廣野耕造)

(4) 公開活動一発掘調査現地説明会一

新潟市では、発掘調査や文化財保護について市民の理解を深めるため、発掘調査現場を一般市民への公開を行う発掘調査現地説明会を開催している。住宅街など現地説明会の開催が難しい場合を除き、原則説明会を開催するようにしている。なお、平成23年度圃場整備事業に伴う発掘調査の現地説明会は駐車場を確保することが難しいことから行わなかった。(今井さやか)

表1 本発掘調査件数の推移(平成17年度～24年度)

| 事業 | (単位:件) | | | | | | | |
|------|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 |
| 民間 | 2 | 5 | 3 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 公共 | 5 | 4 | 7 | 9 | 5 | 4 | 4 | 8 |
| 圃場整備 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 3 | 5 |
| 合計 | 7 | 9 | 10 | 10 | 5 | 4 | 4 | 8 |

表2 本発掘調査面積の推移(平成17年度～24年度)

| 事業 | (単位:㎡) | | | | | | | |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|
| | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 |
| 民間 | 2,554.3 | 14,191.9 | 1,37.3 | 280 | 0 | 0 | 3,300 | 0 |
| 公共 | 9,800.7 | 9,310.6 | 21,638.6 | 21,416.7 | 21,524.5 | 11,887.4 | 6,181.2 | 12,358.4 |
| 圃場整備 | 7,174.7 | 4,201.9 | 13,644.7 | 6,233.5 | 2,745.5 | 4,464.2 | 851.2 | 6,052.9 |
| 合計 | 12,355.0 | 23,502.5 | 21,775.8 | 21,444.7 | 21,524.5 | 11,887.4 | 6,511.2 | 12,358.4 |

表5 平成23年度・24年度現地説明会参加者数

| 平成23年度 | | | 平成24年度 | | |
|---------------|---------|---------|----------------|---------|---------|
| 年月日 | 遺跡名 | 参加者数(人) | 年月日 | 遺跡名 | 参加者数(人) |
| 2011/5/28(土) | 結七島遺跡 | 50 | 2012/9/1(土) | 大沢谷内遺跡 | 140 |
| 2011/10/8(土) | 大沢谷内遺跡 | 94 | 2012/10/6(土) | 中谷内遺跡 | 60 |
| 2011/10/16(日) | 古津八幡山古墳 | 350 | 2012/10/8(月・祝) | 古津八幡山古墳 | 213 |
| | | | 2012/11/17(土) | 細池寺道上遺跡 | 60 |
| | | | 2012/11/24(土) | 日本遺跡 | 100 |

表3 平成23年度本発掘調査・整理作業一覧

| 調査番号 | 遺跡名 | 発掘調査面積(㎡) | 所在地 | 事業名 | 調査担当 | 調査員 | 発掘調査期間 | 遺跡の時代 | 主な遺構 | 主な出土遺物 | 事業費(円) |
|---|---------|-----------|----------------|-------------------|-------|------------------------------|---------------------------|-------------------|--------------------------|--|-------------|
| 2011001 | 結七島遺跡 | 3300 | 秋葉区福島 | 宅地造成 | 龍田慶子 | 速藤恭雄 澤野慶子 | 2011/4/21～ 2012/6/9 | 古墳・奈良・平安 | 溝・土坑・ピット・河跡 井戸・性格不明遺構 | 土師器・須恵器ほか | 10810000 |
| 2011002 | 中谷内遺跡 | 420.5 | 秋葉区大蔵 字無頭 | 県営圃場整備 | 速藤恭雄 | 澤野慶子 | 2011/9/30 | 古墳・平安・中世 | 土坑・溝・小土坑 性格不明遺構 | 土師器・須恵器ほか | 22,500,000 |
| 2011003 | 内野遺跡 | 206.7 | 秋葉区七日町 字新久免 | 発掘作業 整理作業 | 速藤恭雄 | - | 2011/10/24～ 2011/12/16 | 平安・中世 | 井戸・土坑・溝 性格不明遺構・小土坑 | 土師器・須恵器 珠洲焼・中世土師器 土師器・須恵器ほか | 16,500,000 |
| 2011005 | 細池寺道上遺跡 | 224.0 | 秋葉区飯柳 字細池 | 県営圃場整備 | 前山精明 | 澤野慶子 | 2011/7/25～ 2011/8/25 | 平安・中世 | ピット | 土師器・須恵器・珠洲焼 | 130,000,000 |
| 2011006 | 大沢谷内遺跡 | 5,330.0 | 秋葉区鎌倉新田 | 国道新設 | 潮田憲幸 | 八藤後智人 牧野耕作 (株)ノガミ 秋山泰利 | 2011/4/11～ 2011/12/14 | 縄文・弥生・古墳 平安・中世 | 井戸・土坑・溝 ピット・性格不明遺構 | 縄文土器・土師器 須恵器・中世土師器 珠洲焼・石器・石製品 木製品ほか | 4,529,490 |
| 2010001 | 林付遺跡 | | 西蒲区今井 | 沼東南小学校体 育館改築事業 | 相田泰臣 | - | | | | | 4,406,325 |
| 2010004 | 大沢谷内遺跡 | | 秋葉区鎌倉新田 | 市道拡幅 | 前山精明 | - | | | | | 4,570,188 |
| 2008009 | 四十五遺跡 | | 西区東山 字四十石 | 廃棄物処理施設 建設 | 渡邊ますみ | - | | | | | 52,000,000 |
| 2005004 2006002 2007006 2008005 2009001 | 大沢谷内遺跡 | | 秋葉区鎌倉新田 | 国道新設 | 立木宏明 | (株)シン技術コンサル 細野高伯・伊比博和 | | | | | |

表4 平成24年度発掘調査・整理作業一覧

| 調査番号 | 遺跡名 | 発掘調査面積(㎡) | 所在地 | 事業名 | 調査担当 | 調査員 | 発掘調査期間 | 遺跡の時代 | 主な遺構 | 主な出土遺物 | 事業費(円) |
|---------------|-----------|-----------|---------|-------------------|------|------------------------------|--------------------------|-------|--------------------------------------|-------------------------------------|------------|
| 2012001 | 大沢谷内遺跡 | 2,612.0 | 秋葉区鎌倉新田 | 国道新設 | 潮田憲幸 | 株ノガミ 秋山泰利 | 2012/4/11～ 2012/10/18 | 平安・中世 | 掘立柱建物・井戸・柱穴 溝状遺構・水田状遺構 性格不明遺構等 | 須恵器・土師器 石製品・木製品 金属製品等 | 65,000,000 |
| 2012002 | 峰岡城山遺跡 | 2,183.5 | 西蒲区峰岡 | 屋内運動場建設 | 立木宏明 | (株)シン技術コンサル 伊比博和 | 2012/5/21～ 2012/8/20 | 縄文・平安 | 土坑・性格不明遺構 ピット | 縄文土器・土師器 須恵器・珠洲焼 石器・鉄器・鏃等 | 47,000,000 |
| 2012003 | 内野遺跡 | 287.0 | 秋葉区七日町 | 発掘調査 整理作業 | 速藤恭雄 | - | 2012/7/10～ 2012/8/17 | 平安・中世 | 井戸・土坑・溝 性格不明遺構 ピット・田河川 | 須恵器・土師器・石製品 | 40,000,000 |
| 2012004 | 中谷内遺跡 | 487.5 | 秋葉区七日町 | 県営圃場整備 | 速藤恭雄 | (株)吉田建設 佐藤正史 | 2012/7/9～ 2012/11/6 | 平安 | 土坑・溝・ピット 掘立柱建物跡・河跡 | 土師器・須恵器・珠洲焼 土師器・須恵器・石製品 | 80,000,000 |
| 2005002 ほか | (沖ノ羽遺跡)ほか | 214.7 | 秋葉区東金沢 | 発掘調査 整理作業 | 前山精明 | 澤野慶子 | 2012/7/17～ 2012/8/2 | 平安 | 溝・性格不明遺構 | 土師器・砥石 | |
| 2012006 | 細池寺道上遺跡 | 4,715.7 | 秋葉区東金沢 | 県営圃場整備 | 前山精明 | 牧野耕作 牧野耕作 (株)吉田建設 細井佳浩 | 2012/7/23～ 2012/1/10 | 平安・中世 | 水田・井戸 テラス状遺構・木道? 土坑・ピット・畝間痕 | 土師器・須恵器 木製品(鏃・箭など) 中世陶器(珠洲焼等) | 45,500,000 |
| 2102007 | 日本遺跡 | 1,510.0 | 江南区茅野山 | 市道新設 | 立木宏明 | (株)シン技術コンサル 細野高伯 | 2012/8/21～ 2012/12/20 | 平安 | ピット・土坑・溝 性格不明遺構・畑跡 | 土師器・須恵器 珠洲焼・石製品 鉄製品・鍛冶関連遺物 | 7,300,000 |
| 2012008 | 下新田遺跡 | 348.0 | 西蒲区道上 | 県営圃場整備 | 潮田憲幸 | - | 2012/11/5～ 2012/12/14 | 奈良・平安 | 溝状遺構・土坑 性格不明遺構・畝状遺構 | 須恵器・土師器 | 362,250 |
| 2010001 | 林付遺跡 | | 西蒲区今井 | 沼東南小学校体 育館改築事業 | 相田泰臣 | - | | | | | |

2 本発掘調査・工事立会

平成23年度・24年度の本発掘調査・工事立会の概要を以下に記す。年度毎に調査番号順に掲載している。調査

位置・番号は図1・表6に示した。各項の末尾括弧内は調査番号である。各概要の図「調査地点の位置」は国土基本図（10,000分の1）を使用しており、地図の上位が北である。（廣野耕造・遠藤恭雄）

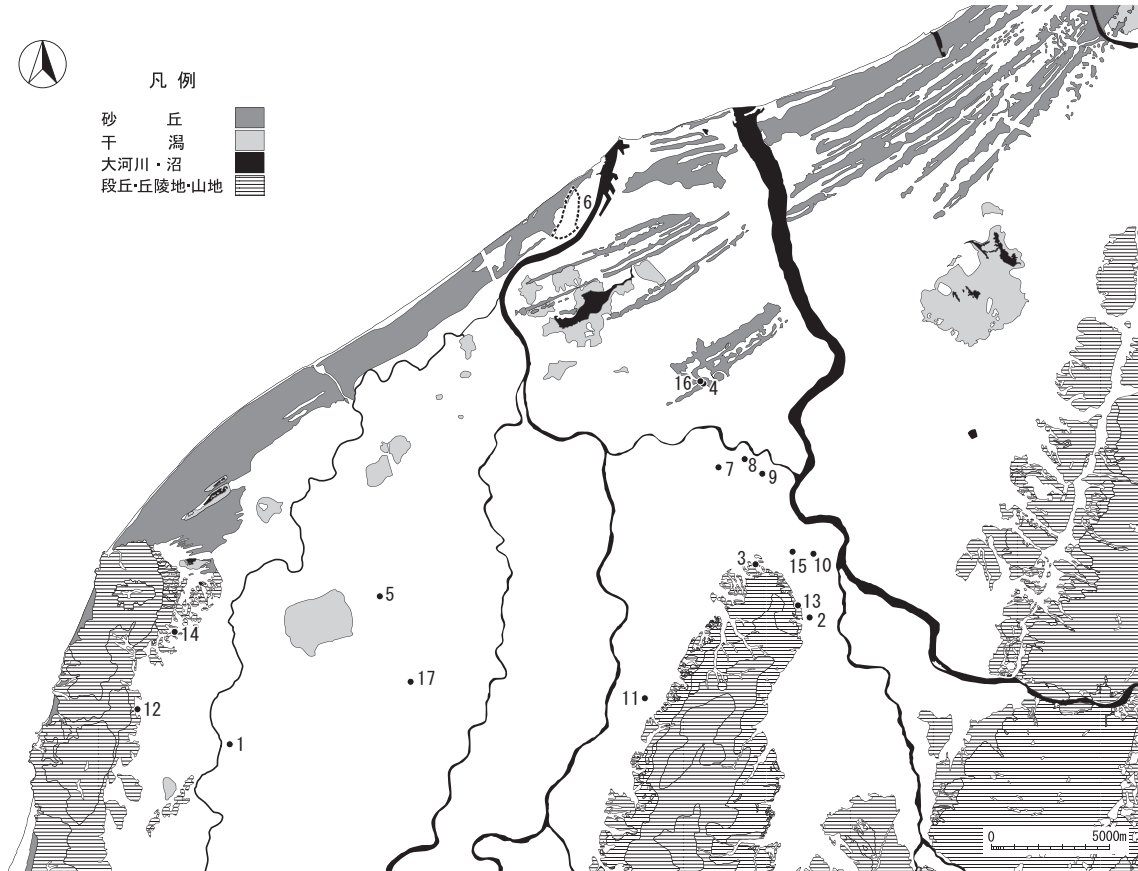


図1 平成23年度・24年度 発掘調査位置図

表6 平成23年度・24年度 発掘調査索引

平成23年度・24年度の事前審査に係る試掘確認調査

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 調査年次 | 調査番号 | 位置番号 | 頁 |
|------|---------|----------|-------------------------------|------|----|
| 467 | 和納館跡隣接地 | — | 2011137 | 1 | 7 |
| 722 | 諏訪畑遺跡 | 4 | 2011149 | 2 | 8 |
| 182 | 秋葉遺跡 | 9 10 | 2012110 2012115 | 3 | 11 |
| 391 | 日水南遺跡 | 5 | 2012159 | 4 | 17 |
| 755 | 三角耕地遺跡 | 1 | 2012234 | 5 | 19 |
| 575 | 近世新潟町跡 | 15・16・17 | 2012142 2012201 2012202 | 6 | 20 |

(図1) (Ⅱ2)

平成23年度の本発掘調査・工事立会

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 調査年次 | 調査番号 | 位置番号 | 頁 |
|------|------------|------|---------|------|----|
| 209 | 結七島遺跡 | 24 | 2011001 | 7 | 28 |
| 200 | 中谷内遺跡 | 15 | 2011002 | 8 | 29 |
| 201 | 内野遺跡 | 8 | 2011003 | 9 | 30 |
| 151 | 細池寺道上遺跡 | 32 | 2011005 | 10 | 31 |
| 342 | 大沢谷内遺跡 | 19 | 2011006 | 11 | 32 |
| 432 | 岩室神明社遺跡隣接地 | 工事立会 | 2010157 | 12 | 33 |
| 131 | 居平遺跡 | 工事立会 | 2011146 | 13 | 34 |

(図1) (Ⅲ3)

平成24年度の本発掘調査・工事立会

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 調査年次 | 調査番号 | 位置番号 | 頁 |
|------|---------|------|--------------------|------|----|
| 342 | 大沢谷内遺跡 | 20 | 2012001 | 11 | 35 |
| 749 | 峰岡城山遺跡 | 2 | 2012002 | 14 | 36 |
| 201 | 内野遺跡 | 9 | 2012003 | 9 | 37 |
| 200 | 中谷内遺跡 | 16 | 2012004 | 8 | 38 |
| 150 | 西江浦遺跡 | 3 | 2012005 | 15 | 39 |
| 151 | 細池寺道上遺跡 | 38 | 2012006 | 10 | 39 |
| 398 | 日水遺跡 | 6 | 2012007 | 16 | 40 |
| 573 | 下新田遺跡 | 6 | 2012008 | 17 | 42 |
| 575 | 近世新潟町跡 | 工事立会 | 2012119 2012191 | 6 | 43 |

(図1) (Ⅲ4)



発掘調査風景（峰岡城山遺跡 平成24年度）

3 平成23年度の本発掘調査・工事立会

(1) 結七島遺跡 第24次調査 (2011001)

所在地 新潟市秋葉区福島
 調査の原因 宅地造成事業 (民間事業)
 調査期間 平成23年4月21日～6月9日
 調査面積 330.0㎡
 調査担当 龍田優子
 調査員 遠藤恭雄・澤野慶子
 処置 記録保存

調査に至る経緯 遺跡範囲内で民間の宅地造成事業が計画され、事業予定地2,225㎡を対象に確認調査が実施された。調査の結果、平安時代の遺構・遺物が確認され、本発掘調査が必要であると報告された。その後、事業者から発掘調査が依頼され (平成23年3月29日付)、宅地造成予定地内で新たに道路が造成される範囲について本発掘調査を実施した。

位置と環境 結七島遺跡は、能代川左岸、小阿賀野川との合流地点から南西約1kmの自然堤防上の微高地に立地する。西側・南側に向かって低くなる地形で、標高は約4mを測る。平成11年度の試掘調査によって発見された古墳時代と平安時代を主体とした遺跡で、これまでにさまざまな調査原因に伴う発掘調査が行われている。

本発掘調査地点は南北に大きく広がる遺跡の東端部に位置する。現況はテニスコートと宅地で、埋め立てや地盤改良などにより全体的に攪乱を受けていた。

検出遺構 現地表面から約1.3mの深さで井戸1基・土坑6基・溝状遺構23条・川跡1条・ピット24基・性格不明遺構2基が検出された。検出面などから近世以降と思われる井戸以外は、出土遺物などから概ね古代に属すると考えられる。最も多く検出された溝状遺構を中心に行った自然科学分析の結果、イネ科のプラントオーバー、アブラナ科の花粉が検出され、調査地点もしくはその近辺で畑や水田の耕作が行われていた可能性が指摘できる。

なお、古代の遺構確認面が2面あるという確認調査結果により下層の調査を行ったが、遺跡は検出されず、古代の生活面は1面であると判断した。

出土遺物 出土遺物はコンテナケース24箱である。古代の土器が大半を占めるが、同時期の所産と思われる土製品・石製品・金属製品や、古墳時代まで遡ると推測される土器もわずかに存在する。古代の土器は、9世紀前半～9世紀後半の間に収まる年代のものと、8世紀前半のもの二時期に分かれる。主体を占める9世紀前半の遺物には、佐渡小泊・新津・阿賀北・高田平野西部丘陵



調査位置図 (1/10,000)



調査区全景



溝 (SD23・25) 完掘状況 (南から)

の滝寺など新潟県内各地の窯で生産された須恵器が認められる。特に、底部切り離しに糸切り技法を行い、有台杯は腰部に明瞭な稜を持つ点が特徴とされる滝寺窯産の須恵器は、これまでの結七島遺跡の調査では報告されていない。今回の調査でSD23出土の無台杯と包含層出土の有台杯の2点が初めて確認された。

まとめ 建物跡などの明確な生活痕跡は検出されなかった。しかし、これまでの調査成果や自然科学分析結果、また遺跡の立地などから、本調査地点は集落の縁辺部と考える。なお、報告書は、『結七島遺跡VI』として刊行されている。 (龍田優子)

(2) 中谷内遺跡 第15次調査 (2011002)

所在地 新潟市秋葉区大蔵80ほか
調査の原因 満日地区県営圃場整備事業（公共事業）
調査期間 平成23年7月14日～9月30日
調査面積 420.5㎡
調査担当 遠藤恭雄
調査員 澤野慶子
処置 記録保存

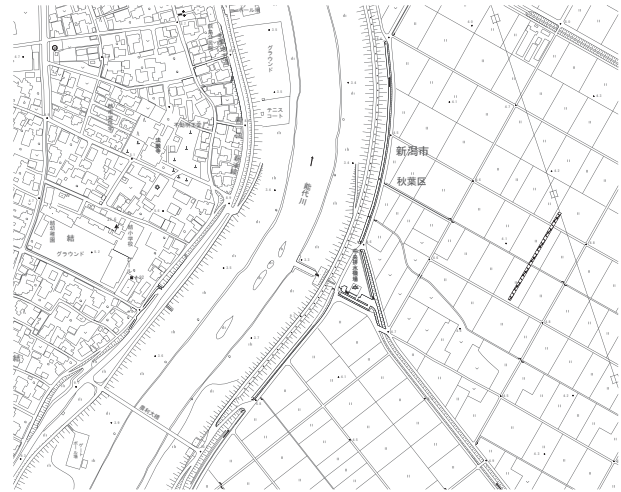
調査に至る経緯 満日地区県営圃場整備事業に伴い、平成23年5月10日付で新潟県新潟地域振興局より本発掘調査が依頼された。平成21年度（第12次調査）に続く本発掘調査である。調査対象地は、用排水路新設に伴う幅2.2m、長さ約135mに9か所の取水・排水ユニット取付け部を含む範囲である。遺跡南端部分にあたり、標高は3.65～3.8mを測る。

位置と環境 阿賀野川と能代川・小阿賀野川に囲まれた沖積地に立地する。平成8年に農道整備事業に伴う試掘調査で発見された平安時代を中心とした遺跡である。平成13年から圃場整備事業に伴う範囲確認調査が行われ、東西約700m・南北約850mの規模を有する。

検出遺構 遺構確認面の標高は調査区中央部で2.9mと最も高く、北東側、南西側に向かって緩やかに低くなる。微高地部分では、溝や土坑・畝状遺構などとともに柱根の残る柱穴が検出されており、居住域として利用されていたと推測される。調査区南西側の落ち込み部分では、北西から南東方向にのびる畔上の高まりが確認された。遺構の形状と土壌分析の結果から、水田跡と推測される。また、微高地部で検出された畝状遺構でもイネ科植物の花粉が検出されており、陸稲の栽培が想定される。遺構はいずれも出土土器などから平安時代に属すると考えられる。

出土遺物 土器類を中心にコンテナケース70箱を超える遺物が出土した。すべて平安時代（9世紀代）の須恵器・土師器である。特に溝が切り合う部分で須恵器の杯がまとまって出土している。本調査で出土した須恵器には、佐渡小泊産のものと、新津丘陵周辺や阿賀野川以北産と推定されるものがあるが、写真中央の溝（SD4）では新津丘陵・阿賀野川以北産のものが多く含まれ、これを切る2条の並行する溝（SD1・SD2）からは主に佐渡小泊産のものが出土している。SD4は9世紀前半頃、SD1・SD2は9世紀後半から末頃に位置付けられ、時期の異なる遺構が重複している。

まとめ 調査地の制約から遺跡の全体像は不明な点が多いが、本調査地から南東方向に自然堤防がのび、微高地上に平安時代の集落が形成されていたことが把握で



調査位置図（1/10,000）



調査区全景（南西から）



溝（SD1・2・4）遺物出土状況

きた。検出遺構と土壌の分析から微高地部に連続する低地は水田としての利用が想定される。居住域から生産域に至る区域が良好な状態で残されており、貴重な成果である。中谷内遺跡第12・15・16次調査と内野遺跡第8・9次を合わせた調査報告書を平成26年度に刊行する予定である。（遠藤恭雄）

(3) 内野遺跡 第8次調査 (2011003)

所在地 新潟市秋葉区七日町1310-2ほか
 調査の原因 満日地区県営圃場整備事業（公共事業）
 調査期間 平成23年10月24日～12月16日
 調査面積 206.7㎡
 調査担当 遠藤恭雄
 処置 記録保存

調査に至る経緯 満日地区県営圃場整備事業に伴う地区外連絡水路工事計画が新潟県新潟地域振興局より新潟市歴史文化課に知らされ、平成21年8月に範囲確認調査が行われた。この結果を受け、平成23年5月10日付で新潟地域振興局からの依頼を受け、遺跡北端部分幅2.7m、長さ約75mの区間を対象として本発掘調査を実施した。現況は農道で、標高は4.6～4.9mを測る。

位置と環境 能代川・小阿賀野川・阿賀野川に囲まれた沖積地に立地する。中谷内遺跡の南東側に隣接し、範囲は東西1.2km、南北900mに及ぶ古代から中世にかけての複合遺跡である。平成11年度・12年度には、市道新設工事に伴って遺跡東端部分の本発掘調査が行われ、室町時代（14世紀後半～15世紀前半）を主体とする集落域が調査され、井戸から鉄製鍋や犬の骨などが出土している。

検出遺構 調査地中央部の長さ約40m・幅1.6mの区間では、遺物包含層（Ⅱ層：黒褐色シルト 層厚10～20cm）が残存し、Ⅲ層（灰黄褐色シルト）上面で遺構が検出された。Ⅱ層からは少量ながら平安時代・中世の土器が出土しており、近世以降の遺物は含まれない。Ⅲ層上面の標高は調査区中央部南東よりの部分で4.3mを測り、北西に向かってほぼ平坦に推移し、中央部で溝・土坑・ピットが集中して検出された。遺構からは時期の明確な遺物は出土していないが、検出された遺構の覆土はⅡ層に類似するものが大多数を占めることから、主体時期は中世と推定され、居住区としての利用が想定される。

出土遺物 出土遺物は平安時代の土師器・須恵器、中世の珠洲焼などコンテナケース2箱である。

報告書は平成26年度に刊行の予定である。（遠藤恭雄）



調査位置図 (1/10,000)



調査区全景



遺構完掘状況 (南東から)

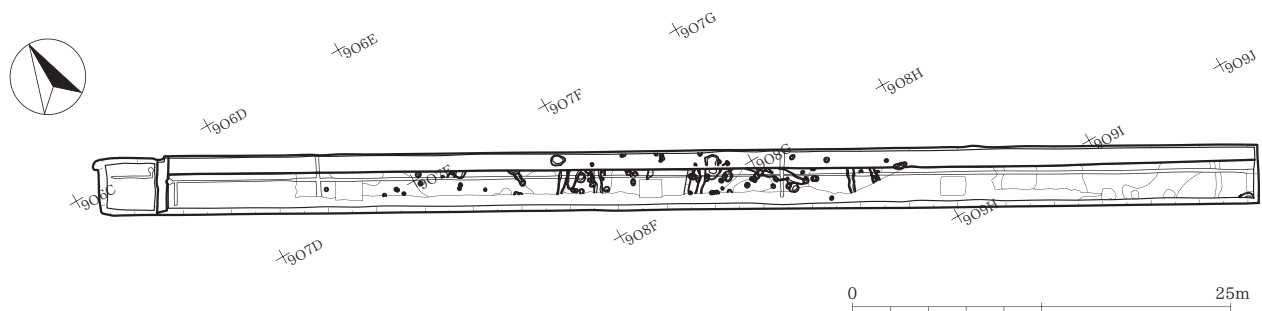


図2 遺構配置図 (1/500)

(4) 細池寺道上遺跡第32次調査 (2011005)

所在地 新潟市秋葉区飯柳1215-1 ほか
調査の原因 両新地区県営圃場整備事業 (公共事業)
調査期間 平成23年7月25日～8月25日
調査面積 224㎡
調査担当 前山精明
調査員 澤野慶子
処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県新潟地域振興局から平成23年4月22日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これを受けて幅2m・全長100mほどの管理設区域とこれに接したユニット設置場所を対象とした調査を実施した。

位置と環境 新津丘陵の北端下に流れる能代川と阿賀野川に挟まれた沖積地に立地する古代・中世の遺跡である。遺跡の広がりには東西1.2km・南北1.7kmにおよぶ。磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が本発掘調査を行った細池遺跡の西に隣接し、標高は8.3mを測る。

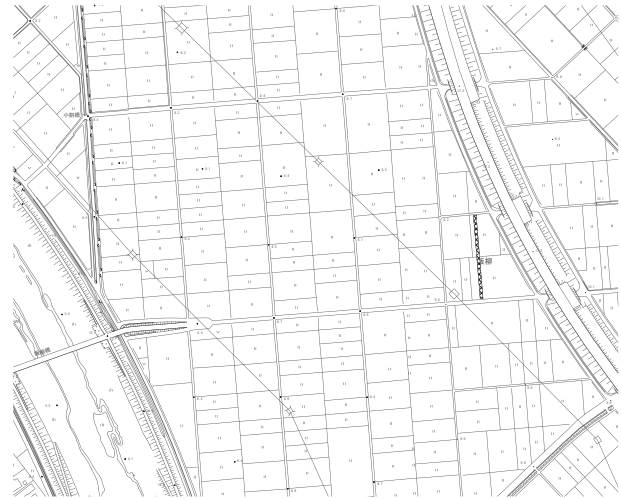
検出遺構と出土遺物 調査区域は南端部とそれ以外で遺跡の残存状況や堆積環境が大きく異なっていた。

南端部の堆積土は、水田耕土 (I層)・褐灰色粘土 (II層)・黒褐色粘土 (III層)・灰色粘土 (IV層) に大別でき、II層・III層に遺物が包含されていた。遺構は楕円形の小ピット2基がIV層上面で確認されたのみである。遺物もきわめて少なく、ピット覆土から土師器1点、包含層から須恵器1点と土師器2点が出土したにとどまる。

それ以外の調査区では南端部の堆積状況とは異なる。

遺跡形成以後の流路や水田が広範囲に分布し、削平などにより包含層も認められないほどの地形改変も顕著であった。壁面での観察によれば、調査区内は①幅20m～30m・深さ1.5mほどの流路の形成と埋積、②大規模な削平と部分的な盛土による下部水田面の造成、③大規模な土盛りによる現水田面、の順に変遷していることが確認された。流路は新・旧二つの河川が重複しており、古段階にあたる流路の埋積土の下部から17世紀代の唐津焼が出土した。上部の盛土層は、大正年間に行われた耕地整理時の客土とみられる。

まとめ 本遺跡の周辺では大正11 (1922) 年に作成された耕地整理以前の土地利用状況を知ることができる『新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現景図』があり、「堀田」と呼ばれる「掘込田」が畑作地帯の中に帯状に分布していたことがうかがえる。今回の調査で見いだされた下部水田面は「堀田」にあたるもので、近世の流路と概ね重複的な広がりを示していた。本遺跡ではこれまで実



調査位置図 (1/10,000)



流路の層序と削平状況 (東から)



下部水田の畦畔 (東から)

施してきた試掘・確認調査では「堀田」の分布域で遺構・遺物の存在が確認されたケースはほとんど見られず、本発掘調査の実施区域を判断するうえで、大正年間の土地利用形態との比較が有益な情報を提供してくれるものと考えられる。 (前山精明)

(5) 大沢谷内遺跡 第19次調査 (2011006)

所在地 新潟市秋葉区天ヶ沢字丸山ほか
 調査の原因 一般国道403号道路改良工事 (公共事業)
 調査期間 平成23年4月11日～12月14日
 調査面積 5,330㎡
 調査担当 潮田憲幸
 調査員 八藤後智人・牧野耕作
 秋山泰利 ((株) ノガミ)
 処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市東部地域土木事務所から一般国道403号道路改良工事に伴う本発掘調査が依頼され(平成23年3月17日付)、平成23年4月11日～12月14日にかけて本発掘調査を行った。

大沢谷内遺跡は、昭和63(1988)年に小須戸町教育委員会により第1次調査が行われ、平成16年度から一般国道403号道路改良工事に伴い継続的に調査が行われている。

第19次調査は、6・8・9区の3か所の区について調査を行った。各区の地点は図1の通りである。

位置と環境 大沢谷内遺跡は、新潟市の南東端、新津丘陵と信濃川に挟まれた沖積地上に立地する。縄文時代から室町時代にかけて断続的に営まれ、現在確認される範囲だけでも東西約600m、南北約900mと広大な範囲に及ぶ遺跡である。現地の標高は6区が約2.5m、8区が約3.2m、9区が約3.3mを測る。

6区の検出遺構 第17次調査から継続して本発掘調査が行われ、今年度は主に縄文時代の遺構・遺物が確認された。遺構は、北端部にある埋没河川の右岸(南側)を中心に帯状に分布しており、炉跡62基を始め、土坑・ピット等をあわせて424基が検出された。遺構は、重複して検出されることが多く、短期間に何度も同じ場所を使用したことが窺える。

6区の出土遺物 遺物は、深鉢形土器が多数を占め、縄文時代晩期後半以降と考えられる。出土量は800点程度と、同時代の遺跡の中ではかなり少量である。

6区のみとめ 地形と遺構の分布からいわゆる「河のほとり」に営まれたと考えられる。明確な建物跡が確認できず、遺物も少量のため、一時的に利用された可能性がある。

8・9区の検出遺構 今年度から新たに調査が行われ、主に平安時代と鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。

遺構は1,367基が検出され、なかでも平安時代の水田跡が注目される。水田跡は調査区のほぼ全域に広がり、平面形はおおむね方形で、軸を方位にあわせている。自然の勾配を利用した水利網が巧みに構築されている。鎌倉時代の遺構は、井戸跡や溜池状遺構が検出されている。



図1 調査位置図 (1/10,000)



6区全景 (東から)



9区全景 (南西から)

8・9区の出土遺物 6区とあわせてコンテナケース190箱程度である。平安時代の遺物は、土師器・須恵器が大半を占め、9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。鎌倉・室町時代では中世土師器と珠洲焼がわずかに出土し、13世紀後半頃と考えられる。

8・9区のみとめ 平安時代には、高度な土木農業技術を駆使した大規模な水田による農地経営が窺える一方で、鎌倉時代は遺構・遺物が散発的な状況のため詳細は不明である。平成26年度に報告書刊行予定である。

(金田拓也)

(6) 岩室神明社遺跡隣接地 (2010157)

所在地 新潟市西蒲区岩室温泉地内

調査の原因 下水道工事 (公共事業)

調査期間 平成23年5月25日～7月28日

調査面積 6㎡

調査の原因 下水道工事

調査担当 廣野耕造

処置 工事立会

調査に至る経緯 調査は下水道管敷設に伴って現道路を掘削する際に、工事範囲の一部が岩室神明社遺跡の北側にかかることから掘削作業の際に工事立会を行ったものである。工事では直径15cmの污水管を総延長449m敷設し、マンホールを23か所設置した。掘削幅は90cm前後で深度は1.3～1.8m程度である。

平成22年度に調査依頼を受けたために調査番号は平成22年のものになっているが、工事立会は平成23年度になってから行った。

位置と環境 調査地は松岳山城跡の東麓に位置し、標高は19m前後である。岩室神明社遺跡は松岳山の東に広がる扇状地に位置し、標高5～10mに立地する。縄文時代後期と古墳時代の遺跡である。

松岳山城跡は、西蒲区岩室字松岳山1477ほかに所在し、標高172.5mの松岳山山頂に実城が築かれている。要所には空堀や土塁が残り、新潟県埋蔵文化財包蔵地カードには鎌倉・室町時代の山城と記載されている。範囲は東西380m、南北80mほどと考えられる。天神山城の支城とされるが、古文書には松岳山城について全く記されていないため不明な点が多い。天神山城は松岳山城の南西約800mに位置し、小国氏の本拠地となった山城である。

検出遺構 遺構は検出されなかった。

出土遺物 遺物は岩室神明社遺跡の範囲内では出土していないが、遺跡範囲より北へ180mほどの岩室温泉676番地付近で珠洲焼が1点出土した。遺物は地表下130～145cmの黒灰色粘土層から出土しており、甕の体部破片と考えられる。外面は転用研磨具として使用されており、部分的に平行タタキメが平滑となっている。時期は吉岡編年Ⅴ期〔吉岡1994〕であろう。

岩室神明社遺跡は縄文時代と古墳時代の遺跡である。これまでに確認調査や工事立会が行われているが、中世の遺物は出土していない。今回の工事立会で珠洲焼が出土した地点は松岳山城跡の東端に近接していることから松岳山城跡などとの関係が推測される。(相澤裕子)

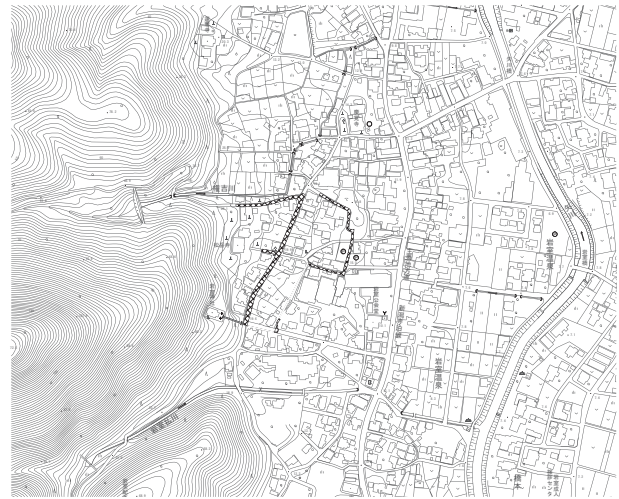


図1 調査位置図 (1/10,000)



図2 土層柱状図

工事立会風景

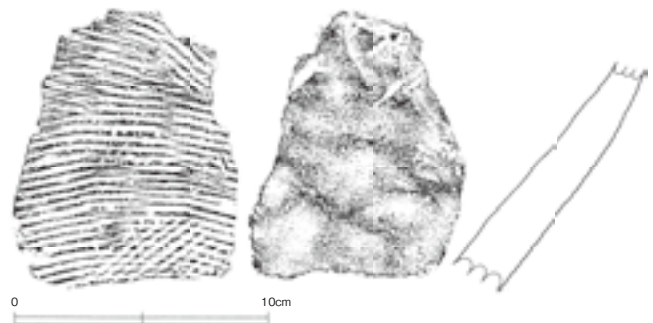


図3 遺物実測図 (1/3)

(7) 居平遺跡 (2011146)

所在地 新潟市秋葉区小口地内
 調査の原因 下水道工事 (公共事業)
 調査期間 平成23年11月17日～平成24年3月
 調査面積 約145.8㎡ (調査対象面積314.5㎡)
 調査担当 廣野耕造
 処置 工事立会

調査に至る経緯 調査は現道路下に下水道管を敷設する掘削作業に伴う工事立会である。工事は、周知の遺跡範囲内で掘削幅81cm・長さ約180m、面積は約145.8㎡になる。遺物は工事立会で全てを採取することができず、残土置場でも採取を行った。

位置と環境 遺跡は新津丘陵の東側斜面に広がる丘陵上に立地し、能代川の左岸に位置する。能代川との比高差は15～20m、標高は21～26mを測る。遺跡範囲は東西130m・南北230m程で、南方250mには谷を挟んで縄文時代中期・後期の平遺跡がある。

検出遺構 遺構は平面プランを把握することはできなかったが、壁面で遺構と思われる落ち込みが確認できた。

出土遺物 コンテナケース1箱分の遺物が出土した。図化したものは16点である。1・3・5～16が深鉢、2が浅鉢、4が鉢である。時期は縄文時代中期後葉～後期前葉が中心である。胎土は粒子の大きな雲母・長石・石英を含有する。1は中期後葉。2は内外面に赤彩がわずかに残る。中期後半～後期。3は中期中葉。4は鉢で口縁端部に沈線と外面に平行沈線を巡らす。中期中頃。5は沈線の間に刺突文を施す。中期後葉～後期前葉。6は中期後葉～末。7は中期～後期。8は外面にススが付着



図1 調査位置図 (1/10,000)

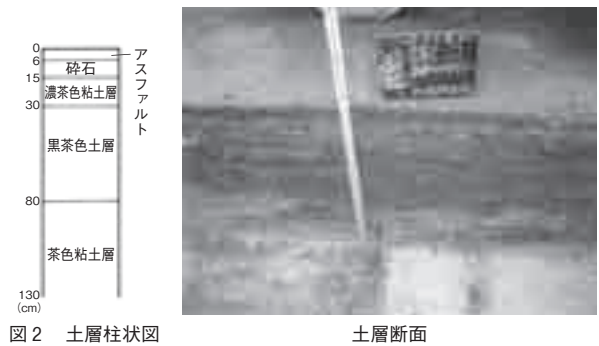


図2 土層柱状図

土層断面

する。中期後葉～後期。9は中期後葉。10は中期後半。11は中期。12は細い縄目をもち、後期の可能性がある。13は中期の可能性はある。14は細い撚糸文を横方向に施文する異質な後期の土器。15は撚糸文を施す。後期初頭～前葉。16は中期末～後期前葉。遺物の時期については寺崎裕助氏からご指導いただいた。(相澤裕子)

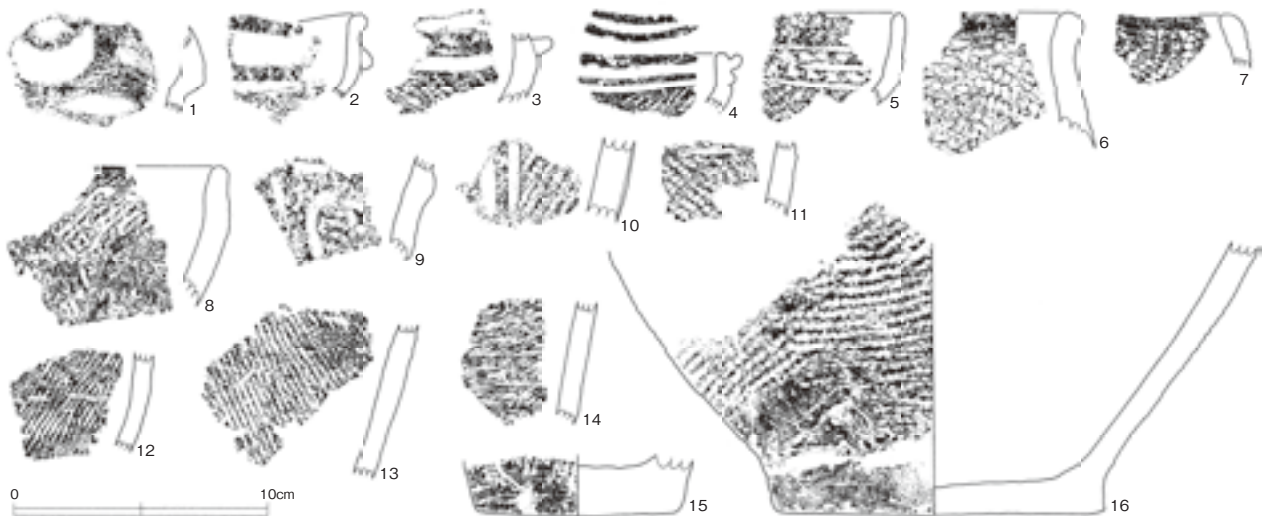


図3 縄文土器実測図 (1/3)

4 平成24年度の本発掘調査・工事立会

(1) 大沢谷内遺跡 第20次調査 (2012001)

所在地 新潟市秋葉区鎌倉

調査の原因 一般国道403号道路改良工事 (公共事業)

調査期間 平成23年4月11日～10月18日

調査面積 2,612㎡

調査担当 潮田憲幸

調査員 秋山泰利 ((株) ノガミ)

処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟市東部地域土木事務所から一般国道403号道路改良工事に伴う本発掘調査が依頼され(平成24年3月12日付)、平成24年4月11日～10月18日にかけて本発掘調査を行った。

第20次調査は、昨年度の第19次調査に引き続き9区について調査を行った。昨年度が9区の南側に対して今年度は北側に当たる。

位置と環境 Ⅲ 3(5)で記した。

検出遺構 遺構は約2,400基検出され、多くは平安時代と考えられる。掘立柱建物跡は、現時点で10棟以上確認され、規模は多様であるが、おおむね東西・南北に沿った軸を持っている。平安時代と鎌倉時代では軸が若干異なる可能性がある。その他にも柱穴と考えられる遺構が多くあるため、さらに多くの建物が存在したと考えられる。井戸跡は、64基と多数検出され、生活用水や農業用水の水源としての利用が考えられる。なかには割り貫き材を合わせた井戸側や、木製品と自然木で組んだ井戸側が確認された。溝状遺構は185条検出され、多くは用・排水用と考えられる。おおむね方位に沿って延びる溝状遺構も存在する。土坑は108基検出され、ほぼ平安時代と考えられる。また、鎌倉時代のものと考えられる堅穴状遺構が2基確認され、井戸跡ほど深さはなく、溜池に用いた可能性が考えられる。さらに、調査区の南部で水田跡が確認され、昨年度の9区南側で検出された平安時代の水田跡の延長であると考えられる。

出土遺物 遺物は昨年度と同様に平安時代の土師器・須恵器などの土器が大半を占め、コンテナケース200箱以上である。時期は平安時代の後半頃と考えられる。また、井戸跡などから斎串や木製容器など多種多様な木製品が比較的多く出土している。鎌倉時代の遺物は、青磁・珠洲焼・中世土師器・陶磁器などが少数確認されており、平安時代と同様に木製品が多量に出土している。

まとめ 昨年度の水田跡が確認された9区南側は標高が3.3m程度であり、さらに南に向かってゆるく傾斜する。一方、今年度の建物跡が確認された9区北側は標高



図1 調査位置図 (1/10,000)

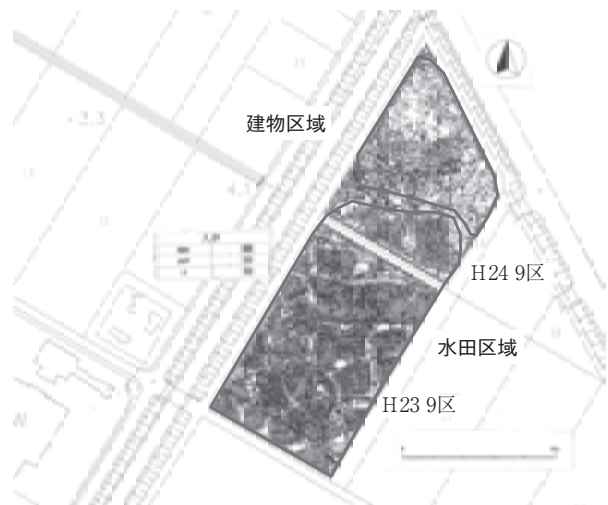


図2 9区遺構平面図



調査区遠景 (北西から)

が約3.5m程度であり、北側の南部で確認された水田跡の北端は建物跡などの区域とは溝で一段低く下げられるなどの明確な分けがある。そのため、標高の高い区域に建物などを配し、標高の低い区域に大規模な水田を造作するという平地のわずかな高低差を巧みに利用した平安・鎌倉時代の人々の営みが判明した。平成26年度に報告書刊行予定である。(金田拓也)

(2) 峰岡城山遺跡 第2次調査 (2012002)

所在地 新潟市西蒲区峰岡字城山
 調査の原因 城山屋内体育施設造成工事 (公共事業)
 調査期間 平成24年5月21日～8月20日
 調査面積 2,183.5㎡
 調査担当 立木宏明
 調査員 伊比博和 ((株) シン技術コンサル)
 処置 記録保存

調査に至る経緯 平成23年度に、城山屋内体育施設造成工事が計画された。近隣には上城跡・下城跡など中世と推定される城跡が所在しており、中世の遺跡の検出が期待された。西蒲区地域課より、平成23年5月9日付で試掘調査の依頼が新潟市教育委員会にあり、平成23年6月2日から7月8日まで試掘調査 (第1次調査) を行った。その結果、縄文時代から室町時代の遺跡であることが明らかとなり、字名を取り「峰岡城山遺跡」と命名した。

続く本発掘調査 (第2次調査) は、同地域課より平成24年3月14日付で本発掘調査の依頼が同教育委員会にあり、丘陵残存部位の2,183.5㎡について平成24年度に行った。

位置と環境 峰岡城山遺跡は、角田・弥彦山塊の東麓の角田山麓から東西に延びる標高7～21mの丘陵上に位置する。縄文時代中期前葉集落の遺物廃棄場と古代・中世の遺物散布地である。調査区南側の縄文時代中期集落推定域は昭和54年以前に行われた土取り工事により削平されている。

検出遺構と出土遺物 大きく上層と下層に分かれる。

下層からは縄文時代中期前葉集落の遺物廃棄場3か所とピット・水場遺構などを検出した。遺物は、縄文時代草創期の尖頭器、縄文時代前・中・後期の土器および石器類が出土した。主体となる時期は土器の編年学的な検討から縄文時代中期前葉が主体である。土器は北陸地方の影響を受けた土器を中心に関東・東北系の土器が出土している。石器は石鏃・磨製石斧・不定形石器・凹石・敲石・台石・玉類などが出土している。出土した黒曜石は分析の結果、長野県方面から搬入された資料であることが確認された。

上層からは炭焼きに関係する遺構と考えられる焼土坑を10基検出した。遺物としては古代 (平安時代) の土師器・黒色土器・須恵器と中世の珠洲焼・越前焼などが確認された。その他に鍛冶関連遺物が出土している。

まとめ 縄文時代中期前葉集落の遺物廃棄場である。調査区周辺に集落が想定される。出土した縄文土器は北陸地方を中心に東北地方北部や中部・関東などの影

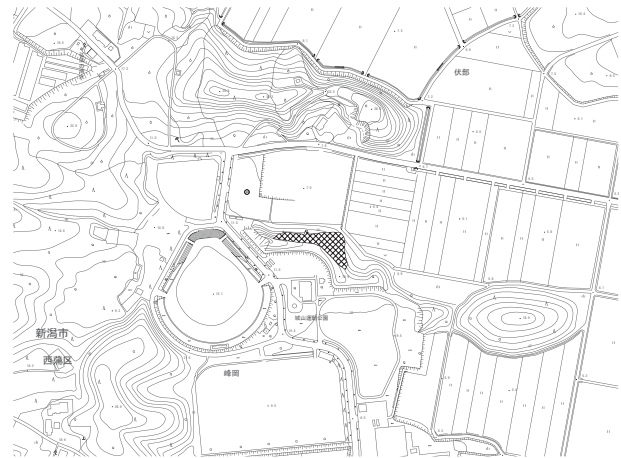


図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (北から)



縄文土器

響をうけたものが出土し、当地における人々の交流を窺う上で重要な資料群である。石器は石鏃・磨製石斧・磨石・台石など、一般的な集落に保有される石器組成が確認された。古代・中世においては炭焼きなど生産の場として利用されている。

出土遺物はコンテナケース100箱である。

報告書は『峰岡城山遺跡 第2次調査』として刊行されている。 (立木宏明)

(3) 内野遺跡 第9次調査 (2012003)

所在地 新潟市秋葉区七日町1310-2ほか

調査の原因 満日地区県営圃場整備事業（公共事業）

調査期間 平成24年7月10日～8月17日

調査面積 286.9㎡

調査担当 遠藤恭雄

調査員 笹澤正史（(株)吉田建設）

処置 記録保存

調査に至る経緯 平成23年度（第8次）調査に引き続き、県営圃場整備事業の地区外連絡水路工事に伴い、新潟県新潟地域振興局より依頼を受けて本発掘調査を実施した（平成24年5月10日付）。今回は平成23年度調査の南東側延長、幅2.3m、長さ約130mの区間を対象とした。現況は農道で、標高は5.0～5.2mを測り、水田面との比高差は0.15mほどである。

位置と環境 内野遺跡の位置と環境については、Ⅲ 3 (3)で記した。

検出遺構 地表下40～50cmまで農道造成や用排水路設置に伴う掘削、盛土（Ⅰ a層）や旧水田の造成、耕作（Ⅰ b・Ⅰ c層）による地形改変の影響を受け、基盤層（Ⅲ層：黄褐色シルト層 遺構確認面）まで削平され、遺物包含層（Ⅱ層：黒褐色シルト）は一部しか残存しない。

南北方向に流れる2条の旧河道（河1・河2）を検出した。河1は大正11（1922）年作成『新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現景図』の同位置に水路の記載がみられ、近世以降の流路と推測される。河2も河1と同様の堆積が観察されることから同時期のものと考えられる。河1と河2の間で畝状遺構・井戸・溝などが検出されている。畝状遺構は古代の所産と推測され、他の遺構はいずれも時期不明である。

出土遺物 河1の北西側を中心にコンテナケースで10箱の須恵器・土師器が出土している。主要な時期は9世紀代と推測されるが、盛土層から近世以降の陶器に混じって出土したものが多い。盛土層には、調査地付近の基盤を形成する黄褐色シルトがブロック状に多く含まれることから、隣接地の掘削土砂と考えられ、付近に同時期の集落域があったと推測される。

まとめ 調査範囲では、基盤層がほぼ平坦に検出され、起伏は少ないが、これまでの確認調査の結果や現状の地形から、南北方向に延びる自然堤防が存在し、今回の調査地は自然堤防上の微高地を利用した古代の集落域縁辺部から生産域にあたるものと考えられる。第8次調査の結果と合わせて、調査地周辺では古代から中世にかけて断続的に集落が営まれたものと推測される。

報告書は平成26年度に刊行予定である。（遠藤恭雄）



図1 調査位置図（1/10,000）



調査区全景（北西から）



須恵器・土師器出土状況（南西から）



河1と土層堆積状況（北西から）

(4) 中谷内遺跡 第16次調査 (2012004)

所在地 新潟市秋葉区大蔵字無頭
調査の原因 満日地区県営圃場整備事業 (公共事業)
調査期間 平成24年7月9日～11月6日
調査面積 487.5㎡
調査担当 遠藤恭雄
調査員 笹澤正史 ((株)吉田建設)
処置 記録保存

調査に至る経緯 平成21年度から満日地区県営圃場整備事業に伴って断続的に調査を行っている。今回の調査では、新潟県新潟地域振興局の依頼を受け(平成24年5月10日付)、幅2mの用排水路管理設区域を1～4区に地区割りして調査した。1区は標高4m前後で遺跡範囲南西端にあたる。2～4区は遺跡北側にあたり、標高は3.55～3.7mである。

位置と環境 中谷内遺跡の位置と環境については、Ⅲ3(2)で記した。今回調査の3区隣接地では、これまでに農道整備や排水機場建設などに伴って複数回の本調査が行われている。

検出遺構と出土遺物 掘立柱建物跡・溝・土坑・畝状遺構が検出された。出土遺物はコンテナケース15箱である。3区では今回の調査で最も多くの遺構・遺物が検出されている。遺構は出土遺物の年代から平安時代(9世紀代)のものと考えられる。掘立柱建物の柱跡もあり、周辺が居住域として使用されていたことが窺える。2区では、畝状遺構が検出されており、生産域として利用されたものであろう。

まとめ 3区隣接地では、平成9年に農道整備事業に伴う調査が行われており、調査地中央を蛇行して流れる旧河道が検出され、9世紀後半を主体とする土師器・須恵器・京都産緑釉陶器などがまとまって出土している。旧河道周辺部が本遺跡内における平安時代集落の中心のひとつであったと推測される。

また、2・3区では北東側に向かって落ち込みが見られ、遺跡の北端部にあたる4区まで湿地性の堆積が続いていることが判明した。付近は、平安時代の集落廃絶後、近世以降に新田開発が行われるまで、土地利用の痕跡は認められず湿地になっていたようである。こうした旧地形や土地利用の変化の様子が把握できたことも今回の調査成果である。

中谷内遺跡第12・15・16次調査と内野遺跡第8・9次を合わせた調査報告書を平成26年度に刊行する予定である。(遠藤恭雄)



図1 調査位置図 (1/15,000)



1区全景 (北東から)



2区畝状遺構 (西から)



3区完掘状況

(5) 西江浦遺跡 第3次調査 (2012005)

所在地 新潟市秋葉区東金沢字久保1805-3ほか

調査の原因 両新地区県営圃場整備事業（公共事業）

調査期間 平成24年7月17日～8月2日

調査面積 214㎡

調査担当 前山精明

調査員 牧野耕作

処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県新潟地域振興局から平成24年4月19日付で本発掘調査の依頼文書が提出され、これをうけて用・排水路管の埋設が行われる幅2.5m・全長80mの区域を対象とした調査を実施した。

位置と環境 能代川東岸の沖積地に立地する。細池寺道上遺跡の北西部に隣接した古代の遺跡で、遺跡の広がり、東西500m・南北750mほどと推定される。調査地は南部に位置し、現地表面での標高は7.1mである。

検出遺構と出土遺物 堆積土は、水田耕土（Ⅰ層）・青灰色粘土（Ⅱ層）・灰色粘土（Ⅲ層）に大別できる。遺物はⅡ層から磨滅が進んだ土師器片が少量出土したにとどまる。Ⅲ層上面からは溝や水田畦畔などを確認したが、堆積土の特徴からいずれも近・現代に属するものとみなされる。

まとめ 本年の調査地は耕地整理以前の「堀田」の分布域にあたる。水田造成に伴う削平によって遺物包含層や遺構が失われた可能性が高く、調査区域内の遺跡の実態を明らかにすることはできなかった。（前山精明）



図1 調査位置図（1/10,000）



調査区全景（東から）

(6) 細池寺道上遺跡 第38次調査 (2012006)

所在地 新潟市秋葉区金沢字中道293-2ほか

調査の原因 両新地区県営圃場整備事業（公共事業）

調査期間 平成24年7月23日～平成25年1月10日

調査面積 4,768㎡

調査担当 前山精明

調査員 牧野耕作

細井佳浩（(株)吉田建設）

処置 記録保存

調査に至る経緯 新潟県新潟地域振興局から平成24年4月19日付で本発掘調査の依頼文書が提出された。これをうけて用・排水路管の埋設と4,100㎡あまりの面下げが行われる1区、210㎡あまりの面下げが行われる2区、用・排水管の埋設が行われる3区の調査を実施した。

位置と環境 新津丘陵の北端付近から2～3km東方に位置する古代・中世の遺跡である。本年度の調査地は東西1.2km・南北1.8kmにおよぶ遺跡の北東部にあたる。

磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が発掘調



図1 調査位置図（1/10,000）

査を行った寺道上遺跡B地点の西に隣接し、現地表面での標高は7.6mほどを測る。

検出遺構と出土遺物 1区から古代・中世、2区と3区から中世を中心とする遺構を確認した。遺物はコンテナケースで92箱を数え、大半が1区の河川跡から出土した。

古代の遺構は、1区南東部の河川跡の左岸に広がるテラス状遺構が代表的なものである。大きく蛇行する河川の河岸を削平し、比高50cm・幅7mあまりの平坦地を造成したものである。平坦面には、排水用と見られる1～2条の溝と5～7条にわたる畝状遺構が河川に沿って並走する。土壌分析をつうじ、畝間の上部～下部からイネやキビ族（アワ・ヒエ・キビ）のプラントオパールが多量に検出された。

これに接する河川跡は幅30m・最大深度3mほどと推定できる大規模なもので、川底を覆う砂層や斜面下部の粘土層から9世紀中頃を中心とする土器や木製品が多数出土した。川底付近には大小多数の樹木が堆積していたが、特筆されるのは岸辺にかけて横たわる直径1m・長さ24mにおよぶカツラの巨木である。上半部で劣化や腐朽が著しく、水面に露出していたことがうかがえる。幹の上面には平坦に削ぎ取った箇所が見られる。傍らに杭が打たれるところから、船着き場へ通じる木道として利用されていた可能性がある。このほかの古代の遺構は土坑やピットが散在する程度であった。

1区の平坦地からは、中世の水田跡とその用・排水路と見られる多数の溝が確認された。溝の覆土から13～15世紀代の中世陶器が出土した。水田は二面が東西に並走する。ともに基盤層を30cmほど掘り下げた「掘込田」で、古代の河川に沿って帯状の広がりを見せる。両者は4mほどの間隔をもち、東側では5m、西側では8mほどの最大幅を有する。内部に浅い溝がめぐり、田面全体に耕作痕とみられる窪みが密集する点も大きな特徴である。

また、水田周辺の微高地には、畝跡が調査区全域にわたり分布する。いずれも畝は残っておらず、畝間に形成された粘質部の存在から見出したものである。確認数は1区2,540条・2区280条・3区115条ほどにおよぶ。時期を特定できる遺物はえられていないが、畝の配列が中世の水田跡の形状と対応するところから、同時期の遺構と考えられる。

確認された畝間痕は形状が多様であり、短冊形・撥型・扇形などに区分できる。畝の形状や配列には空間的なまとまりがあり、これをもとに10か所以上のブロックに分けることもできる。隣接する溝の覆土からイネ・ソバ属・アブラナ科の花粉が検出された。今回の調査で確認された畝間痕は、従来認識されてきた畝跡に較べ広範囲に及ぶ点が大規模な特徴である。古代・中世の生業を考えるうえで重要な遺構とみられ、これと同様の特徴を備えた畝跡の探査が今後の課題となる。（前山精明）



1区全景（南から）



河川跡と巨木の出土状況（北東から）



発掘調査風景



河川跡出土の須恵器

(7) 日水遺跡 第6次調査 (2012007)

所在地 新潟市江南区大字茅野山字日水浦2696
調査の原因 市道亀田300号線道路改良工事 (公共事業)
調査期間 平成24年8月21日～12月20日
調査面積 1,510㎡
調査担当 立木宏明
調査員 細野高伯 ((株) シン技術コンサル)
処置 記録保存

調査に至る経緯 平成22年度に日水遺跡隣接地において市道改良工事が計画され、新潟市東部地域土木事務所より新潟市教育委員会に平成22年9月30日付で試掘調査の依頼があった。平成22年9月に試掘調査(第5次調査)を行い、古代の遺構・遺物が検出され、遺跡範囲が西側に広がることが確認された。平成24年度に市道建設が本格化し、平成24年4月18日付で本発掘調査の依頼があり、幅約13m、長さ約125mの範囲で調査を行った。調査地点は平成17年に民間宅地開発に伴い本発掘調査(第3次調査)を実施した西側に位置する。

位置と環境 遺跡は、三方を信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれ、日本海が形成した砂丘(新砂丘Ⅰ)の南斜面及び周辺の小河川が形成した南北方向にのびる自然堤防に所在する平安時代と鎌倉・室町時代を中心とした遺跡である。現況は畑と水田となっている。標高は1.5m前後であり、現地形は北東側から南西側にわずかに傾斜している。

検出遺構と出土遺物 古墳時代中期及び平安時代の遺構が確認された。古墳時代中期の遺構は、性格不明遺構1基が検出され、覆土中からTK208型式併行期前後の時期の須恵器直口壺がほぼ完形の状態で検出された。TK208型式併行期の須恵器資料は新潟県内では類例が少なく、遠隔地から搬入されたと推定される。その他に包含層中から古墳時代中期の土器が出土している。

平安時代の遺構には、溝・土坑・性格不明遺構・畑跡などが確認された。調査区北側では掘立柱建物を含む明確な集落は確認されなかったが、道路の可能性のある遺構も検出された。その他に長軸1.0m、短軸0.5m、深さ0.6mの長楕円状の土坑が6基確認され、陥し穴状の遺構と考えられる。畑跡は調査区南側に5枚検出された。幅4mほどの道路状の間隔を挟んで整然と区画されている。種子等は確認されていないが、自然科学分析の結果、畝部から高密度のイネの植物珪酸体やイネ科の花粉が認められ、稲作主体であったと考察される。また、イネ以外にもソバ属の花粉が確認され、ソバ栽培の可能性も指摘できる。



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (南東から)



古墳時代の須恵器

まとめ 古墳時代には遺跡周辺に集落が想定される。平安時代は集落域と生産域が分離されて検出された。当時の生活領域を考える上で重要な成果である。出土遺物の中では古墳時代中期の須恵器直口壺を含む土師器甕・高杯などの土器群が出土した。遺物量は少量ながら砂丘列の古墳時代遺跡を考える上で貴重である。

出土遺物はコンテナケース65箱である。

報告書は『日水遺跡Ⅱ 第6次調査』として刊行されている。(立木宏明)

(8) 下新田遺跡 第6次調査 (2012008)

所在地 新潟市西蒲区道上
 調査の原因 道上地区県営圃場整備事業 (公共事業)
 調査期間 平成24年11月5日～12月14日
 調査面積 348㎡
 調査担当 潮田憲幸
 処置 記録保存

調査に至る経緯 遺跡は、県営圃場整備事業に伴う分布調査によって平成16年に新しく発見された。その後、事業予定地内全体を対象に確認調査が行われ、北西から南東方向に細長く広がる奈良・平安時代の遺跡である事が確認された。今回、圃場整備事業として新規に用水管の敷設が計画され、建設予定地内を対象に確認調査を実施した。その結果、約1.2～1.6mの深さから奈良時代を中心とした遺物が大量に出土したため、本発掘調査が必要と判断された。その後、新潟県地域振興局より発掘調査依頼書が提出され (平成24年3月12日付)、用水管が敷設される範囲の本発掘調査を実施した。調査地は、遺跡の東端部に位置する。

位置と環境 下新田遺跡は、中ノ口川左岸の自然堤防上に立地する。標高は1.8～2.0mを測る。

検出遺構 調査区は、洪水堆積土によって遺跡全体が厚く覆われて、遺存状態は良好である。主に奈良時代の土器が出土する下層、奈良・平安時代の土器が出土する中層、畑跡が確認できる上層に分かれる。

遺構確認面は3面あり、中・下層で土坑1基・溝状遺構12条・川跡1条・性格不明遺構3基などが検出された。出土土器などから概ね奈良・平安時代の所産と考えられる。しかし、遺構の検出面が明瞭でなく、覆土出土の遺物に時期の異なるものが複数含まれているなど各遺構の詳細な時期は明確でない。また、遺物は出土しないものの上層壁面で20条を超える畑の畝状の高まりが明瞭に確認された。

出土遺物 出土遺物はコンテナケース8箱である。遺物の多くは下層からの出土であり、8世紀前半の奈良時代を主体に9世紀代の土器も出土している。また、カマドの部材と思われる土製品や土製支脚なども出土していることから、今回の調査地区を含めて近隣に居住域の可能性が指摘される。他に、完形の手づくね土器も複数出土しており祭祀が行われていた可能性も推測できる。なお、土器の多くは大破片で、残存状況も良好である。

まとめ 遺跡のある旧中之口村周辺は、これまで発掘調査事例が少なく、遺跡の状況がほとんど分からない地域であった。今回の調査により、遺跡の良好な遺存状



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (南東から)



畑の畝 (北西から)

態が確認できた。また、主体を占める奈良時代の遺物は、市内でもまとまった資料があまりなく、これらの出土遺物や畑跡などの生活痕跡の発見は、この地域や時期の様相を考える上でとても貴重である。

なお、下新田遺跡第6・8・9次調査を合わせた報告書を平成27年度に刊行予定である。 (龍田優子)

(9) 近世新潟町跡工事立会 (2012119)

所在地 新潟市西堀通9番町1544番地他地点
 調査原因 国道7号線万代橋下流事業の付帯水管幹線工事
 工事期間 平成24年6月10日～平成25年3月31日
 (工事中掘含む)
 立会日数 35日間
 工事面積 190㎡ (総延長158m)
 調査担当 諫山えりか
 処置 工事立会

近世新潟町跡における工事立会は2件である。1件は国道7号線万代橋下流事業の付帯工事に伴うもの、もう1件は民間店舗建設工事に伴うものである。ここでは国道7号線万代橋下流事業に付帯する水管幹線布設工事における工事立会の概要を記す。

本工事は新潟市水道局が事業主体であり、道路際に平行した直径50cmのタグタイル铸铁管を布設するものである。平成24年5月、歴史文化課は新潟市長から文化財保護法第94条の通知を受け、工事掘削幅が1.2mということから取扱いを「工事立会」と判断し、意見を付して県教育委員会へ進達した。工事初日の段階で掘削幅は1.5m以上、深度も2m以上となることが確認されたが、

再協議は行わず、全工程において工事立会の対応をした。

ほぼ全工事区間、地表下1m前後までは近・現代の層であり、その下に江戸時代の土層が存在する。粘質シルトやシルト、砂等で構成されており、地下水を受けて崩れやすい。工事では壁崩落防止用に掘削しながら矢板を打ち込むため、立会における土層観察が難しい状況であったが、工事掘削時に深さ1～2mの攪乱がない層で、時々木製の杭・柱や構造物の部材が目視された。細かい時期を特定することはできないが、江戸時代の遺構と考えられる。この中で性格が推測されるものは、東西方向に平行に据えられた板、集中してみられる長さ2m以上の杭等で、前者は地境付近にあることから確認調査(Ⅱ2(6)調査番号2012142)の2Tで検出されたような地境を兼ねた下水溝、後者は軟弱地盤へ対応した捨杭の可能性がある。

遺物の総出土量は、コンテナケース約20箱である。工事の掘削の際に出土したものを収集しているため、正確な出土地点を捉えられないものも多いが、深さ2m前後の層には17世紀後半～18世紀初頭の遺物が安定してみられる。遺物は圧倒的に陶磁器が多く、コンテナケース18箱分になる。漆器碗や下駄・箸等の木製品もみられる



図1 近世新潟町跡工事立会位置図 (1/5,000)



工事作業風景



集中した杭



北壁土層断面

が、金属製品を含む脆弱遺物は工事時の破損が大きく確保が難しい。陶磁器は、これまでの調査と同じように、播鉢・壺甕類・灯火具等に多様な生産地をみるが、それ以外の器種はほとんど肥前産で占められる。高級品・上質品が多く、経済力が高い湊町・商業地としての性格が窺える。年代的には、移転（1655年ほぼ完了）以降のものが多いが、移転の際に運び込まれたと思われる1630～1640年代の初期伊万里が一定量存在する。皿がほとんどで、手塩皿・小皿・中皿がみられる。移転後の17世紀後半は肥前磁器の生産技術が飛躍的な進歩をみせる時期であるが、新潟町ではその粋を集めた高級品も多く出土している。4点出土している染付芙蓉手皿は、内乱で輸出が激減した中国に代わってヨーロッパ向けに生産された高級品であり、口径30cm前後の大皿である。陶器でも三島手や二彩手といった陶器の大皿や大振りの鉢が多く出土しており、特に口径40cmを超える二彩手大皿は目を引く。この時期の大皿は、大名・武家屋敷跡から出土することが多く、饗宴で使用されたと考えられているが、新潟町でも同じように宴が開かれていたのであろう。日常品的な食膳具である椀・小皿も当時陶器より高級とされていた磁器が大半を占めており、さらに上質品が多いということも経済力の高さを示すものである。こ

のような様相は18世紀前半までは確認できるが、18世紀後半以降は出土量が少なく不明なところも多い。近現代の掘削がその時期の層に及んでいるためと思われる。少量ながら出土遺物をみると、18世紀半ば以降、大衆化した磁器が日本中くまなくみられるようになる中で、くらわんか椀などの安価な陶器は少ないことが指摘される。また、19世紀になると瀬戸・美濃で磁器が生産され、肥前産に代わる勢いで全国各地に浸透していくが、新潟町では幕末まで肥前産磁器が主体であり、ステータス的な生産地へのこだわりか、あるいは流通の問題か、今後の課題である。

工事立会の対象地は新潟町のごく一部であるが、出土した陶磁器は新潟町の繁栄ぶりを示すものであり、史料から読み取れる日本海側有数の湊町であったことを裏付けるものである。今後その遺物が伴う遺構が検出され、町の構造が明らかになることを期待するものである。

これらの新潟町から出土した遺物については、平成24年12月に佐賀県立九州陶磁文化館特別学芸顧問の大橋康二氏をお招きし、多くのご指導をいただいた。文中の所見は大橋氏のご教示によるものが多い。末筆ながら感謝申し上げます。（渡邊ますみ）



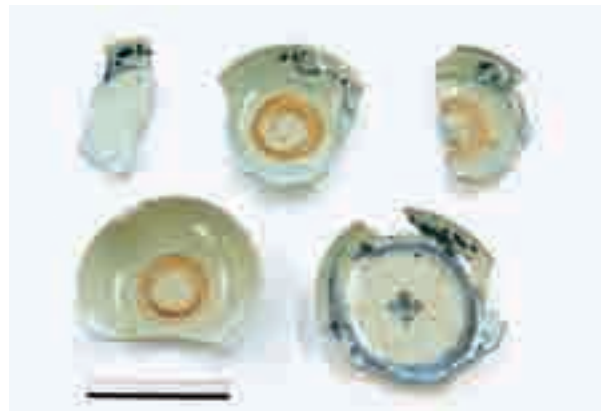
肥前磁器皿（1630～1640年代）



肥前磁器染付芙蓉手大皿



肥前磁器椀（17世紀後半）



肥前磁器皿（17世紀後半）



上質品 肥前磁器皿・合子 内面 (17世紀後半)



上質品 肥前磁器皿・合子 外面 (17世紀後半)



上質品 肥前磁器 碗・皿・鉢 (17世紀後半～18世紀前半)



肥前磁器 青磁鉢・香炉 (17世紀後半～18世紀)



肥前磁器 置物・水滴



肥前陶器二彩手大皿 (口径40cm以上)



肥前陶器三島手中・大皿 (17世紀中葉～18世紀前半)



肥前陶器二彩手大皿 (17世紀後半～18世紀)

5 整理作業の概要

平成23年度・24年度に文化財センターが実施した発掘調査整理業務の一覧を表7に示した。年度毎に調査番号順に掲載している。整理作業のうち、主要なものについて以下に記述する。なお、表掲載のうち古津八幡山古墳整理作業は史跡整備に伴うものである（V）。

(1) 馬場屋敷の塚・興野遺跡・若宮様遺跡・馬場屋敷遺跡の再整理

馬場屋敷の塚・興野遺跡・若宮様遺跡・馬場屋敷遺跡は信濃川左岸の新潟市南区庄瀬に所在する。遺跡は沖積地に形成された自然堤防上に立地し、標高は約3.8～3.9mを測る。昭和57（1982）年に県営圃場整備事業に伴って新潟県教育委員会によって確認調査が行われ、翌58（1983）年に白根市教育委員会により本発掘調査が実施された。調査により、床材や壁材の残る建物、特殊遺構とされる祭祀遺構、44点の木簡、祭祀に用いられたと推測される箸や串、漆器、足駄等の多量の木製品が検出された。かつて白根郷と言われた越後平野の低湿地に立地する典型的な遺跡の一つである。仮に台地上の遺跡で木製品が消滅していれば、貧弱な遺跡とされかねないが、木製品が遺存していたことによって、当時の豊かな生活文化が明らかになった重要な遺跡であると言えよう。発掘調査報告書は4遺跡まとめて『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』〔川上ほか1984〕として昭和59（1984）年に白根市教育委員会より刊行されている。

遺跡の時期は出土遺物より馬場屋敷の塚は近世、興野遺跡と若宮様遺跡は14世紀～15世紀である。馬場屋敷遺跡上層は15世紀後半～16世紀前半、馬場屋敷遺跡下層は13世紀末～14世紀初頭である。

再整理に至る経緯 平成23年8月9日、国立歴史民俗博物館・共同研究「中世の技術と職人に関する総合的研究」（代表村木二郎）に伴う馬場屋敷遺跡下層出土遺物の検討会が行われた。木製品の生産工房として紹介されたこともあったが〔飯村2001〕、この検討会において木製品の生産が行われていたのか否か明確ではなく、再検討が必要であると指摘された。また、多種多様な木製品が出土していることから、再整理後に見直しが必要ではないかという意見があった。

平成21年度には文化財センター展示用レプリカの作成に際し、木簡の再調査も行われていた。この再調査により「しろわせ」と書かれた種子札の存在など発掘当時は解説不能とされた木簡から新たな知見が得られた〔相澤2010〕。

これらを契機として、発掘調査報告書に掲載されなかった資料を含めて見直しを行い、資料の公表・再評価

する時期であると判断し、再整理を開始するに至った。

再整理の流れ 平成24年5月より再整理を開始した。遺物については注記内容に不明なものが多かったため遺物取り上げ図との照合作業の後、新たな注記を併記した。また、報告書では別個体として掲載されているものが接合し、接合作業が不十分だったため今回改めて接合作業を行った。遺物実測は平成26年1月現在で9割を終えており、再整理報告書掲載点数は1,400点前後となる予定である。土器・陶磁器の一部はデジタルトレースを開始した。

遺構図面は平断面図合わせの後、デジタル図化を行い、調査区を現況の地形図に重ね合わせる作業を進めた。

整理作業の成果 遺物の中心を占めるのは馬場屋敷遺跡下層出土の木製品である。その量は分類・集計の結果、16分類43器種7,200点以上70kg以上に及ぶことが分かった。中でも祭祀具である串・形代が多く、木製品の2割近くを占めている。

下層は遺構の検出状況から2時期が確認できる。建物が存在した時期と特殊遺構として報告されている遺構が存在した時期である。建物が存在した時期には、茅札や種子札の存在から茅場や種籾の管理を行ったと考えられる。この建物が廃絶した後に串を長方形に立てて結界を作り、祭祀を行っている。多量の串や形代がどちらの時期に属するのかは検討の余地がある。今後は継続して遺構・遺物のデジタル図化と図版編集を行い、再整理報告書を作成する予定である。

(2) 試掘確認調査・工事立会・本発掘調査再整理事業

この他に、文化財センター開館前に本発掘調査が終了したが収蔵のための整理作業が未了の遺物や、試掘確認調査・工事立会、新潟県教育委員会から譲与を受けた遺物等を収蔵するための再整理作業を行った。（相澤裕子）

(3) 沖ノ羽遺跡第18・19・22・24次調査の整理作業

整理の流れ 沖ノ羽遺跡第18・19・22・24次調査については第18次および第19次調査1～4・7区を『沖ノ羽遺跡V』として、第19次調査5・6区および第22・24次調査を『沖ノ羽遺跡VI』として刊行する予定で整理作業を進めている。

『沖ノ羽遺跡V』報告書について平成24年度は主に本文執筆・校正を行った。報告書は平成25年度に刊行する。

『沖ノ羽遺跡VI』報告書については遺物の整理を中心に行った。第22・24次調査の出土遺物は調査当時に遺物の注記まで終了していたため、器種の確定と集計作業から行った。7月からは第22次調査出土土器の接合作業を

表7 平成23年度・24年度発掘調査整理作業一覧

| 平成23年度 | | | | | |
|--------------------------|-----------------|--|------------|-------------------------------|----------------------|
| 遺跡名・事業名 | 調査回数 | 調査番号 | 調査原因 | 整理担当 | 主な作業内容 |
| 結七島遺跡 | 24 | 2011001 | 民間宅地造成 | 龍田優子 | 基礎整理・報告書作成 |
| 中谷内遺跡 | 15 | 2011002 | 県営圃場整備 | 遠藤恭雄・澤野慶子 | 基礎整理 |
| 内野遺跡 | 8 | 2011003 | | | |
| 細池寺道上遺跡 | 31 | 2011005 | 県営圃場整備 | 前山精明・澤野慶子 | 遺物実測・遺物図版作成 |
| 大沢谷内遺跡 | 19 | 2011006 | 国道整備 | 潮田憲幸・八藤後智人・牧野耕作 秋山泰利(㈱ノガミ) | 基礎整理 |
| 古津八幡山古墳 | 17 | 2011152 | 史跡整備範囲確認調査 | 相田泰臣・渡邊明和・八藤後智人・相澤裕子 | 基礎整理 |
| 林付遺跡 | 2 | 2010001 | 市立小学校体育館建設 | 相田泰臣 | 基礎整理・報告書作成 |
| 細池寺道上遺跡 | 30 | 2010003 | 県営圃場整備 | 遠藤恭雄・澤野慶子 | 遺物実測・遺物図版作成 |
| 大沢谷内遺跡 | 18 | 2010004 | 市道改良工事 | 前山精明 | 報告書作成・印刷刊行 |
| 四石遺跡 | 2 | 2008009 | 市理立処分場建設 | 渡邊ますみ | 報告書作成・印刷刊行 |
| 細池寺道上遺跡 | 25 | 2007005 | 県営圃場整備 | 潮田憲幸 | 報告書作成 |
| 大沢谷内遺跡 | 7・9・11 12・14 | 2005004・2006002・2007002 2007006・2008005・2009001 | 国道整備 | 立木宏明 細野高伯・伊比博和(㈱シン技術コンサル) | 報告書作成・印刷刊行・収蔵作業 |
| 試掘確認・工事立会・本発掘調査 再整理事業 | — | — | 各種事業 | 渡邊ますみ | 収蔵作業・台帳作成 |
| 平成24年度 | | | | | |
| 遺跡名・事業名 | 調査回数 | 調査番号 | 調査原因 | 整理担当 | 主な作業内容 |
| 大沢谷内遺跡 | 20 | 2012001 | 国道整備 | 潮田憲幸 秋山泰利(㈱ノガミ) | 基礎整理 |
| 峰岡城山遺跡 | 2 | 2012002 | 市営体育施設造成 | 立木宏明 伊比博和(㈱シン技術コンサル) | 基礎整理・報告書作成・収蔵作業 |
| 細池寺道上遺跡 | 30 | 2012006 | 県営圃場整備 | 前山精明・牧野耕作 細井佳浩(㈱吉田建設) | 基礎整理・遺物実測 |
| 日水遺跡 | 6 | 2012007 | 市道改良工事 | 立木宏明 細野高伯(㈱シン技術コンサル) | 基礎整理・報告書作成・収蔵作業 |
| 下新田遺跡 | 6 | 2012008 | 県営圃場整備 | 潮田憲幸 | 基礎整理 |
| 古津八幡山古墳 | 18 | 2012217 | 史跡整備範囲確認調査 | 相田泰臣・渡邊明和・八藤後智人 | 基礎整理・遺物実測・写真整理 |
| 中谷内遺跡 | 15・16 | 2011002・2012004 | 県営圃場整備 | 遠藤恭雄 笹澤正史(㈱吉田建設) | 基礎整理・遺物実測・報告書作成 |
| 内野遺跡 | 8・9 | 2011003・2012003 | | | |
| 林付遺跡 | 2 | 2010001 | 小学校体育館建設 | 相田泰臣 | 報告書作成・印刷刊行・収蔵作業・台帳作成 |
| 細池寺道上遺跡 | 27 | 2010003 | 県営圃場整備 | 遠藤恭雄・澤野慶子 | 遺物実測・遺物図版作成 |
| 細池寺道上遺跡 | 26 | 2008006 | 県営圃場整備 | 立木宏明 | 遺物実測・遺物図版作成 |
| 四石遺跡 | 2 | 2008009 | 市理立処分場建設 | 渡邊ますみ・相澤裕子 | 収蔵作業・台帳作成 |
| 細池寺道上遺跡 | 25 | 2007005 | 県営圃場整備 | 潮田憲幸 | 報告書作成 |
| 沖ノ羽遺跡 | 18・19 22・24 | 2005002・2006005・2007004 2008002 | 県営圃場整備 | 遠藤恭雄・澤野慶子 | 遺物実測・報告書作成 |
| 南赤坂遺跡 | 1・2 | 1992116・1993002 | 県指定 | 相澤裕子 | 再整理 |
| 馬場屋敷遺跡ほか | 1・2・3 | 1983006ほか | 再整理 | 相澤裕子・渡邊明和 | 再整理 |
| 試掘確認・工事立会・本発掘調査 再整理事業 | — | — | 各種事業 | 相澤裕子・渡邊明和 | 収蔵作業・台帳作成 |

進め、11月には実測作業を開始した。実測点数は約400点である。前年度までに接合作業を終了していた第19次調査5・6区出土土器についても実測約100点を同時に進めた。

一方、第24次調査出土土器は11月から接合を行い、平成25年1月には実測を開始した。実測点数は約500点である。このうち800点については業者委託によるデジタルトレスを行っている。土器の実測は概ね平成25年2月で終了し、引き続き石製品・木製品の実測を行い、平成25年度に終了している。

整理作業の成果 遺物の中心となるのは古代の土器群である。時期はこれまでの沖ノ羽遺跡と同様、9世紀後半が主体となっている。ただ、8世紀代と考えられる土器群も一定量出土しており、古代の中でもある程度の時期幅が想定される。この他に古墳時代、中世の遺物も出土しているが、建物が伴うなど、集落として一定期間存続していたかどうかは今後の検討課題である。

『沖ノ羽遺跡Ⅵ』報告書は平成27年度に刊行の予定である。(澤野慶子)

6 資料の収蔵・保管

(1) 収蔵方針

平成17年度の新潟市と13周辺市町村との広域合併により、新潟市内の考古資料の収蔵量が飛躍的に増加した。

文化財センターを建設するにあたり、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面等の記録類を一括集中管理することを目指した。一括集中管理することで、木簡等の木製品や金属製品等の脆弱遺物、図面・写真等の記録類は適切な温度・湿度の環境で保管することが可能となった。また、土器や石器等も分散することなく、まとめて収蔵することが可能となった。これにより、文化財センターが行う展示等の活用だけではなく、資料閲覧や貸出等の対応も文化財センターで一括して対応することとなった。また、保存処理前の木製品は大形水槽や大形コンテナケース内で仮収蔵できるように配慮した。

なお、旧豊栄市指定文化財の畠山コレクションのような発掘調査によらない考古資料や個人寄贈・寄託資料に関しては、関係機関との協議を行い、従来どおり各区の博物館や資料館等で保管・管理を行うこととした。

このことにより、博物館等で発掘調査資料を展示する場合には文化財センターから貸し出し、文化財センター

で個人寄贈資料等を展示する際には博物館等から借用するというルールが確立した。また、木簡等の重要遺物で長期間貸し出すことが難しい資料に関しては、文化財センターでレプリカを製作し、それらを貸し出して対応することとした。現在は新潟市歴史博物館に的場遺跡出土品、北区郷土博物館に鳥屋遺跡出土土器のレプリカを貸し出している。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料は(6)に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器等の他、鉄滓類・自然遺物・自然乾燥木製品等を収蔵する。2階と3階にあり、発掘調査による増加量を勘案して、オープン後約15年程度の収蔵可能面積として計画された。コンテナケース（60×40×15cm）換算で4万箱の収蔵が可能である。遺物再整理作業により効率よく収納を行ったので、平成25年12月時点で11,117箱収蔵している。

特別収蔵庫1・2 将来的に重要文化財の収蔵保管も可能な施設として、文化庁美術学芸課・東京文化財研究所の指導を受けて設計された。停電で空調機器が停止しても急激な温度・湿度の変化が生じないように、建物の中心部分に収蔵庫を設けたり、地下に大形ピットを設けたりした。また、年間を通じて温度・湿度管理を行い、照明もUVカット型蛍光灯を使用している。特別収蔵庫は保存処理が完了した木製品・金属製品等を収蔵する施設であるが、低湿地遺跡が多い本市では木製品が多く、その収蔵量を勘案して収蔵面積を計画した。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・CD・DVDなどの記録類を収蔵保管する。また、年間を通じて温度・湿度が一定である。

図書室 新潟市の他、全国で刊行された発掘調査報告書等の考古学・歴史関係図書を中心に収蔵保管している。現在は各自治体から寄贈された報告書の他、新潟大学名誉教授甘粕健氏・奈良大学教授坂井秀弥氏・新潟県考古学会前会長藤塚明氏等からの寄贈図書が収蔵されている。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査に対し調査番号を付けることとした。調査番号のつけ方は下記①のとおりであり、この方針に従って調査記録類は収蔵されることになる。遺物コンテナケース、図面・写真等の記録等全てに調査番号を付したので、調査番号がわかれば、資料の所在場所が直ちに判明することになった。なお、記録の残る新潟市内の最古の発掘調査は、真島衛・中村孝三郎氏による昭和31

(1956)年の六地山遺跡の発掘調査である。下記の②通算発掘調査年次、③事業別調査年次は、発掘調査報告書等に記載される。

①**発掘調査番号** 全ての本発掘調査・試掘確認調査・工事立会に付けられる。

・本調査：年度毎に、西暦の下に001番からの3桁の調査番号を付す（例 2013001）。

・試掘確認調査・工事立会：年度毎に、西暦の下に101番からの3桁の番号を付す（例 2013101）。

②**通算発掘調査年次** 遺跡毎の調査年次・調査回数（例 ○○遺跡第5次発掘調査）。遺跡毎の試掘確認調査・本調査の回数を示すもので、工事立会は含まない。

③**事業別調査年次** 遺跡単位で、調査原因（事業）毎に付けられた調査年次・調査回数（例 △△事業に伴う○○遺跡第2次調査）。

②と③により、○○遺跡第5次発掘調査－△△事業に伴う第2次調査－のように表される。

(4) 再整理作業

文化財センター建設を見据え、平成18年度から考古資料の所在調査を行い、合併市町村にある資料を北区太郎代の埋蔵文化財センターと秋葉区の埋蔵文化財センター新津分室に集め、再整理作業を行った。

再整理作業では、発掘調査報告書や自治体史に図面や写真図版として報告されている遺物については、1点管理台帳を作成することとした。文献を基にすれば、遺物検索が可能で所在場所も直ちにわかるようにするためである。そして、これらの報告書掲載遺物と報告書未掲載遺物を分けてコンテナケースに収蔵し、コンテナケースにはコンテナケース番号を付すとともにコンテナケース台帳を作成した。作業は平成21年度・22年度に緊急雇用対策事業として業者に委託して行うほか、埋蔵文化財センターで臨時職員を直接雇用して行った。作業は国庫補助事業としても行っており、現在も継続中である。

出土品は、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1・2に収蔵保管される①報告書掲載遺物、②報告書未掲載遺物、③試掘確認調査・工事立会遺物、④寄贈品等発掘調査以外の遺物、⑤木製品・骨角器・自然遺物、⑥金属製品・鉄塊等に分けられる。それぞれを区別できるように記号化してコンテナケース番号を付けて収蔵保管している。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

遺構に関しては遺構台帳を作成し、図面や写真等の記録類に関しても保存と活用のために紙やフィルムなどのアナログデータのデジタル化を行った。

全ての発掘調査図面は業者に委託してのデジタルデータ化（jpg・pdf）とするとともに、図面台帳を作成した。

表8 文化財センター収蔵のための再整理作業・資料のデジタル化・データベース化事業一覧

①平成21年度～24年度国庫補助事業

| 事業名 | 形態 | 金額(円) |
|------------------------|------|-----------|
| 平成21年度埋蔵文化財保存活用整備事業 | 直接雇用 | 4,426,365 |
| 平成22年度埋蔵文化財保存活用整備事業 | 直接雇用 | 4,423,440 |
| 平成23年度史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業 | 直接雇用 | 7,122,863 |
| 平成24年度史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業 | 直接雇用 | 4,358,499 |

②平成21年度 緊急雇用創出特別基金事業

| 事業名 | 委託先 | 金額(円) |
|--------------------------|-----------|------------|
| 埋蔵文化財センター図書資料データ作成業務 | ㈱BSNアイネット | 10,449,831 |
| 埋蔵文化財センター図書資料データ作成業務(追加) | ㈱BSNアイネット | 2,572,500 |
| 埋蔵文化財センター写真フィルムデジタル化業務 | ㈱新潟フジカラー | 4,963,959 |
| 旧巻町出土品等再整理事業 | ㈱ノガミ | 10,500,000 |
| 旧巻町出土品等再整理事業(追加) | ㈱ノガミ | 1,879,500 |
| 発掘調査図面類データ作成事業 | ㈱オリス | 12,075,000 |
| 出土品再整理事業(埋文センター) | 直接雇用 | 3,992,750 |
| 出土品再整理事業(新津分室) | 直接雇用 | 2,690,600 |
| 合計 | | 49,124,140 |

③平成22年度 緊急雇用創出特別基金事業

| 事業名 | 委託先 | 金額(円) |
|--------------------------|-----------|------------|
| 埋蔵文化財センター図書資料データ作成業務(追加) | ㈱BSNアイネット | 1,065,750 |
| 埋蔵文化財センター写真フィルムデジタル化業務 | ㈱新潟フジカラー | 9,789,150 |
| 旧豊栄市等出土品再整理事業 | ㈱ノガミ | 15,916,000 |
| 発掘調査図面類データ作成事業 | ㈱オリス | 1,276,800 |
| 出土品再整理事業(埋文センター) | 直接雇用 | 9,819,700 |
| 出土品再整理事業(新津分室) | 直接雇用 | 3,375,500 |
| 合計 | | 41,242,900 |

デジタル化をした図面の枚数は、平成22年度に3,272枚、平成23年度に212枚である。この他に平成22年度には歴史文化課所有の新潟市の古地図等180枚のデジタル化を行った。現在は、発掘調査図面の殆どが業者に委託したデジタルデータ(CADデータ)であるが、手書き図面に関しては今後もデジタル化を継続する必要がある。

また、平成21年度から23年度にかけて写真のデジタル化を行った。業者に委託してフィルムをスキャナーで読み込んでjpgデータにするとともに、写真台帳を作成した。デジタル化したフィルムのカット数は平成21年度に20,104枚、平成22年度に27,403枚、平成23年度に25,572枚である。なお、平成24年度からは発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えて現在はtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関してもデジタルデータがないものに関し全てデジタル化を行った。業者に委託して、各一部ずつ解体してスキャナーで読み込んでpdfデータとした。デジタル化を行った報告書は112冊である。現在は印刷業者に報告書を入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書に関しても平成21年度・22年度に業者に委託して書誌データ(CSV形式)を作成した。データ作成をした図書数は、埋蔵文化財センター所蔵図書と甘粕健氏・坂井秀弥氏から寄贈された約44,000冊である。その後も、図書の寄贈や購入があるために現在も書誌データ登録作業は継続中である。

(6) 民俗資料等

文化財センターの東側に隣接する旧木場小学校校舎は平成16年度から歴史文化課の所管となり、「大形民具収蔵庫」として利用され、現在に至っている。基本計画策定時には、文化財センター敷地内に旧黒崎常民文化史料館として利用されてきた市指定文化財民家旧宅(旧武田家住宅)を移築して、埋蔵文化財と共に活用する計画が立てられた。このような経緯の中、文化財センターに民俗資料収蔵庫が併設されることになった。民俗資料収蔵庫には一部鋼製床組が作られ、面積は416.58㎡である。収蔵庫には旧黒崎常民文化史料館所蔵資料約2,100件^注と旧新潟市所蔵資料の一部約830件が収蔵されている。なお、平成23年度からは非常勤職員を雇用し、新潟市歴史博物館の学芸員の指導を受けながら民俗資料の整理作業や台帳作成を実施している。

収蔵品には蒲原地域の低湿地で使用されていた農具・漁具・生活用具があり、遺跡から出土する遺物に類似するものもあり注目される。また、大形民具収蔵庫にあった木造舟等も収蔵展示しており、エントランスや研修室のガラス窓から見学することが可能となっている。

現在、大形民具収蔵庫の敷地・建物は文化財センターが、収蔵品の民俗資料は全て歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理を行っている。「新潟市文化財センター」は、一般的には埋蔵文化財センターとすべき施設であるが、この民俗資料収蔵庫があるが故に、文化財センターとなったものである。基本計画では考古資料と現代とを繋ぐものとして民俗資料を位置づけており、より一層の活

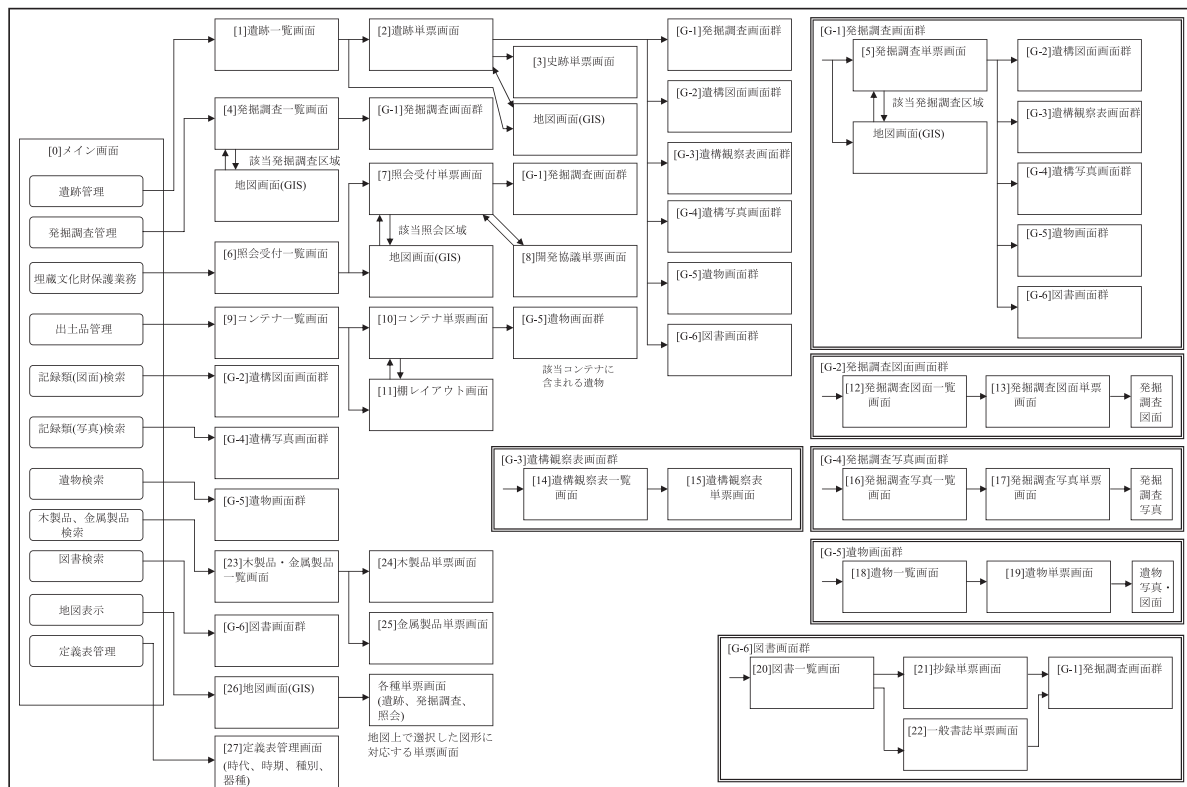


図2 埋蔵文化財情報管理システム画面遷移図

用が望まれる。

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

文化財センター開館に先立って、平成21年度に『埋蔵文化財情報管理システム』を構築した。全庁的な統合型GISのサブシステムとして機能し、背景の地図情報は基本的に統合型GISのデータを利用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。データベース上から地図画面に、逆に地図上からデータベース画面に行くことも容易である。埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的としたものである。

詳細は画面遷移図に記載されているが、機能としては、下記の5項目に大別される。

①埋蔵文化財保護業務 開発事前審査として、照会受付の登録を行う。主に歴史文化課埋蔵文化財係窓口で行う開発事前審査で利用されている。

②地 図 遺跡範囲・開発照会や調査範囲を表示する。背景地図は、住宅地図・国土基本図・地番図・航空写真・米軍撮影航空写真・大正3年旧陸軍作成地図等である。当該地の旧地形が容易にわかるので、開発照会の際に遺跡の存否を推察する重要な根拠になっている。また、地図上には全ての調査範囲、全ての照会範囲が記入され、上記①でその取扱い記録が記入されているので、

周辺で開発照会があった場合には、遺跡カルテのように過去の取り扱い記録を確認することが可能となっている。

③発掘調査記録類管理 遺跡名・発掘調査年度・発掘調査種別・時代等で検索が可能で、発掘調査図面や発掘調査写真・遺構属性表の登録・管理を行う。

④埋蔵文化財・収蔵品管理 遺跡・史跡、出土品等の収蔵品の登録・管理を行う。報告遺物は1点ずつ、未報告遺物はコンテナケース単位で登録・管理を行う。また、報告遺物は遺物属性表の登録も行う。遺物の時代・種別等での検索が可能である。

⑤図書管理 発掘調査報告書・一般図書・定期刊行物等の収蔵図書の書誌情報を登録・管理する。④の埋蔵文化財管理画面から関係文献を検索も可能である。

システムは①埋蔵文化財保護業務では年間5千件以上もある開発事前審査に対し、効率的、迅速な対応が可能になった。一方で、発掘調査記録類の入力が進んでおらず課題となっている。web上に埋蔵文化財情報を公開することを目的としてシステムを構築したが、セキュリティ上や著作権法上の課題があり、遺跡位置と簡単な情報しか公開していないのが現状である。（渡邊朋和）

注 点数ではなく件数としたのは、台帳1件に対し数点の資料が管理されているため。

7 教育普及活動

(1) 展 示

新潟市文化財センター条例の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。旧埋蔵文化財センターでも狭い教室（約31.68㎡）を利用して埋蔵文化財の展示を行っていたが、展示面積は飛躍的に広がった。

文化財センターの展示は以下のような方針で進められた。文化財センターには市内から出土した埋蔵文化財が大量にあり、これからも毎年行う発掘調査で新資料が増えるため、博物館のようにストーリー性を持った固定的な展示ではなく、展示品・グラフィックパネル共に自ら容易に変更できるようにする。そして、出土品をできるだけ多く展示し、出土品そのもので何かを感じ取ってもらうように展示方法を工夫する。ともすれば、展示品ではなく展示解説に目が奪われがちなので展示解説は極力少なくし、来館者には職員やボランティアが展示解説をすることで補っていく。展示は、導入展示・文化財センターの活動・通史展示・企画展示・速報展示の4本立てとする。

グラフィックパネルは壁面に接着剤等で貼り付けてしまうと変更・更新が難しいので、全ての展示ケース壁面にシステムウォールを取り付け、A3・A2サイズ等の既製品のアルミパネルにグラフィックを入れれば、容易に展示替えができるようにした。フックとワイヤーによってパネルを取り付けることもできる。グラフィック製作のために、専用コンピュータソフトやプリンターを購入することも検討したが、コストを考えると業者委託で製作した方が良いとの考えから購入は見送ることとした。開館時の出土品の展示点数は約1,400点である。

また、展示準備室を兼ねて、1階の廊下2の幅を約3.5mと広く取り、予備の展示ケースや展示台を置く場所とした。展示諸室として、速報展示を行うエントランスホール、導入展示を行う展示室1と、主な展示を行う展示室2がある。諸室面積は、エントランスホール207.67㎡・展示室1（導入展示室）57.57㎡・展示室2（展示室）205.24㎡で、展示室1・2併せて262.81㎡である。展示室・展示ケース内の照明は省エネルギーを配慮して全てLEDを利用している。

また、三面ガラスハイケース（2,700×1,200×2,700mm）4台、傾斜型覗きケース（1,800×900×1,000mm）2台、行燈型四面ガラスケース（900×900×2,100mm）2台を用意し、展示替え時に利用できるようにした。

展示室は、文化庁美術学芸課・東京文化財研究所の指導を受けて、将来的に重要文化財の展示可能な施設として設計された。指定品の展示は展示室2を想定し、部屋全体の温度・湿度管理を行うだけでなく、4面あるウォールケースは全てエアタイトケースとし、調湿剤によってケース単位の湿度調整が可能となっている。また、エントランスホールと展示室1、展示室1と展示室2の間には自動ドアを設け、展示室2は外気の流入による急激な温度・湿度の変化が生じないように配慮した。

なお、3年以上経過してもエアタイトケースの木質部に起因すると考えられる酸性・アルカリ性物質やアンモニア成分の濃度がなかなか低くならない状況にある。夜間や休館日にエアタイトケースの扉を開けてサーキュレーターで換気を行うことによって、早急に改善を図っていきたいと考えている。

エントランスホール 新潟市内の砂丘や河川、各時代の遺跡分布状況を示した「文化財センターガイド」のと、各時代の代表的な大形土器を年代順に展示したステージがある。後者には縄文土器1、古墳時代土師器2、平安時代須恵器大甕2、近世大甕4点を展示している。また、可動展示ケースでは速報展示等を行っている。

展示室1 導入展示室兼展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器145点、縄文時代から近世の木製品158点を壁一面に展示している。土器を展示する壁面の高さは3m近くあり、上にある土器の仔細は分からないかもしれないが、各時代の土器の変遷や特徴を一目で見ることができる。また、木製品も古墳時代から近世の遺物を概ね種類ごとにまとめて展示を行っている。

低湿地遺跡が多く、またそこから見つかる木製品も多いという新潟市の遺跡の特徴を来館者に知ってもらうために、多量の木製品展示を計画した。一般的には遺物の保存性から脆弱な木製品の露出展示は避けられる傾向にあるかもしれない。展示した以外に大形の曲物等木製品の優品が数多くあるが、遺物の保存に考慮し、古い発掘調査による自然乾燥木製品を主に展示している。また、保存処理を行った遺物も劣化が進行しないか経過を観察しているが問題は起きていない。また、古代から近世の木簡も多く見つかったが、これらも保存のために実物を展示することができないため、95点のレプリカを製作して展示している。展示室1を訪れた見学者からは、「展示してある遺物は全て本物ですか？ こんなにたくさんさんの遺物が市内から見つかったとは知りませんで

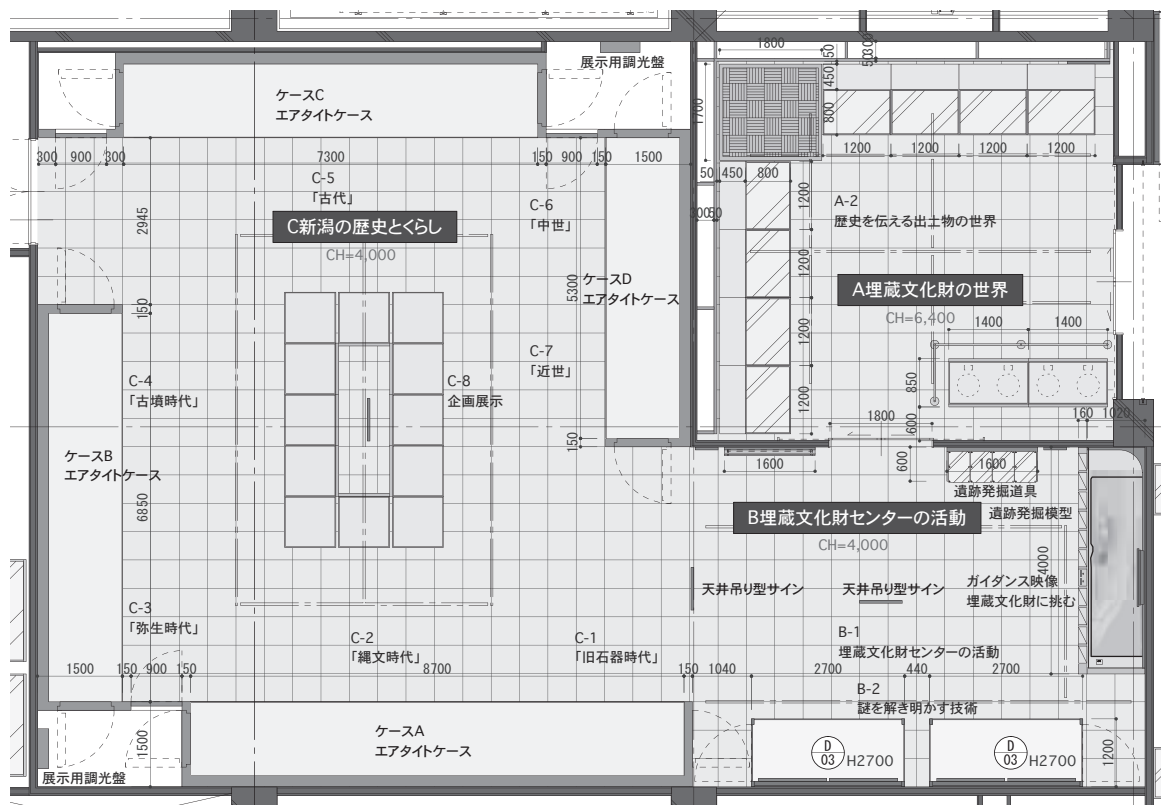


図3 展示室平面図



展示室1



展示室2

した。」というような感想をいただいている。

展示室2「新潟市文化財センターの活動」では、文化財センターが行っている発掘調査現場を再現した西区四十石遺跡のジオラマと、発掘調査・整理作業で使用する器材を展示している。また、作業の流れを解説した映像がある。4面のウォールケースでは「遺跡が語る新潟市の歴史」と題して旧石器時代から江戸時代までの通史展示を行っている。一般になじみの薄い原始・古代・中世・近世等とせず、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥・奈良・平安時代、鎌倉・南北町・室町時代、安土・桃山・江戸時代としている。

中央部分は企画展示コーナーで、900×900mmの展示台

15台で構成され、1台毎にアクリルカバーが付けられている。開館時には「交流 交じり合う文化」と題する企画展を行い、新潟市の埋蔵文化財の特徴である信濃川・阿賀野川・日本海を介して伝わったと考えられる縄文時代から江戸時代までの出土品を展示した。(渡邊朋和)

(2) 公開講座

文化財は歴史的・文化的資産としてだけでなく、地域の成り立ちなどを知る地域資産や教育的資産でもある。新潟市ではこれらの資産を普及事業として積極的に公開・活用し、地域の歴史や文化に対する意識や愛着を育んでいきたいと考えている。

新潟市ではこれまでも遺跡発掘調査速報会や発掘調査

現地説明会、広聴課の「動く市政教室」での遺跡めぐりの開催などを行ってきた。平成23年度に文化財センターの開館により、これまでの事業に加えて募集型の講座やイベントの開催や学校など団体の利用などが可能となった。また、平成21年度より文化財センターの開館を見据えて、ボランティアの募集を行い、開館まで月1回程度の間隔でボランティア講座を行った。

(a) 平成23年度公開講座

講座 開館記念リレー講座として、全5回の日程でセンター職員が各時代をテーマに講座を行った。

体験講座 歴史体験講座・民俗体験講座を開催した。歴史体験講座では縄文土器・土笛作り、「石器を使おう」を行った。また、民俗体験として、敷地内の旧武田家住宅で「昔のあそび」、「かまどでご飯炊き」、「わらぞうりづくり」を行った。特にかまどを使ったごはん炊きは、定員超過となる人気であった。

開館記念シンポジウム 開館記念行事として8月21日(日)に開館記念シンポジウム「遺跡からさぐる新潟の原点」を新潟市民プラザで開催した。このシンポジウムは、「発掘された日本列島展」を開催している新潟市歴史博物館との共催ということもあり、県外からの参加者も多く、約300名の参加があった。また、このシンポジウムの記録集を3月に刊行した。

速報会 平成19年度から毎年開催されている「遺跡発掘調査速報会」では、これまで使用していた会場が定員130名と狭く、希望のする方全員が参加できない状態が続いていたため、平成23年度より会場を定員400名の新潟市民プラザに変更した。これにより当日受付で誰でも参加することが可能になった。アンケートでも、広い会場となってよかったという意見が多く寄せられた一方、さらなる集客の努力を問う意見もあがった。速報会では、その年発掘調査された遺跡の調査報告だけでなく、毎年外部講師を招へいし、記念講演を行っている。平成23年度は、「蒲原平野に古墳を追って三十余年」と題し、新潟大学名誉教授の甘粕健氏を迎え、講演を行っていただいた。甘粕先生はこの年の8月にご逝去され、この講演が先生の最期の講演となった。

ボランティア養成講座 展示解説勉強会のほか接遇・マナー研修を行った。団体見学の際の展示解説や体験活動の際にこの講座を受講したボランティアに活動していただいている。

(b) 平成24年度公開講座

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では「考古学講座二人会」と題し、一つの時代を二人の講師が違う切り口で解説することとし

表9 平成23年度公開講座一覧

| リレー講座 | | | |
|--------------------------|---------------------------------|-------------------------|-----|
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2011/9/24 (土) | 蒲原の縄文文化をさぐる | 前山精明 | 17 |
| 2011/10/30 (日) | 史跡古津八幡山遺跡を展示する | 渡邊明和 | 30 |
| 2011/11/23 (水・祝) | 史跡菖蒲塚古墳と古津八幡山古墳を探る | 相田泰臣 | 31 |
| 2011/12/18 (日) | 新潟の原風景 - 低地に展開した古代の集落 - | 渡邊ますみ | 53 |
| 2012/3/18 (日) | 古代水田を探る | 潮田憲幸 | 34 |
| 歴史体験講座 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2011/8/6 (土) | 子ども歴史体験 (縄文土器を作ろう) | 磯部保衛 | 30 |
| 2011/9/25 (日) | 大人の土器づくり | 磯部保衛 | 11 |
| 2011/9/30 (金) | 大人の土器づくり | 磯部保衛 | 5 |
| 2011/10/1 (土) | 子ども歴史体験 (土笛を作ろう) | 前山精明 | 7 |
| 2012/1/29 (日) | 子ども歴史体験 (石器を使おう) | 立木宏明 | 10 |
| 民俗体験講座 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2011/9/11 (日) | 武田家イベント (昔のあそび 竹トンボ・風車) | わらべ会 | 4 |
| 2011/11/13 (日) | 武田家イベント (昔の暮らし体験 かまどでご飯炊き) | 酒井和男 | 30 |
| 2011/12/11 (日) | 武田家イベント (わらぞうりづくり) | 黒崎民具保存会 | 15 |
| 開館記念シンポジウム「遺跡からさぐる新潟の原点」 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2011/8/21 (日) | 基調講演 日本の中の新潟 | 坂井秀弥 (奈良大学教授) | 300 |
| | 縄文・弥生時代の新潟 | 石川日出志 (明治大学教授) | |
| | 古墳時代の新潟 | 橋本博文 (新潟大学教授) | |
| | 奈良・平安時代の新潟 | 小林昌二 (新潟市歴史博物館館長) | |
| | シンポジウム 「遺跡からさぐる新潟の原点」 | | |
| 新潟市遺跡発掘調査速報会 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2012/2/19 (日) | 報告 古津八幡山古墳 - 県内最大の首長墓 - | 相田泰臣 | 180 |
| | 報告 大沢谷内遺跡 - 縄文・鎌倉の複合集落 - | 潮田憲幸 | |
| | 報告 小坂居付遺跡 - 鎌倉～室町時代の屋敷地と水田 - | 佐藤友子 (新潟県埋蔵文化財調査事業団) | |
| | 講演 蒲原平野に古墳を追って三十余年 | 甘粕健 (新潟大学名誉教授) | |
| ボランティア養成講座 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2011/4/29 (金・祝) | 顔あわせ・縄文原形づくり | 高橋保 | 16 |
| 2011/5/22 (日) | 武田家のかまどでご飯炊き | 黒崎民具保存会 | 10 |
| 2011/6/25 (土) | 展示解説 | 高橋保 | 15 |
| 2011/7/23 (土) | 接遇・マナー | 原田愛 (MCカンパニー) | 13 |
| 2012/3/25 (日) | ふりかえり・次年度新メニュー体験 | 今井さやか | 10 |



平成23年度新潟市遺跡発掘調査速報会

た。民俗学講座については、平成24年度が初めての試みであった。

また観察再現講座とし、ものを観察しその作り方をじっくり学ぶ講座を開催した。特に12月に開催した「曲物の制作工程を見る」では、現在寺泊でせいろ・わっぱ製作

表10 平成24年度公開講座一覧

| 考古学講座 | | | |
|------------------|--|-----------------------------|-----|
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2012/4/28 (土) | 御井戸遺跡と木の文化 | 前山精明 | — |
| 2012/6/24 (日) | 古津八幡山遺跡を探索する ※弥生の丘展示館で開催 | 渡邊明和 | 22 |
| 2012/9/24 (月・休) | 新潟市内の古墳時代集落について | 春日真実 (新潟県埋蔵文化財調査事業団) | 34 |
| | 新潟市の古墳と古津八幡山古墳の調査について | 相田泰臣 | |
| | 水辺に展開した古代の集落 | 渡邊ますみ | |
| 2012/11/23 (金・祝) | 出土文字資料からわかる新潟の古代 | 相澤央 (新潟市歴史文化課) | 34 |
| | 遺跡から出土した中世の舟と内水面交通について | 遠藤恭雄 | |
| | 中世の祈り | 伊藤啓雄 (柏崎市教育委員会) | 40 |
| 2013/1/20 (日) | 新潟移転の伝承について | 南憲一 (元新潟市史編纂課長) | 63 |
| | 近世新潟町跡について | 渡邊ますみ | |
| 観察再現講座 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2012/5/5 (土・祝) | 的場遺跡の和同開珎をつくる | 今井さやか | 8 |
| 2012/6/16 (土) | 大沢遺跡の縄文土器をつくる 【大人向け】3週連続 (6/16、6/23、6/30) | 高橋保、磯部保衛 | 18 |
| 2012/12/1 (土) | 曲物の製作工程をみる | 足立照久 (足立茂久商店11代目) | 15 |
| 2013/2/3 (日) | 石器の製作工程をみる ※弥生の丘展示館で開催 | 磯部保衛 | 15 |
| 民俗講座・体験講座 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2012/5/12 (土) | 蒲原平野の民家と旧武田家住宅の特色について | 山崎完一 (新潟県文化財保護審議委員) | 30 |
| 2012/9/8 (土) | 民具から見た新潟・黒埼地区の特色 | 池田哲夫 (新潟大学教授) | 12 |
| 2012/10/21 (日) | 昔のくらし体験 かまどでご飯炊き | 酒井和男 | 10 |
| 2012/12/8 (土) | 仕事着等衣類からみた新潟の特色 | 長井久美子 (新潟県民俗学会会員) | 15 |
| 夏休み子ども歴史体験 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2012/7/29 (日) | 文化財センター仕事体験 君も考古学者 | 今井さやか | 6 |
| 2012/8/5 (日) | 縄文土器を作ってみよう ~高さ15cmの土器づくり | 今井さやか、 まいぶんポートボランティア | 26 |
| 新潟市遺跡発掘調査速報会 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2013/2/24 (日) | 講演 越後平野の地盤とその生い立ち | 鴨井幸彦 (地質技術者) | 250 |
| | 報告 古津八幡山古墳 -県内最大の古墳はこうして造られた- | 相田泰臣 | |
| | 報告 日本道跡 -亀田砂丘沿いに暮らした古墳時代・平安時代の人々- | 立木宏明 | |
| | 報告 細池寺道上遺跡 -平安時代から鎌倉・室町時代にかけての川辺利用の移り変わり- | 前山精明 | |
| | 報告 大沢谷内遺跡 -大きな井戸がみつかった平安時代の集落- | 潮田憲幸 | |
| | 報告 近世新潟町跡 -中心市街地に眠る日本海側有数の湊町- | 渡邊ますみ | |
| ボランティア養成講座 | | | |
| 年月日 | 内容 | 講師 | 人数 |
| 2012/11/18 (日) | オリエンテーション 新潟市の遺跡概説① | 潮田憲幸、立木宏明、高橋保、 渡邊明和、相田泰臣 | 23 |
| 2012/12/2 (日) | 新潟市の遺跡概説② | 潮田憲幸、相澤裕子、 今井さやか | 25 |
| 2012/12/16 (日) | 弥生時代特論 ※弥生の丘展示館で開催 | 渡邊明和 | 15 |
| 2012/12/23 (日・祝) | 民俗文化財と旧武田家住宅について | 森 行人 (みなとびあ) | 16 |
| 2013/3/3 (日) | 体験講座①土器づくりと火起こし体験 ※弥生の丘展示館で開催 | 磯部保衛 | 11 |
| 2013/3/24 (日) | 体験講座②勾玉づくりと石斧・弓矢体験 ※弥生の丘展示館で開催 | 磯部保衛 | 14 |
| 2013/4/14 (日) | 遺跡の保存と整備活用について ※弥生の丘展示館で開催 | 渡邊明和 | 9 |



平成24年度観察再現講座「曲物の製作工程をみる」



平成24年度夏休み子ども歴史体験
「文化財センター仕事体験 君も考古学者」

していただき盛況であった。

速報会 平成24年度の遺跡発掘調査速報会では、講演の部にこれまでの考古学関連でなく地質技術者の鴨井幸彦氏を講師にお招きした。アンケートでも「自然科学分野からの視点により理解が深まった」「地盤の話聞く機会があまりないのでよかった」などの感想がきかれた。

ボランティア養成講座 弥生の丘展示館の開館もあり、新規にボランティアを募集するためボランティア養成講座を行った。

通史、弥生特論、民具、体験などを11月から翌年3月にかけて行った。講座を受ける期間が長く間隔があいてしまったり、冬期間で来館者が少なく、実際の解説を試す機会を逸してしまったりと、なかなか新規ボランティアの定着にいたらなかった。

(c) 出前講座・職員派遣

文化財センターでは、研究団体、地方自治体、市民団体などに依頼に応じて職員派遣を行っている。新潟市では、通常の派遣申請以外に、市民が市政に関するテーマについて学びたい場合に職員を派遣する「市政さわやかトーク宅配便」制度がある。これはFAXやメールで必要事項を記載し担当課に送れば、その他の書類手続きが不要という簡便さが利点の制度である。

平成23年度 出前講座のテーマとして最も多かったのが古津八幡山遺跡関連である。元々希望の多いテーマではあったが、史跡整備をしている最中ということもあ

を行っている講師から製作実演や遺跡出土の曲物との共通点・相違点について解説いただき大変好評であった。

体験イベント 子ども向け歴史体験「縄文土器づくり」「文化財センター仕事体験」を夏休みに開催した。また、民俗体験の「かまどでご飯炊き」を開催した。

はじめての試みとしては、西区地域課主催の西区ふれあいまつりに出店し、弥生の丘展示館の人気メニューである弓矢体験を行った。安全確保のために野球場ブルベンを利用しての体験だったが、2日間で730名から体験

り、特に関心が高かった。

平成24年度 講座形式の依頼以外に「火起こし体験」や「縄文土器づくり」などの体験活動を目的とした派遣が増加した。

(3) 施設利用

文化財センターでは、展示見学のほかに「体験コーナー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができるスペースを設置している。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として新潟市から出土した土器をもとに制作した「土器パズル」が4点ある。

また、旧武田家住宅及び体験広場（芝生）の貸出（有料）を行っている。利用状況は表12のとおりである。

(a) 平成23年度

平成23年度の個人向けの体験として、滑石を使用した「勾玉づくり」や文化財センターの仕事を体験する「拓本体験」を、団体向けには「火起こし体験」、「土器・土偶づくり」を行っている。

個人向け体験では、特に「勾玉づくり」に人気があり、一人で何個も作る小学生がいたほどである。無料体験の土器パズルも破面に磁石を埋め込んだ立体的なパズルで、小さな子どもを中心に大変好評である。センターでは、パズルと一緒にストップウォッチを置き、完成までのタイムをはかり、ランキング表を作成している。このため、何度もチャレンジする子ども

表11 平成23年度・24年度職員派遣一覧

| 平成23年度 | | | | | |
|------------------|---|-------------------|----------------|---------------|--|
| 年月日 | 用件 | 会場 | 依頼者 | 派遣職員名 | |
| 2011/6/5 (日) | 講演 八幡山遺跡の意義と重要性 ～国指定に至るまで | 古津八幡山遺跡 | 郷土に親しむ会 | 渡邊明和 | |
| 2011/9/15 (木) | 八幡山遺跡について | 古津八幡山遺跡 | 新津第二中学校 | 渡邊明和 | |
| 2011/10/2 (日) | 古津八幡山遺跡 | 古津八幡山遺跡 | 新潟県地名研究会 | 相田泰臣 | |
| 2011/10/10 (月・祝) | 大江山縄文市 | 大江山公園 (江南区) | 大江山縄文市実行委員会 | 廣野耕造 今井さやか | |
| 2011/10/16 (日) | 講演 古津八幡山遺跡のなりたちと周辺の環境、 遺跡の保存等について | 古津八幡山遺跡 | NPO法人にいがた里山研究会 | 渡邊明和 | |
| 2011/10/27 (木) | 遺跡について (大沢谷内遺跡発掘現場と古津八幡山遺跡) | 大沢谷内遺跡 古津八幡山遺跡 | 小須戸小学校 | 潮田憲幸 相田泰臣 | |
| 2011/12/2 (金) | 江南区郷土資料館のあり方に関する懇談会オ プザーバー | 亀田郷土資料館 | 江南区地域課 | 今井さやか | |
| 2012/1/20 (金) | 町上遺跡出土遺物 (土器) の整理方法指導 | 上越市柿崎区 | 新潟県埋蔵文化財調査事業団 | 高橋 保 | |
| 平成24年度 | | | | | |
| 年月日 | 内容 | 会場 | 依頼者 | 派遣職員名 | |
| 通年 | 個別研究 「新潟県域の弥生時代の研究」研究協力者 | 新潟県立歴史博物館 | 新潟県立歴史博物館 | 渡邊明和 | |
| 通年 | 三条市出土の縄文土器の修復・復元指導 | 三条市埋蔵文化財調査室 | 三条市生涯学習課 | 寺崎裕助 | |
| 通年 | 耳取遺跡調査指導委員 | 耳取遺跡 (見附市) | 見附市教育委員会 | 寺崎裕助 | |
| 2012/5/1 (火) | 火起こし体験 | 大夫浜小学校 | 大夫浜小学校 | 今井さやか | |
| 2012/5/19 (土) | 縄文土器づくり | 馬高縄文館 | 長岡市立科学博物館 | 磯部保衛 | |
| 2012/6/2 (土) | 講演 大沢谷内遺跡の形成と石油資源の利用 | 小須戸地区ふれあい会館 | 秋葉区地域課 | 前山精明 | |
| 2012/6/14 (木) | 講演 国史跡古津八幡山遺跡の保存整備と活用 | 新潟会館 | 新潟県文化財保護連盟 | 渡邊明和 | |
| 2012/7/28 (土) | 縄文土器づくり (石器まつり準備) | 馬高縄文館 | 長岡市立科学博物館 | 磯部保衛 | |
| 2012/7/29 (日) | ふじはし石器まつり | 藤橋歴史の広場 | 長岡市立科学博物館 | 磯部保衛 | |
| 2012/8/2 (木) | 縄文体験実習 | 農と縄文の体験実習館 | 津南町教育委員会 | 磯部保衛 | |
| 2012/8/3 (金) | 講演 火炎土器のルーツをさぐる | 馬高縄文館 | 長岡市立科学博物館 | 寺崎裕助 | |
| 2012/10/8 (月・祝) | 大江山縄文市 | 大江山公園 (江南区) | 大江山地区コミュニティ協議会 | 廣野耕造 今井さやか | |
| 2012/10/9 (火) | 六反田南遺跡調査指導 | 六反田南遺跡 (糸魚川市) | 新潟県埋蔵文化財調査事業団 | 寺崎裕助 | |
| 2012/10/29 (月) | 世界遺産関連史跡等の視察ならびに指導 | 佐渡博物館ほか | 佐渡市 | 高橋 保 | |
| 2012/11/11 (日) | 講演 面の中には何がわまっている？ 亀田の遺跡 | がっここむかめだ | NPO法人ボランティア亀田 | 今井さやか | |
| 2012/11/11 (日) | 講演 新潟県における古墳時代の集落と古墳 | 新潟大学五十嵐キャンパス | 新潟史学会 | 相田泰臣 | |
| 2012/11/27 (火) | 科学研究費補助金「先史時代の儀礼食の研究」 土器使用実験・サンプリング | 農と縄文の体験実習館 | 新潟県立歴史博物館 | 寺崎裕助 | |
| 2012/12/22 (土) | 講演 新潟市古津八幡山古墳の調査成果 | 新潟市歴史博物館 | 文化財保存新潟県協議会 | 相田泰臣 | |
| 2013/1/11 (金) | 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修 「縄文時代前期～後期の土器の留意点」 | 新潟県埋蔵文化財センター | 新潟県教育庁文化行政課 | 寺崎裕助 | |
| 2013/1/27 (日) | 講演 新潟市の縄文時代の低湿地遺跡 | 新潟市民プラザ | 信濃川火焔街道連携協議会 | 前山精明 | |

表12 平成24年度旧武田家住宅利用状況

| 年月日 | 利用者名 | 目的 |
|----------------|--------------|---------|
| 2012/7/1 (日) | 山口拓郎 (黒埼とんと) | 語り部の会 |
| 2012/10/12 (金) | 柗自遊人 | かまど写真撮影 |

表13 平成23年度・24年度体験利用人数

| 平成23年度 | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|
| 個人 | | | | | | | | | | | | | |
| メニュー | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 拓本体験 | - | - | - | 1 | 71 | 19 | 24 | 14 | 1 | 6 | 2 | 20 | 158 |
| 勾玉づくり | - | - | - | 8 | 157 | 52 | 27 | 30 | 6 | 37 | 14 | 33 | 364 |
| 勾玉づくり (スピード) | - | - | - | 14 | 45 | 9 | 9 | 4 | 2 | 3 | 6 | 15 | 107 |
| 合計 | - | - | - | 23 | 273 | 80 | 60 | 48 | 9 | 46 | 22 | 68 | 629 |
| 団体 | | | | | | | | | | | | | |
| メニュー | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 拓本体験 | - | - | - | 0 | 124 | 116 | 115 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 355 |
| 勾玉づくり | - | - | - | 0 | 0 | 0 | 2 | 76 | 0 | 0 | 0 | 0 | 78 |
| 土器・土偶づくり | - | - | - | 0 | 0 | 244 | 91 | 39 | 0 | 0 | 0 | 0 | 374 |
| 火起こし体験 | - | - | - | 0 | 0 | 244 | 79 | 76 | 39 | 0 | 0 | 0 | 438 |
| 合計 | - | - | - | 0 | 124 | 604 | 287 | 152 | 78 | 0 | 0 | 0 | 1,245 |
| 平成24年度 | | | | | | | | | | | | | |
| 個人 | | | | | | | | | | | | | |
| メニュー | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 拓本体験 | 8 | 3 | 4 | 5 | 20 | 1 | 2 | 3 | 0 | 3 | 0 | 6 | 55 |
| 勾玉づくり | 54 | 92 | 32 | 50 | 171 | 52 | 42 | 42 | 9 | 26 | 12 | 39 | 621 |
| 勾玉づくり (スピード) | 9 | 15 | 2 | 2 | 9 | 4 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 2 | 50 |
| 鑄造体験 | 26 | 25 | 8 | 18 | 78 | 2 | 7 | 17 | 0 | 0 | 3 | 3 | 187 |
| 合計 | 97 | 135 | 46 | 75 | 278 | 59 | 55 | 65 | 9 | 29 | 15 | 50 | 913 |
| 団体 | | | | | | | | | | | | | |
| メニュー | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
| 拓本体験 | 44 | 0 | 0 | 0 | 108 | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 159 |
| 勾玉づくり | 0 | 0 | 0 | 76 | 77 | 51 | 85 | 42 | 99 | 0 | 0 | 22 | 452 |
| 鑄造体験 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 17 | 0 | 7 | 0 | 0 | 33 |
| 土器・土偶づくり | 265 | 5 | 0 | 0 | 68 | 134 | 11 | 0 | 17 | 13 | 0 | 0 | 513 |
| 火起こし体験 | 265 | 34 | 0 | 16 | | 185 | 94 | 0 | 97 | 13 | 0 | 22 | 726 |
| 合計 | 574 | 39 | 0 | 92 | 253 | 370 | 203 | 62 | 213 | 33 | 0 | 44 | 1,883 |

表14 平成23年度・24年度文化財センター入館者数

| 平成23年度 | | | | | 平成24年度 | | | | |
|--------|-------------|---------|-------|-------|--------|-------------|---------|-------|--------|
| 月 | 開館日数 (日) | 入館者数(人) | | | 月 | 開館日数 (日) | 入館者数(人) | | |
| | | 個人 | 団体 | 計 | | | 個人 | 団体 | 計 |
| 4 | - | - | - | - | 4 | 26 | 1,025 | 636 | 1,661 |
| 5 | - | - | - | - | 5 | 25 | 996 | 235 | 1,231 |
| 6 | - | - | - | - | 6 | 26 | 816 | 194 | 1,010 |
| 7 | 2 | 313 | 0 | 313 | 7 | 26 | 743 | 383 | 1,126 |
| 8 | 26 | 2,477 | 149 | 2,626 | 8 | 27 | 937 | 270 | 1,207 |
| 9 | 26 | 1,225 | 679 | 1,904 | 9 | 25 | 646 | 390 | 1,036 |
| 10 | 26 | 1,136 | 353 | 1,489 | 10 | 26 | 527 | 409 | 936 |
| 11 | 25 | 685 | 274 | 959 | 11 | 24 | 506 | 238 | 744 |
| 12 | 20 | 404 | 71 | 475 | 12 | 23 | 426 | 43 | 469 |
| 1 | 24 | 509 | 34 | 543 | 1 | 24 | 401 | 13 | 414 |
| 2 | 24 | 519 | - | 519 | 2 | 24 | 319 | 20 | 339 |
| 3 | 24 | 826 | 125 | 951 | 3 | 26 | 614 | 129 | 743 |
| 合計 | 197 | 8,094 | 1,685 | 9,779 | 合計 | 302 | 7,956 | 2,960 | 10,916 |

もも多く見受けられる。

(b) 平成24年度

平成24年度には、新たに低融合金を使用した鋳造体験の「和同開珎づくり」のメニューが加わり、個人・団体それぞれで体験できるようになった。

多くのお客様に楽しんでいただいている一方、なぜ「和同開珎づくり」がメニューにあるのか(市内の的場遺跡や緒立遺跡で出土している。)といった文化財センター側の意図を伝えていかなければならない。

また、団体向けの火起こし体験や土器づくりについても個人で体験できるようにしてほしいという要望がよせられている。

(4) 入館者数

当センターの入館者数は表15のとおりである。入館者の年齢別は統計をとっていないが、中年層から高齢者層が多い。また、体験メニューを目的とする子ども連れの若い世代もいる。

入館者のアンケートからは、「新潟市にこんなに遺跡があるなんて驚いた」、「体験ができて面白い」といった意見がある一方、「立派な施設なのにPRが足りない。もったいない。」「表示看板が少なく、道に迷った。」等のご指摘をいただいた。

平成23年度 開館初年度ということもあり、個人が多かった。

平成24年度 個人の来館者が減少し、一方で、団体は増加している。

平成25年3月末までの開館からの累計入館者数は20,695人である。

(5) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4月・5月には6学年の歴

表15 平成23年度団体利用・行政視察一覧

| 団体利用(学校以外) | | | |
|---------------|---------------------------|-------------|-------|
| 年月日 | 団体名 | 利用内容 | 人数 |
| 2011/8/23(火) | 動く市政教室 【個人参加 埋蔵文化財と岩室】 | 見学・拓本 | 33 |
| 2011/8/26(金) | 山形大学田中研究室 | 見学・火起こし | 13 |
| 2011/8/28(日) | 新潟交通の旅「くれよん」 | 見学 | 30 |
| 2011/8/31(水) | 動く市政教室 【個人参加 埋蔵文化財と岩室】 | 見学・拓本 | 33 |
| 2011/9/1(木) | 動く市政教室 【個人参加 埋蔵文化財と岩室】 | 見学・拓本 | 33 |
| 2011/9/6(火) | 動く市政教室 【個人参加 埋蔵文化財と岩室】 | 見学・拓本 | 33 |
| 2011/9/11(日) | 立仏連合自治会 | 見学 | 82 |
| 2011/9/13(火) | 西区連合商工会女性部 | 見学 | 37 |
| 2011/9/15(木) | 新潟市坂井輪地区公民館 | 見学 | 50 |
| 2011/9/21(水) | 新潟市教育委員会横越地区公民館 | 見学 | 30 |
| 2011/9/27(火) | 新潟市消費者協会白根支部 | 見学 | 20 |
| 2011/9/29(木) | 西川地区老人クラブ協議会 | 見学 | 33 |
| 2011/9/30(金) | 生涯学習ボランティア「ひだまり」 | 見学 | 40 |
| 2011/9/30(金) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 36 |
| 2011/10/4(火) | ケアハウス有明 | 見学・拓本・土偶 | 10 |
| 2011/10/4(火) | 介護老人保健施設 回生園 | 見学・拓本 | 19 |
| 2011/10/5(水) | 黒埼商工会 | 見学 | 22 |
| 2011/10/5(水) | 介護老人保健施設 回生園 | 見学・勾玉 | 16 |
| 2011/10/6(木) | 介護老人保健施設 回生園 | 見学・土偶 | 11 |
| 2011/10/12(水) | 燕市吉田郷土史研究会 | 見学 | 10 |
| 2011/10/12(水) | みんなの茶の間 上山 | 見学・拓本・勾玉・土偶 | 20 |
| 2011/10/12(水) | 動く市政教室「二葉町3丁目自治会」 | 見学・拓本 | 30 |
| 2011/10/19(水) | 新潟市湯東地区公民館 青空学級 | 見学・拓本 | 14 |
| 2011/10/21(金) | 活き活き再彩Club(坂井輪公民館内) | 見学・火起こし | 25 |
| 2011/10/26(水) | NHK文化センター新潟教室 | 見学 | 15 |
| 2011/11/4(金) | 動く市政教室「五十嵐二の町自治会」 | 見学 | 25 |
| 2011/11/9(水) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 20 |
| 2011/11/17(木) | 坂井輪地区公民館 利用団体連絡協議会 | 見学 | 40 |
| 2011/11/18(金) | 動く市政教室 【内野地区自治連絡協議会】 | 見学 | 30 |
| 2011/11/20(日) | ボーイスカウト新潟第7団 カブ・ビーバー隊 | 見学・火起こし・土偶 | 13 |
| 2011/11/22(火) | 根岸地区社会福祉協議会 | 見学 | 15 |
| 2011/11/23(水) | 岩室民俗史料館友の会 | 見学 | 27 |
| 2011/11/25(金) | 亀田西小学校 コミュニティー協議会 | 見学・火起こし | 28 |
| 2011/12/7(水) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 32 |
| 2012/1/21(土) | 熊倉一義(旧自治会長) | 見学 | 10 |
| 2012/3/13(火) | 動く市政教室 【新潟エネルギー市民懇談会】 | 見学 | 30 |
| 2012/3/14(水) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 40 |
| 2012/3/15(木) | 長湯新観寿会 | 見学 | 23 |
| 2012/3/16(金) | (公財)新潟市国際交流協会 | 見学・火起こし | 10 |
| 2012/3/22(木) | 動く市政教室 【みのりクラブ】(中央区) | 見学 | 22 |
| 合計 | | | 1,060 |
| 団体利用(学校) | | | |
| 年月日 | 団体名 | 利用内容 | 人数 |
| 2011/9/2(金) | 黒埼南小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 43 |
| 2011/9/16(金) | 立仏小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 80 |
| 2011/9/27(火) | 黒崎中学校 | 調べ学習 | 10 |
| 2011/9/29(木) | 坂井輪小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 127 |
| 2011/10/7(金) | 桜ヶ丘小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 79 |
| 2011/10/19(水) | 黒埼南小学校 | 見学 | 49 |
| 2011/11/10(木) | 坂井東小学校 | 見学・勾玉 | 76 |
| | 茨曾根小学校 | 見学 | |
| 2011/12/20(火) | 庄瀬小学校 | 火起こし | 39 |
| | 新飯田小学校 | 土偶 | |
| 2012/1/26(木) | 黒埼南小学校 | 見学・民具 | 24 |
| 合計 | | | 527 |
| 行政視察 | | | |
| 年月日 | 団体名 | 利用内容 | 人数 |
| 2011/8/3(水) | 青少年文化財講座 | 施設見学 | 9 |
| 2011/8/6(土) | 下越社会科サークル | 施設見学 | 9 |
| 2011/8/24(水) | 黒崎教育協議会・ 総合的な学習推進委員会 | 施設見学 | 13 |
| 2011/8/24(水) | 京都府久世郡久御山町議会 | 施設見学 | 9 |
| 2011/9/2(金) | 西区校長会 | 施設見学 | 25 |
| 2011/9/9(金) | 埋蔵文化財担当職員等講習会 | 施設見学 | |
| 2011/10/7(金) | 湯東中学校社会科教員 | 施設見学 | 3 |
| 2011/10/13(木) | 内野コミュニティ協議会 | 施設見学 | 30 |
| 2011/11/30(水) | 小千谷市教育委員会 | 施設見学 | 6 |
| 合計 | | | 104 |

表16 平成24年度団体利用・行政視察一覧

団体利用（学校以外）

| 年月日 | 団体名 | 利用内容 | 人数 |
|----------------|--------------------------------|------------------|-------|
| 2012/4/8 (日) | 新潟歩く会 | 見学 | 85 |
| 2012/4/12 (木) | 動く市政教室 [新潟市視覚障害者福祉協会女性部] | 見学・拓本 | 40 |
| 2012/4/13 (金) | 西区総務課 | 見学 | 30 |
| 2012/4/25 (水) | 西区総務課 | 見学 | 30 |
| 2012/4/26 (木) | 動く市政教室「寺尾中央公園自治会」 | 見学 | 41 |
| 2012/4/27 (金) | 小針小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 142 |
| 2012/5/9 (木) | 動く市政教室「深雪2012」(西区) | 見学 | 26 |
| 2012/5/10 (水) | 亀田東小学校区コミュニティ協議会 | 見学 | 24 |
| 2012/5/10 (木) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 30 |
| 2012/5/12 (土) | 剣野ふるさと学校 | 見学 | 34 |
| 2012/5/16 (水) | 中野山中央やまびこ会 | 見学・火起こし | 25 |
| 2012/5/22 (火) | 動く市政教室「東青山親和会」 | 見学 | 21 |
| 2012/5/22 (火) | 横越かたりベサークル | 見学 | 10 |
| 2012/5/23 (水) | 動く市政教室「物見山北新会」 | 見学 | 36 |
| 2012/6/8 (金) | ビーチサロン長場 | 見学 | 21 |
| 2012/6/9 (土) | 障害者団体「この指とまれの会」 | 見学 | 14 |
| 2012/6/12 (火) | 動く市政教室「個人参加 遺跡を学ぼう」 | 見学・バックヤード見学 | 30 |
| 2012/6/14 (木) | 動く市政教室「個人参加 遺跡を学ぼう」 | 見学・バックヤード見学 | 30 |
| 2012/6/15 (金) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 30 |
| 2012/6/21 (木) | 動く市政教室「輪之内自治会」 | 見学 | 26 |
| 2012/6/27 (水) | 動く市政教室 [小須戸小学校区コミュニティ協議会] | 見学 | 31 |
| 2012/6/30 (土) | 新潟県高齢者大学教養講座2Aクラス 史跡同好会 | 見学・勾玉 | 12 |
| 2012/7/1 (日) | 女池西6区子供会 | 見学・勾玉 | 29 |
| 2012/7/3 (火) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 30 |
| 2012/7/4 (水) | 動く市政教室「東区山木戸14区自治会」 | 見学 | 25 |
| 2012/7/5 (木) | 動く市政教室「牡丹山第一睦会」 | 見学 | 31 |
| 2012/7/10 (火) | 動く市政教室「大形地区コミュニティ協議会」 | 見学 | 36 |
| 2012/7/22 (日) | ボーイスカウト新潟第5団 | 見学・勾玉・和同開珎 | 18 |
| 2012/7/24 (火) | 浦木さわやか会 | 見学 | 24 |
| 2012/7/24 (火) | 中浦みどり森林組合 | 見学・火起こし | 15 |
| 2012/7/28 (土) | 上大月老人クラブ | 見学 | 14 |
| 2012/7/29 (日) | 下組子供会 | 見学・勾玉 | 30 |
| 2012/7/29 (日) | 木津子供会 | 見学・勾玉 | 50 |
| 2012/7/29 (日) | 7・8番町子供会 | 見学・火起こし | 16 |
| 2012/8/3 (金) | 坂井輪中学校区青少年育成協議会 | 見学・勾玉・土偶 | 50 |
| 2012/8/5 (日) | 寺尾山の手自治会 | 見学・勾玉・土偶 | 8 |
| 2012/8/8 (水) | 動く市政教室「西区 青山三区子供会」 | 見学・拓本 | 38 |
| 2012/8/9 (木) | 動く市政教室 「東区 アパガーデンコート東新潟子供会」 | 見学・勾玉(速) | 32 |
| 2012/8/17 (金) | 動く市政教室「西区 いきいき男のセミナー」 | 見学・火起こし・拓本 | 31 |
| 2012/8/21 (火) | 白根地区公民館 | 見学・和同開珎 | 25 |
| 2012/8/28 (火) | スポーツガーデン 友の会 プラス | 見学・火起こし・勾玉・土偶 | 11 |
| 2012/8/30 (木) | 小さな美術館 季(とき) | 見学・火起こし・拓本・勾玉・土偶 | 15 |
| 2012/9/2 (日) | にいがた観光ツアーバス めぐるん号 | 見学 | 16 |
| 2012/9/4 (火) | 動く市政教室「個人参加 発掘現場を見てみよう」 | 見学・民具講座 | 17 |
| 2012/9/4 (火) | 早通シニアクラブ | 見学 | 17 |
| 2012/9/6 (木) | 動く市政教室「個人参加 発掘現場を見てみよう」 | 見学・民具講座 | 16 |
| 2012/9/12 (水) | 道上ヶ丘自治会 | 見学 | 17 |
| 2012/9/13 (木) | 動く市政教室「にいつ21」 | 見学 | 27 |
| 2012/9/20 (木) | 坂井中団地シニアクラブ | 見学 | 27 |
| 2012/9/21 (金) | ふたかみ史遊会 | 見学 | 28 |
| 2012/9/29 (土) | ガールスカウト新潟県第10団 | 見学・勾玉・土偶 | 13 |
| 2012/10/2 (火) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 28 |
| 2012/10/9 (火) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 25 |
| 2012/10/12 (金) | 株式会社自遊人 | 武田家利用 | 5 |
| 2012/10/16 (火) | あかし会 | 見学 | 35 |
| 2012/10/16 (火) | 動く市政教室 「中央区 豊照地区連合町内 婦人部」 | 見学 | 30 |
| 2012/10/17 (水) | 早通地域コミュニティ委員会 | 見学 | 20 |
| 2012/10/18 (木) | 早通地域コミュニティ委員会 | 見学 | 20 |
| 2012/10/20 (土) | 小瀬小学校学年行事 | 見学・火起こし・勾玉・土偶 | 23 |
| 2012/10/21 (日) | ぶっく・スワンボランティア 有志の会 | 見学 | 14 |
| 2012/10/30 (火) | 満日コミュニティ協議会 | 見学 | 28 |
| 2012/11/7 (水) | あいづ商工会 | 見学 | 17 |
| 2012/11/9 (金) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 32 |
| 2012/11/9 (金) | 動く市政教室「東区 石山よかクラブ2」 | 見学 | 26 |
| 2012/11/10 (土) | 湯東南小学校 学年行事 | 見学・火起こし・勾玉・土偶 | 34 |
| 2012/11/11 (日) | 大安場史跡公園ボランティア | 見学 | 26 |
| 2012/11/18 (日) | 信濃川火焔街道連携協議会 | 見学 | 25 |
| 2012/12/5 (水) | 地域のお茶の間サロン 貝柄サロン | 見学 | 17 |
| 2012/12/26 (水) | NHK文化センター教養講座 | 見学 | 13 |
| 2013/1/27 (日) | ボーイスカウト新潟第7団 カブ・ビーバー隊 | 見学・火起こし・土偶・和同開珎 | 13 |
| 2013/3/13 (水) | 西区役所健康福祉課 | 見学 | 25 |
| 2013/3/15 (金) | 豊栄統計調査員協議会 | 見学 | 14 |
| 2013/3/16 (土) | 根岸ひまわりクラブ | 見学・火起こし・勾玉 | 58 |
| 2013/3/23 (土) | 動く市政教室(市企画 個人参加 小学生以上) | 見学 | 16 |
| 合計 | | | 2,018 |

団体利用（学校）

| 年月日 | 団体名 | 利用内容 | 人数 |
|----------------|--------|------------------|-----|
| 2012/4/11 (水) | 笠木小学校 | 見学・勾玉 | 5 |
| 2012/4/18 (水) | 大鷲小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 32 |
| 2012/4/24 (火) | 藤見中学校 | 総合学習 | 5 |
| 2012/4/25 (水) | 浜浦小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 68 |
| 2012/4/26 (木) | 根岸小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 33 |
| 2012/4/26 (木) | 黒崎南小学校 | (※避難訓練) | 185 |
| 2012/4/27 (金) | 小針小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 142 |
| 2012/5/25 (金) | 湯東東小学校 | 見学・火起こし | 24 |
| 2012/5/25 (金) | 上山中学校 | 見学・土偶 | 5 |
| 2012/5/31 (木) | 下山中学校 | 見学 | 15 |
| 2012/9/27 (木) | 笹口小学校 | 見学・拓本・勾玉 | 53 |
| 2012/9/28 (金) | 坂井輪小学校 | 見学・火起こし・土偶 | 140 |
| 2012/10/10 (水) | 黒崎中学校 | 地域体験学習 | 25 |
| 2012/10/11 (木) | 湯東中学校 | 見学 | 68 |
| 2012/10/12 (金) | 濁川小学校 | 見学・勾玉 | 74 |
| 2012/10/12 (金) | 松野尾小学校 | 見学・拓本・勾玉 和同開珎 | 14 |
| 2012/11/20 (火) | 坂井東小学校 | 見学・火起こし・勾玉 | 78 |
| 合計 | | | 966 |

行政視察・研究会

| 年月日 | 団体名 | 利用内容 | 人数 |
|----------------|-----------------|------------------|-----|
| 2012/7/3 (火) | 魚沼市文化財保護審議会 | 施設見学 | 9 |
| 2012/7/20 (金) | 指定都市文化財行政主管者協議会 | 施設見学 | 30 |
| 2012/7/24 (火) | 西蒲区自治協議会研修視察 | 施設見学 | 35 |
| 2012/8/24 (金) | 古代史サマーセミナー | 木簡調査 | 30 |
| 2012/9/20 (木) | 西蒲区校長会 | 施設見学 | 19 |
| 2012/12/14 (金) | 北区小学校長会 | 施設見学 | 13 |
| 2013/2/17 (日) | 北海道・東北保存科学研究会 | 施設見学 | 20 |
| 2013/3/19 (火) | 聖籠町教育委員会 | 施設見学 | 10 |
| 2013/3/24 (日) | 国立歴史民俗博物館研究グループ | 近世新潟町跡 出土遺物調査 | 6 |
| 合計 | | | 172 |



子供に大人気の土器パズル



鑄造体験 和同開珎づくり

表17 平成23年度資料利用対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

| 件数 | 申請者 | 資料 | 点数 | 来館日 | 備考 |
|----|-----------------------------------|--|------------------|-------------|--------------------------------------|
| 1 | 国立歴史民俗博物館・共同研究「中世の技術と職人に関する総合的研究」 | 浦廻遺跡 出土資料 馬場屋敷遺跡 出土資料 | 39箱 101箱 | 平成23年 8月 9日 | 中世の生産技術等に関する調査・研究 |
| 2 | 北陸中世考古学研究会 | 馬場屋敷遺跡 出土資料 | 115箱 | 平成23年 8月14日 | 中世の生産技術等に関する調査・研究 |
| 3 | 個人 | 上浦遺跡 土器 | 3 | 平成23年 9月29日 | 古代の土器に関する調査・研究 |
| 4 | 西相模考古学研究会 | 正尺C遺跡 土器 西郷遺跡 土器・石器 | 102 6 | 平成23年10月 2日 | 弥生時代～古墳時代前期における日本海側の様相を関東の様相と比較検討 |
| 5 | 個人 | 馬場屋敷遺跡 鋸 | 1 | 平成23年10月 8日 | 鋸の研究 |
| 6 | 個人 | 新谷遺跡 土器 笹山前遺跡 土器 南赤坂遺跡 土器 | 28 2 15 | 平成23年11月28日 | 卒論執筆 |
| 7 | 新潟県立歴史博物館 | 大沢遺跡 土器 | 21 | 平成24年 2月22日 | 個別研究「縄文土器からみた新潟県における前期と中期の境界」に伴う資料調査 |
| 8 | 新潟県の近世陶磁器を見る会 | 江内遺跡 土器・陶磁器 近世新潟町跡（広小路堀地点） 陶磁器・土製品・石製品・木製品 小丸山遺跡 土器・陶磁器 | 365 166 19 | 平成24年 3月24日 | 遺跡出土近世陶磁器調査 |
| 9 | 個人 | 緒立遺跡 出土資料 | — | 平成24年 3月24日 | 種実圧痕の探索とレプリカ法調査 |

貸出許可

| 件数 | 申請者 | 資料 | 点数 | 貸出期間 | 備考 |
|----|------------------------|----------------------------|----------|----------------------------|---|
| 1 | 医療社団法人 幸人会 理事長 阿達敏幸 | 諏訪畑遺跡 土器 展示ケース | 5 1 | 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日 | 来訪者への鑑費用 |
| 2 | 新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春 | 鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ | 20 12 | 平成23年4月20日～ 平成24年3月31日 | 企画展「北区のお宝ものがたり」にて展示 常設展示 |
| 3 | 十日町市博物館 館長 平野 勝 | 鳥屋遺跡 土製垂飾 | 2 | 平成23年7月4日～ 9月27日 | 夏季特別展「縄文のKAZARI - 顔を飾る縄文人 -」にて展示 |
| 4 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 味方排水機場遺跡ほか 縄文土器ほか | 15 | 平成23年7月20日～ 9月17日 | 「発掘された日本列島2011」地域展「海拔0m以下で発見される遺跡」にて展示 |
| 5 | 新潟市西川地区公民館 館長 布施正男 | 中才遺跡 須恵器横瓶 | 1 | 平成23年7月29日～ 平成24年3月31日 | 西川学習館にて展示 |
| 6 | 新潟市中之口先人館 館長 南波友栄 | 茶院A遺跡 土師器ほか | 8 | 平成23年7月29日～ 平成24年3月31日 | 中之口資料館（澤将監の館内）にて展示 |
| 7 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 笹山前遺跡 土器ほか 的場遺跡 木製品レプリカ | 84 54 | 平成23年7月29日～ 平成24年3月31日 | 常設展示 |
| 8 | 因幡万葉歴史館 館長 北川則昭 | 大沢谷内遺跡 九九木簡赤外線写真 | 1 | 平成23年8月9日～ 11月18日 | 企画展「律令制と因幡国（仮）」にて展示 |
| 9 | 新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎 | 大沢遺跡 土器・土偶 | 12 | 平成23年8月26日～ 12月2日 | 秋季企画展「にいがたの土偶 - 発掘された新潟の歴史2011 -」にて展示 |
| 10 | 新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎 | 的場遺跡 和同開珎出土状況写真 | 1 | 平成23年10月11日～ 11月11日 | 冬季企画展「紙のおかね、金のおかね」にて展示 |
| 11 | 胎内市教育委員会 教育長 小野達也 | 馬場屋敷遺跡 陶磁器ほか | 90 | 平成23年10月11日～ 11月29日 | 胎内市で整備中の坊城館跡に関連する基礎資料として使用 |
| 12 | 新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎 | 大沢遺跡 土器・土偶 | 12 | 平成23年12月3日～ 平成24年1月25日 | 秋季企画展「にいがたの土偶 - 発掘された新潟の歴史2012 -」展示にかかる調査 |
| 13 | 新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎 | 的場遺跡 和同開珎 | 20 | 平成23年12月14日～ 平成24年3月15日 | 冬季企画展「紙のおかね、金のおかね」にて展示 |
| 14 | 新潟市教育委員会 教育長 塚野純一 | 草水町2丁目窯跡 須恵器 | 20 | 平成24年1月13日～ 31日 | 新潟市丸山A遺跡出土須恵器との胎土比較 |

分析資料提供

| 件数 | 申込者 | 資料 | 点数 | 申込日 | 備考 |
|----|----------------------|---------------------|----|------------|-------------|
| 1 | 新潟県立歴史博物館 館長 中島太郎 | 干納遺跡出土淡水魚骨片（イトヨ・サケ） | — | 平成23年4月21日 | 炭素素素同位体比の測定 |

掲載許可

| 件数 | 申請者 | 資料 | 点数 | 許可日 | 備考 |
|----|------------------------|--------------------|----|---------------------------|---------------|
| 1 | 東蒲原郡史編さん委員会 会長 神田敏郎 | 「駒首湯遺跡第3・4次調査」掲載写真 | 2 | 平成24年3月26日～ 平成25年3月31日 | 『東蒲原郡史通史編1』掲載 |

民俗資料

貸出許可

| 件数 | 申請者 | 資料 | 点数 | 貸出期間 | 備考 |
|----|---------------------|-----------------|----|--------------------------|--|
| 1 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 民俗資料 サキオリマエカケほか | 7 | 平成23年9月6日～平 成24年1月10日 | 企画展「第8回むかしのくらし展 今日は何着よう？ ～着るものいまむかし～」にて展示 |

史で、1月は3学年の昔のくらしで利用する傾向にある。また、地方自治体や研究団体の視察も多くあった。

平成23年度 近隣の小学校を中心に11校の利用があった。また「動く市政教室」^注の利用が多かった。

平成24年度 小学校・中学校の利用は17校があり、歴史を学ぶ4月・5月に10校、9月から11月に7校が利用した。（今井さやか）

(6) 資料利用

(a) 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 当センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影等を行う場合：『新潟市文化財センター条例』

及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を教育委員会あてに提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出等をする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書等を教育委員会に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申し込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を市長あてに提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市

表18 平成24年度資料対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

| 件数 | 申請者 | 資料 | 点数 | 来館日 | 備考 |
|----|--|---|---------------|-------------|--------------|
| 1 | 十日町市博物館 館長 平野 勝 | 上ノ原遺跡 壺形土器（有孔） 御井戸遺跡 香炉形土器 | 1 1 | 平成24年5月10日 | 借用事前調査 |
| 2 | 個人 | 南赤坂遺跡 土器 | 45 | 平成24年6月19日 | 研究 |
| 3 | 第40回古代史サマーセミナー 新潟セミナー 実行委員長 中林隆之 | 大沢谷内遺跡 木簡 駒首湯遺跡 墨書土器・木簡 的場遺跡 墨書土器 | 1 18 30 | 平成24年8月26日 | 古代史サマーセミナー見学 |
| 4 | 福島市教育委員会 教育長 佐藤俊市郎 | 大沢谷内遺跡 土器・石器・アスファルト | 6箱 | 平成24年8月27日 | 借用事前調査 |
| 5 | 個人 | 養海山遺跡 土器 西郷遺跡 土器 | 2 118 | 平成24年8月17日 | 研究 |
| 6 | 個人 | 法花鳥屋遺跡 土器 | 1 | 平成24年9月23日 | 研究 |
| 7 | 個人 | 正尺C遺跡 土器 緒立B遺跡 土器 | 22 17 | 平成24年10月5日 | 研究 |
| 8 | 新潟市立潟東中学校 校長 小島成生 | 林付遺跡 土器・石製品 | 11 | 平成24年10月11日 | 1学年授業「潟東の遺跡」 |
| 9 | 新潟市立潟東南小学校5年 代表保護者 | 林付遺跡 土器・石製品 | 11 | 平成24年11月10日 | 学習 |
| 10 | 個人 | 南赤坂遺跡 石器 | 45 | 平成24年12月21日 | 研究・論文執筆 |

貸出許可

| 件数 | 申請者 | 資料 | 点数 | 貸出期間 | 備考 |
|----|--------------------------|----------------------------|----------|---------------------------|-------------------------------|
| 1 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 笹山前遺跡 土器ほか 的場遺跡 レプリカ | 84 54 | 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 | 常設展示 |
| 2 | 医療社団法人 幸人会 理事長 阿達敏幸 | 諏訪畑遺跡 土器 展示ケース | 5 1 | 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 | 来訪者への鑑費用 |
| 3 | 新潟市南区役所 味方出張所 所長 山田 裕 | 味方首根下遺跡 土師器 | 8 | 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 | 味方出張所にて展示 |
| 4 | 新潟市西蒲区地域課 課長 塚本裕二 | 茶院A遺跡 土師器ほか | 8 | 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 | 中之口資料館（澤特監の館内）にて展示 |
| 5 | 新潟市西川地区公民館 館長 布施正男 | 中才遺跡 須恵器横瓶 | 1 | 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 | 西川学習館にて展示 |
| 6 | 新潟市北区郷土博物館 館長 宮崎芳春 | 鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ | 23 12 | 平成24年4月1日～ 平成25年3月31日 | 常設展示 |
| 7 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 東開遺跡 炭化米ほか | 55 | 平成24年6月28日～ 9月12日 | 企画展「開墾の技術史」展示 |
| 8 | 十日町市博物館 館長 平野 勝 | 上ノ原遺跡 壺形土器 御井戸遺跡 香炉形土器 | 1 1 | 平成24年9月5日～ 11月13日 | 秋季特別展「異形の縄文土器」展示 |
| 9 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 的場遺跡 土錘・石錘 | 48 | 平成24年7月3日～ 平成25年3月31日 | 常設展示 |
| 10 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 近世新潟町跡 陶磁器・泥面子 | 3 | 平成24年7月3日～ 平成25年3月31日 | 常設展示 |
| 11 | 津南町教育委員会 教育長 桑原 正 | 上ノ原遺跡 三十稲場式土器 | 1 | 平成24年8月31日～ 11月20日 | 秋季企画展「三十稲場式土器文化の世界」展示 |
| 12 | 福島市教育委員会 教育長 佐藤俊市郎 | 〔大沢谷内遺跡Ⅱ〕掲載 アスファルト塊ほか | 9 | 平成24年10月1日～ 12月10日 | 特別展「縄文時代の物流～物の移動から見える縄文社会～」展示 |
| 13 | 新潟市江南区郷土博物館 市長 篠田 昭 | 砂崩遺跡 土器ほか | 51 | 平成24年10月1日～ 平成25年3月31日 | 常設展示 |

掲載許可

| 件数 | 申請者 | 資料 | 点数 | 許可日 | 備考 |
|----|--|--|----|-------------|--|
| 1 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 〔金津丘陵製鉄遺跡群Ⅱ〕掲載写真ほか | 34 | 平成24年6月8日 | 企画展「開墾の技術史」展示パネル・図録掲載 |
| 2 | 新潟県教育庁文化行政課 課長 本田雄二 | 大森遺跡 製塩遺構写真、製塩土器写真 | 2 | 平成24年7月2日 | 越後国域確定1300年記念企画展「遺跡が語る古代のいがた～越から越後・佐渡へ～」パンフレット掲載 |
| 3 | 国土交通省北陸地方整備局企画部 企画部長 大寺伸幸 | 大沢谷内遺跡 噴砂痕写真 | 1 | 平成24年7月9日 | 〔新潟県内液状化しやすさマップ〕掲載 |
| 4 | 福島市教育委員会 教育長 佐藤俊市郎 | 〔大沢谷内遺跡Ⅱ〕掲載写真 | 42 | 平成24年9月25日 | 特別展「縄文時代の物流～物の移動から見える縄文社会～」展示パネル・図録掲載 |
| 5 | 福島市教育委員会 教育長 佐藤俊市郎 | 〔大沢谷内遺跡Ⅱ〕掲載写真 | 7 | 平成24年11月12日 | 公開講座当日配布資料掲載 |
| 6 | 共同通信社大阪支社社会部 社会部長 山本裕之 | 釈迦堂遺跡 液状化跡の写真・遺跡全景航空写真 、近世新潟町遺跡 液状化跡の写真 | 3 | 平成24年11月26日 | 歴史地震をテーマにした連載企画「遺跡からの警告」掲載 |
| 7 | 株式会社 新泉社 代表取締役 石垣雅哉 | 御井戸遺跡 朱漆塗り水差し形容器出土状況写真 片口容器と水差し形出土状況写真 | 2 | 平成24年11月26日 | シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊03「縄文時代ガイドブック」掲載 |
| 8 | 新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課 （信濃川火焰街道連携協議会事務局） 課長 倉地一則 | 〔的場遺跡〕掲載写真 | 2 | 平成25年1月25日 | 資料集「フォーラム火焰街道往来2013水辺と遺跡の考古学～信濃川と欧州の様相～」掲載 |
| 9 | 鳥取県立むきばんだ史跡公園 所長 中原 斉 | 〔国指定史跡 古津八幡山遺跡 歴史の広場〕 パンフレット内の遺跡地図 | 1 | 平成25年2月4日 | 弥生文化シンポジウム予稿集「弥生文化シンポジウム とっとり倭人伝 東・西日本からみた山陰の弥生社会」掲載 |
| 10 | 新潟日報社読者ふれあいセンター センター長 星野純朗 | 的場遺跡 和同開珎写真 | 1 | 平成25年2月12日 | 子ども新聞掲載 |

寄附申込

| 件数 | 申込者 | 資料 | 点数 | 申込日 | 備考 |
|----|-----|-------|----|-----------|----------|
| 1 | 個人 | 珠洲焼播鉢 | 2 | 平成24年6月5日 | 弥彦山沖海揚がり |

民俗資料

貸出許可

| 件数 | 申請者 | 資料 | 点数 | 貸出期間 | 備考 |
|----|------------------|---------------|----|----------------------|---------------|
| 1 | 新潟市歴史博物館 館長 小林昌二 | 民具資料 ヤチチリガマほか | 12 | 平成24年6月15日～ 9月12日 | 企画展「開墾の技術史」展示 |

物品管理規則』により許可申請書を市長あてに提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続きは適用規則がないため、任意書式提出を依頼している。

(b) 利用件数

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は平成23年度9件、24年度10件である。

貸出許可 考古資料と民具資料の貸出許可は、博物館等での常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展等の短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館等では地域の歴史に親しみを感じてもらおう観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸

表19 平成24年度図書室・コピー利用者数

| 月 | 図書室利用 (人) | コピー利用 (人) |
|-----|-----------|-----------|
| 4月 | — | — |
| 5月 | — | — |
| 6月 | 16 | 3 |
| 7月 | 20 | 1 |
| 8月 | 4 | 1 |
| 9月 | 12 | 2 |
| 10月 | 26 | 0 |
| 11月 | 16 | 0 |
| 12月 | 12 | 4 |
| 1月 | 10 | 1 |
| 2月 | 8 | 1 |
| 3月 | 7 | 1 |
| 合計 | 131 | 14 |

出期間等は『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。

平成23年度は、常設展示に伴う長期貸出5件、短期貸出9件である。

平成24年は、常設展示に伴う長期貸出9件、短期貸出4件である。

分析資料提供 平成23年度に1件である。非破壊分析を原則とするが、破壊分析の場合には微量であること、速やかに分析結果を公表すること、分析内容が新潟市の埋蔵文化財行政に貢献があること等を勘案し個別に判断している。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書等掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物等で使用する場合がある。利用件数は平成23年度1件、24年度は10件で、内2件は平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機に遺跡で見つかる液状化痕跡に関する写真提供の申請であった。

寄附申込 平成24年度に1件である。VI3で報告している珠洲焼の一部について寄附いただいた。

(相澤裕子・渡邊朋和)

(7) 図書の収蔵と閲覧

(a) 収蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架を行っている。

文化財センター開館以前は全国の自治体から寄贈を受けた発掘調査報告書が主なもので、一般図書や定期刊行物(雑誌等)はほとんどなかった。これは、図書の購入を行わず、寄贈図書が大半であったことによる。

現在は、新潟市の発掘調査報告書、全国の自治体から寄贈された発掘調査報告書の他、平成23年度の文化財センター開館に前後して個人から寄贈を受けた図書があり、収蔵図書が飛躍的に増加してきている。新潟大学名誉教授甘粕健氏・奈良大学教授坂井秀弥氏・新潟県考古学会前会長藤塚明氏等から寄贈された報告書・一般図書・定期刊行物等である。甘粕氏からは、生前の平成21

年度・22年度にはご本人から、ご逝去後の平成24年度には奥様からご寄贈をいただいた。甘粕氏が所蔵されていた考古学関係図書をほぼ全てを文化財センターにご寄贈いただいたので、氏の研究されていた古墳時代関係の図書は大変に充実したものとなった。この他に、文化財センター開館後は必要な考古学・民俗学・歴史学関係の図書を購入している。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じるようになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室の他、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、平成21年度・22年度に緊急雇用対策事業として業者に委託して行い、平成23年度からは司書(臨時職員)2～3名を雇用して、入力作業を継続して行っている。なお、書誌情報の入力は平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用している。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成25年12月までの入力数は約37,000冊である。

(b) 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。大まかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス(有料)も開始した。図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表19のとおりである。

なお、収蔵図書は、発掘調査報告書等の発行部数の少ない稀覯本がほとんどのため、館外貸し出しは行っていない。(渡邊朋和)

注 市で市の施設等を見学するコースを企画し、個人で参加できるものと、団体(20人以上)の申し込みによるものを実施している。個人・団体とも、広聴相談課の職員が添乗し案内する。



図書室

表20 保存処理設備・機器一覧

| 分類 | 名称 | 用途 | メーカー | 型番 | 購入年度 |
|---------|---------------|---------------|----------|-------------|--------|
| 事前調査 | 実体顕微鏡（標準架台）2台 | 微小部分の観察 | オリンパス | SZ-61 | 平成21年度 |
| | 実体顕微鏡（テーブル架台） | 立体遺物の観察 | オリンパス | SZ-61 | 平成21年度 |
| | 生物顕微鏡 | 樹種プレパレードの観察 | オリンパス | BX-41 | 平成21年度 |
| | 工業顕微鏡 | 岩石の観察 | オリンパス | BX-51 | 平成21年度 |
| | 顕微鏡撮影システム | 顕微鏡画像の撮影 | オリンパス | DP25 | 平成21年度 |
| | 電子天秤（小） | 薬剤の計量 | A&D | GX200 | 平成21年度 |
| | 電子天秤（中） | 保存処理遺物の計量 | A&D | GX32-K | 平成21年度 |
| | クレーンスケール | 大形遺物の計量 | A&D | FJ-K200G | 平成21年度 |
| | 防水デジタルカメラ | 保存処理前後の記録用 | リコー | G600 | 平成21年度 |
| | X線分析装置 | 鉄製品の事前調査 | ソフテック | M-150特型 | 平成22年度 |
| 金属製品 | シーラー | 金属製品の封入 | 富士インパルス | F6600 | 平成9年度 |
| | 送風定温乾燥器 | 水分・樹脂の乾燥 | アズワン | DO-600FA | 平成16年度 |
| | 真空デシケーター | 金属製品の減圧含浸 | アズワン | DVS310 | 平成21年度 |
| | 真空ポンプ | 金属製品の減圧含浸 | ULVAC | DTC-22 | 平成21年度 |
| | イオンメーター | 脱塩処理の評価 | TOADKK | IM32P | 平成21年度 |
| | 研磨機（モニター）2台 | 鉄器のさび落とし用 | ミニモ | C101 | 平成21年度 |
| | オートドライデシケーター | 金属製品の仮保管用 | アズワン | ND2S | 平成21年度 |
| | 超音波洗浄機 | 金属製品洗浄用 | アズワン | VS-100 | 平成21年度 |
| | ドラフトチャンバー | 有機溶剤作業 | ダルトン | LDL-180LU | 平成22年度 |
| | 脱塩処理装置 | 金属製品の脱塩処理 | 平山製作所 | DSM-140 | 平成22年度 |
| | 鉄器樹脂減圧含浸装置 | 金属製品の減圧含浸 | 関西保存科学工業 | IF-50 | 平成22年度 |
| | ブラスター | 鉄器のさび落とし用 | モリタ | HB1-2P | 平成22年度 |
| | 前牽引き違い保管庫 | 薬品や器具の保管 | アズワン | N-180 | 平成22年度 |
| | 実験デスク 2台 | 作業用デスク | オカムラ | リフォルマ | 平成22年度 |
| | ステンレス作業台 3台 | 鉄製品用作業台 | タニコー | | 平成22年度 |
| ポケット線量計 | 放射線測定 | アロカ | PDM117 | 平成22年度 | |
| 木製品 | 恒温器 | 小型木器の樹脂含浸用 | ヤマト | DKN601 | 平成15年度 |
| | 赤外線水分計 | 溶液濃度の測定 | KETT | FD-600 | 平成15年度 |
| | スピードドライ | 糖アルコールの結晶化 | アズワン | SD-50N | 平成15年度 |
| | ドライラック | 糖アルコールの結晶化 | ヤマト | | 平成16年度 |
| | 高温ドライヤー | 表面に噴き出た糖を溶かす | | HAKKO851 | 平成16年度 |
| | PEG含浸槽 | 2mまでの木製品PEG含浸 | ダルトン | DAP-200 | 平成22年度 |
| | 赤外線映像観察装置 | 木製品の患部調査 | 浜松ホトニクス | C8000-10SET | 平成22年度 |
| | 業務用冷蔵庫 | 脆弱木製品の保管 | 大和冷機 | 01CD-NP-EC | 平成22年度 |
| | ステンレス作業台 | 木製品用作業台 | | 特注 | 平成22年度 |
| | 保管水槽用ステンレスコゴ | 木製品保管用 | | 特注 | 平成22年度 |

8 保存処理

平成15年度から市内出土の木製品を糖アルコール法で保存のための理化学的処置を行ってきた。平成23年度の文化財センター開館に伴い新たに「木製品保存処理室」と「金属製品保存処理室」を設け、大形の保存処理機器を導入し、年間を通して保存処理を計画的に行うことが可能になった。平成23年度開館時に購入・設置した設備・機器は表20のとおりである。

(1) 木製品の保存処理について

処理の方針 平成23年度には2遺跡760点、平成24年度には3遺跡908点の木製品の保存処理を行った（表21）。処理方法は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っている。PEGに向かない漆器やセンターの含浸槽に入らない大きな遺物については、適宜外部委託を行っている。

処理工程 各処理法による作業は、遺物の洗浄、脱鉄処理、処理前の写真撮影、処理前の重量等の計測といった共通作業以降、以下のような工程で行われている。

PEG含浸法

①含浸 低濃度のPEG水溶液（重量濃度20%）から徐々に濃度を上げ、最終的に100% PEG溶液に含浸する。

②引きあげ 溶液から資料を取り出し、温水で表面を洗浄し、常温で固化させる。

③接着・復元 破片の接着や亀裂・欠損部分の復元を行う。接着剤はシアノアクリレート系及びエポキシ系接着剤を用いる。また、補てんはエポキシ系樹脂を使用する。

④調査・記録 処理中に変化した箇所はないか点検し、処理後の記録をとり、写真撮影なども併せて行う。

その他の処理法 自然乾燥している資料に対して、非水溶性のアクリル樹脂（パラロイドB72）の塗布を行い強化した。

なお、すべての作業経過を保存処理カードに記載し、処理後の資料は温湿度管理された特別収蔵庫において保管している。

処理の概要 平成23年度は、PEG含浸槽を使用したはじめての保存処理だったため、比較的変形の起きにくい針葉樹材が多い山木戸遺跡（1994004）の出土品を保存処理することとした。また、保管中に自然乾燥してしまった和納館跡（1995004）については、クリーニングの後、非水溶性アクリル樹脂（パラロイドB72）を塗布し、表面の剥離を防ぐ処置を行った。

平成24年度は、発掘から20年以上が経過し劣化の著しい緒立遺跡（1989010）と的場遺跡（1989007）、山木戸遺跡（1994004）出土木製品の保存処理をPEG含浸法で



木製品保存処理室



木製品保存処理作業風景

表21 平成23年度・24年度木製品、鉄製品、銅・青銅製品保存処理一覧

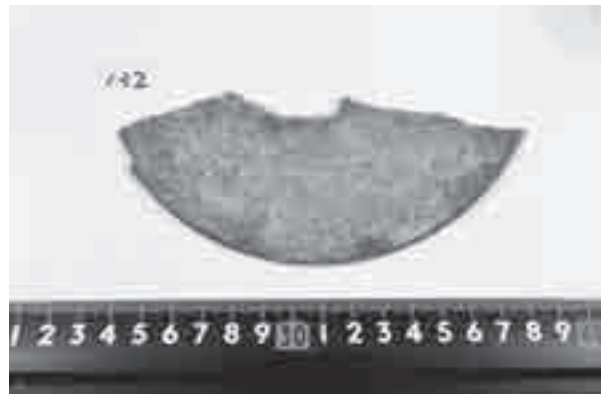
| 遺跡名 | 調査番号 | 材質 | 処理方法 | 点数(点) | 処理年度 |
|----------|---------|--------|-----------------|-------|--------|
| 山木戸遺跡 | 1994004 | 木製品 | PEG | 577 | 平成23年度 |
| 和納館跡 | 1995004 | 木製品 | B72塗布 | 183 | 平成23年度 |
| 合計 | | | | 760 | |
| 的場遺跡 | 1989007 | 木製品 | PEG | 304 | 平成24年度 |
| 緒立C遺跡 | 1989010 | 木製品 | PEG | 537 | 平成24年度 |
| 山木戸遺跡 | 1994004 | 木製品 | PEG | 67 | 平成24年度 |
| 合計 | | | | 908 | |
| 馬場屋敷遺跡 | 1983005 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 26 | 平成23年度 |
| 合計 | | | | 26 | |
| 若宮様遺跡 | 1983004 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 23 | 平成23年度 |
| 馬場屋敷遺跡 | 1983005 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 172 | 平成23年度 |
| 合計 | | | | 195 | |
| 曾根下遺跡 | 1965001 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 的場遺跡 | 1970001 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 14 | 平成24年度 |
| 緒立B遺跡 | 1979002 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 三王山遺跡 | 1979004 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 7 | 平成24年度 |
| 緒立A遺跡 | 1981002 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 6 | 平成24年度 |
| 中の山遺跡 | 1981003 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 6 | 平成24年度 |
| 沙山遺跡 | 1982001 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 32 | 平成24年度 |
| 沙山遺跡 | 1982003 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 218 | 平成24年度 |
| 興野遺跡 | 1983003 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 若宮様遺跡 | 1983004 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 25 | 平成24年度 |
| 馬場屋敷遺跡 | 1983005 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 小丸山遺跡 | 1986001 | 鉄製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 8 | 平成24年度 |
| 合計 | | | | 320 | |
| 緒立B遺跡 | 1958001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 19 | 平成24年度 |
| 的場遺跡 | 1970001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 沙山遺跡 | 1982003 | 銅・青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 37 | 平成24年度 |
| 馬場屋敷遺跡の塚 | 1983002 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 2 | 平成24年度 |
| 山谷古墳 | 1987104 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 2 | 平成24年度 |
| 新五兵衛山遺跡 | 1988001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 大沢谷内遺跡 | 1989001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 緒立C遺跡 | 1989010 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 山木戸遺跡 | 1991004 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 9 | 平成24年度 |
| 大入遺跡 | 1991005 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 上浦A遺跡 | 1991009 | 銅 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 舟戸遺跡 | 1993004 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 4 | 平成24年度 |
| 新五兵衛山遺跡 | 1994007 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 14 | 平成24年度 |
| 溝口政勝墓後 | 1994008 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 2 | 平成24年度 |
| 和納館跡 | 1995004 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 19 | 平成24年度 |
| 笹山前遺跡 | 1996002 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 3 | 平成24年度 |
| 御井戸遺跡 | 1997002 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 6 | 平成24年度 |
| 大淵遺跡 | 1997004 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 10 | 平成24年度 |
| 川根遺跡 | 1998003 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 前田遺跡 | 1999002 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 4 | 平成24年度 |
| 甲山遺跡 | 2001001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 2 | 平成24年度 |
| 結七島遺跡 | 2003001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 8 | 平成24年度 |
| 沖ノ羽遺跡 | 2004001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 日本遺跡 | 2005001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 大沢谷内遺跡 | 2005004 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 4 | 平成24年度 |
| 大沢谷内遺跡 | 2006002 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 三王山遺跡 | 2007010 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 2 | 平成24年度 |
| 手代山北遺跡 | 2008003 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 1 | 平成24年度 |
| 大沢谷内遺跡 | 2008005 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 8 | 平成24年度 |
| 林付遺跡 | 2010001 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 5 | 平成24年度 |
| 大沢谷内遺跡 | 2010004 | 青銅製品 | クリーニング ・樹脂含浸 | 6 | 平成24年度 |
| 合計 | | | | 177 | |



金属製品保存処理室



金属製品クリーニング作業状況



銅鏡 保存処理前（大淵遺跡）



銅鏡 保存処理後（大淵遺跡）

行った。また、12月に公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所にトレハロースを使用した保存処理方法について視察に行き、新潟市での導入の可能性について検討を行った。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の方針 金属製品では主に鉄製品と青銅製品の保存処理を行った。平成23年度には2遺跡221点、平成24年度には43遺跡497点の保存処理を行った(表21)。

新潟市では、福岡市埋蔵文化財センターを参考に、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。

処理工程 鉄製品と青銅製品では、処理の工程が多少異なるが、顕微鏡による表面観察、処理前の写真撮影、X線写真撮影、処理前の遺物の計測といった共通の作業が行われ保存処理カードに記録される。保存処理カードは(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団と同じものを使用している。

①クリーニング 資料に付着した土やさびの除去を行う。アルコール洗浄を行ったのち、鉄製品はグラインダーやエアブラシを使用。銅・青銅製品については顕微鏡下でメスを用いてさびや汚れを除去する。

②脱塩処理 鉄製品において腐食を促進する塩化物・硫化物イオンを取り除く必要がある。高温・高圧のオートクレーブを使用して作業を行っている。

③安定化 青銅製品においてはBTA(ベンゾトリアゾール)によって塩類の不活性化を図っている。

④樹脂含浸 資料の強化や腐食促進因子からの隔離を目的として、合成樹脂による保護を行っている。鉄製品にはパラロイドNAD-10を、銅・青銅製品にはパラロイドB72を使用している。内部まで樹脂を浸透させるため70cmHg程度の減圧含浸を行っている。

⑤接着・復元 接着については、シアノアクリレート系接着剤またはエポキシ系接着剤を使用している。また補強や欠損の補てんにはエポキシ系樹脂を使用する。

⑥記録・保管 処理中に変化した箇所はないか点検し、処理後の記録をとり、写真撮影なども併せて行う。保存処理後もできる限り安定した環境に保管するためにバリアフィルムと脱酸素剤を資料と一緒に封入し(三菱ガス化学RPシステム)、特別収蔵庫に収蔵している。

処理の概要 平成23年度は比較的状态のよい馬場屋敷遺跡(1983005)の鉄製品・青銅製品の保存処理を行った。金属製品については、保存処理が初めてだったために、さび落としの加減がつかめず、地金まで削ってしまうこともあった。

平成24年度は、調査年次が古いものから保存処理を行っ

表22 平成23年度・24年度外部委託保存処理一覧

| 遺跡名 | 調査番号 | 点数 | 備考 | 委託先 | 金額(円) | 合計(円) | 年度 |
|---------|--------------------|----|-----------|-----------|-----------|------------|--------|
| 大沢谷内遺跡 | 2008005 | 12 | 柄付刀子他 | 元興寺文化財研究所 | 2,928,240 | 11,083,674 | 平成23年度 |
| 細池寺道上遺跡 | 2010003 | 3 | ナンバ・エブリ | 元興寺文化財研究所 | 921,984 | | |
| 大沢谷内遺跡 | 2005004 | 5 | 他2遺跡の曲物含む | 元興寺文化財研究所 | 3,215,184 | | |
| 近世新潟町跡 | 2006015 | 1 | 大形木製品 | 吉田生物研究所 | 971,250 | | |
| 手代山北遺跡 | 2008003 | 12 | 他8遺跡漆器 | 元興寺文化財研究所 | 2,466,072 | | |
| 居村A遺跡 | 1989009 1990003 | 3 | 鉄塊サンプル | 元興寺文化財研究所 | 70,560 | | |
| 大沢谷内遺跡 | 2010004 | 2 | 日鑽白 | 元興寺文化財研究所 | 229,320 | | |
| 緒立C遺跡 | 1989010 | 4 | 加工板他 | 元興寺文化財研究所 | 281,064 | | |
| 沖ノ羽遺跡 | 1992003 | 2 | 県調査木柱 | 元興寺文化財研究所 | 5,714,184 | | |
| 大沢谷内遺跡 | 2008005 | 20 | 田下駄他 | 元興寺文化財研究所 | 2,221,464 | | |
| 川根遺跡 | 1999006 | 1 | 烏帽子 | 元興寺文化財研究所 | 499,800 | | |
| 大沢谷内遺跡 | 2008005 | 9 | 折敷他 | 吉田生物研究所 | 492,450 | | |



田下駄 保存処理前(細池寺道上遺跡)



曲物 保存処理後-外部委託-(大沢谷内遺跡)

た。鉄製品では沙山遺跡(1982003)の釣針が多かった。

釣針は細いうえに劣化が進み、さび落としが難しかった。青銅製品はほとんどが古銭である。発掘調査による青銅製品の保存処理はほぼ終わったが、埋納された銭貨がまだ6,000枚以上残っており、平成25年度以降も引き続き作業を行っている。

(3) 保存処理外部委託について

前記したように、PEG処理法に向かない木製品など当センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。(今井さやか)

9 決算額

平成23年度 文化財センター決算額

■歳入

(一般会計)

| 区 分 | 決算額 (円) |
|---------------------|-------------|
| ○使用料及び手数料 | 280,000 |
| 行政財産目的外使用料 | 280,000 |
| ○国庫支出金 | 84,175,000 |
| 市内遺跡範囲等確認調査事業費 | 15,645,000 |
| 埋蔵文化財保存処理 | 3,705,000 |
| 満日地区圃場整備発掘調査費 | 1,125,000 |
| 両新地区圃場整備発掘調査費 | 825,000 |
| 史跡等総合整備活用推進事業費 | 44,395,000 |
| 市内遺跡埋蔵文化財保存活用整備事業費 | 18,480,000 |
| ○財産収入 | 318,000 |
| 文化財センター等土地貸付料 | 318,000 |
| ○諸収入 | 45,910,000 |
| 満日地区圃場整備発掘調査 | 20,250,000 |
| 両新地区圃場整備発掘調査 | 14,850,000 |
| 結七島遺跡発掘調査 | 10,810,000 |
| 小規模緊急発掘調査 | 0 |
| ○雑入 | 6,367,223 |
| ○市債 | 53,900,000 |
| (合併) 史跡古津八幡山遺跡整備事業債 | 53,900,000 |
| 合 計 | 190,950,223 |

■歳出

(一般会計)

| 区 分 | 決算額 (円) |
|------------------------|-------------|
| ○文化財保護調査事業 | 605,966 |
| 埋蔵文化財保護費 | 605,966 |
| ○市内遺跡範囲等確認調査事業 | 31,289,241 |
| ○出土品整理活用事業 | 1,487,524 |
| ○埋蔵文化財本格発掘調査事業 | 49,810,000 |
| 満日地区圃場整備発掘調査 | 22,500,000 |
| 両新地区圃場整備発掘調査 | 16,500,000 |
| 結七島遺跡発掘調査 | 10,810,000 |
| 小規模緊急発掘調査 | 0 |
| ○史跡古津八幡山遺跡整備活用事業 | 116,987,167 |
| ○埋蔵文化財センター(旧太郎代小)の管理運営 | 4,478,971 |
| ○文化財センター管理運営 | 131,477,508 |
| ○文化財センター駐車場整備費 | 28,879,198 |
| ○歴史文化施設管理諸費 | 694,605 |
| 大型民具収蔵庫(旧木場小)管理費 | 694,605 |
| ○加入団体等負担金 | 800,000 |
| 信濃川火焰街道連絡協議会負担金 | 800,000 |
| 合 計 | 366,510,180 |

平成24年度 文化財センター決算額

■歳入

(一般会計)

| 区 分 | 決算額 (円) |
|---------------------|-------------|
| ○使用料及び手数料 | 877,050 |
| 文化財センター設備使用料 | 3,050 |
| 行政財産目的外使用料 | 874,000 |
| ○国庫支出金 | 54,212,000 |
| 市内遺跡範囲等確認調査事業費 | 14,750,000 |
| 埋蔵文化財保存処理 | 4,227,000 |
| 満日地区圃場整備発掘調査費 | 2,000,000 |
| 両新地区圃場整備発掘調査費 | 4,000,000 |
| 道上地区圃場整備発掘調査費 | 365,000 |
| 史跡古津八幡山遺跡整備・保存活用事業費 | 18,198,000 |
| 文化財センター保存・活用事業費 | 10,672,000 |
| ○諸収入 | 114,570,000 |
| 満日地区圃場整備発掘調査 | 36,000,000 |
| 両新地区圃場整備発掘調査 | 72,000,000 |
| 道上地区圃場整備発掘調査費 | 6,570,000 |
| 小規模緊急発掘調査 | 0 |
| ○雑入 | 6,735,336 |
| ○市債 | 5,900,000 |
| (合併) 史跡古津八幡山遺跡整備事業債 | 5,900,000 |
| 合 計 | 182,294,386 |

■歳出

(一般会計)

| 区 分 | 決算額 (円) |
|------------------------|-------------|
| ○文化財保護調査事業 | 774,289 |
| 埋蔵文化財保護費 | 774,289 |
| ○市内遺跡範囲等確認調査事業 | 29,500,541 |
| ○出土品整理活用事業 | 5,110,985 |
| ○埋蔵文化財本格発掘調査事業 | 127,300,000 |
| 満日地区圃場整備発掘調査 | 40,000,000 |
| 両新地区圃場整備発掘調査 | 80,000,000 |
| 道上地区圃場整備発掘調査費 | 7,300,000 |
| 小規模緊急発掘調査 | 0 |
| ○史跡古津八幡山遺跡整備活用事業 | 36,444,091 |
| ○古津八幡山遺跡及びガイドンス施設管理運営費 | 12,260,063 |
| ○文化財センター管理運営 | 112,908,059 |
| ○歴史文化施設管理諸費 | 590,540 |
| 大型民具収蔵庫(旧木場小)管理費 | 590,540 |
| ○加入団体等負担金 | 800,000 |
| 信濃川火焰街道連絡協議会負担金 | 800,000 |
| 合 計 | 325,688,568 |

(丸山徳幸・上田俊哉)

IV 文化財センターの概要

1 開館に至る経緯

(1) 概要

新潟市埋蔵文化財センター（北区太郎代）を引き継ぎ、平成23年7月30日に西区木場に新潟市文化財センターがオープンした。旧黒埼町との合併建設計画によるもので、平成21年度・22年度に建設や展示製作が行われた。総工費は約19億8千万円である。

文化財センターは、埋蔵文化財及び民俗文化財を保存し活用を図ることにより、文化財に対する市民の関心及び理解を深め市民文化の向上に資するため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第30条に基づき設置された教育機関である。

事業は、①埋蔵文化財の調査及び研究に関すること、②発掘調査等により出土した考古資料の収集及び保存並びに公開その他活用に関すること、③有形民俗文化財の保存及び活用に関すること、があげられる。

平成17年の14市町村の広域合併後、各種開発事業等の増加に伴い発掘調査も増加の一途をたどり、遺跡も年々増加している。文化財センターは、各種開発事業や史跡整備等に伴う発掘調査を行い、出土品の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために設置された。

(2) 経緯

平成12年の新潟市・黒埼町合併建設計画に、県指定史跡「緒立遺跡」等の出土品の収蔵・活用の施設として「埋蔵文化財収蔵庫建設事業」（面積784㎡）が計画された。平成13年には近接の県指定史跡「的場遺跡」出土品も含め、老朽化した旧太郎代小学校校舎を利用した埋蔵文化センターを拡充した「新埋蔵文化財センター建設案」（面積1,600㎡）に変更された。建設候補地は緒立遺跡周辺に用地を取得する計画であった。

平成14年に黒埼南部3小学校跡地利用検討の中で、建設候補地として旧黒鳥小学校跡地が候補として浮上した。平成15年には、予定されていた13市町村の合併計画に併せ建築面積が1,600㎡から2,700㎡に拡大された（出土品7,200箱収容）。

平成17年には、旧新津市・巻町との合併により出土品が1万箱以上に増えたことに伴い、面積が3,600㎡に変更された。さらに旧黒鳥小学校跡地では敷地面積が狭く建設が困難なことから、旧木場小学校跡地に計画が変更された。

平成18年には旧木場小学校グラウンド跡地に建設する

表1 文化財センター建設関連事業

| 区分 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 |
|------------|--------|--------------------|------------|-----------------------|------------------------|-----------------------|
| | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 |
| 本館 | 基本計画 | 測量 地質調査 基本設計 | 実施設計 | 建設・電気 空調・衛生 | 建設・電気 空調・衛生 ガス | - |
| 展示 | | 基本設計 | 実施設計 | 展示製作 | 展示製作 遺物修復 レプリカ製作 | 映像ソフト製作 |
| 周辺道路 | - | - | 測量設計 | 詳細設計 改良工事 | 改良工事 | - |
| その他 工事 | - | - | - | プール解体工事 | - | 木造校舎解体 駐車場造成 |
| その他 | - | - | - | システム 備品購入 再整理作業 | システム 備品購入 再整理作業 | 遺物搬入 民具搬入 再整理作業 |
| 旧武田家 住宅 | 現況調査 | 解体調査 工事 | 組立実施 設計 | 組立工事 | 組立工事 電気設備工事 展示製作 | - |

こと、延床面積約3,600㎡であること、合併建設計画の年限である平成22年度までには工事を完了し、平成23年度に開館することが決まった。さらに、旧木場小学校校舎を利用した大形民具収蔵庫内の民具も一体として活用し、新潟市指定文化財民家旧宅（旧武田家住宅）を移築し、一体的に整備することも決められた。これにより、新潟市・黒埼町合併建設計画「埋蔵文化財収蔵庫建設事業」と「旧武田家住宅（常民文化史料館）全面改築事業」が一体として進められることになったのである。

施設名称は、当初は「埋蔵文化財センター」として計画されたが、民俗資料収蔵庫が設けられたことにより「文化財センター」に変更となった。

(3) 建設事業

文化財センター建設事業は、表1の通り平成18年度の基本計画策定から平成22年度竣工まで5か年にかけて行われ、平成18年度に設置された新埋蔵文化財センター建設等検討委員会（甘粕健委員長）の意見を参考にしながら進められた。センター本館は、平成18年度基本計画、平成19年度基本設計、平成20年度実施設計、平成21年度・平成22年度に建設工事を行った。展示製作・周辺道路整備工事や、旧武田家住宅の解体・組立工事等も併せて行われた。文化財センター建設事業の決算額は表2の通りである。この他に省エネ設備設置事業として、太陽光発電設備、風力・太陽光発電（ハイブリッド）LED外灯、LED照明が設置された。

(4) 開館

平成23年度には文化財センターや遺跡の紹介ビデオ製作し、旧埋蔵文化財センターや埋蔵文化財センター新津分室にあった遺物の搬入、民具の搬入を行い平成23年7月30日に開館した。その他、大形民具収蔵庫として使用され老朽化した旧木場小学校木造校舎の解体工事と大形バス用の駐車場造成工事を行った。

表2 文化財センター建設事業費

支出

(単位:円)

| 区 分 | 全体事業費 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 |
|------------------|---------------|-----------|------------|------------|-------------|---------------|
| | | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 |
| 工事請負費 | 1,512,602,700 | | 12,967,500 | | 352,664,750 | 1,146,970,450 |
| 新センター | 1,320,115,650 | | | | 308,790,000 | 1,011,325,650 |
| 建設工事 | 969,667,650 | | | | 280,690,000 | 688,977,650 |
| 電気設備工事 | 122,829,000 | | | | 12,100,000 | 110,729,000 |
| 空調設備工事 | 157,444,350 | | | | 16,000,000 | 141,444,350 |
| 衛生設備工事 | 65,890,650 | | | | | 65,890,650 |
| ガス設備工事 | 4,284,000 | | | | | 4,284,000 |
| 旧武田家住宅 | 108,796,800 | | 12,967,500 | | 14,900,000 | 80,929,300 |
| 解体調査工事・組立工事 | 104,595,750 | | 12,967,500 | | 14,900,000 | 76,728,250 |
| 電気設備工事 | 4,201,050 | | | | | 4,201,050 |
| 周辺道路改良工事 | 74,363,100 | | | | 23,421,300 | 50,941,800 |
| プール解体工事 | 5,553,450 | | | | 5,553,450 | |
| その他工事 | 3,773,700 | | | | | 3,773,700 |
| 委託料 | 345,114,997 | 8,988,000 | 27,241,200 | 39,911,550 | 37,672,217 | 231,302,030 |
| 新センター | 87,962,200 | 3,990,000 | 19,177,200 | 29,200,000 | 12,374,000 | 23,221,000 |
| 建設基本計画策定委託 | 3,990,000 | 3,990,000 | | | | |
| 地質調査委託 | 2,196,600 | | 2,196,600 | | | |
| 測量調査委託 | 4,905,600 | | 4,905,600 | | | |
| 建築基本設計委託 | 12,075,000 | | 12,075,000 | | | |
| 建築実施設計委託 | 29,200,000 | | | 29,200,000 | | |
| 工事監理委託 | 35,595,000 | | | | 12,374,000 | 23,221,000 |
| 展示製作 | 208,426,050 | | 3,150,000 | 3,391,500 | 7,179,837 | 194,704,713 |
| 展示基本設計委託 | 3,150,000 | | 3,150,000 | | | |
| 展示実施設計委託 | 3,391,500 | | | 3,391,500 | | |
| 展示製作委託 | 145,919,550 | | | | 7,179,837 | 138,739,713 |
| レプリカ製作委託 | 39,900,000 | | | | | 39,900,000 |
| 遺物修復委託 | 16,065,000 | | | | | 16,065,000 |
| 旧武田家住宅 | 17,409,500 | 4,998,000 | 4,914,000 | 6,500,000 | | 997,500 |
| 現況調査、解体工事設計書作成委託 | 4,998,000 | 4,998,000 | | | | |
| 解体調査工事監理委託 | 4,914,000 | | 4,914,000 | | | |
| 組立実施設計委託 | 6,500,000 | | | 6,500,000 | | |
| 展示製作委託 | 997,500 | | | | | 997,500 |
| 埋蔵文化財情報管理システム委託 | 24,220,350 | | | | 12,600,000 | 11,620,350 |
| 周辺道路整備 | 6,338,430 | | | 820,050 | 5,518,380 | |
| 周辺道路整備測量・詳細設計委託 | 3,375,750 | | | 820,050 | 2,555,700 | |
| 用地測量・路線測量・分筆測量委託 | 2,962,680 | | | | 2,962,680 | |
| その他委託 | 758,467 | | | | | 758,467 |
| 備品購入費 | 75,268,496 | | 504,000 | | 6,135,808 | 68,628,688 |
| 埋蔵文化財再整理事業 | 9,758,976 | | | | 4,962,078 | 4,796,898 |
| 事務費等 | 14,566,958 | 307,405 | 788,267 | 652,312 | 1,571,922 | 11,247,052 |
| 合 計 | 1,957,312,127 | 9,295,405 | 41,500,967 | 40,563,862 | 403,006,775 | 1,462,945,118 |

財源内訳

(単位:円)

| 区 分 | 全体事業費 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 |
|-------|---------------|-----------|------------|------------|-------------|---------------|
| | | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 |
| 財源 | | | | | | |
| 国庫補助金 | 193,392,000 | | | | 11,581,000 | 181,811,000 |
| 起債 | 1,634,500,000 | | 17,900,000 | 40,500,000 | 377,900,000 | 1,198,200,000 |
| 一般財源 | 129,420,127 | 9,295,405 | 23,600,967 | 63,862 | 13,525,775 | 82,934,118 |
| 合 計 | 1,957,312,127 | 9,295,405 | 41,500,967 | 40,563,862 | 403,006,775 | 1,462,945,118 |

(単位:円)

| 区 分 | 全体事業費 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 |
|---------|---------------|-----------|------------|------------|-------------|---------------|
| | | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 |
| 省エネ設備工事 | 18,378,150 | | | | | 18,378,150 |
| 総 合 計 | 1,975,690,277 | 9,295,405 | 41,500,967 | 40,563,862 | 403,006,775 | 1,481,323,268 |

(5) 施設情報

新潟市文化財センター

住 所 新潟市西区木場2748番地1

開館時間 午前9時～午後5時

休 館 日 月曜日・休日の翌日・年末年始(12月28日～1月3日)

入 館 無料

体 験 無料・有料(表3)

駐 車 場 本棟 67台(身障者用2台分)
隣接駐車場 27台、大型バス4台

交 通 新潟交通バス「黒埼農協前」から徒歩25分

(6) 基本理念

平成18年度に策定された基本計画では以下のように基本理念が記されている。「新埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査・研究・整理・保存を中心とした役割を担いながらも、調査研究の成果を市民に還元するための活用事業を一層強化していく。活用手法においては、市民参加や市民との協働の視点を重視することとし、大人から子供まで市民全体が市の歴史文化や古代の知恵を共有できる施設としていく。

地域住民、児童生徒・学生・教育関係者及び研究者等が世代を超えて交流し、展示と体験を一体化した、住民に親しまれる施設を目指す。

職員は埋蔵文化財の調査・研究を行うとともに、出土品等を活用し、広く市民に埋蔵文化財についての知識を深めてもらうことを目的とする事業を行う。また、職員だけでなく、研究者・友の会やボランティアなど市民との協働により新埋蔵文化財センターを支えていく仕組みをつくる。今後、市民参加組織を立上げ、市民との掛け橋としてお互いが協力して役割を担うことで「新潟の宝となる施設」に成長させていく。新埋蔵文化財センターを「まちづくり」や「地域のアイデンティティ確立」に活用してもらうため、積極的な情報発信を行う。」

文化財センターの設置目的、基本計画策定時の基本理念を遂行するために、平成25年度に運営協議会を発足する準備を行っている。(渡邊朋和)

表3 文化財センターの体験メニュー料金

| メニュー | 料金(円) | 所要時間 | 団体対応 |
|---------|---------------|-------|-------|
| 勾玉づくり | ゆっくりコース 200 | 約60分 | 60人まで |
| | スピードコース 500 | 約40分 | なし |
| 拓本体験 | 1枚 50 | 約30分 | 15人まで |
| 和同開珎づくり | 1枚 200 | 約30分 | 36人まで |
| 土偶づくり | 500g(約8個) 100 | 約30分 | 60人まで |
| 土器づくり | 500g(約1個) 100 | 約120分 | 30人まで |
| 火起こし体験 | 無料 | 約30分 | 60人まで |
| 土器パズル | 無料 | 約10分 | なし |

2 組織と職員

(1) 新潟市の埋蔵文化財保護行政

文化財の保護に関する事務は、教育委員会が管理執行すると定められているが(『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』)、本市では歴史文化課・文化財センターの職員が補助執行することとしている(『新潟市行政組織規則』)。

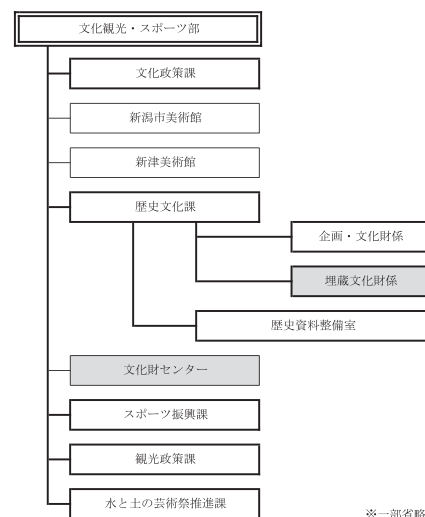
現在、埋蔵文化財保護に関する業務は、歴史文化課埋蔵文化財係と文化財センターで行っている。

(2) 組織機構の推移

- ・総務局国際文化部歴史文化課(平成11年4月～平成19年3月31日) 平成10年までは教育委員会に所属。
- ・文化スポーツ部歴史文化課(平成19年4月1日～平成20年3月31日)
- ・文化観光・スポーツ部歴史文化課(平成21年4月1日～現在)
- ・新潟市埋蔵文化財センター(北区太郎代 平成7年4月1日～平成23年7月) 平成7年～平成10年までは教育委員会に所属。平成11年以降市長部局に移管。
- ・新潟市文化財センター(西区木場 平成23年7月30日～現在) 課長級機関

(3) 文化財保護行政の組織機構

図1の通り、歴史文化課・文化財センターは文化観光・スポーツ部に属している。図に記されていないものとして、歴史文化課が所管している施設として新潟市指定文化財旧小澤家住宅と新潟市歴史博物館があり、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団が指定管理を行っている。また、文化財センターが所管している施設として新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場があり、直営で管理を行っている。



※一部省略

図1 文化観光・スポーツ部の組織機構図(平成23年度・平成24年度)

(4) 文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財係
職員名簿

表4 文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財係職員名簿
平成23年度

| 文化財センター | | |
|-------------|---------------|-------|
| 所長(学芸員) | 高橋 保(新潟県より派遣) | 埋蔵文化財 |
| 所長補佐 | 丸山徳幸 | 事務 |
| 主任(学芸員) | 渡邊朋和 | 埋蔵文化財 |
| 副主幹(学芸員) | 前山精明 | 埋蔵文化財 |
| 主査(学芸員) | 遠藤恭雄 | 埋蔵文化財 |
| 主査(文化財専門員) | 諫山えりか | 埋蔵文化財 |
| 主査(文化財専門員) | 龍田優子 | 埋蔵文化財 |
| 主査(学芸員) | 相田泰臣 | 埋蔵文化財 |
| 主査(文化財専門員) | 今井さやか | 埋蔵文化財 |
| 副主査(学芸員) | 潮田憲幸 | 埋蔵文化財 |
| 副主査 | 山口泰慶 | 事務 |
| 非常勤職員 | 土佐夕美子 | 事務 |
| 非常勤職員 | 牧野耕作 | 埋蔵文化財 |
| 非常勤職員 | 酒井和男 | 民俗文化財 |
| 非常勤職員 | 磯部保衛 | 埋蔵文化財 |
| 臨時職員(学芸員) | 高野(相澤)裕子 | 埋蔵文化財 |
| 臨時職員(学芸員) | 澤野慶子 | 埋蔵文化財 |
| 臨時職員(学芸員) | 八藤後智人 | 埋蔵文化財 |
| 主査(文化財専門員) | 朝岡政康(新潟県へ派遣) | 埋蔵文化財 |
| 歴史文化課埋蔵文化財係 | | |
| 係長(文化財専門員) | 廣野耕造 | 埋蔵文化財 |
| 主査 | 渡邊ますみ | 埋蔵文化財 |
| 主査(学芸員) | 立木宏明 | 埋蔵文化財 |
| 非常勤職員 | 真田 敦 | 事務 |

平成24年度

| 文化財センター | | |
|-------------|---------------|-------|
| 所長(学芸員) | 高橋 保(新潟県より派遣) | 埋蔵文化財 |
| 所長補佐 | 丸山徳幸 | 事務 |
| 主任(学芸員) | 渡邊朋和 | 埋蔵文化財 |
| 副主幹(学芸員) | 前山精明 | 埋蔵文化財 |
| 主査(学芸員) | 立木宏明 | 埋蔵文化財 |
| 主査(学芸員) | 遠藤恭雄 | 埋蔵文化財 |
| 主査(文化財専門員) | 龍田優子 | 埋蔵文化財 |
| 主査(学芸員) | 相田泰臣 | 埋蔵文化財 |
| 主査(文化財専門員) | 今井さやか | 埋蔵文化財 |
| 副主査(学芸員) | 潮田憲幸 | 埋蔵文化財 |
| 副主査 | 山口泰慶 | 事務 |
| 非常勤職員 | 土佐夕美子 | 事務 |
| 非常勤職員 | 牧野耕作 | 埋蔵文化財 |
| 非常勤職員 | 酒井和男 | 民俗文化財 |
| 非常勤職員 | 寺崎裕助 | 埋蔵文化財 |
| 非常勤職員 | 磯部保衛 | 埋蔵文化財 |
| 非常勤職員 | 相澤裕子 | 埋蔵文化財 |
| 非常勤職員 | 澤野慶子 | 埋蔵文化財 |
| 非常勤職員 | 八藤後智人 | 埋蔵文化財 |
| 主査 | 朝岡政康(新潟県へ派遣) | 埋蔵文化財 |
| 歴史文化課埋蔵文化財係 | | |
| 係長(文化財専門員) | 廣野耕造 | 埋蔵文化財 |
| 主査 | 渡邊ますみ | 埋蔵文化財 |
| 主査(文化財専門員) | 諫山えりか | 埋蔵文化財 |
| 非常勤職員 | 真田 敦 | 事務 |

(渡邊朋和)

3 施設

(1) 施設概要

新潟市文化財センターは敷地面積9,916.00㎡で、敷地内にはセンター本館の他、市指定文化財旧武田家住宅と畜動舎が移築されている。また、屋外には体験学習用として広場と畑が設けられている。センター本館はRC造、地上3階建て、建築面積2,559.25㎡、延床面積は4,494.83㎡である(表4)。諸室面積は表5に記載した通りである。

文化財センター本館 1階は共用部分として、エントランスホール、展示室1・2、研修室1・2、非共用部分として特別収蔵庫1・2、民俗資料収蔵庫、金属製品保存処理室・木製品保存処理室等がある。ピロティには保存処理前の木製品を仮保管するための大形水槽を備えている。

研修室1・2は、研修室と工作室を兼ね、スライディングウォールによって2室に分けて使用することが可能である。研修室2は通常体験学習用の工作室として利用しているが、2室を併せればテーブル付きで約100人、テーブルなしで130人の収容が可能である。廊下側の折り畳み戸を開ければさらに収容人数を増やすことができる。工作室用倉庫には土器焼成のための、還元焰焼成も可能な電気窯がある。屋外トイレも設置されているが、屋外イベントだけではなく、研修室で行う講演会等の対応も意図したものである。

2階は、共用部分の図書室、ボランティア室、クロサキデッキの他は非共用部分である。埋蔵文化財収蔵庫1、資料収蔵庫、調査研究室、遺物洗浄室、写場等がある。調査研究室は調査記録や遺物の整理、報告書作成等を行う部屋である。3階には埋蔵文化財収蔵庫2があり、1階の荷解・搬入口とは荷物用エレベーターで、2階の埋蔵文化財収蔵庫1とは階段でもつながっている。

VI1・2に記載したように、特別収蔵庫1・2、展示室は将来的に重要文化財を収蔵保管、展示可能なように温度・湿度・使用光源・照度を設定している。資料収蔵庫も同様である(表7)。

文化財センターには外部電源の供給口を設けているので、停電の際には発電機等の非常用電源からの電力供給が可能である。

旧武田家住宅 旧黒埼町常民文化史料館として利用されていた建物である。江戸時代後期に造られた黒埼地域における裏中門造りの代表的民家として市指定文化財になっている。なお、茅葺屋根の保存のために秋から冬にかけてはほぼ毎日、燻蒸作業を行っている。

畜動舎 明治から昭和初期にかけて越後平野の農家に多くあった牛馬を使う脱穀施設である。

駐車台数は本館前39台、外周28台であったが、平成23年度の旧木場小学校校舎側の駐車場造成工事で27台と大形バス用4台が増えた。

(2) 施設の詳細

所在地 新潟市西区木場2748番地1他

主要用途 展示室、収蔵庫

文化財センター設計・監理 山下設計

文化財センター施工 建築：小川組 電気：友和・イーイーケイ特定共同企業体 空調：丸高工業 衛生：新潟企業 ガス：北陸ガス

旧武田家住宅施工 建築：松井建設 電気：電友舎 衛生：新潟企業

設計期間 2007年10月～2009年3月

工事期間 2009年7月～2011年1月

展示設計・監理 丹青社 **展示施工** 丹青社

設計期間 2007年11月～2009年3月

工事期間 2009年8月～2011年2月

建築概要

敷地面積 9,916.00㎡ **建ぺい率** 26.07%（許容70%角地加算） **容積率** 45.59%（許容200%） **最高高さ** 文化財センター：13.5m、旧武田家住宅：8.824m **軒高** 文化財センター：12.76m、旧武田家住宅：2.76m **階高** 4.0m **天井高さ** 2.6～3.05m（展示室4.0～6.6m） **主なスパン** 7.2m×7.75m **道路幅員** 7m **駐車台数** 39台 **地域地区** 市街化調整区域

設備概要

電気設備 受電方式／高圧6.6kV専用受電、地中埋設管路引込、屋内閉鎖型薄型キュービクル 変圧器容量／F種油入変圧器（トッピング対応高効率型）、1φ100kVA、3φ300kVA 予備電源／太陽光パネル5.7kVA（屋上）、外部非常電源接続盤

空調設備 空調方式／GHP+全熱交換器、EHP

衛生設備 給水／飲用：受水槽+加圧給水方式 洗浄水：雑用水槽+加圧給水方式 給湯／局所給湯方式（屋外型瞬間湯沸器） 排水／屋内汚水雑排水分流方式、合併式浄化槽

防災設備 消火／屋内消火栓、窒素ガス消火設備、消火器排煙／自然排煙 その他／自動火災報知設備、非常放送設備

昇降機 機械室レス乗用13人乗（900kg・45m/分）×1基（バリアフリー対応）、機械室レス荷物用（1,000kg・45m/分）×1基

表5 文化財センター施設一覧

| 施設名 | 文化財センター本館 | 旧武田家住宅 | 畜動舎 | 小屋 |
|---------|-----------|--------|-------|-------|
| 構造 | RC造 | 木造 | 木造 | 木造 |
| 階数 | 地上3階 | 地上2階 | 地上1階 | 地上1階 |
| 建築面積（㎡） | 2,559.25 | 167.70 | 34.92 | 26.48 |
| 延床面積（㎡） | 4,494.83 | 208.19 | 34.92 | 26.48 |

表6 文化財センター諸室名及び面積一覧

| 1階 | | 2階 | |
|----------|----------|-----------|----------|
| 室名 | 面積（㎡） | 室名 | 面積（㎡） |
| 特別収蔵庫1 | 147.77 | 埋蔵文化財収蔵庫1 | 743.32 |
| 特別収蔵庫2 | 24.63 | 資料収蔵庫 | 48.85 |
| 民俗資料収蔵庫 | 416.58 | 図書室 | 89.33 |
| 展示室1・2 | 262.81 | 調査研究室 | 350.50 |
| 研修室1・2 | 139.95 | 遺物洗浄室 | 40.51 |
| 研修室用倉庫 | 40.49 | 写場 | 38.84 |
| 木器保存処理室 | 62.71 | 会議室 | 18.95 |
| 金属器保存処理室 | 61.50 | ボランティア室 | 18.48 |
| 荷解・搬入口 | 227.78 | 機械室4 | 8.19 |
| 事務室 | 25.03 | その他 | 253.50 |
| 更衣室 | 36.52 | 小計 | 1,610.47 |
| 電気室 | 23.58 | | |
| 機械室1・2・3 | 103.83 | 3階 | |
| その他 | 557.36 | 室名 | 面積（㎡） |
| 小計 | 2,130.55 | 埋蔵文化財収蔵庫2 | 736.11 |
| | | その他 | 17.70 |
| | | 小計 | 753.81 |
| | | 合計 | 4,494.83 |

表7 展示室・特別収蔵庫・資料収蔵庫の温度・湿度・照度等設定値一覧

| 展示室 | | | 特別収蔵庫 | | | | 資料収蔵庫 | | |
|-----|-------------------|-----|-------|-----------------|---------|------------------|-------|------|---------------|
| 設定値 | 夏季 | 冬季 | 設定値 | 特別収蔵庫1 （木製品） | | 特別収蔵庫2 （金属製品） | | 設定値 | 通年 |
| 温度 | 26℃ | 22℃ | | 夏季 | 冬季 | 夏季 | 冬季 | 温度 | 20℃ |
| 湿度 | 50～60% | | | 湿度 | 26℃ 22℃ | 26℃ 22℃ | | 湿度 | 40% |
| 照度 | 展示壁面 50～200ルクス | | | 湿度 | | 40～50% | | 使用光源 | UVカット型 蛍光灯 |
| | 展示物 50～200ルクス | | | 使用光源 | | UVカット型 蛍光灯 | | 照度 | 200ルクス |
| | 平均 100ルクス | | | 照度 | | 200ルクス | | | |

主な外部仕上げ

屋根 アスファルト防水外断熱押え工法

外壁 セツ器質二丁掛タイル、外装用高耐候性左官、コンクリート化粧打放しフッ素樹脂クリア塗装

外構 磁器質450×900タイル模様貼、御影石、改良野芝（エルトロ）

建具 木アルミ複合カーテンウォール、アルミサッシュ、アルミドア

主な内部仕上げ

エントランスホール 床／磁器質450×900タイル模様貼 壁／内装用左官材荒壁調仕上、内装用左官材漆喰調仕上、コンクリート化粧打放し 天井／GB-R t9.5+t12.5EP、岩綿吸音板、コンクリート化粧打放し

展示室 床／タイルカーペット 壁／GB-R t15+
t15EP 天井／岩綿吸音板EP

会議・研修室 床／天然リノリウム 壁／ビニルクロス、遮音移動間仕切 天井／リブ付岩綿吸音板

特別収蔵庫 床／両面アルミシート張不透湿耐水合板+
ブナフローリング t15、鋼製床組H180 壁／両面アル
ミシート張不透湿板+調湿パネル t16、スプルス見切り
額縁、二重壁W200 天井／両面アルミシート張低ホル

マリン合板+ロックウォール系調湿板 t12 什器／中量
型移動ラック（免震タイプ）

埋蔵文化財収蔵庫 床／防塵塗装 壁／断熱材兼用型
枠セラミック混入木片繊維板現し、水性調湿塗装 天井／
直天井の上、水性調湿塗装 什器／中量型移動ラック

特記事項 室名表示板／新潟漆器角盆加工

（渡邊朋和）



文化財センター本館・旧武田家住宅・畜動舎



文化財センター近景

IV

文化財センターの概要

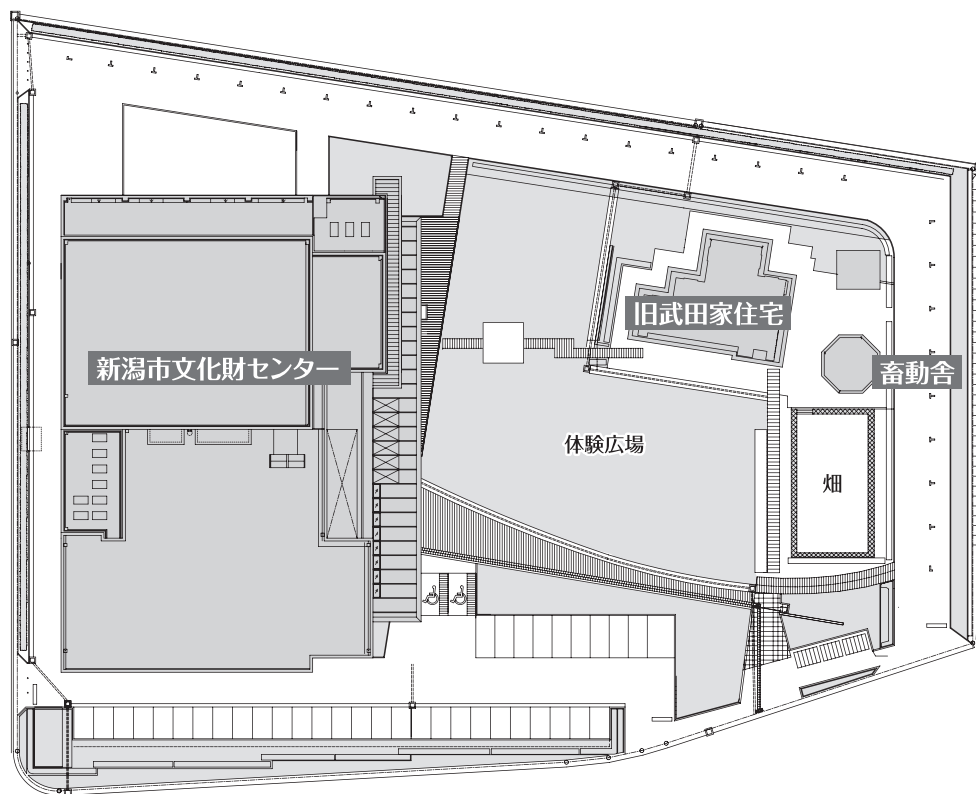


図2 文化財センター施設配置図

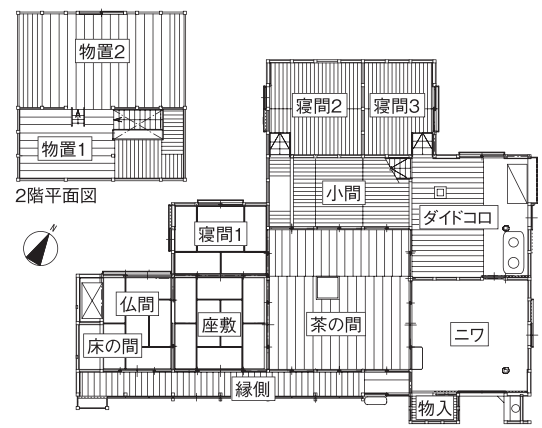
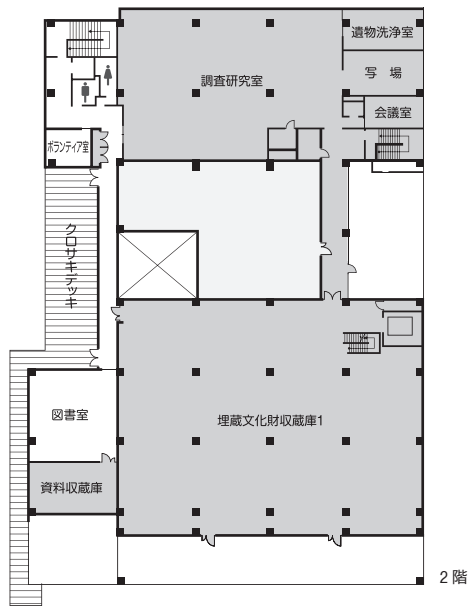
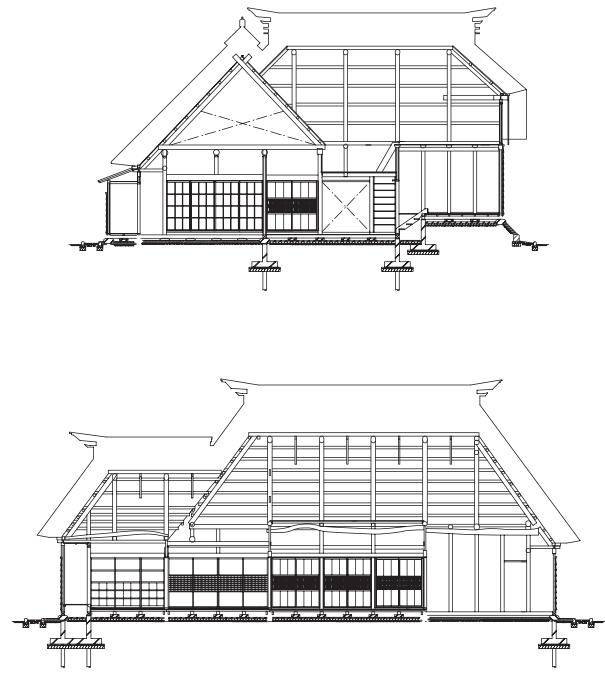
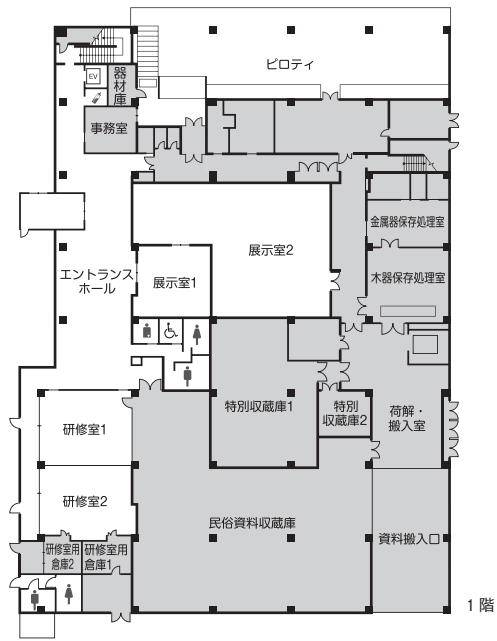


図4 旧武田家住宅平面図・断面図

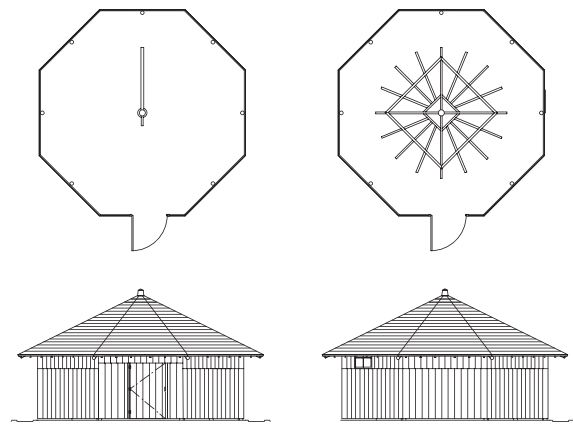
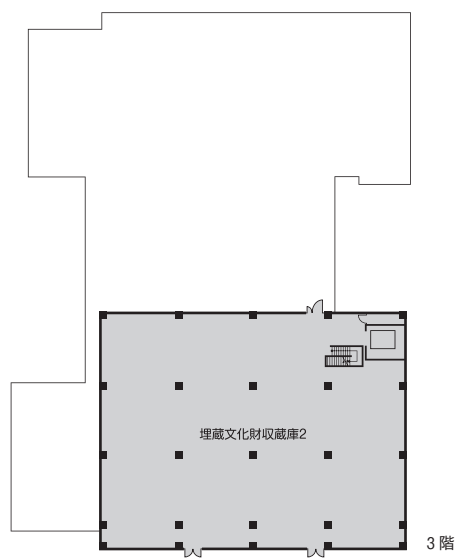


図5 畜動舎

図3 文化財センター各階平面図

V 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場

1 史跡古津八幡山遺跡保存整備活用事業の概要

(1) 遺跡概要

古津八幡山遺跡は、信濃川と阿賀野川に挟まれた新津丘陵上に立地する弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落である。弥生時代後期から古墳時代にかけての社会情勢や変化を示す貴重な遺跡として、平成17年に国史跡に指定された。その後平成23年に追加指定を受け現在は119,641.23㎡が国史跡となっている。

古津八幡山遺跡は今から25年程前の昭和62（1987）年に高速道路の土取り工事に伴う試掘確認調査で発見された。開発予定面積約45haの試掘確認調査で、日本海側最北の北陸系の高地性環濠集落（古津八幡山遺跡）や新潟県内最大規模の古墳（古津八幡山古墳）、古代の大規模な製鉄遺跡群（金津丘陵製鉄遺跡群）が見つかった。日本考古学協会・文化財保存全国協議会等の全国規模の保存運動だけではなく、新潟市文化財調査審議会等の地元を中心とする遺跡の保存運動により、平成2年にはほぼ全域が現状のまま保存されることとなった。

(2) 整備概要

平成17年の新潟市合併建設計画に「八幡山遺跡史跡公園整備事業」として取上げられ整備事業が進展することになった。市町村合併直前の平成16年に保存整備基本計画、直後の平成17年に保存整備基本設計が策定された。そこでは、弥生時代・古墳時代になかった現代的なものは原則として造らないという基本方針が、甘粕健先生を委員長とする整備検討委員会により定められた。弥生時代の高地性集落を彷彿とさせる復元的整備を目指すことになった。

平成18年以降は、整備実施設計が完了したところから整備工事を行っている（表1）。基本設計に従って、園路や階段も史跡へのアプローチや急斜面の階段以外は原則として設けていない。説明板等も景観に配慮し、史跡内では目立たないように地面と同じ高さに設置してある。不便なところもあるが、概ね来訪者の方々からも好評である。

丘陵上の環濠に囲まれた区域は、遺構復元ゾーンとして、堅穴住居7棟のほか、環濠と土塁・方形周溝墓や前方後方形周溝墓を復元整備している。その周囲の急斜面を斜面緑地ゾーンとして、基本的には緑地を保全する区

域とした。ここでは、管理の行き届かなくなった里山景観の保全を行うだけでなく、植林された杉や竹の伐採を行い、長期的にコナラ・クスギ・カン等の弥生時代から古墳時代の植生に置換復元する作業を行っている。杉林も間伐や場所によっては皆伐したことによって、鬱蒼として太陽の光も入らない人口林から、下草の生える落葉広葉樹林へと変わりつつある。

(3) 平成23年度・24年度事業

平成22年度にガイダンス施設の建設工事、平成23年度に展示製作を行い、平成24年4月21日には「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」として開館した。また、高地性環濠集落の遺構復元ゾーンの復元整備が概ね終了したことからガイダンス施設の開館に併せ「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として暫定オープンした。

整備活用事業の事務局は平成22年度までは歴史文化課埋蔵文化財係、平成23年度からは文化財センターで行っている。

古津八幡山古墳の復元整備を行うために、墳丘の規模や形態等を明らかにすることを目的に平成23年度～25年度の3か年にわたり確認調査を実施した（詳細はV3）。

今後は古墳の復元整備工事事を平成25年度～26年度で実施し、平成27年度に全面供用開始の予定である。

この他、来館者のためにガイドブック1～5の5冊を作成する他、平成17年度から24年度までの保存整備事業に関して『国史跡古津八幡山遺跡保存整備事業報告書—2000年の時を越え よみがえる弥生の丘—』にまとめた。詳細はこれをご覧いただきたい。

(4) 施設情報

新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

ガイダンス施設 「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」

住 所 新潟市秋葉区蒲ヶ沢264番地
(花と遺跡のふるさと公園内)

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日・休日の翌日・年末年始（12月28日～1月3日）

入 館 無料

体 験 無料・有料（表2）

駐 車 場 181台（身障者用3台分）共用

交 通 JR古津駅から徒歩20分（1.6km）



図1 史跡復元整備全体図

表1 史跡古津八幡山遺跡整備等年次計画

| 年度 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 | 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 |
|---------|---------------|---------------|-----------------------------|-----------------|---------------------|-------------------|-----------------|---------------|------------------------|---------------------|-------------------|
| | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
| 事業内容 | | | | | | | | 第1次整備完了 | 暫定供用開始 弥生館オープン | | 第2次整備完了 全面供用開始 |
| 史跡指定 | | 史跡指定 | | | | | 追加指定 (B) | | | | |
| 公有化 | | 公有化 | | | | | | | | | |
| 補助事業 | | 買上げ | 一般整備 | 一般整備 | 総合整備 | 総合整備 | 総合整備 | 総合整備 | 総合整備 | 一般整備 | 一般整備 |
| 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 | 検討委員会 |
| 調査指導部会 | | | | | | | | 古墳調査 指導部会 | 古墳調査 指導部会 | 調査指導部会 古墳復元工事 | 調査指導部会 古墳復元工事 |
| 計画 | 基本計画 (新津市) | 基本設計 (新津市) | | | | | | | | | |
| 実施設計 | | | A | C. D. Y1 | E. F. Y2 | | | | B (古墳) | | |
| 整備工事 | | | 地質調査 | A | A. C. D | E. F. Y1. Y2 | | | | B (古墳) | B (古墳) |
| 竪穴住居復元 | | | | | A区5棟 | C区2棟 | | | | | |
| ガイダンス施設 | | | | | 地質調査 | 実施設計 | 建設工事 | | | | |
| 展示工事 | | | | | | | | 展示製作 | | | |
| その他 | | | | | 遊歩道測量設 計 | 遊歩道整備工事 サイン工事 | サイン工事 | ガイドブック1 作成 | | | |
| 現況地形測量 | | | A. B. C. D | E. F. Y1. Y2 | | | | | | | |
| 間伐 | | | A. C. S1 | A. C. S2. S3 | C. D. S2. S3. Y2 | S1. S2. S3. Y2 | F. S3. Y2 | B | B. S1. S2. S3 | B. S1. S2. S3 | B. S1. S2. S3 |
| 確認調査 | | | 15次調査 F (製鉄). Y1 (水田) | | | | 16次調査 B (環濠) | レーダー 探査 | 17次調査 B (古墳) | 18次調査 B (古墳) | 19次調査 B (古墳) |
| 自然科学分析 | | | F. Y1 | | Y1. Y2 | | | B | Y1. Y2 | Y1. Y2 | |
| 調査報告書 | | | | | | | | 整理作業 | 整理作業 | 確認報告書 (15~19次調査) | |
| 整備事業報告書 | | | | | | | | | 第1次整備事業 報告書 | | 第2次整備 事業報告書 |
| 補助外 | | | | 既存施設除 却工事 | | 展示実施設計 | | 展示製作 | ガイドブック 2. 3. 4. 5作成 | | |



弥生の丘展示館



復元竪穴住居

表2 弥生の丘展示館の体験メニューと料金

| メニュー | 単位 | 料金 (円) | 所要時間 (分) |
|-----------------|-------------------|-----------|-------------|
| 勾玉づくり | 1個 紐付 | 200 | 60 |
| 管玉づくり | 1組4個 紐付 | 200 | 60 |
| 土器・土偶づくり | 粘土500g | 100 | 120 |
| 土笛・土鈴づくり | | 100 | 60 |
| 鑄造体験 | 銅鏡1個 紐付 | 400 | 30 |
| | 銅鐸1個 紐付 | 900 | 30 |
| 編布 (アンギン) 編み | 初心者コース カラムシ5g | 300 | 120 |
| | 上級者コース カラムシ10g | 500 | 180 |
| 鹿角ペンダント | 先端部以外1個 紐付 | 100 | 60 |
| | 先端部1個 紐付 | 500 | 15 |
| 土器パズル | 飽きるまで | 無料 | 10 |
| 火起こし体験 | - | 無料 | 15 |
| 弓矢体験 | 一人3本 | 無料 | 10 |
| 石斧体験 | 疲れるまで | 無料 | 10 |

史跡公園

復元竪穴住居・ガイダンス施設の開館時間と同じ。広場は通年利用が可能。

管理 新潟市文化財センターが直接管理を行っている。

史跡公園における芝刈り・草刈り、竪穴住居の燻蒸作業や、枯れ枝の伐採、園路周辺の草刈等をNPO法人にいがた森林の仲間の会に委託している。史跡公園では休館日を除き、4~11月は毎日3~4人、冬期間の12~3月は2人ずつ常駐して作業を行っている。

弥生の丘展示館は、平常は非常勤職員2名と臨時職員1~2名で施設管理や体験学習の指導を行っており、イベント等で来館者が多い時には、文化財センターの職員も一緒に事業を行っている。(渡邊朋和)

2 教育普及活動

高地性環濠集落の主要部分の整備工事がほぼ完了し、平成24年4月21日にはガイダンス施設である「弥生の丘展示館」の開館に併せ、古津八幡山遺跡歴史の広場として暫定オープンした。

歴史の広場の周辺には新潟県埋蔵文化財センター・新潟県立植物園・新潟市新津美術館などの文化施設や、地元の特産品である花木などを販売する花木販売施設があり、新潟市内外からの来訪者で賑わっている。

(1) 展 示

平成24年4月にオープンした弥生の丘展示館は、鉄筋コンクリート1階建て、床面積430㎡で、展示室180㎡、体験学習室118㎡が主な施設である。展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器など500点以上を展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、展示ケースの壁面には全面に考古イラストレーターの早川和子さんによる復元画を拡大して貼っている。復元画は遠景画と近景画からなり、遠景画は縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代の4つの時代を同じアングルで描き、古津八幡山遺跡の時代毎の変遷や背後に見える越後平野の移り変わりがわかるようにしている。各時代の近景画には早川さんのほのほのとしたタッチの人物が生き生きと描かれており、復元画に付けた説明も簡易なものにして、小学生や中学生にも親しみが持てるように工夫している。また、遺物ラベルも「木を切る斧 磨製石斧」のように2段書きにして、難しい考古学用語が分からなくても、理解できるように配慮した。

問題点としては、常設展示しかないためにアンケートで「いつ来ても展示が同じで、代わり映えがしない。」というご意見をいただいている。今後、小ケースを用意してミニ企画展ができないか検討している。

(2) 復元整備と体験学習

復元整備を行っても弥生時代の生活感を出すことは難しい。遺構復元ゾーンの周辺では、石斧や鉄斧で杉の伐採実験を行っているが、斧で切り倒した切り株を残すだけでなく、切り倒した幹もそのまま残している。少しでも復元集落の中で「動き」を表現できるのではないかという思いからである。つい先刻まで弥生人が居たような演出である。また、ボランティアや職員がつくった弥生土器を周溝墓の溝の中や堅穴住居の内外に置いて生活感を出す試みを行っている。固定していないので、置いた場所が動いていたり、壊れていたりすることもよくあるが、気づいた時に直している。

表3 平成24年度体験学習メニュー(事前申し込み不要)と参加人数

| 体験学習メニュー | | | 人数(人) | | |
|----------|---------------------|----------|-------|-----|-------|
| 月 | 屋内体験(有料) | 屋外体験(無料) | 個人 | 団体 | 計 |
| 4月 | 勾玉づくり | 石オノ体験 | 226 | 47 | 273 |
| 5月 | 勾玉づくり | 石オノ体験 | 439 | 20 | 459 |
| 6月 | 土器・土偶づくり | 火おこし体験 | 438 | 156 | 594 |
| 7月 | 勾玉づくり | 弓矢体験 | 328 | 238 | 566 |
| 8月 | 勾玉づくり | 石オノ使用体験 | 295 | 0 | 295 |
| 9月 | 土器・土偶づくり | 火おこし体験 | 433 | 271 | 704 |
| 10月 | 土器・土偶づくり | 弓矢体験 | 110 | 0 | 110 |
| 11月 | 勾玉づくり | 火おこし体験 | 50 | 71 | 121 |
| 12月 | 鹿角ペンダント 勾玉・管玉づくり | 火起こし体験 | 33 | 0 | 33 |
| 1月 | 土器づくり | 火起こし体験 | 28 | 0 | 28 |
| 2月 | 勾玉・管玉づくり | 火起こし体験 | 17 | 0 | 17 |
| 3月 | アンギン編み | 火起こし体験 | 50 | 0 | 50 |
| 合計 | | | 2,447 | 803 | 3,250 |

弥生時代のムラは樹木・草花・鳥や獣・昆虫などの里山の豊かな自然環境により育まれてきた。史跡整備だけではなく、これらの豊かな自然環境に触れるために、間伐材を用いた樹名板を取り付けたり、植物観察・昆虫採集等の自然に触れ合う

イベントも積極的に開催したりしている。堅穴住居宿泊体験のメニューの一つとして、平成24年の8月に実施した昆虫採集ではクヌギやコナラに取り付けたトラップに一晩で50匹以上のカブト虫が集まった。杉林からなる針葉樹林よりも、クヌギやコナラなどの落葉広葉樹林が豊かな生態系を育てていることを証明している。また、秋の味覚体験では参加者が史跡内で採れたクリや山芋のムカゴなどを堪能した。この他にもクサイチゴやミヨウガ、堅果類など里山は食材には事欠かない。

(3) 体験学習メニュー

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでもできる体験学習メニューを月毎に決めている。屋内体験は材料費程度の実費をいただいているが、屋外体験は全て無料である(表2・3)。

概ね10人以上の団体の場合は事前に申し込みをお願いしている(表4・5)。団体の種類別では小学校が半数以上を占めている。次いで多いのはサークル団体である。

この他に、市報やホームページ等で広報して、参加者を事前募集して行うイベントを月に1回か2回程度実施している(表6)。

表4 平成24年度団体種別利用件数と人数

| 分類 | 件数 | 人数(人) |
|-------------|----|-------|
| 小学校 | 22 | 1,313 |
| 各種サークル | 15 | 300 |
| 中学校 | 5 | 114 |
| 公民館・自治会・町内会 | 5 | 107 |
| 市政教室 | 4 | 94 |
| 行政 | 3 | 71 |
| その他 | 3 | 43 |
| 幼稚園 | 1 | 23 |
| 研究団体 | 1 | 20 |
| 合計 | 59 | 2,085 |

表5 平成24年度団体利用一覧

| 年月日 | 団体名 | 人数(人) |
|------------|--------------------------|-------|
| 2012/4/21 | すずまり | 23 |
| 2012/4/26 | 矢代田小学校 | 41 |
| 2012/4/27 | 東石山中学校 | 21 |
| 2012/5/2 | 岡方第一小学校 | 27 |
| 2012/5/11 | 新飯田小学校 | 10 |
| 2012/5/22 | 横越かたりベサークル | 12 |
| 2012/5/23 | あゆみの会 | 15 |
| | 羽黒山第三小学校 | 41 |
| 2012/5/27 | 新潟健民少年団 | 12 |
| 2012/6/1 | 両川小学校 | 26 |
| 2012/6/8 | 森のようちえん | 23 |
| 2012/6/9 | 小須戸公民館 | 13 |
| 2012/6/12 | 真砂2丁目自治会 | 31 |
| | 動く市政教室『個人参加 遺跡を学ぼう』※ | 30 |
| 2012/6/13 | 真砂2丁目自治会 | 28 |
| 2012/6/14 | 金津小学校 | 316 |
| | 動く市政教室『個人参加 遺跡を学ぼう』※ | 30 |
| 2012/6/17 | 東区市民劇団未来 | 10 |
| 2012/6/21 | 南浜小学校 | 20 |
| 2012/6/22 | 史跡めぐりの会 | 37 |
| 2012/6/24 | みなとびあファンクラブ | 32 |
| 2012/7/3 | 結小学校 | 109 |
| 2012/7/6 | 新潟小学校 | 91 |
| 2012/7/8 | 天神町内会 | 10 |
| 2012/7/20 | 指定都市文化財行政担当者視察 | 30 |
| 2012/7/25 | 羽生田小学校 | 13 |
| 2012/9/4 | 動く市政教室『個人参加 発掘現場を見てみよう』※ | 17 |
| 2012/9/6 | 動く市政教室『個人参加 発掘現場を見てみよう』※ | 17 |
| 2012/9/11 | 東青山小学校 | 101 |
| 2012/9/12 | 金津小学校 | 60 |
| 2012/9/15 | にいがた観光ツアーバス めぐるん号 | 13 |
| 2012/9/19 | 小合東小学校 | 10 |
| 2012/9/20 | 新津第二中学校 | 21 |
| | 鶴岡市立小堅小学校 | 12 |
| 2012/9/21 | 五泉市中学校区支援学級 | 33 |
| | ふたかみ史遊会 | 28 |
| 2012/9/26 | 立仏小学校 | 80 |
| 2012/9/27 | 鶴岡市立湯野浜小学校 | 30 |
| 2012/9/30 | 小須戸公民館 | 25 |
| 2012/10/10 | 新関小学校 | 13 |
| 2012/10/18 | 山二ツ老友会 | 18 |
| 2012/10/19 | 五十嵐中学校 | 29 |
| 2012/10/23 | 山湯小学校 | 70 |
| 2012/10/27 | にいがた観光ツアーバス めぐるん号 | 17 |
| 2012/11/1 | 阿賀小学校 | 53 |
| 2012/11/2 | 中村さくら会 | 16 |
| 2012/11/10 | 見附手話サークル | 15 |
| 2012/11/11 | 大安場史跡公園ボランティア | 26 |
| 2012/11/13 | 五十嵐小学校 | 120 |
| 2012/11/15 | 新津第一中学校 | 10 |
| 2012/11/16 | 庄瀬小学校 | 13 |
| | 根岸地区社会福祉協議会 | 16 |
| 2012/11/18 | 信濃川火焔街道連携協議会 | 25 |
| 2012/11/24 | 長者ヶ原遺跡友の会 | 15 |
| 2012/12/7 | 小須戸小学校 | 57 |
| 2012/12/8 | 山歩きの会 | 23 |
| 2012/12/26 | NHK文化センター教養講座 | 13 |
| 2013/2/17 | 北海道・東北保存科学研究会 | 20 |
| 2013/3/21 | 長湯長寿会 | 18 |
| 合計 | | 2,085 |

※文化財センター主催事業

表6 平成24年度体験学習メニュー（事前募集）と参加人数

| 年月日 | 内容 | 人数(人) |
|------------|---------------------------|-------|
| 2012/5/20 | 八幡山植物観察 | 11 |
| 2012/6/3 | 第11回にいつ花ふるフェスタ | 1,005 |
| 2012/6/24 | 古津八幡山遺跡探検&弥生土器で煮炊きの実践 | 22 |
| 2012/8/4~5 | 弥生時代のくらしを体験して、昆虫・星空を観察しよう | 22 |
| 2012/9/16 | まいぶん祭り | 331 |
| 2012/9/30 | 鹿角釣り針つくり | 6 |
| 2012/10/7 | 古津八幡山発掘体験 | 16 |
| 2012/10/28 | 古津八幡山 秋の植物観察 | 8 |
| 2012/11/11 | 古津八幡山 秋の森の味覚体験 | 18 |
| 2012/11/25 | 古津八幡山 里山クラフトづくり体験 | 24 |
| 2012/12/9 | 古津八幡山 薫製づくり体験 | 8 |
| 2012/12/16 | ボランティア養成講座 3回目 | 17 |
| 2013/1/13 | 古津八幡山 弥生の餅つき | 120 |
| 2013/2/3 | 観察再現講座 石器の製作工程をみる | 15 |
| 2013/3/3 | ボランティア養成講座 4回目(体験①) | 11 |
| 2013/3/10 | 古津八幡山 春をさがしに行こう!(植物観察) | 13 |
| 2013/3/24 | ボランティア養成講座 5回目(体験②) | 14 |
| 合計 | | 1,661 |

毎年6月1週目に近隣施設と合同で行われる「にいつ花ふるフェスタ」では、1日に1千人以上が入館し体験学習を行った。

平成25年からは近くの休耕田を借りて、黒米や赤米等を栽培する水田

を復元し、脱穀や試食体験を行っている(VI6で詳述)。今後は、弥生時代・古墳時代にこだわった体験学習を行っていきたいと考えている。

(4) 入館者数

弥生の丘展示館は、JR信越線古津駅から徒歩約20分の距離にあり、近くには新潟市新津美術館・新潟県立植物園・新潟県埋蔵文化財センター・石油の世界館等の文化施設や、花卉を販売する民間商業施設があり、地理的に恵まれている。

平成24年4月21日から25年3月31日の弥生の丘展示館の入館者数は33,897人であった。団体に比べ個人入館者が圧倒的に多い。平成24年6月1日に1万人、8月16日に2万人、12月23日に3万人の来館者に証明書と記念品を贈呈した。その後、平成25年7月5日には入館者数5万人に達した(表7)。(渡邊朋和)

表7 平成24年度弥生の丘展示館入館者数

| 月 | 個人 | 団体 | 人数 | 累積人数 |
|-----|--------|-------|--------|--------|
| 4月 | 2,953 | 85 | 3,038 | 3,038 |
| 5月 | 6,114 | 117 | 6,231 | 9,269 |
| 6月 | 5,418 | 596 | 6,014 | 15,283 |
| 7月 | 2,753 | 253 | 3,006 | 18,289 |
| 8月 | 3,302 | 0 | 3,302 | 21,519 |
| 9月 | 2,772 | 447 | 3,219 | 24,810 |
| 10月 | 2,256 | 154 | 2,410 | 27,220 |
| 11月 | 1,784 | 307 | 2,091 | 29,311 |
| 12月 | 757 | 93 | 850 | 30,161 |
| 1月 | 1,217 | 0 | 1,217 | 31,378 |
| 2月 | 921 | 20 | 941 | 32,319 |
| 3月 | 1,560 | 18 | 1,578 | 33,897 |
| 合計 | 31,807 | 2,090 | 33,897 | 33,897 |

3 古津八幡山古墳確認調査の概要

(1) はじめに

古津八幡山古墳は信濃川と阿賀野川に挟まれた新津丘陵の北西端に位置し、墳頂部の標高は約49m、平野との比高は約45mを測る。墳丘面や墳丘斜面は、第二次世界大戦中や戦後に畑として開墾されたために切り盛りがなされ、古墳本来の姿が大きく損なわれている。

古墳の復元整備（平成25・26年度工事予定）を行うにあたり、形や規模・構造、埋葬施設の有無、築造方法、築造年代の解明を主たる目的として、平成23年度（第17次調査、443㎡、7月11日～11月25日）、平成24年度（第18次調査、459㎡、5月29日～12月25日）、平成25年度（第19次調査、86㎡、6月3日～8月20日）の3か年にかけて確認調査を実施した。

確認調査は、史跡古津八幡山遺跡保存整備検討委員会の部会である古津八幡山古墳調査指導部会の指導のもと、新潟市文化財センターが調査主体となり実施した。

(2) 主な調査成果

調査は幅1mのトレンチを基本とし、必要に応じて面的な調査を行った。掘削は必要最小限とする方針のもと全て人力により行った。トレンチ数は、第17次調査20か所、第18次調査17か所、第19次調査6か所の計43か所である。なお、葺石・埴輪とも確認できなかった。

墳丘の形・規模 墳丘部分は畑による切り盛り等で大きく改変されており、各トレンチにおいても墳丘面が削られている部分が多く存在した。墳端やテラスが判明したトレンチ間を繋いだ平面形態は円墳で、墳丘最大長は東西方向で60mを測る。南北や北西－南東方向、北東－南西方向では短く約55mである。また、1991年の測量調査時に可能性が指摘されていた「造り出し」については、推定範囲を面的に調査した結果、存在しなかった可能性が高いとの判断に至った。

周濠 墳丘の南西側と南東側に周濠が存在することが確認された。両周濠の端は1 Tと4 Tでそれぞれ確認され、周濠間が陸橋状に途切れることが判明した。なお、墳丘南西側に位置する5 Tでは、旧表土から周濠底面までの最大深度が約4mを測る。

段築 幅約4～5mのテラスが確認され、当古墳が二段築成の古墳であることが判明した。テラスは基本的に盛土で造成されるが、旧地形の高い1 Tでは旧表土がテラス面を形成する。テラス内端の標高は、1 Tと6 Tとでは1 Tの方が約0.8m高い。テラス面を水平には形成しておらず、旧地形の影響を受けた可能性が考えられる。



古津八幡山古墳遠景（東から）

埋葬施設 墳頂において十字方向で旧表土まで断ち割りを行ったが埋葬施設は確認できなかった。埋葬施設が確認できないことや、他の古墳の事例から、墳頂部は現況より1m以上高かった可能性が推測され、埋葬施設は削平された可能性が高い。

一方、墳頂部で墳丘盛土を掘って構築された、長軸11.6m、短軸10.7mの方形に巡る溝が検出された。溝の最大幅は約2.1m、深度は約0.4mを測り、出土土器から9世紀後半の溝と考えられる。溝の傾斜からは、掘り込み面が今回の確認面から大幅に高くなるとは考えにくく、溝を掘り込む以前に墳頂部が削平されていた可能性が高い。

築造方法 古墳の築造に関しては、墳丘中央に小丘、外縁に土手状盛土、小丘と土手状盛土の上面レベルで水平面（工程面）が確認できた。青木敬氏の「東日本の工法」と「西日本の工法」〔青木2002〕の折衷といえる。

なお、盛土の硬度を計測した結果、小丘・土手状盛土で比較的高い値を示すことから、要所で強固な盛土を築いたことが推測される。

旧地形 各トレンチで確認できた旧表土レベルから、1 Tから6 T（南東から北西）方向、5 Tから2 T（南西から北東）方向へ向かって下降していく旧地形であったことが確認された。また、古墳の中心域周辺はもともと標高の高い地形であり、古墳築造地の選定にあたって高い場所を古墳の中心域として選択したと考えられる。さらに、地形が比較的急な傾斜で下降していく場所を墳丘の下段斜面として利用した可能性が推測される。

なお、古墳築造前に旧表土を整地・整形したり、野焼きを行った痕跡は確認されず、旧表土上にそのまま盛土をして古墳を築造したと考えられる。

(3) おわりに

青木氏は、前期末頃になると西日本の工法に強く影響を受けた例が東日本各地に出現するが、西日本の工法を熟知していなければ築造は困難とし、古津八幡山古墳の

他に、千葉県市原市大厩浅間様古墳、新潟県上越市丸山古墳、東京都狛江市白井塚古墳、千葉県我孫子市水神山古墳、長野県飯田市新井原13号墳、宮城県仙台市裏町古墳などを例示した〔青木2013a〕。さらに、古津八幡山古墳と墳丘築造技術が酷似する古墳として大厩浅間様古墳を挙げ、両者は近接した時期の古墳と理解するのが自然であるとした〔青木2013b〕。大厩浅間様古墳の時期

は、出土遺物から古墳集成編年〔広瀬1991〕の4・5期に位置付けられる。古津八幡山古墳の4T周濠底面から出土した細片の鉢形土器は、古墳時代前期後半から中期前半の間に取まる可能性が高く、大厩浅間様古墳の時期と矛盾しない。良好な出土資料がなく確定できないが、現時点で古津八幡山古墳は古墳集成編年の4・5期に位置付けられる可能性が高いといえよう。（相田泰臣）

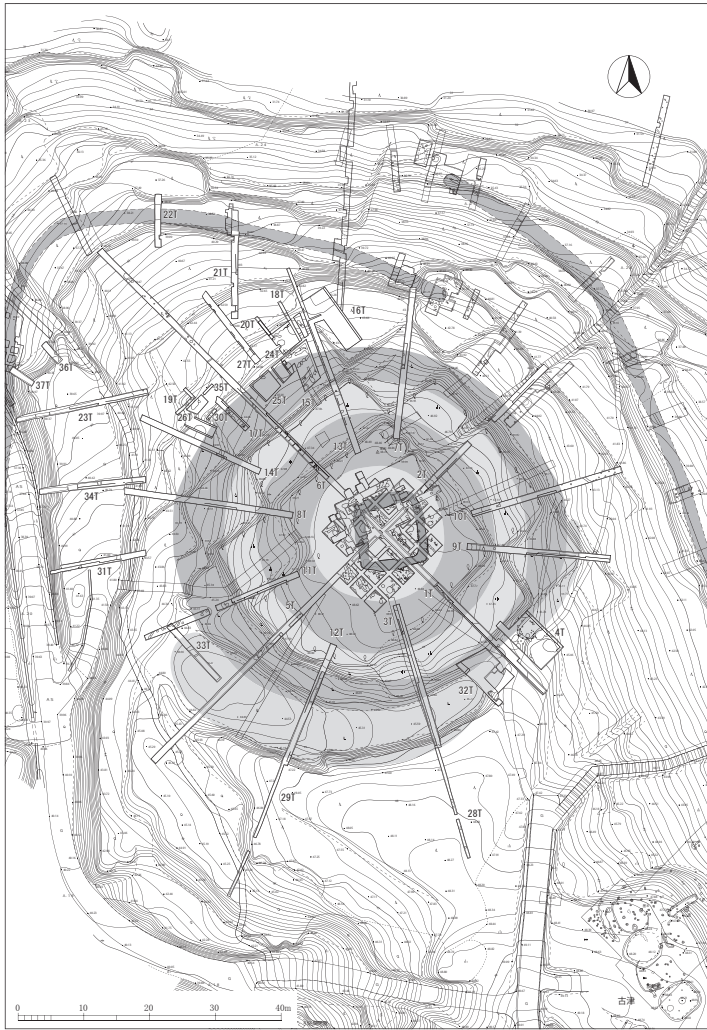


図2 古津八幡山古墳平面図



墳丘南東部（東から）



墳頂部調査風景（北から）



周濠（5T 北から）

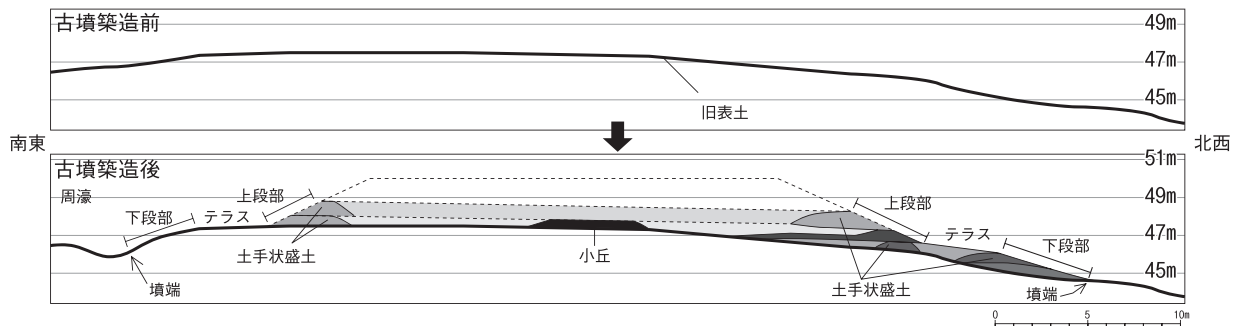


図3 古津八幡山古墳 断面模式図（北西・南東ライン）

VI 付編 資料紹介等

1 齋藤秀平氏旧蔵の縄文土器・土師器

齋藤秀平氏（以下「齋藤氏」という。）が旧蔵していた縄文土器1点と土師器1点について資料紹介を行う。

収集の経緯 齋藤氏旧蔵資料は、平成4年に新潟市内の齋藤氏宅から「齋藤秀平氏収集文書」の一部と共に収集した。「齋藤秀平氏収集文書」は歴史文化課歴史資料整備室に保管され、土器など数点からなる齋藤氏旧蔵の考古資料は新潟市文化財センターで保管している。

（金田拓也）

齋藤秀平氏について 齋藤氏は、明治17（1884）年に新潟県北蒲原郡中条町（現 胎内市）に生まれ、新潟県高田師範学校を卒業後に師範学校教諭となったが、その傍ら昭和初期から新潟県が刊行した『新潟県史蹟名勝天然記念物調査報告』の調査委員として作成に携わるなど、新潟県内各地で考古学研究を行った。その成果は、『新潟県史蹟名勝天然記念物調査報告』第七輯に集約されるなど〔新潟県1937〕、新潟県考古学界の草創期に新潟県の考古学の発展に尽力した。（寺崎裕助）

縄文土器（図1-1） 遺存状態は良く、口縁部が2割余り欠損するほかは完形である。口縁部外面に「西頸城郡糸魚川町長者ヶ原」、内面に「西頸城長者ヶ原」・「昭和□年」というような注記を読み取ることができたことから、この土器は、現在の糸魚川市長者ヶ原遺跡から出土したものと考えられる。

長者ヶ原遺跡は、糸魚川市大字一ノ宮字栗畑他に所在し、市街地南側の標高90～110m前後の台地上に位置を占めている。遺跡は、北陸地方を代表する縄文時代中期の集落跡であるばかりではなく、日本列島における翡翠加工の存在を初めて実証した遺跡として国史跡に指定されており、その面積は約14haにおよんでいる。

齋藤氏も昭和4（1929）年に長者ヶ原遺跡で発掘調査を行っており、その時得た土器をもって長者ヶ原式を設定したものと考えられる。この縄文土器も、内面に「昭和□年」という注記が残されていたことから、昭和4（1929）年の発掘調査で出土した可能性がある。齋藤氏は長者ヶ原式土器について、「器は二つの種類があって、一は其の大きさは坪穴式程度の深鉢を中心に、多少其の口縁部の張り出した類で、（中略）器の全面或は口縁部に微隆起線紋が展開する。微隆起線はおおむね幾つかの区割りを作り、その内外に爪形紋、隆起線紋、刺突

紋が従う。（中略）次は極めて厚手で土質は粗、稀に雲母粉末を含み、赤褐色を呈し、大形品に富み、其の概形は大体、筒形乃至深鉢形にして、口縁の内彎しつつ開くのが多い。雄渾な隆起線紋や立体装飾が付加される為、種々に変化した形に感じさせる。即ち此の式は隆起線紋の発達している点で、石器時代中最高峰を示すが、（中略）半肉彫風のマッシュヴな曲線紋を形成し、之に爪形や曲直線を添加して、殆んど器面に空白部を作らない。〔新潟県1937〕と述べ、長者ヶ原式には2つのタイプがあることを指摘している。この2つのタイプは、前者は北陸地方の所謂新保・新崎式、後者は北陸地方の所謂上山田・天神山式と考えられている。さしずめ今回紹介する縄文土器は、前者に当たる。

この土器は、器高13.3cm～13.5cm、口径9.6cm、底径5.7cmの法量を有する台付の小形深鉢である。脚部の高さは3.4cm、胴部最大径は中央にあって9.2cmである。胴部は、底部から湾曲気味に立ち上がり、口縁部は直立する。口縁は平であるが、左右では器高が若干異なることから、左側にやや傾く。脚部は、底部から直線的に開くが、端部は内反気味で、全体としては湾曲を帯びる。

文様は、無文地に半截竹管を用いた2条1単位を基本とした平行沈線で描かれている。口縁部は無文帯である。頸部には横方向の平行沈線が1条めぐって、口縁部と胴部を画する。胴部は、3条1単位の縦位平行沈線で13に区画され、その形状は長大蓮華文の様である。

色調は、赤褐色を基調とするが、胴部上半以上は暗赤褐色を呈する。外面は、口縁部から胴部上半にかけての半分くらいの部分に、スス状・オコゲ状の炭化物の付着が認められる。また、胴部上半外面の一部に黒斑と思われる痕跡がみられる。内面は、底部近くの胴部下半の一部に、スス状の炭化物が付着している。胎土中には白色・黒色を主体とした砂粒が多く含まれており、中でも白色の砂粒の多さが際立っている。成形は、外面はそれほど丁寧ではなく、口縁部はある程度滑らかであるが、胴部や脚部はでこぼこしており、滑らかさに欠ける。一方、内面の成形は丁寧で、底部を除けば滑らかである。

時期と系統は、半截竹管を施文具として平行沈線で施文していること、胴部区画文が長大蓮華文に似ていることから、北陸地方の中期前葉新崎式の系統を引く土器、すなわち本県で言うところの千石原式土器に比定できるものと考えられる。千石原式土器は、新旧2段階に細分

されているが、この土器は長大蓮華文類似の区画文をもつことから、新式に相当するものと考えられる。

この土器のように脚台が付くものは、富山県や石川県といった北陸地方の縄文時代中期では、それほど珍しいものではなく、むしろ一般的なものに近い存在である。しかし、それはこの土器よりも新しい中期中葉の上山田・天神山式の段階のことである。この土器の時期に脚台が付く土器はほとんど知られておらず、全体像がうかがえるものは、本県では見附市羽黒遺跡出土の1個体のみである。その土器は、現存高14.4cmと紹介資料よりも少し大きい、小形の深鉢形土器の部類に入る。

一方紹介資料は、研究史的な観点においても興味深く、且つ貴重である。先述したようにこの資料は、内面に「昭和□年」という昭和一桁と思われる注記が残されていたことから、昭和4（1929）年の発掘調査で出土した可能性がうかがわれるが、その時の出土を特定できる土器は今まで確認されていない。また、『新潟懸史蹟名勝天然記念物調査報告』第七輯などに掲載されている資料は、その所在が不明で、現存の存否も明らかではない。そういう意味でもこの紹介資料は、「齋藤氏が収集した数少ない資料」ということで貴重である。（寺崎裕助）

土師器（図1-2） 遺存状態が良く、口縁部に若干の欠損があるが、ほぼ完形の資料である。内面に齋藤氏を書いたと考えられる注記があり、「中頸 斐大堅穴 松葉百歩発掘／昭和六、十一、二〇」と読める。『新潟懸史蹟名勝天然記念物調査報告』第一輯〔新潟県1920〕では、齋藤氏も発掘調査を行った中頸城郡斐太堅穴群の報告がされている。注記の「中頸 斐大堅穴」が、この斐太堅穴群を示していると考えられ、斐太堅穴群周辺で出土したものと考えられる。さらに、「松葉百歩」が詳しい発掘地点を示すものと考えられるが、詳細は不明である。また、「昭和六、十一、二〇」から、昭和6（1931）年11月20日に出土したものと考えられ、先述の第一輯が昭和5（1930）年刊行のため、第一輯刊行後に出土したものと考えられる。第一輯の斐太堅穴群とは、弥生時代の高地性集落として著名な国史跡斐太遺跡のことである。

土師器は、小形の甕と考えられる。底部が平底で、胴部は半ばに最大径を有する胴張形であり、口縁部

は強く外傾する。口径10.8cm、胴部最大径10.4cm、底径4.6cm、器高9.2cmを測る。胎土は、比較的粗く、石英・長石・角閃石・焼土粒などが多数含まれている。しかし一方で、雲母や海綿骨針などは見られない。色調は、内外面共ににぶい橙色を呈する。調整は、外面ではハケメが胴部の半ばから上部にかけて断続的に廻っている。さらに、その上に口縁部ではヨコナデ、胴部の下部ではケズリが確認できる。内面では、ヘラナデが全体に廻っており、口縁部にはその上にヨコナデが確認できる。

時期については、外面調整の特徴など他に例がないため、必ずしも判然としないが、形態などから春日編年〔春日2006〕のⅡ期の可能性が高い。しかし、古墳時代後期以降にこのような小形の甕がある可能性も十分指摘できるため、ここでは6～7世紀頃の広い時間幅で考える。斐太遺跡は、弥生時代後半～終末にかけての集落のため、集落の堅穴式住居跡から6～7世紀頃の土器が出土したと考えるのは困難である。そのため、ここでは斐太遺跡周辺で出土したと指摘するにとどめる。

斐太遺跡の周辺では、初期官衙として注目される栗原遺跡が所在しており、7世紀末～8世紀前半を中心に瓦や赤彩土師器などが出土している〔坂井1981・1982、佐藤2005ほか〕。齋藤氏旧蔵土師器とは、時期・距離的にも近いと、何らかの関係も考えられる。

今回は、詳細な検討を行うことができなかったが、その来歴をはじめ重要な資料である。（金田拓也）

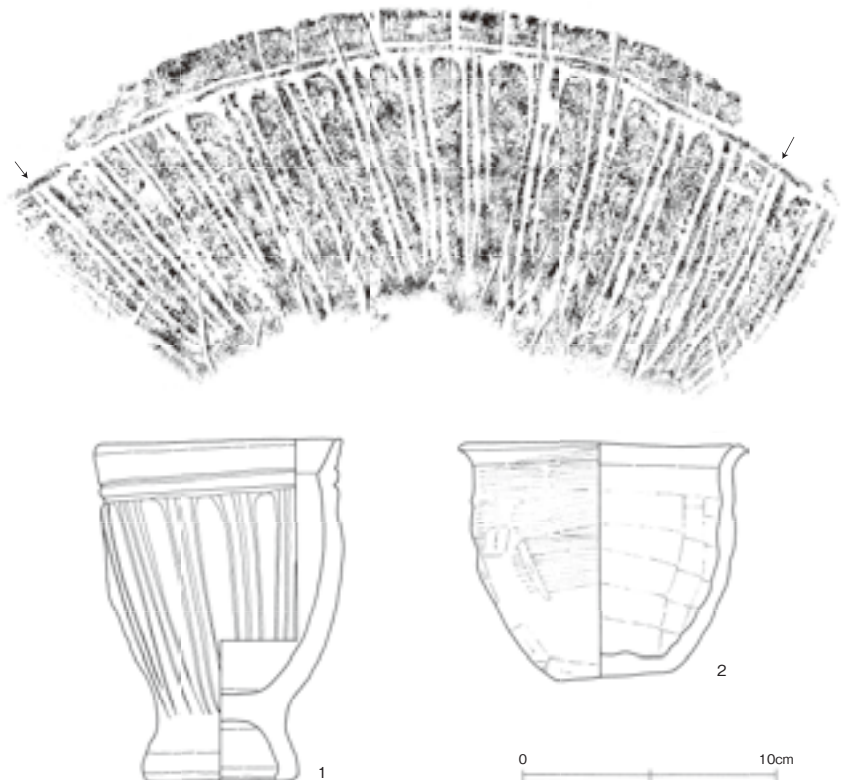


図1 縄文土器・土師器実測図（1/3）

2 新潟市西蒲区角田山沖発見の縄文土器

新潟市西蒲区角田山沖海中から引き揚げられた縄文土器1点について資料紹介を行う。

この縄文土器は、平成25年10月6日に、新潟市西蒲区角田山沖15kmの水深150~170mの海底から、底引き網漁の際に引き揚げられた。現在、この土器は、発見者から新潟市文化財センターに寄贈され、同センターで一般公開されている。

遺存状態は比較的良好で、口縁部以外は完全な形を保っている。口縁部はかなり欠損しているが、原形をうかがうことは可能である。法量は、器高36.5cm、口径26cm、底径10cmである。器種は深鉢で、器形は底部から胴部そして口縁部へと外傾気味に直線的に立ち上がる。口縁部は4単位の波状口縁と考えられ、波高は1.5cmである。文様は、口縁部は無文帯で、胴部は全面にLRの縄文が施され、上半は口縁部との境に4条1組の横位沈線文がめぐり、その下方には同様の平行沈線で描かれた横位波状文1条と横位沈線文が2条めぐっている。沈線文は、半截竹管で4条の平行沈線を下書きし、その後に棒状工具で沈線部分をなぞって描出している。そのために、沈線間は半隆起線状を呈する。色調は、内外面共にぶい黄色を基調とするが、外面の一部は明赤褐色である。

また、外面一部に黒斑と思われる痕跡が認められる。胎土は長石や海綿骨針を若干含み、大小の赤色粒や白色粒を主体とした砂粒が多く見られる。成形は、内外面共に丁寧で、滑らかである。土器の内外面には、長く海中にあったことを証明するかのよう、貝の付着痕が多く認められる。

出自は、前述した特徴から、東北地方南部の大木式、あるいはその系統を引く土器と考えられ、長岡市馬高遺跡に類似する土器を見出すことができる。それゆえこの土器は、大木式の外核圏である信濃川中流域の土器にその出自を求めることができそうである。編年は、器形や波状文を有すること並びに沈線の施文手法などから、中期中葉の馬高式の後半に比定でき、大木8a式の終わりから大木8b式の前半に並行するであろう。

この土器は、陸地から遠く離れた海中から引き揚げられたということに特筆すべき点があり、5,000年余り前の縄文時代中期における日本海海上交通の活発な実態を示す具体的な証拠として重要である。新潟県域で縄文土器が海揚げりした例は、今から30数年前の佐渡海峡例に次いで2例目である〔小熊1998〕。このように、陸地から遠く離れた海中深くより完全な形に近い縄文土器が引き揚げられたことは、この2例を除けば聞いたことがない。
(寺崎裕助)

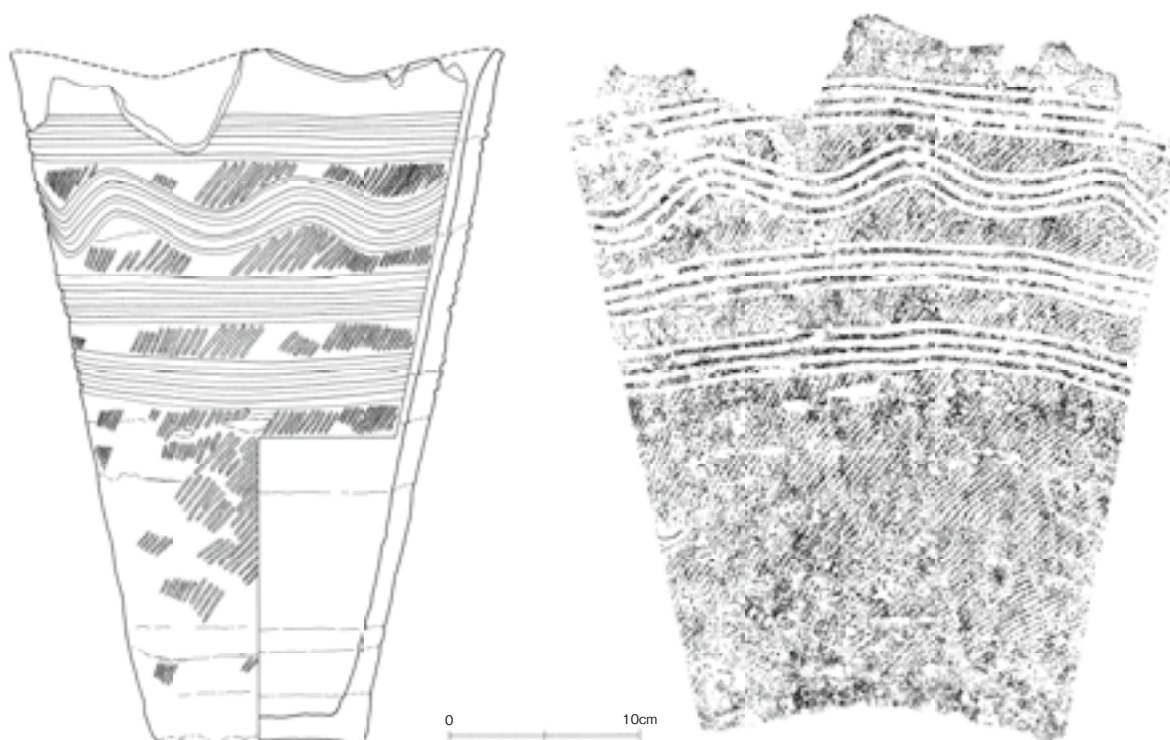


図2 縄文土器実測図(1/4)

3 新潟市西蒲区弥彦山沖発見の珠洲焼

本資料6点は、平成24（2011）年4月に情報提供があり、文化財センターで資料化を行ったものである。新潟漁業協同組合西蒲支所に所属する2人の漁師によって、底引き網漁中に引き揚げられた珠洲焼で、いずれも北緯37°43′59″・東経138°41′39″、水深200mの地点で網に掛かったという。引き揚げられた年月日は定かではないが、Y氏が引き揚げた4点（図4 3～6）のうちの2点は平成19年の中越沖地震前、残りの2点とT氏が引き揚げた2点（図3 1・2）は地震後とのことである。

1は珠洲焼の小型壺である。口径9.7cm・底径7.6cm・器高20.5cm。口縁部は「く」の字状に外反し、強くヨコナデされている。胴部はいかり肩気味の器形で、内外面のロクロメは顕著である。肩部には8～13条1単位の波状の櫛目文が3段施されている。底部は静止糸切りである。内外面に貝殻の付着がみられるが、内面の方がやや少ない。2～6は内面に「米」状の卸し目をもつ珠洲焼の片口鉢である。いずれも貝殻のような付着物はほとんどみられず、器面が少し摩耗している。2は口径29.8cm・底径11.4cm・器高13.0cmで、口縁部が一部欠損している。口縁部は外面に面をもち、胴部は内湾気味に開く。卸し目は10条1単位の「米」状に加えて口縁部近くの1か所に短く横位に施されている。3は口径30.4cm・底径11.8cm・器高11.8cm。口縁部は外面に面をもち、胴部は内湾気味に開く。卸し目は16条1単位の

ある。4は口径30.7cm・底径12.0cm・器高11.6cm。口縁部は外面にやや丸みを帯びた面をもち、胴部は直線的に開きながら上方で内湾気味に立ち上がる。卸し目は8条1単位の「米」状に加えて2か所に短いものがやや雑に施されている。5は口径31.2cm・底径11.6cm・器高13.6cm。口縁部は外面に面をもち、胴部は内湾気味に開く。卸し目は10条1単位の「米」状に加えて口縁部近くの1か所に短く横位に施されている。外面に製作時に付いたと思われる沈線状の傷がみられる。6は口径30.8cm・底径11.2cm・器高12.7cm。口縁部は外面に面をもち、胴部は直線的に開きながら上方で内湾気味に立ち上がる。卸し目は16条1単位である。

以上の6点は、吉岡編年のⅡ期の所産と思われる、出土地点も同じということから、同一の船に積み込まれた可能性が高い。本地点は「寺泊タラバ」の範囲であり、そこから揚ったとされる珠洲焼がいろいろなところで確認されているが、特に一括性の高い海揚がり資料は生産地と消費地との関係や流通システムを捉えるために有効な手段となり得ることから、情報の集成・分析が望まれる。

なお、5・6の片口鉢は、情報提供直後の平成24年6月5日にY氏から新潟市が譲受を受け、現在新潟市文化財センターで収蔵・展示している。（渡邊ますみ）

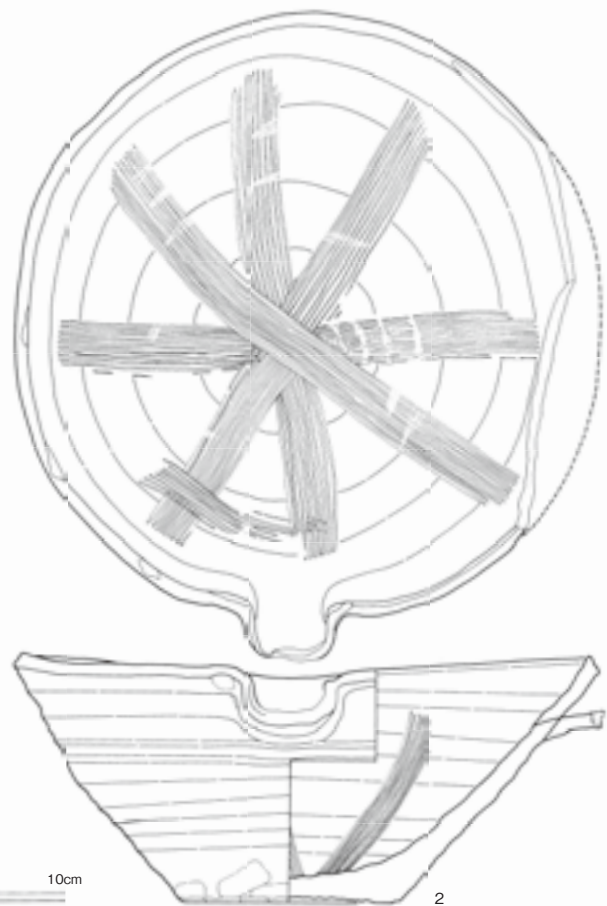
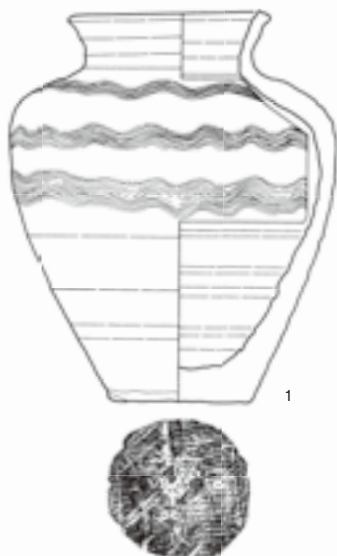
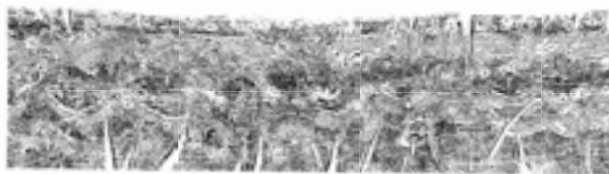


図3 珠洲焼実測図1（1/4）

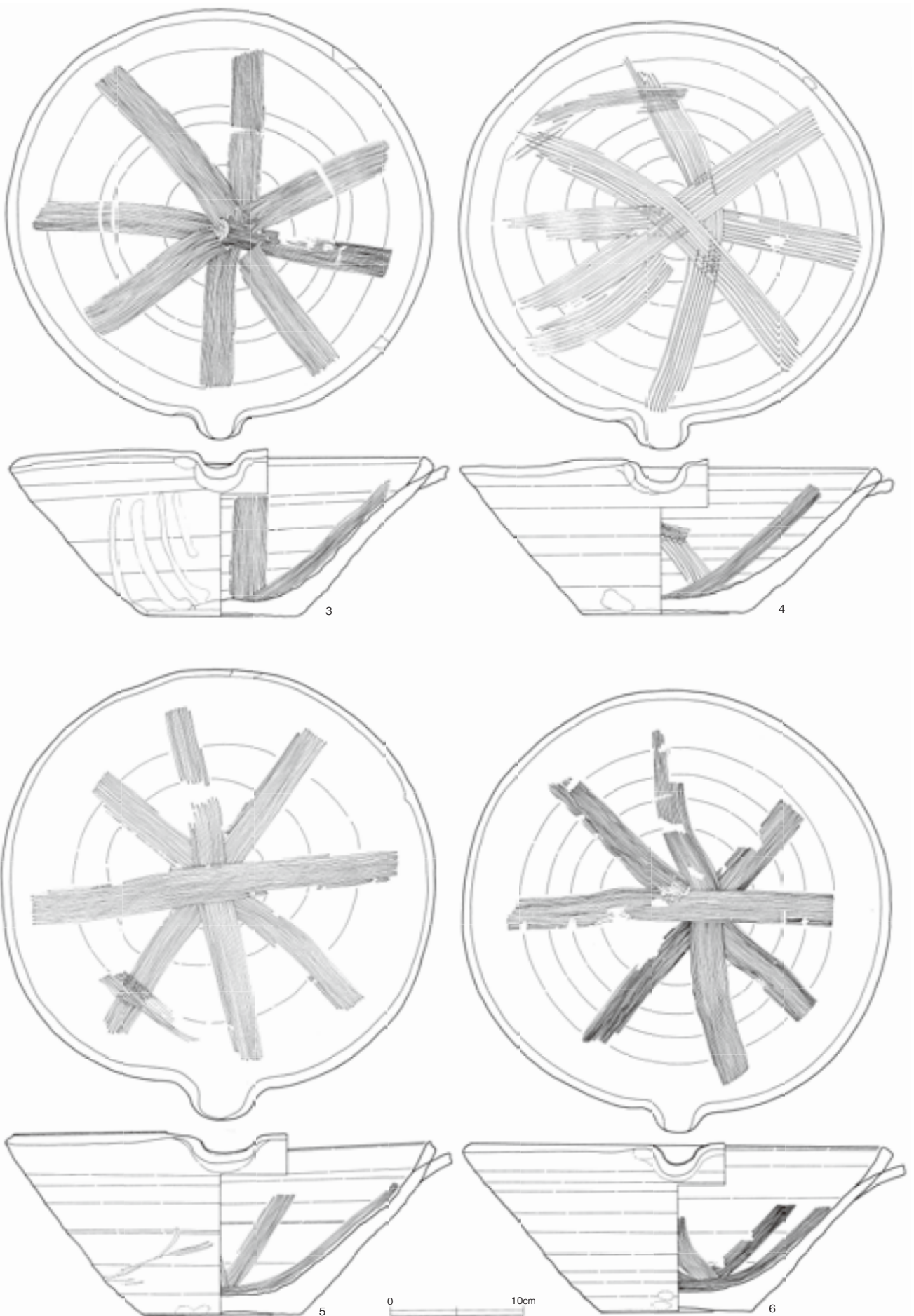


图4 珠洲烧実测图2 (1/4)

4 新潟市西蒲区角田山沖発見と伝えられる珠洲焼

明治44（1911）年3月16日付新潟新聞に「又々古代土器」と題された記事がある。この記事に掲載されている珠洲焼が新潟市に寄附された。

寄附に至る経緯 平成25年12月21日付新潟日報に掲載された「角田沖から縄文土器」の記事を受け、新潟市江南区在住の齊藤順次氏より当センターに連絡があった。職員が確認したところ珠洲焼の甕と播鉢であることが判明した。平成26年1月7日付で物品寄附申込書の提出を受け、翌8日付新文セ第232号の3で物品寄附受理通知書を発送し手続きを完了した。

〔新潟新聞〕の記事 旧字体の漢字は常用漢字に変換し、句読点は適宜付した。（ ）は補足である。

「当市古七（古八の誤り）東新道料理店住の江主人大浦鉄次郎氏実父木戸氏が角田沖の鱈場より揚がりたる古代土器を手に入れしとは既記せしが、尚ほ中蒲原郡曾野木村大字俵柳の素封家小林芳一氏も十年前同地に舟遊の折、図の如き古代土器を網にて得られ爾来何心なく所蔵されしに、今回木戸氏の掘出しが評判となるに連れ、当師範西垣教諭に鑑定を乞はれたるに全く同種のものにて確めたる年代は判明せざるも二千年の古を偲ぶ可きと判明せりと、右に付西垣氏の説明大畧左の如し。

一、大なるものは四斗量も容るるに足り小形のもの又一斗を盛るにたる。

一、小形のものは酒器なるべく大形のものは水甕なるべし。

一、大形の甕の中に図他三器を収め更に海松五尺位に延びたるが生じ居れり。

一、時代は矢張り木戸氏の分に差異なき様認められ形は幾分か異なるところなり。概して木戸氏の方よりは粗製にして無器用なる出来なり。種致は此の方にあると見受けられる。

一、表面は布目にあらずして筥目を表し内面はたたき作りにて凹点を以て覆われたり。

一、色は黒褐色にして厚きは木戸氏の分よりも一層厚き方なり。

一、他三品の内一八後の播鉢といふ風のものにして曲り形のすりばち形をなし内面には粗なる筋目を付しあり。

一、年代の確かたる見別けに付かずといへども古代土器なることは勿論にして一見二千年の昔をしのぼるる珍品なり。」

記事の内容を整理すると、古町通八番町東新道にある料理店「住の江」店主大浦鉄次郎氏の父木戸氏が角田沖

の鱈場より引き揚げられた古代土器を入手した。この木戸氏の経緯は明治44年2月17日付新潟新聞「海中より上りし酒甕」の記事にある。木戸氏が入手した古代土器については、坪井正五郎「越後の海底から引上げられた朝鮮土器」〔坪井1911〕に掲載されており、現在でいう須恵器大甕のことである。曾野木村大字俵柳の地主小林芳一氏も明治34年頃に角田沖の鱈場にて甕と播鉢が網にかかり、何気なく所有していた。木戸氏の土器が話題となったので、小林氏も新潟師範学校の西垣教諭に鑑定を依頼した。西垣教諭は平安時代の須恵器と鎌倉・室町時代の珠洲焼の区別がつかなかったようだが、箇条書きの説明文には両者の特徴を書いている。図5の小林氏が所有していた焼物のうち、大きさと形状から左端の大甕と右端下の播鉢が今回寄附された珠洲焼と考えられる。

新潟新聞の記事にある「俵柳の素封家小林芳一氏」とは江戸時代の土地持ち番付にも登場する地主小林家の当主である。小林家は戦後の農地改革により小作地をすべて手放している。齊藤順次氏の祖父は小林家の門番を務めていた。珠洲焼は農地解放後に齊藤順次氏の父が小林家の家財の一部を買い取った際に入手したものだという。

寄附を受けた珠洲焼 寄附された珠洲焼は甕と播鉢である。珠洲焼は康治2（1143）年頃から15世紀第4四半期頃の鎌倉時代から室町時代にかけて現在の石川県珠洲市周辺で生産された。甕は海路を船によって運搬され、石川県から北海道渡島半島にかけての日本海側を中心に流通した。寄附された珠洲焼も運搬の途中で遭難したものが底引き網に掛かり引き揚げられたものと考えられる。

甕の法量は口径60.0cm・底径19.5cm・器高63.4cm、完形品である。口縁部はやや楕円形に歪む。肩部には篋状工具による「キ」の記号文がみられる。外面は右下がりの平行タタキを体部立ち上がり部まで施す。底部は砂底で外周をナデ調整する。時期は吉岡編年Ⅳ2期。

播鉢の法量は口径30.9cm・底径12.6cm・器高12.2cm、完形品である。体部は直線的に開き、口縁部は外傾する。卸し目は1単位幅3.3cmで7条の入り組み技法である。底部は静止糸切り後、外周をなでつける。時期は吉岡編年Ⅱ期。時期については珠洲市教育委員会大安尚寿氏より写真を基にコメントいただいた。（相澤裕子）



図5 「新潟新聞」に掲載された図（明治44年3月16日）

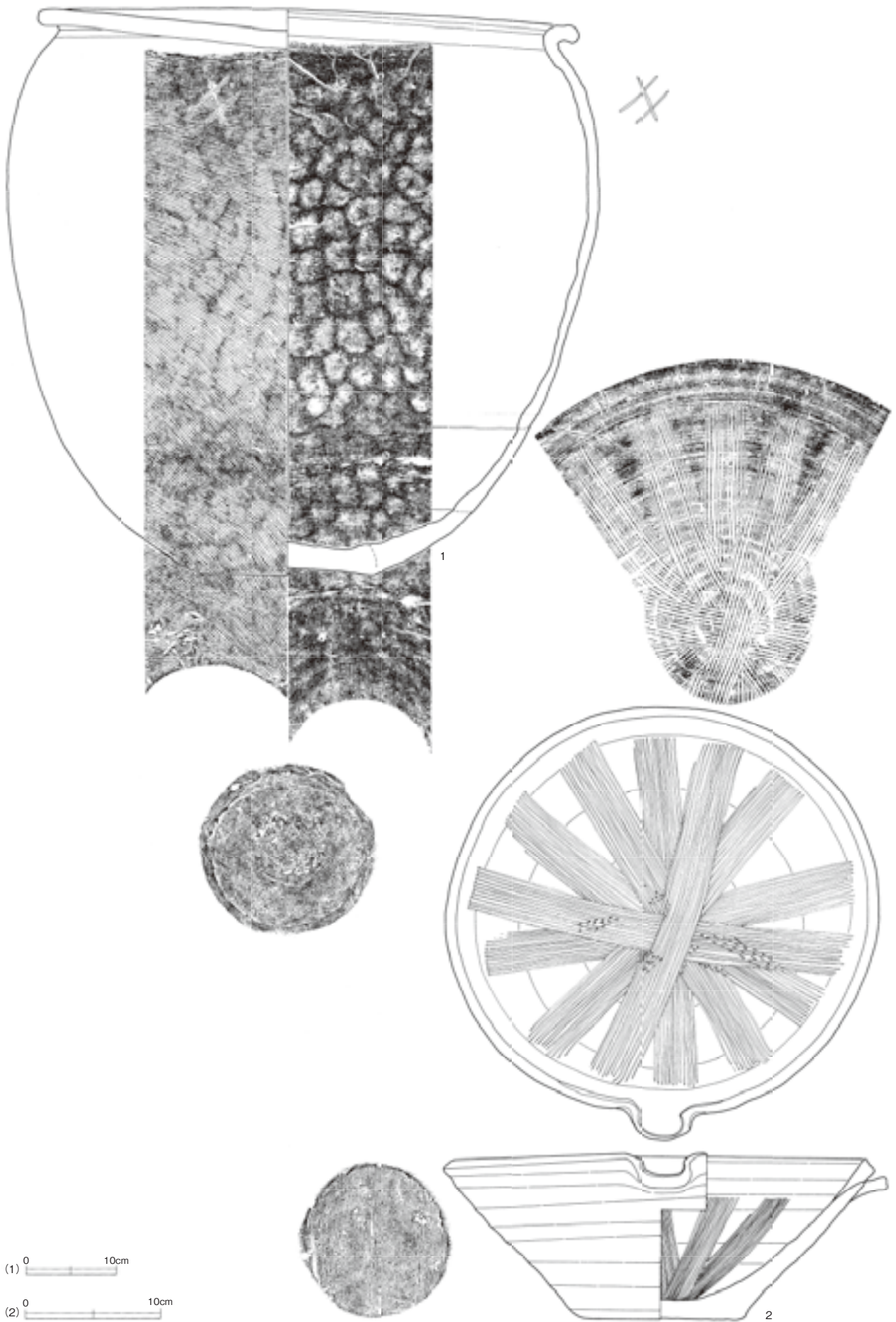


图6 珠洲焼実測図 (1/6、1/4)

5 佐渡近海発見の珠洲焼

新潟市在住の本間慶次氏が所蔵している珠洲焼2点について資料紹介を行う。所蔵資料は、本間氏の記憶によれば、昭和の初め頃底引き漁によって佐渡近海から引き揚げられたことを、祖父から聞かされたという。

この珠洲焼は、吉岡康暢氏のいう壺T種中壺A I 2と考えられる〔吉岡1994〕。1は、器形は底部から外傾して立ち上がり、胴部は球卵形を呈して肩が強く張り出し、上半に最大径を有する。頸部は短く直立し、口縁は外反して端部に面を持ち、頸部から口縁部の形状はコの字状を呈する。法量は、口径20.4cm・底径15cm・器高35.5cm・最大径31cmである。タタキメは右下がり粗く、底部から3～8cmくらい上方まで施されているが、タタキが弱いためにナデの痕跡が残る。底部外面には指頭圧痕、胴部内面には当て具痕が認められる。底部の底面は滑らかであることから、海揚げ後に研磨された可

能性が高い。色調は灰白色で、海揚げりを示すかのように、器外面には貝殻の付着が認められる。

2は、1とほぼ同様の器形であるが、胴部は1に比べてやや膨らむ。法量は、口径19.8cm・底径14cm・器高34.5cm・最大径31.2cmである。タタキメは右下がり粗く、底部から2.5～5cmくらい上方まで施されている。胴部内面には当て具痕跡がみられる。底部外面には指頭圧痕、底面は砂底で、板状の圧痕が認められる。色調と貝殻の付着は、1と同じである。

これらの珠洲焼の編年的な位置を考えると、胴部の形状に若干の違いがあるものの、両者はほぼ同じ形態をとることから、同時期の可能性が高い。口縁端部に面を持ち、口頸部は短く、形状が「コ」の字状、胴部は球卵形を呈するという両者の特徴は、珠洲陶器編年のI期を中心に、II期までおよぶ。口縁部の形状からすると吉岡編年のI 2期に位置づけられる。(寺崎裕助)

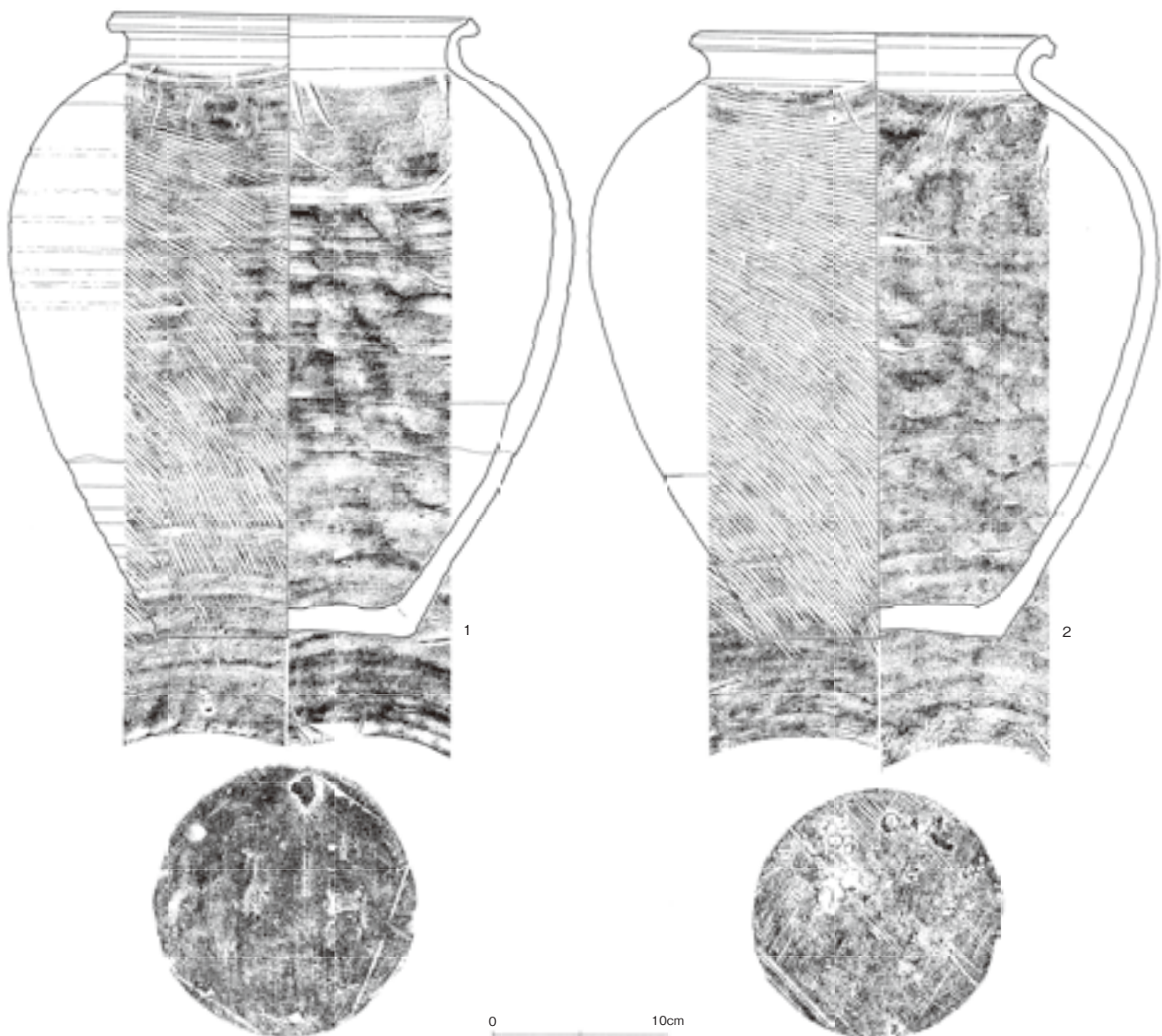


図7 珠洲焼実測図(1/4)



圖 1-1



圖 1-2



圖 2



圖 3-1



圖 3-2



圖 4-3



圖 4-4



図 4-5



図 4-6



図 6-1



図 6-2



図 7-1



図 7-2

6 新潟市西蒲区和納館跡出土木簡

和納館跡は、新潟市西蒲区和納1143番地ほかに所在し、JR越後線岩室駅の東側に位置する。西川右岸の自然堤防上に立地し、遺跡の西約300mを西川が北流している。

平成6年、宅地開発に伴って新潟県教育委員会が試掘調査を行い、翌年に岩室村教育委員会が2,600㎡を本発掘調査した。調査では、二重に巡る堀の一部を確認し、堀の内側からは多数の柱穴や井戸44基などを検出した。多量の中世土器のほか、漆器の椀や皿、貨幣、短刀、曲物・櫛・下駄・舟形などの木製品、砥石、石臼、土錘など、豊富な内容の遺物が出土した。遺物の年代は13世紀後半から16世紀後半の約300年間にわたる。発掘調査報告書は平成9年に刊行された（川上1997）。遺跡地は、現在は宅地や公園になっている。

写真の木簡は、調査区のほぼ中央で検出された井戸SE99から出土した。報告書では「簡素な造りの斎串であろう」として報告されたが（割付No.270、遺物No.1162）、平成23年に赤外線カメラによる再調査を実施したところ墨痕が確認され、木簡であることが判明した。釈文は以下の通りである。

「咄天罡（符籙）□□如律令□」

215×25×3 051型式

上下端、左右側面ともに原状をとどめる完形の呪符木

簡である。上端はゆるやかな山形に整形し、下端部は両側面から削ってやや尖らせている。文字は片面にだけ記され、「咄天罡」「□□如律令」の呪句や、呪い符号（符籙）が書かれている。

「天罡」（=天罡星）は北斗星を示す道教の神で、治病・消災・延命に効能がある神とされる〔広島県立歴史博物館2000 a・2000 b〕。呪句の「咄天罡」を記す木簡（「出天罡」を含む）は、県内では、新潟市（旧白根市）小坂居付遺跡〔新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団2012〕、村上市（旧神林村）城田遺跡〔神林村教育委員会・山武考古学研究所2001〕、阿賀野市（旧笹神村）腰廻遺跡〔笹神村教育委員会2002〕で出土している。（相澤 央）

「咄天罡（符籙）□□如律令□」



7 古津八幡山遺跡における古代米及び畑作物の栽培実験について

平成25年度に古津八幡山遺跡東麓にある休耕田を地権者より借用し、市民参加で古代米（黒米・赤米）と畑作物の栽培実験を行った。黒米と赤米はもち米である。栽培実験にあたってはNPO法人にいがた森林の仲間の会（通称もりとも）に協力をお願いした。

(1) 復元水田

目的 弥生時代の稲作を体験し、復元することで現代農法との生育状況や収穫量の違いを比較検討する。借地面積1,725㎡のうち古代米の水田としたのは約300㎡である。

田起こし 4月28日 復元した木製鋤と現在の鉄製鋤を使い比べながら作業する。

田植え 5月12日 田植えに際して、岡山県百間川原尾島遺跡で見つかった弥生時代後期の水田跡の調査事例（図8）にならった密植と明治時代以降に普及した正条植えを行った。密植では1人あたりの作業範囲幅80cm間隔に2・3本ずつ、10～20株植えた。現在の田植えに比べて株の密度が非常に高く、苗の本数も多く必要となる。苗を植えた所には入れないので後ろに下がりがちながら植えた。このように密植では株の間隔が狭いため中に入って草取りを行うことは不可能である。

田の草取り 6月23日 田植えから1か月余りで稲は膝上の高さまで伸びた。密植範囲では日光がとどかないため雑草があまり生えない。一方、正条植え範囲には雑草が一面に生えた。稲株の密度によって雑草の生長に差があることがわかった。田の草取りは水田に入って土を攪拌することによって稲の根に酸素を供給し稲の生育を促す効果があるという。この日は1時間半かけて正条植え範囲約80㎡の草取りを終えた。

生育状況 7月28日に出穂を確認し、お盆の頃には稲穂が首を垂れ始めた。正条植えに比べ密植の株は分蘖状況が良くない。

収穫 9月8日（赤米）、21日（黒米）密植の稲穂では復元した石庖丁と木庖丁を用いて穂首刈りを体験した。正条植えでは鎌を用いて根刈りをし、はさ掛けして乾燥させた。収穫量を比較するため黒米密植・黒米正条・赤米密植・赤米正条の各範囲内に3.3㎡の枠を設定し、株ごとに番号を付けて収穫した。21日には8日に収穫した赤米正条植えの稲束を千歯抜きを用いて稲穂から籾を落とす作業を体験した。

脱穀・籾すり 11月24日 復元した木製臼と縦杵を用いて穂首刈りした稲穂の脱穀と籾すりを行った。穂首刈

りした稲穂を臼に入れ、杵について脱穀する。籾の状態となったら、さらに杵について籾殻を取り除く籾すりを行う。途中で箕に移し、箕をあおって籾殻を飛ばす選別作業をする。籾すりと選別作業を繰り返すときれいに籾殻を取り除くことができ、玄米の状態となる。この籾すりと選別作業は弥生の丘展示館での来館者体験とした。

収穫量の比較 収穫時に番号を付けた稲株について正条植え20株、密植40株を無作為に抽出し、穂の本数と穂ごとの籾数・籾重量を計測した。密植についても当初正条植え同様に20株を計測したが、数値のばらつきが大きかったためサンプル株数を増やした。この計測値をもとに一反あたりの収穫量の算出を試みた。計測結果は第2表に示した。一反あたりの試算収量は正条植えよりも密植の方が多い結果となった。一株あたりの籾数・重量は正条植えが密植に対して黒米は籾数5.9倍・重量5.8倍、赤米は籾数5.4倍・重量5.2倍である。一方、一反換算での株数は密植が正条植えに対して黒米で6倍、赤米で7倍となるにもかかわらず、試算収量は正条植えと密植ではたいして違わない。密植は正条植えに比して種籾を多く必要とするので効率が悪いといえる。

(2) 雑穀畑

目的 弥生時代の遺跡で確認されている作物について体験し、復元することを目的に行った。エゴマ（白）・エゴマ（黒）・ヒエ・シコクビエ・モチアワ・ウルチアワ・モチキビ・ウルチキビ・タカキビ（コウリヤン）・カラムシを1～2畝ずつ作付けをした。カラムシは編布あんざんと呼ばれる布の材料になる植物である。

種蒔き 5月30日 畝の中央に30cm間隔で4～5粒を深さ1cmに蒔いた。種は津南町農と縄文の体験実習館なじよもんより譲り受けた。

草取り 6月23日 古代米の草取りと合わせて行った。

生育状況 エゴマの種は鳥に食べられたようで発芽が確認できなかった。8月末でアワ・ヒエ・タカキビ等が収穫間近まで生育した。中でもタカキビは160cm以上に達した。

収穫 9月13日 収穫できたのは10種類のうち6種類で、ヒエ・モチアワ・ウルチアワ・モチキビ・タカキビ・カラムシである。エゴマ（白・黒）・シコクビエ・ウルチキビは収穫に至らなかった。雑草と間違えて芽を抜いてしまった可能性もある。

(3) ソバ畑

目的 ソバも弥生時代に栽培されていた作物である。

種蒔き 8月11日に耕運機で耕し、13日に直播した。

草取り 9月8日の古代米収穫の後に草取りを行った。

生育状況 8月末には10cmほどに生長し、9月10日前後に開花した。

収穫 10月29日と11月1日に根刈りし、はさ掛けと弥生の丘展示館のピロティに吊り下げて乾燥させた。

脱穀・製粉 11月10日に実施した秋の味覚体験の際に乾燥させておいたソバの束を棒で叩いて実を落とした。11月24日に古代米の粉すり・選別作業と平行して、石臼を用いてソバの脱穀・製粉作業を実施した。脱穀では上臼と下臼の間隔を広くして挽き、ソバ殻と玄ソバに分けた。製粉では上臼と下臼の間隔を狭くして玄ソバを挽き、ソバ粉にした。今回は石臼を使用したが、弥生時代には磨石と石皿を用いていたと考えられる。(相澤裕子)



図8 百間川原尾島遺跡の水田稲株痕跡(1/100)
((岡山県文化財保護協会1984)一部改変)

表2 古代米の田植え方法の違いによる収穫量の差

| 1 サンプリング 正条植え20株、密植40株の粒数・重量(総量) | | | | | | | |
|----------------------------------|--------------------|---------|--------------|--------------------|---------|--------------|-------------|
| 米の種類 | 黒米 (3.3㎡≒1.8×1.8m) | | | 赤米 (3.3㎡≒1.8×1.8m) | | | |
| | 稲株数(株) | 粒数(粒) | 重量(g) | 稲株数(株) | 粒数(粒) | 重量(g) | |
| 田植え方法 | 正条植え | 20 | 32,783.0 | 784,899 | 20 | 30,805.0 | 710,276 |
| | 密植 | 40 | 11,212.0 | 272,298 | 40 | 11,471.0 | 274,443 |
| 2 サンプリング 一株当たりの稲穂本数・粒数・重量(平均値) | | | | | | | |
| 米の種類 | 黒米 | | | 赤米 | | | |
| | 稲穂本数(本) | 粒数(粒) | 重量(g) | 稲穂本数(本) | 粒数(粒) | 重量(g) | |
| 田植え方法 | 正条植え | 19.7 | 1,639.2 | 39.245 | 20.4 | 1,540.3 | 35,514 |
| | 密植 | 4.5 | 280.3 | 6,807 | 5.9 | 286.8 | 6,861 |
| 3 サンプリング面積(3.3㎡)当たりの粒数・重量(総量) | | | | | | | |
| 米の種類 | 黒米 (3.3㎡≒1.8×1.8m) | | | 赤米 (3.3㎡≒1.8×1.8m) | | | |
| | 稲株数(株) | 粒数(粒) | 重量(g) | 稲株数(株) | 粒数(粒) | 重量(g) | |
| 田植え方法 | 正条植え | 56 | 91,792.4 | 2,197,717 | 56 | 86,254.0 | 1,988,773 |
| | 密植 | 333 | 93,339.9 | 2,266,881 | 399 | 114,423.2 | 2,737,569 |
| 4 一反(約1000㎡)当たりの粒数・重量の試算 | | | | | | | |
| 米の種類 | 黒米 | | | 赤米 | | | |
| | 稲株数(株) | 粒数(粒) | 重量(g) | 稲株数(株) | 粒数(粒) | 重量(g) | |
| 田植え方法 | 正条植え | 16,968 | 27,813,097.2 | 665,908,312 | 16,968 | 26,134,962.0 | 602,598,158 |
| | 密植 | 100,899 | 28,281,989.7 | 686,864,898 | 120,897 | 34,670,237.2 | 829,483,384 |

表1 市民参加人数と作業内容

| 年月日 | 市民参加人数 | 作業内容 |
|---------------|-----------|-------------------|
| 2013/4/28(日) | 13名 | 田起こし |
| 2013/5/12(日) | 8名 | 田植え |
| 2013/5/30(木) | (もりとも・職員) | 雑穀種蒔き |
| 2013/6/23(日) | 15名 | 草取り |
| 2013/8/11(日) | (もりとも) | ソバ畑耕し |
| 2013/8/13(火) | (職員) | ソバ種蒔き |
| 2013/9/8(日) | 18名 | 赤米収穫・ソバ畑草取り |
| 2013/9/13(金) | (職員) | 雑穀収穫 |
| 2013/9/21(土) | 17名 | 黒米収穫、赤米粉落とし |
| 2013/10/29(火) | (もりとも) | ソバ収穫 |
| 2013/11/1(金) | | ソバ実落とし |
| 2013/11/10(日) | 17名 | ソバ実落とし |
| 2013/11/24(日) | 8名 | 古代米脱穀・粉すり、ソバ脱穀・製粉 |



田植え(密植)



木庖丁による穂首刈り



稲束(左:正条植え、右:密植)



稲株(正条植え)



稲株(密植)



粉すり



ソバ殻と玄ソバ



ウルチアワ



モチアワ

引用・参考文献

- 相澤 央 2010 「馬場屋敷遺跡出土木簡について」『平成21年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会
- 青木 敬 2002 『古墳築造の研究』六一書房
- 青木 敬 2013 a 「古墳の墳丘構造」『考古学ジャーナル』No.644 ニュー・サイエンス社
- 青木 敬 2013 b 「古津八幡山古墳の築造方法とその背景」『シンポジウム蒲原平野の王墓古津八幡山古墳を考える』新潟市文化財センター
- 飯村 均 2001 「3生産の用具」『図解・日本の中世遺跡』小野正敏編 東京大学出版会
- 岡山県文化財保護協会 1984 『百間川原尾島遺跡2』岡山県文化財保護協会
- 小熊博史 1998 「佐渡海峡から揚陸された縄文土器」『長岡市立科学博物館研究報告』第33号 長岡市立科学博物館
- 春日真実 2006 「越後における7世紀の土器編年」『新潟考古』第17号 新潟県考古学会
- 金子拓男・寺崎裕助 1982 『羽黒遺跡』見附市教育委員会
- 神林村教育委員会・山武考古学研究所 2001 『城田遺跡（本文編・図版編）』
- 川上貞雄ほか 1984 『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』白根市教育委員会
- 川上貞雄 1997 『和納館遺跡』岩室村教育委員会
- 木島 勉・寺崎裕助・山岸洋一 2007 「24 長者ヶ原遺跡」『日本の遺跡』同成社
- 坂井秀弥 1981 『栗原遺跡（第3次調査概報）』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥 1982 『栗原遺跡（第4次・第5次発掘調査概報）』新潟県教育委員会・新井市教育委員会
- 佐藤 慎 2005 『斐太歴史の里確認調査報告書Ⅰ』新井市教育委員会
- 笹神村教育委員会 2002 『腰廻遺跡』
- 坪井正五郎 1911 「越後の海底から引上げられた朝鮮土器」『人類学雑誌』第27巻第1号 東京人類学会
- 寺崎裕助 2009 「新潟県における新崎式系土器」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
- 寺崎裕助 2011 「縄文時代における移動・移住の一事象」『新潟県立歴史博物館研究紀要』第12号 新潟県立歴史博物館
- 中村孝三郎 1966 『先史時代と長岡の遺跡』長岡市立科学博物館
- 新潟県 1920 『新潟県史蹟名勝天然記念物調査報告』第一輯 新潟県
- 新潟県 1937 『新潟県史蹟名勝天然記念物調査報告』第七輯 新潟県
- 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2012 『小坂居付遺跡』
- 広島県立歴史博物館 2000 a 『草戸木簡集成2』
- 広島県立歴史博物館 2000 b 『中世民衆生活と文字—木簡が語る文化史—』
- 広瀬和雄 1991 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』中国・四国編 山川出版社
- 藤田亮策・清水潤三 1964 『長者ヶ原』新潟県糸魚川市教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉岡康暢ほか 1988 『珠洲の名陶』珠洲市立珠洲焼資料館

平成17年度～24年度刊行発掘調査報告書一覧

| 書名 | 副書名 | 発行年月日 | 執筆者 |
|--------------------------|--|-------------|-------------------|
| 居屋敷跡遺跡 第3次調査 | 県営地盤沈下対策事業新潟南部5期地区沢海揚水機場建設事業に伴う居屋敷跡遺跡第3次発掘調査報告書 | 平成19年2月15日 | 諫山えりか |
| 日水遺跡 第3次調査 | 鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡第3次発掘調査報告書 | 平成19年3月30日 | 今井さやか・相沢央 |
| 諏訪畑遺跡 第3次調査 | 介護老人保健施設「秋葉の郷」建設に伴う発掘調査報告書 | 平成20年3月28日 | 潮田憲幸 |
| 下大口遺跡 第2次調査 | 宅地造成に伴う下大口遺跡第2次発掘調査報告書 | 平成20年3月31日 | 今井さやかほか |
| 沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査 | 県営圃場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書 | 平成20年12月10日 | 立木宏明ほか |
| 結七島遺跡Ⅳ 第13・15・17次調査 | 荻川駅東土地区画整理事業に伴う結七島遺跡第7～9次発掘調査報告書 | 平成20年3月28日 | 朝岡政康 |
| 結七島遺跡Ⅴ 第19次調査 | 市営下興野中野線道路改良事業に伴う結七島遺跡第19次発掘調査報告書 | 平成20年3月14日 | 諫山えりか |
| 萱免遺跡 第2次調査 | 宅地造成に伴う萱免遺跡第2次発掘調査報告書 | 平成21年3月27日 | 立木宏明ほか |
| 駒首湯遺跡 第3・4次調査 | 大型小売店舗建設に伴う駒首湯遺跡第3・4次発掘調査報告書 | 平成21年3月13日 | 渡邊ますみほか |
| 上大川遺跡 第2次調査 | 市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第2次発掘調査報告書 | 平成21年3月31日 | 渡邊ますみ・池田ひろ子 |
| 中田遺跡 第2次調査 | 市道荻川新津線道路改良事業に伴う中田遺跡第2次発掘調査報告書 | 平成21年3月31日 | 笹澤（諫山）えりか |
| 手代山北遺跡 第2・3次調査 | 市道亀田南線建設事業に伴う手代山北遺跡第2・3次発掘調査報告書 | 平成21年3月31日 | 朝岡政康ほか |
| 上浦A遺跡 第14次調査 | 市道結第6号市之瀬線改良工事に伴う発掘調査報告書 | 平成22年3月31日 | 潮田憲幸・早田勉 |
| 大沢谷内北遺跡 第3次調査 | (仮称) 国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内北遺跡第3次発掘調査報告書 | 平成22年3月26日 | 前山精明ほか |
| 三王山遺跡Ⅱ 第4・7次調査 | 新潟市立亀田中学校校舎・体育館改築工事に伴う三王山遺跡第2・4次発掘調査報告書 | 平成22年3月30日 | 朝岡政康・早田勉 |
| 大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査 | 一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書 | 平成24年3月26日 | 細野高伯ほか |
| 結七島遺跡Ⅵ 第24次調査 | 宅地造成に伴う結七島遺跡第2次発掘調査報告書 | 平成24年3月30日 | 龍田優子・(株)火山灰考古学研究所 |
| 大沢谷内遺跡Ⅲ 第18次調査 | 市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書 | 平成24年3月26日 | 前山精明・(株)火山灰考古学研究所 |
| 四石遺跡 第2次調査 | (仮称) 新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四石遺跡第2次発掘調査報告書 | 平成24年3月30日 | 渡邊ますみほか |
| 林付遺跡 第2次調査 | 新潟市立湯東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書 | 平成24年10月10日 | 相田泰臣ほか |

新潟市文化財センター年報 第1号

—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—

2014年3月28日 印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター

〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1

電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ

〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25